

# やまなみ

第 13 号



岳人あびこ



# やまなみ 第13号 目次

平成23年(2011年)3月～平成24年(2012年)2月

やまなみ第13号発刊に寄せて

平成24年度会長 石垣吉朗

NO.	山名	山域	月日	執筆者	頁
728	赤雪山	足利北部	4/10	やまたん	1
729	三ノ木戸山～狩倉山	奥多摩	4/17	瀬田映子	6
730	熊倉山	北関東 秩父	4/24	大島清江	8
731	滝子山	南大菩薩連峰	4/29	瀬田映子	10
				新谷直恵	11
732	乗鞍岳・美ヶ原	北アルプス南部	5/3～5/5	村松敏彦	13
733	日向山	中央線沿線	5/14	高橋芳恵	16
734	黒金山	奥秩父	5/15	高橋芳恵	18
735	権現山	中央線沿線	5/22	齊田記代美	20
736	榛名山	上州	6/5	やまたん	22
737	瑞牆山	奥秩父	6/25～26	新谷直恵	31
738	岩木山・白神岳	東北	7/2～7/4	齊田記代美	34
739	黒岳	御坂山麓	7/3	村越百々代	37
740	櫛形山	中央線沿線	7/9	原田和昭	39
741	岩手山～三ツ石山～八幡平	岩手県・岩手・秋田県境	7/8～7/11	外崎蓮	41
742	利尻山・礼文島	北海道	7/18～7/21	外崎蓮	44
743	雲の平～高天原～鷲羽岳	北アルプス	7/28-8/1	矢野裕子	48
744	甲斐駒ヶ岳	南アルプス	7/29-30	新谷直恵	51
745	葛葉川本谷	丹沢	8/7	瀬田映子	53
				やまたん	53
746	鳴虫山	日光	8/12	桐生恭子	58
747	常念岳～蝶ヶ岳	北アルプス	12/15	矢野裕子	60
748	薬師岳	北アルプス	8/18-20	武内勇二	63
749	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳	北アルプス	8/26-29	塩原百合子	66

NO.	山名	山域	月日	執筆者	頁
750	岩山	前日光	10/2	瀬田映子	69
				やまたん	70
751	横隈山	奥武蔵	10/9	齋田記代美	73
				新谷直恵	73
				やまたん	74
752	羽黒山	山形	10/14-16	本田愛子	76
753	丹勢山	日光	10/23	箕輪完二	78
754	蕨山	奥武蔵	10/30	末永三江子	81
755	笹子雁ヶ腹摺山	大菩薩	11/3	箕輪力オル	83
756	手賀沼1周	東葛飾	11/27	本田愛子	85
757	旭山～達沢山	中央線沿線	12/4	やまたん	87
				小川洋子	88
				矢野貞子	89
				瀬田映子	89
				末永三江子	90
758	三峰山	丹沢	12/11	北川勝久	92
759	日光白根山	日光	12/17-18	田村光子	94
760	日光高山	日光	1/15	やまたん	97
761	大蔵高丸	大菩薩	2/4	末永三江子	101
762	大塚山～御岳山～日の出山	奥多摩	2/18	原田和昭	103
763	陣馬山	高尾	2/26	やまたん	105
寄稿	石巻支援に参加して	宮城県石巻	6/17-19	武内勇二	109
				中村育子	111
寄稿	石巻支援に参加して	宮城県石巻	7/15-18	高橋重	112
				中村隆泰	115
寄稿	サンタ・クルス&ケブラダ・ウルタ・トレック ～ピスコ峰	ペルー	6/1-24	高橋重	116
寄稿	スペイン巡礼記	スペイン	5/10-6/30	小川誠二郎	128

表紙イラスト 常念岳～蝶ヶ岳から見た穂高連峰 提供 箕輪完二氏

## 「やまなみ」第13号発行によせて

平成24年度 会長 石垣吉朗

「やまなみ」第13号が完成しました。  
掲載されている山行は、平成23年3月～平成24年2月までの山行です。どの山行もリーダーとメンバーが協力しあい実施できたもので、岳人あびこに新たな歴史の1ページを作りました。

平成23年は3月11日に起きた東日本大震災では数多くの尊い命が奪われ、また、福島第一原発の事故は福島ばかりではなく、わが東葛地区においても多大の影響を受けるほどの未曾有の大災害のあった年になってしまいました。また、8月には会員の一人が事故でお亡くなりになり、安全登山を心掛けてきたわが会に大きな課題を投げかけました。



そのような状況の中、山行回数も前年の2/3に減少し15周年事業も延期せざるを得ない事態となりました。

しかしながら、山行回数が減少しましたが「やまなみ」は、これまで会を支えてくださった方々の歴史が凝縮しています。引き続き「やまなみ」を会の歴史としてまた次の山行の道標として是非活用していただきたいと思います。

「やまなみ」を執筆した方々、編集にかかわった方々のご尽力に感謝いたします。

これからも会員皆さんにたくさんの元気を出してもらい、安全で、楽しく、充実した山行を実践して行きたいと思います。会員皆さんご協力よろしく願いいたします。



**平成23年度**

**平成23年3月～平成24年2月**

< 7 2 8 > 新人歓迎山行

## 赤雪山 (621m)

やまたんより転載

リーダーのメモ

外崎 蓮

- ・「赤雪山」は足利忠綱にまつわる伝説の山で、地元では「あけき山」と呼ばれているとか。足利 100 名山の 1 つ。山頂には三角点と東屋があり、特徴のない静かな山。当日は 4～5 人の登山者に出会った。
- ・登山は名草巨石群側から登ることにした。厳島神社境内を流れる弁天沢の一角が名草巨石群となっている。丸い大きな石は、花崗岩が風化して中心部が丸く残ったもので、国の天然記念物に指定されている。
- ・登山口の近くにある名草キャンプ場は、市の教育委員会に鍵を借りに行き、当日返すことなど、外部の人間には使用しづらくなっている。
- ・頼みの綱の松田ダムふれあいキャンプ場は一般者に人気があり、募集受付の 3/1 は 9 時丁度から電話が殺到してつながらなかった。ハラハラしていたところ、高橋重さんが 20 回ほどかけて、ついにゲット。ホッとした。
- ・朝バスで向かう途中、雲が重く垂れ込め、バスのフロントガラスに小さな雨粒が張付いていたが、皆のお陰で徐々に晴れ渡り、絶好の山行日和となった。
- ・赤雪山登山口の丸太の階段から登山道が始まる。4 班とも長い行列を作り、ほとんど行動を共にした。
- ・570m ピークに来ると、あちこちにアカヤシオが咲いていた。まだ芽吹き前の林の中でよく目立った。
- ・赤雪山で全員で早い昼食をとった。30 分休憩した後、尾根を下って松田ダムサイトの道に下りた。八分咲きの桜と青い湖面を眺めならダムに沿って歩き、展望台の脇から堤防の下の広いキャンプ場を下りる。家族連れが結構来ていた。
- ・バーベキューの開始。炭と鉄板は有料で、その他はすべて持ち込み。炭の起こし方から始まる。これも良い思い出となった。たっぷりあった食材をお腹に収めたあとは、手際よく後片付けを行う。
- ・第二部の余興に移る。全員で遊べるものとして、単純な「登山スタイル仕上げレース」なるものを行う。ところがスパッツでつまずき、正確に

付けるのにてんやわんや。1 時間があっという間に過ぎた。新人に早くきちんと着せた D 班に景品が出た。暖かな日差しの中、雨具を着せられた新人の方々にはお気の毒であったが、楽しい時間が持てたと思う。そして語っていただいた抱負が実現できることを願っている。

### 概念図



### 感想

菊地 功

この度は、私たち第 16 期生 4 人の新人歓迎山行を企画いただき、ありがとうございます。巷のうわさでは、今回の仕切り人はバリバリの雨女さんとか？ ご当人の晴天への悲願が天に届いたか、はたまた新人 4 人の晴れ指数が上回ったか、当日は 2 日続いた強風も止み、お日様も顔を出し、暖かく、穏やかな絶好の山行日和となりました。

例によって我孫子駅発 5 時 30 分。豪華貸し切りバスでウツラ・ウツラとしている間に高速道路は過ぎ、気づくと登山口の名草巨石群駐車場へ向かう県道に入っていました。その道路の狭いこと。大型バスが走れる道ではなく、最後の駐車場で 50 センチきざみの U ターンが成功した時には思わず車内から拍手が起りました。

準備体操と班割りの確認も済み、登山開始となりました。目的地の赤雪山が標高 620m とのことので侮っていたせいか、のっけからなかなかの登り。息も切れてきたのですが、すかさず「おい、キツイな～！」と後ろから大先輩の声。その後も、何度か息がキツくなるとジャスト・タイミングで同様のお声をいただき、随分と励まされました。この大先輩は小生の数回の同道山行では、会内でも最硬派、雪山や岩登りがぴったりのモサとのイメージ

でしたが、登山途中では草花や珍しい木の解説もしていただき、認識を新たにしました。



アカヤシオツツジ咲く山道歩き、桜咲く広場へ



途中では咲き始めたアカヤシオ(ここでも上述の大先輩の解説がすばらしかった!)が、最後の松田川ダムキャンプ場では満開の桜が迎えてくれました。

キャンプ場では待望のバーベキュー。ここでは、その下準備や当日の要領の良さで諸先輩にはビックリ。みなさまが一芸をお持ちで、とても手際よく整い、特に会長殿の焼ソバの新聞紙蒸し焼き術は特筆ものでした。

そして帰りの豪華貸し切りバスでは、男性陣はサロン仕立ての後席で大宴会。そこに前席の女性陣から“ふるさと”などのコーラスが入り、すばらしい山行の仕上げが待ちました。このすばらしい山行を実現していただきました諸先輩のみなさま、ほんとうにありがとうございました。

最後に、お借りしたお皿を拭きもしないでお返しした〇〇先輩、ゲームで一日履いたクサイ靴下を操作させてしまいました〇〇先輩、何度もお酒を作っていた会長殿に心からお礼とお詫びを申し上げます。みなさま、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

感想

瀬木友和

新人山行ではお世話になり有り難うございました。低いし、短いしということで油断していましたが、アップダウンが多く、とてもいい運動になりました。また、武内さんに地図の読み方とコンパスの使い方を教えていただき大変勉強になりました。高圧線が山で現在地を把握する上で役に立つとは考えたこともありませんでした。

一番印象深かったのは登山スタイル仕上げレースです。私の持っている道具は、レインウェアも少し小さめですし、手袋もデザイン重視で選んだため、少しつけづらいタイプです。そして、何より苦戦したのはスパッツでした。私のスパッツのファスナーは後ろについているタイプのものなのですが、どうやらこのタイプは今どき珍しいそうですね。それに、私は足が太いんです・・・！勝負には負けましたが、スパッツの前のフックはシューズの紐にかけるということなど、まったく知らなかったのもとても勉強になりました。

たくさん吞んで、食べて、我孫子駅に着いたころには私はへろへろだったのですが、皆さんのタフさには本当に驚かされました。バーベキューとバスであれだけ吞んで食べたのに、その上でさらに庄やであんなに吞んで食べることができるとは・・・！山をやり続けていれば、私が皆さんくらいの歳になっても、同じくらいパワフルでいられるのでしょうか。その自信は、まったくありません。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。



▲雨具上下着て

▼次に靴紐結んで..





▲悪戦苦闘の後 ▼完全武装終了



感想

村越 百々代

赤雪山は栃木県の百名山の一つで足利では二番目の高さを持つ山です。岳人あびこに入会して初めての山行。山行計画書を見ながら準備するものの、『スパッツ』ってなに？『テルモス』って？…とわからないものの名前が多々あり、ネットで調べて納得をしたり、外崎さんにメールで聞いたり…東我孫子でバスを待つ時も一人だけだったので（何人かいたはず…）ハラハラドキドキで参加をしました。バスに乗ってからは、色々な方が声をかけてくださりちょっと安心しました。

私はグループ B、桐生さんの後に続いて歩きました。名草巨石群の駐車場から歩き始めて大鳥居をくぐり、しばらくして厳島神社と大きな石が見えてきました。胎内くぐりの岩をくぐったり、弁慶の割石と名づけられている石をはじめ花崗岩の大きな石が並んでいました。『筑波山にもこんな岩があったよね。』と話したりしながら歩きました。この巨石群ももとは大きな花崗岩の塊だったそうで、花崗岩特有の摂理に沿って風化し、水に洗われて、いくつもの大きな塊（巨石）となったそうです。その巨石を見ながら進みました。



一の鳥居登山口



巨石群

林道をしばらく歩き、いよいよ赤雪山登山口に入りました。標高は低いし距離は短いものの、階段が多くアップダウンも多くて、つい「いつまで続くのかな…」と思いながら歩きました。地図にもある鉄塔が見えるものの、なかなか「下をくぐる…」ところまで行かず、目の前に山頂のあずまやが見えてきて「もうすぐだ。」と思ったらまた下って登って…山とはそういうものと思いながら歩きました。そんな中、早春の芽生える前の木々の中にぽつんと咲くアカヤシオがきれいで、日々の忙しさに追われる中、本当に来て良かったと思いました。やっと山頂について、記念写真。昼食後、松田川ダムキャンプ場へ降りる道が階段でとてもきつかったです。段差が大きくて怖いほどでした。でも満開の桜が迎えてくれ、ちょっときつかった足へのご褒美かな…と思いました。

松田川ダムキャンプ場ではグループごとにバーベキューで乾杯です。キャンプ場の予約から食材の準備などの事前の準備、さぞ大変だったろうと思いました。かまどを囲んで火をおこすことから皆さん手馴れている様子で、私は焚きつけの杉の葉を集めるくらいしかできませんでした。でも、みんなで作って食べ、話をするというのがとても楽しかったです。新人歓迎レースでも、皆さんにいろいろ気を使っただき、とても楽しく参加することができました。つい体を動かして着やすいようにしてしまいそうになりましたが、審判の方からチェックが入りそれがまた楽しかったです。レースでは一番にはなれませんでした、私

がわからなかった『スパッツ』というものがどうい  
うものかもわかったし、(といっても、いろいろ  
あるのですね。) 登山スタイルをリレーで完成さ  
せるという簡単なレースがこれだけみんなを楽  
しくさせることができるということに感心しま  
した。

岳人あびことしての初めての山行。参加する前  
は、ハラハラ、ドキドキでしたが帰ってきて、や  
はり入会してよかったなと思いました。親切に声  
をかけてくださった会員の皆さん、ありがとうご  
ざいました。今後とも、よろしく願いいたしま  
す。



乾杯



地図読み



赤雪山山頂にて昼食

## 概要

山名	赤雪山		
月日	平成 23 年 4 月 10 日 (日)		
山城	足利北部	地形図	1/25000 番場
形式	日帰り	グレード	1A
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・16期生をお迎えし会員の親睦を図る</li> <li>・天然記念物である名草巨石群を見学する</li> </ul>		
会費	4500 円	交通機関	大型観光バス
行程	<p>我孫子駅北口 5:35(バス)→柏 IC5:55→佐野 SA6:50/7:05→岩舟 JCT→太田桐生 IC7:25→藤坂峠経由→巖島神社鳥居前駐車場着 8:00/8:15⇒社殿・名草巨石群見学⇒入山林道⇒白坂峠 9:00/9:05⇒長石林道⇒赤雪山登山口 9:17/9:20⇒送電線鉄塔 9:35⇒550mピーク・ダム反射板 9:48⇒570mピーク 10:00⇒ダムへの分岐 10:05⇒赤雪山 10:20/10:50 (昼食) ⇒ダム湖畔 11:28⇒ふれあいキャンプ場 11:45</p> <p style="text-align: right;">&lt; 歩行時間: 3 時間 &gt;</p> <p>懇親会バーベキュー 12:00~13:30→ゲーム 13:30~14:45 ふれあいキャンプ場出発(バス) 15:05→太田桐生 IC15:30→佐野 SA15:50/ 16:05→柏 IC17:05→我孫子駅北口着 17:35</p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入山林道は巨石群の奥ノ院まで延びている。天然記念物を見るための道路?</li> <li>・白坂峠の分岐で左手の林道へ。見晴らしのいい林道を登り気味に進んだ先に赤雪山の登山口がある。ここには長石林道が通じている。</li> <li>・送電線鉄塔付近は作業道が多いので要注意。登山道の下り口には、立ち木に赤いテープが巻かれてあるので見落とさないように。</li> <li>・570mピークから右手に行った先に大日蔭林道が来ている。エスケープルートとして、また赤雪山の下山路としても使える。</li> <li>・赤雪山から松田ダムに下るには沢と尾根の2コースがあるが、沢コースはほとんどが樹林の中の道。尾根コースは明るくて歩きやすい道だが、地形図には登山道が載っていない。</li> </ul>		
参加者	<p>A 班…外崎(L)、坂巻(SL)、本田、高橋芳、柴、原田、高橋英、水谷</p> <p>B 班…桐生(L)、村松(SL)、中村育、中村八、小川誠、箕輪完、清家、村越</p> <p>C 班…瀬田(L)、武内、斉田、飯沼、中村隆、小川洋、青山、瀬木</p> <p>D 班…藤倉(L)、高橋重(SL)、新谷、箕輪力、石垣、塩原、品田、菊地</p> <p style="text-align: right;">男 13 名 女 19 名 計 32 名</p>		



A班 赤雪山山頂にて



B班 やしおつつじの前で



C班 松田川ダムサイト



D班一位、万歳！！！！→



2011/04/10 赤雪山 松田川ダムふれあい広場

< 7 2 9 >

さぬきどやま  
三ノ木戸山～狩倉山  
(1177m) (1452m)

瀬田映子

山行計画書に 標高差1050Mあります。と書かれていたので少し心配しながら参加申し込みをした。十二天尾根から三ノ木戸山を登り狩倉山から山の神尾根を下るコースをインターネットで探してみたが見つめることが出来なかった。当日青山さんから「あえて反対コースをとったのだ」と聞いた。

当日は気候も良く、電車・バスの中は登山客でいっぱい。大沢バス停では前から降りることが出来なくて乗り口を開けてもらって降りた。登山口の標識はなく日野明神社の裏に回ると、いきなり植林帯の急斜面。登山道などは無い。木や木の根っこを掴み四つん這いになってただただ急斜面を登るのだが、露石のまじる急斜面なので何度も滑る。トタン板の小屋の横を過ぎ、尾根状の作業場をたどり一時間程登りきったところで休憩。右前方に少し進んだところに(804m地点)十二天社の石祠や狛犬が置かれていた。この場所から川苔山・蕎麦粒山が見えた。ここから十二天尾根にはいり三ノ木戸山を目指す。

芽吹きが進む雑木林。東京農大の演習林ということで途中百葉箱やネットの張られたあとが点在していた。しかし、地震の影響なのか百葉箱もネットも無残な姿になっていた。外崎さん曰く「東京農大に連絡してあげようか?たまには見に来ないとひどいことになっているよ」……………標高1000mあたりの北斜面にカタクリの花が咲いていた。そのまま進んで六ッ石山・鷹ノ巣山と書かれた道標の立つところで石尾根従走路と合流した。合流する前に大きなリュックを背負った若者がこの急坂を走りながら登ってきた。悪いと思いながらも声をかけた。来週このコースを登る高校生4人組による大会が実施されるとのこと。この合流点がフニッシュだとのこと。仲間は用事あり今日は来ることが出来なかったとの事。フィニッシュ点には怖そうな顧問の教師が大きな声をあげてカツを入れていた。



石尾根従走路を20分近く登ったところに紙で三ノ木戸山とかかれた山名標を見つけた。三ノ木戸山は広々とし



三ノ木戸山山頂にて

て気持ちの良い尾根の一角といった趣があった。昼食をここでとの声もあったが時間的に早いので狩倉山まで登ることになった。しばらく勾配がほぼフラットになり天国のようなトレイル。南側の視界が開けて御前山などが望める……………

正面に狩倉山が見えた。結構標高差がありそうだ。ここからいよいよ今日の最高峰狩倉山への登りが始まる。急斜面を250mも登る。岩まじりの急斜面を何度も滑りながら必死に登る。何度か小さな落石があり「もっとおおきな声で知らせて!!」との村松さんの声……………30分程で狩倉山の山頂に到着。紙で書かれた山名標が赤いテープで巻かれていた。20分間の昼食後、12時50分に山の神尾根を下り小菅山を目指して出発。

1230～50mには露石状の岩があらわれた。滑らないように慎重に下る。1時間程で小菅山山頂に到着。手彫りの山名標が地面に転がっていた。転がっていた手彫りの山名標を青山さんと外崎さんが木にくくりつけてくれた後、伽藍神社に向かって下る。伐採した杉の小枝や葉が分厚く堆積している急斜面は歩きにくい。また、尾根が広く仕事場が交錯して踏み跡もなく解りにくい。リーダーの青山さんが偵察して戻ってきたが解らないらしい。遠くの下方にピンクのテープが見えた。その方向に向かって下って行ったが伐採した杉の小枝が足に引っ掛かり何度も転ぶ。やっと急斜面を降りきった。ところがどうも違うらしい。リーダーの青山さんが再度偵察して戻ってくる。迷ったらしいので先程迷った場所に戻るとのこと。「エッ!! やっとのおもいで下ってきたこの急斜面を今度は登るの!! 下には道路が見えているのに」……………元の場所に戻り再度確認すると作業道が横切っていた。

「何だ！こんないい道があったのに！ 迷ったら元の場所に戻れ！良い教訓だったね」と笑いながらこの作業道を下った。数基の御墓をよぎると荒廃した社が現れた。そこから少し下ったところに赤い鳥居が見えた。伽藍神社の鳥居だ。社前で無事に下山出来た事のお礼の一礼をして80段の石段を下りた。ここから民家のわき道を通り、途中、ミツマタ・シュンラン・ミツバツツジ・ヤマモモ・サクラ・等々 春の花を身体いっぱい浴びながら大沢バス停まで30分程歩いた。奥多摩で喉をうるおし反省会。今日1日、急登・急坂の山行「自分で自分を誉めたい気分です！！」リーダーはじめ山行に参加された皆さん本当に有難うございました。

**概念図**



**下山口の伽藍神社**

**概要**

山名	さぬきどやま 三ノ木戸山～狩倉山		
月日	平成23年4月17日(日)		
山城	奥多摩	地形図	1/25000 奥多摩湖
形式	日帰り	グレード	2B
目的	奥多摩石尾根縦走路の寂峰		
費用	2,800円	交通機関	JR, バス
行程	我孫子駅 5:33→西国分寺 6:46/6:55→立川 7:00/7:05→奥多摩駅 8:25/8:35→大沢 8:45/8:55⇒日野明神社⇒804m地点(十二天社の祠) 10:12/10:20⇒十二天尾根入口 11:12/11:20⇒三ノ木戸山 11:30⇒狩倉山 12:30/12:50⇒小菅山 13:50/14:00⇒伽藍神社横 15:18/15:30⇒大沢 15:55/16:31→奥多摩駅 16:45/18:06→立川→我孫子駅 20:45 <歩行時間 6時間 30分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日野明神社裏からの取付からは急登の連続で600M点手前の岩場は左に廻り込んでピークに出る。</li> <li>・600Mからは尾根伝いに小菅山を西に見ながら登高するが、不老林道直下のスギ林の急斜面は倒木に足元を取られながらの歩みとなる。</li> <li>・不老林道末端に十二天社の石祠と狛犬があり、手前には東屋(休憩所)がある。</li> <li>・不老林道から十二天尾根入口までは東京農大の標石があり、尾根上にはフェンスや観察用の黒網ネットが設置してあるが、ネットが外れ支柱がむき出しになっていた。</li> <li>・石尾根縦走路を横断し三ノ木戸山に登ると山頂はテーブルマウンテンになっていて、南に御前山やハンノ木尾根を見ながらの気持ちがいよいよ山頂歩き。</li> <li>・狩倉山は石尾根縦走路から北に入るが、一帯は東京農大演習林となっている。</li> <li>・1280M点までは尾根が広がっているので注意をしながら下る。1280M点は岩場だが慎重に下れば問題なし。</li> <li>・小菅山は標識がなければ気が付かない展望のないピーク。</li> <li>・800M点からは東の尾根に進むのではなく南の尾根に乗ると伽藍神社に下れる。</li> </ul>		
参加者	青山(L)、村松敏、外崎、高橋芳、瀬田、田村 男1名 女5名 計6名		

<730>

熊倉山  
(1427m)

大島清江

春の山里が大好きな私は思い立って山行直前に参加申し込みをした。大勢の参加者が貸切バスでの山行だった。我孫子駅を出発後リーダ→から熊倉山の説明などがあり、聞き入っているといきなり「最後に参加申し込みをした大島さんに“やまなみ”をおねがいします。」と言う。

～私の独り言～ あ～あ～まいったな。今年初めての山行なのに。大当たりだわ！

書くことは好きではない、苦手である。一年に一回位仕方ないか・・・。快くお引き受けした。

バスは高速道を離れ一般道を走っている。順調である。車窓からはだんだん山里らしい風景が広がって来た。民家の庭先はピンクあり黄色ありの花々で春爛漫の装いをしている。遠くの山肌を見れば萌え出たばかりの淡い緑のグラデーションが目に優しい。その中に時折コブシでしょうか、花水木でしょうか白い花が色を添えている。車窓右奥には去年の思い出の山行、両神山が見える。いつの間にか心が浮き立っていた。

バス山行は大好きである。楽ちんだから。登山口まで運んでくれる。いつもの準備体操のラジオ体操が終わるとBOMの受講者の皆さんは、すかさず地図とコンパスですぐに進路を決め歩きだした。さすがに素晴らしい！ 私はこの皆さんの後について行った。新緑が陽をあびてきれいだった。沢沿いの登山道は六、七回丸太の橋を渡り返した。昨日の荒天で、びしょりと濡れしかも苔むしていた。その一カ所は朽ち果てて傾き、その用を足さない。とても渡れそうもなく、橋沿いの岩を飛び飛び一人づつ慎重に渡った。沢を過ぎると登山道の両側には何種類もの花々が目を楽しませてくれた。特に他の山ではあまり見かけないハシリドコロが紫の花をつけ、山頂近くまでびしょりと咲いていて急登を忘れさせてくれた。笹平まで来ると木々の芽吹きもなく、まだ冬枯れていた。からまつピロ→ドのように可愛い芽吹きを楽しみにしていたが残念だった。

最後の急登を登りきって山頂に到着。大きな岩の上に鉄製の錆びた標識がありその脇に三等三角点があった。冬枯れた木の間越しに西方面が見渡せて、奥秩父の山並みを眺めることが出来た。和名倉山が雄大だった。

それぞれに昼食を楽しんで下山にかかった。い

きなりの急下降でしかも木の根っこが縦横に張り巡り厳しい下りだった。岩稜まじりのヤセ尾根の個所もあり慎重に慎重に下山した。岩稜帯を過ぎると期待したほどではないけれど、カタクリの花も咲いていてヒノキの植林帯の中で可憐だった。「あっ、こっちにも咲いている！ あっ、あそこにも！」とワイワイ言いながら下山した。城山直下の下山口に辿り着いて、切り出された丸太に腰かけたりしてバスを待った。普通はここから林道を下って白久駅まで一時間も歩かなければならない。バス山行の特権である。リーダ→のお陰さまである。

当初、リーダ→の説明では「何もしません。」ということだったので何の期待も無かった。しかし沢あり、花あり、岩あり、展望ありの変化に富んだ山で、好天に恵まれた春の一日を十分に楽しむことが出来た。満ち足りた心地で帰途に着いた。

概要

山名	熊倉山		
月日	平成23年4月24日(日) 日帰り		
山城	秩父	地形図	1/25000 秩父、三峰
形式	日帰り	グレード	2A
目的	早春の山歩きと秘湯のひとつとき ロングハイク		
費用	5,000円	交通機関	マイクロバス
行程	我孫子駅北口集合 5:30→柏 IC→狭山日高 IC→武州日野登山口 8:15/8:30⇒吉野コース水場 10:39⇒熊倉山山頂 11:40/12:05⇒城山コース登山口 14:20/14:40→武甲温泉 15:30/16:30→狭山日高 IC→柏 IC→我孫子駅 19:45(解散)  <歩行時間 5時間 50分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクロバスを使用して我孫子から武州日野登山口まで一般道で所要 2時間 45分。</li> <li>・日野コース登山口から城山コース登山口まで根道は薄いながらも踏み跡を忠実に辿れば迷うことはない。分岐にはそれぞれ標識があってわかりやすい。</li> <li>・城山コース下山ルートでは、頂上付近は少し急峻ではあるが気をつけて下りれば問題ない。</li> <li>・日野コースは登山開始後、沢を数か所横断しなければならない。丸太の橋や、岩が滑りやすいので慎重に歩行せねばならない箇所がいくつかあった。</li> <li>・林道コースは地滑りによる崩落のため通行止めになっていた。</li> </ul>		
参加者	坂巻(L)、斎田(SL)、高橋英、品田、藤倉、箕輪力、小川誠、桐生、矢野貞、瀬田、本田、矢野裕、新谷、村越、大島 男子3名 女子12名 計15名		



雨上がりの寺沢川上流。慎重に何度も渡り返す。

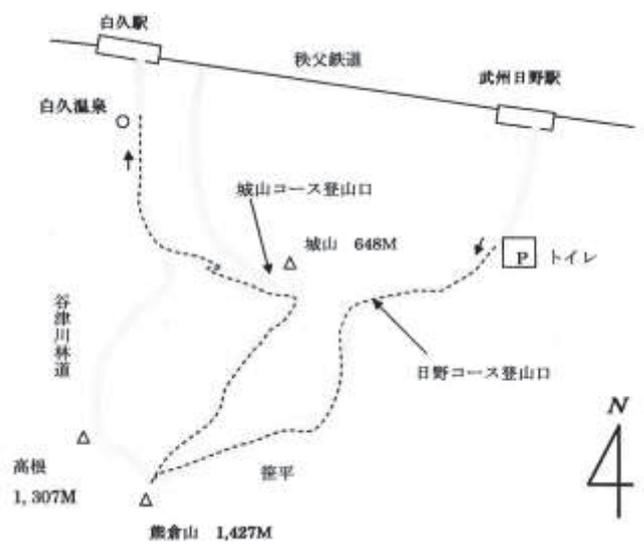


下りの難所



熊倉山山頂にて

概念図



城山コース登山口に辿り着いて、バスを待つ。



< 7 3 1 > BOM研修

滝子山  
(1590m)

瀬田映子  
新谷直恵

BOM研修山行・滝子山

瀬田映子



基礎講座（BOM研修山行）初登山を楽しむ・・・目的の中の一項目だが、登山を楽しむ？・・・私はみょうに緊張して前日はなかなか眠れなかった。当日、車中では山行計画書や地図を広げ何度も山行の確認をしていた。みんなの顔も、いつもとは違うピンとはりつめたような緊張感があった。リーダーから早速宿題の点検があった。「ルート概念図&エスケープルートの確認」・・・「瀬田さんこのP1・P2・P3のコースどうやって登るのだ！！コースが違わず」・・・{私も違うと思ったのだけど・・・解らなかったのだよね}・・・隣に座っていたIさんに教わり無事クリア}・・・

笹子駅から滝子山方面に歩き始めたのは私たちの他に中年の男性2名。笹子川に架かる大橋と中央高速道路を超えて登山道に入る。登山道から寂ショウ尾根と滝子山が見えた。桜森林公園で準備体操・地図読みの後、リーダーからの訓示を受けA班から9：00出発。南斜面の桜公園を抜けて山の中に入っていくと分岐点に着いた。ここから少し歩いたところに寂ショウ尾根の由来となる「寂愉苑」の看板が着いている古ぼけた山荘があった。ここから寂ショウ尾根の始まりである。

30分程で鉄塔に出会う。ここで現在地確認と目的地確認の地図読み実施。やさしい新緑の林を15分程登ると林道に出た。この林道を超えたあたりから本格的な急登になる。ここから一人ずつリーダーの前を歩き、登りの歩き方の個人指導が始まる。「傾斜のきつい登りでは、つま先を登りの斜面に対して開く！ガニマタで歩く・歩幅を狭く！」。

高度を上げていくとやがて尾根上の開けた平坦地に出た。ここで笹子休憩 {リーダーが笹子駅近くの団子やでみんなの分を買ってくださったとの事・・・この笹子団子の美味しかった事！！みんな夢中で食べていました} 桃太郎のきび団子ならず笹子団子を頂いた私たちは100人力！！滝子山を目指して出発！！

尾根にはミツバツツジがみごとに咲いていました。ミツバツツジをバックに記念撮影。尾根の西側を廻りこみながら30分程すると岩場が出てきた。ここからがP3のはじまりだ。リーダーから「これから岩場が続くのでストックをしまうように」との指示がでる。「滑落多発！！危険」3の看板があった。

二番目の岩場が出てきた。尾根はしだいにヤセてくる。勾配もきつくなる。3点確保を意識するようになる。なんとかクリアした。

二番目の岩場をクリアすると三番目の岩場だ。リーダーの「富士山が見えるよ」の声に振り返る余裕がない程岩場に神経を集中させていた。A班の動きが止まった。下山してくる中年の一人の男性。リーダーの「数人登ってくるので待って下さい」を無視して下りてくるが途中で止め登ってくる人の足場をふさいでしまった。足場の確保が困難で先へなかなか進まないのだ。時間をかけなんとか登った。細い岩尾根を登りきった一面にイワカガミの群集・・・花が咲くころもう一度来たい！！気の抜けない岩場がようやく終わった。ホットした安堵感からか急にお腹が空いてきた。私の「リーダーお腹がすきました」の声に、「さっき笹子団子食ただろうもうすぐ頂上だ」・「一個では足りません！！」



右に尾根をたどって滝子山頂上を目指す。P2・P1の二つのピークを越して滝子山の頂上に着いた。バンザイ！！

頂上からは南アルプスや富士山の眺望が良いと聞いていたが・・・・あいにく富士山も6合目あたりまでしか見られなかった。ここでBOM研修の記念撮影。みんな満足そうな顔！！

昼食後初狩駅に向かって下山開始。下山してすぐに三角点を確認。リーダー曰く「三角点は頂上にあるとは限らない！！」ここで地図読み確認をして下山。暫く急な下りが続く。ミツバツツジの優しい桃色とブナやミズナラの芽吹いたばかりの柔らかな緑に何度も立ち止まる。ミツバツツジも少なくなると平に開けた桧平に着いた。さらに下ると分岐点に案内板があった。初狩駅方面に下山する。杉林の急斜面をジグザグ下ると藤沢川支流の沢に下る。沢に沿って道が続く。所々荒れていて、足元が悪い。ほどなく暗い谷から抜け出し、明るい開けたところで沢から離れた。林道を下っていくと人家が現れ軒先に見事なアケビを見つけた。左側に植林された斜面がありその下まで広い道が延びてきている。そこでチゴユリ・イカリソウを見つけた。集落と神社の横を通り初狩駅に着いた。

初狩駅から大月で下車しての反省会。8人部屋に13人身体を寄せ合っただけの反省会。矢野貞子さんの岩登り訓戒はためになりました。みんな何か通じるものがあり、これからのBOM研修の話で大盛り上がり。誰かが、改めて教わってみるとどれも新鮮で、また自分の弱点が解り、コツがつかめたような気がする。と言っていたが正しくその通り！！

研修計画を立案し、実践させる。こんな大変なことを計画して下さった皆さんに感謝しています。有難うございます。今後のBOM研修に期待して！！

## バラエティに富んだBOM研修

新谷直恵

今年始まった登山の基礎講座（BOM）は、第1回目に登山計画書の作り方ガイダンスを受け、第2回目の今回は、パーティを組んで滝小山南稜を実際に登ることとなった。岩稜帯もあるバリエーションルートなので、研修にはピッタリだそう。

まず、それぞれがルート図をあらかじめ作り、持ち寄った計画書の添削を車中で受けた。計画書には南稜（寂ショウ尾根）入口からP3へとある



が、このP3って何？というのが私の最初の疑問だった。Pはピークで、どうもそれが3つあるらしいとわかり、けっこう大変な山であるらしいことがわかった。実際、ひとつのピークを登り詰めると、また下って次のピークへと続く。

桜公園で準備体操の後、各自の役割、休憩の取り方、ルートの説明、岩稜帯などの説明があり、2パーティに分かれてスタート。

南稜を登り始めて30分程すると鉄塔があり、そこで現在地と目的地の地図読みをする。またリーダーたちが笹子駅で買ってきた笹子団子が振る舞われた。なんともいえない柔らかな口当たりで、その甘さも程良い。昔はおばあさんが手作りし、駅前で売られていたそうだが、その姿は今ではなく「おばあさん、どうしたかな？」とリーダーが思案顔。通り慣れた地なのだろう。

途中には岩稜帯が2つほどあり、2番目の岩場では私がつっかえてしまったため、隊列は渋滞。とりあえず両手で岩をつかんだのだが、次の岩まで手が伸びない。足も次の確保地が見つからず、バンザイのまましばし止まってしまった。上から降りてきた登山客がその姿を覗きこんで、「オッサン、落ちても大丈夫だよ。下にみんないるじゃないか。思い切って飛び上がれ！」と、かけてくれた野次馬オッサンの掛け声のおかげで、思い切ってジャンプし、次の岩に無事取り付いた。

そこに至るまでは、村松リーダーの前を一人一人が歩き、歩き方の指導を受けた。「もっと歩幅を狭く！」の繰り返しののおかげで、出す足の歩幅が次第に安定してくるのがわかった。息が切れる



## 概要

山名	滝子山（南稜）		
月日	平成 23 年 4 月 29 日		
山城	南大菩薩連峰	地形図	1/25000 笹子
形式	日帰り	グレード	2 B
目的	1 滝子山のバリエーションルート(南稜)を登る。 2 基礎講座（BOM）の初登山を楽しむ。 3 早春の自然の美しさに浸かる。		
費用	約 3,000 円	交通機関	J R
行程	我孫子駅発 5:33→新松戸駅 5:51→西国分寺駅 6:55→高尾駅 7:26→笹子駅 8:31→桜公園 9:10/9:20⇒P 3 12:10⇒山頂 13:10/13:30⇒檜平 14:20⇒初狩駅 16:15/16:27→大月駅 16:40/17:50→高尾駅→西国分寺駅経由→我孫子駅		
ルート状況	・コースは寂しょう尾根、ないしは南稜とも云われてバリエーションルートとして変化に富んで面白い。 ・ルートは、桜公園から 200m 位登った右側に、寂しょう尾根入口の木板がある。そこを右折して、右側に無人の家を見たら、左折して尾根に乗る（標識板）がある。あとはひたすら尾根を直登。		
参加者	村松(L)、高橋重(L) A 班 菊地(SL)、小川誠、矢野貞、本田、中村育、新谷、 B 班 桐生(SL)、藤倉、瀬田、矢野裕、斎田、水谷 男 4 名 女 10 名 計 14 名		

のは、たいがい歩幅を開いているせいのような。息が切れないほど歩幅を小さく歩けば、どこまでも歩けるのだと気付かせてくれた。この徹底した個人指導のお陰で、その後の山行でも背に村松リーダーの目を感じるほどだった。

5 時間程の山行だったが、いろいろな場面でご指導をいただいたことがありがたかった。

## 概念図



< 7 3 2 > 春山山行

乗鞍岳・美ヶ原  
(3026m)

村松敏彦

ホワイトアウト

春のゴールデンウィークの初日、新宿駅は多くの人で賑わっていた。特に北、南、中央アルプス、八ヶ岳、奥秩父等のターミナル駅のため登山者の姿が目につく。高山は、まだ雪の世界のため重装備の若者が、これから向かう大自然の世界に夢を語り合っ、楽しそう。我々5人もその仲間に入るべく（年齢は大分違うが）特急あずさの座席に身を置いて、まだ見ぬ銀世界に心弾ませ、恒例のテント泊による乗鞍岳、雪山テント山行に新宿駅を後にした。

沿線の南アルプス、八ヶ岳は真っ白い雪を抱いて、まだ春の訪れには相当時間が掛かりそうな雰囲気だ。しかし、窓から見える平地の風景は新緑に彩られて、随所に桜の花を咲かせて春の訪れを謳歌しているようだ。電車を乗り継いで新島々の駅に着くと、今日から乗鞍エコーラインが開通して位ヶ原山荘迄バスが開通したとの事だ。（当初は観光センター迄、その上は不通だった）但し、バスの本数が少ないため、新島々で1時間以上待った。本格的なシーズンでないため、バスの乗客は少なく、一気に標高2,300m迄運んで貰う。

バスが開通していない場合、計画では観光センターから歩く積りだったが、現地に来て計画が甘かった事に気がつく。とても歩けるような積雪量ではなかった。登山道、標識、全て雪の下どの位の積雪量だろうか？5～6mを越えている位だ。着いた位ヶ原山荘には大勢のスキーヤが楽しんでいた。重装備の登山者は我々のみの様だ。装備を点検して直ぐ出発した。

シーズン時には有名な乗鞍エコーラインのバス道路は雪の下、かすかにカーブミラーが上の部分を覗かせていた。徐々に風が強まってきた。周囲は雪原が大きく広まり、目標になる物は一切ない。テント設営の場所を探すのも適地がなかなか見つからない。風が少なく、雪崩が起きない場所は雪原のためないが、時間も時間のため、妥協して適当な場所に強風の中を設営した。たとえ雪が降ろうが、風が吹こうがテントの中は暖かい。食坦、苦心の料理をたくさん食べ、（焼酎は少し飲んだ）早々と眠りに着く。夜間は強風がテントを襲っていた。

一夜あけると風は少しは弱くなったが、辺り一面濃いガスの中、百名山の著者、深田久弥がその著書の中に「位ヶ原まで登って、初めて真正面に、遮るもののない乗鞍岳それ自身に接する。ここからの眺めを、私は日本で最もすぐれた山岳風景の一つに数えている」と書いているが、その風景を見ることはとても不可能だ。山全体が真っ白、何処が山頂か、ルートは何処かまったく不明だ。この中を行動するのは危険なため、少し天候状態を待つことにした。しばらく待ったが、それでも行ける所まで、行ってみようと言う事で行発する。雪混じりの風は強く、ホワイトアウト状態は益々強くなった。約1時間、標高2,800m地点に達した所で危険と判断して撤退を決めた。

概念図 乗鞍岳



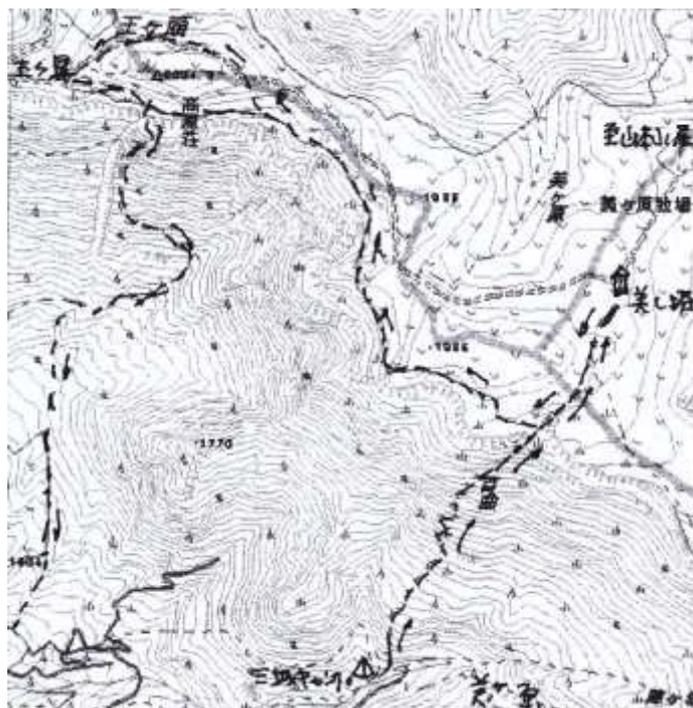
さて、それからどうするか、予定ではまだ1日余裕があるし、(早く帰っても誰も相手にしてくれそうもない事情もある)又、食料は充分残っているので周辺の何処か登ろうと云う事で、検討した結果、なかなか単独では計画しづらい、美ヶ原高原に行こうと云う事で意見の一致を見た。松本駅まで戻って交通機関及びテント場を探す。まだシーズンに入っていないので、バスは一日2便、テント場も営業している所は少ない。やっと探してタクシーで三城憩いの広場オートキャンプ場に行く。値段は高いが(一人1,000円)施設は立派だ。午後ののんびりした時間をぼう々と過ごす。



3日目の美ヶ原高原へのルートはキャンプ場の裏側から県民の森経由のルートを選んだ。シーズンに入っていないせいか、登山者は少ない。(この山の場合、登山者と云うのか、観光客と云うのか解らないが)1時間40分位で美ヶ原高原の開発者、山本小屋の主人山本翁を記念して建てられた【美ノ塔】に着く。高さ5~6m位か、裏側には尾崎喜八氏の「美ヶ原熔岩台地」の詩が刻まれていた。何処が山頂か解らないがとにかく広い。至る所に牧場らしき柵があり、その中心を車道らしき一本道が走っている。多分、夏になると、周囲はお花畑になり多くの牛が、牧草をゆったりした気分で食べている光景になるのではないかと想像する。もっとも高いと思われる王ヶ頭には吃驚する位、立派なホテルが有り、周囲には多くの電波塔が林立していた。良いのか悪いのか良く解らないが、美しい自然の中には不似合いな事は確かだ。但し、少し先の王ヶ鼻を含めての展望は素晴らしい。昨日に比較して、天気は良く(乗鞍岳の方面は山頂付近に厚い雲が覆っていた)北、南、中央アルプス、八ヶ岳など本州中央部の峰々が雪を纏って白く輝いていた。昨日の厳しさが嘘のようだ。自然が微笑む時と、牙を剥く時との違いが良く解る。

下山するに従い、唐松の樹は新緑の美しい葉を纏い、多くの草花が春の訪れを今かと待っているようだ。一年中で最も自然が美しくなる季節はもう直ぐそこに来ている。

概念図 美ヶ原





概要

山名	乗鞍岳・美ヶ原		
月日	平成23年5月3日(火)～5月5日(金)		
山域	北アルプス	地形図	1/25000 乗鞍岳、山辺
形式	テント	グレード	4C
目的	1、雄大な山容と大パノラマの展望を楽しむ。 2、高山でのテント生活を楽しむ。 3、雪と氷の技術を取得する。		
費用	20,000円	交通機関	タクシー、JR、バス、
行程	1日目	我孫子駅 5:31→日暮里→新宿 7:00 (スーパーあずさ)→松本 9:39/10:08(松本電鉄)→新島々 10:39/12:50(バス)→(乗鞍エコーライン・観光センター乗換)→位ヶ原山荘前 13:45/14:20⇒標高 2600m地点 15:40 (テント泊)	
	2日目	テント場発 6:20⇒標高 2800 地点⇒テント場に戻る 7:30/8:15⇒位ヶ原山荘着 8:50/9:10→観光センター9:50/10:21→新島々 11:15/11:31→松本駅 12:00/12:15(タクシー)→美ヶ原高原・三城憩いの広場 13:15(テント泊)	
	3日目	テント場発 5:00⇒県民の森 5:25⇒塩クレ場 6:25⇒美しの塔 6:40/6:50⇒王ヶ頭 7:25/7:40⇒王ヶ鼻 7:55/8:10⇒石切場、桜清水キャンプ場 9:35⇒三城キャンプ場 10:20/11:48(バス)→松本駅前バスターミナル 12:50/15:27→八王子 17:54→19:30 我孫子着	

ルール状況

- ・たとえ風が吹こうが、雪が降ろうが、テントの中は暖かい。食坦、苦心の料理をたくさん食べ、僅かの(?)焼酎でのどを潤おして早々と眠りに着く。しかし夜間には猛烈な風と吹雪がテントを襲う。
- ・翌朝になっても雪は小降りになっても、風は止まずそれに加えてガスが出て、乗鞍岳をすっぽり覆うような形になっている。真っ白な雪原は濃霧に覆われ視界が非常に悪い。
- ・少し様子を見ていたが、とにかく行ける所まで行こうと云う事で行動を開始するが広い雪原(全てが雪の下のため)に加えて濃い霧、まるでホワイトアウト状態。これでは危険と云う事で、標高 2800m辺で撤退を決める。
- ・今後の行動を協議した結果、テントと食料が有るので行った事のない美ヶ原高原に行こうと云う事で松本駅に出て麓のキャンプ場に移動する。
- ・松本駅から美ヶ原迄はバスが1日2本、(1200円)我々は三城までタクシーを利用した。(7000円)
- ・普通のキャンプ場は開いていないため、憩いの里オートキャンプ場を利用したが値段は高いが(1人1,000円)施設は立派。
- ・美ヶ原高原には雪はほとんどなく、シーズンになっていないため静かなハイキングを楽しんだ。
- ・昨日に比べ天気はよく、王ヶ頭及び王ヶ鼻からの360度の展望は素晴らしい。白く輝く北、南、中央アルプスの峰々、八ヶ岳も負けじとその山容を現し、撤退してきた我々の心を慰めるかの様に、美しく輝いていた。

参加者	村松(L)、外崎、北川、青山、田村 男2名 女3名 計5名
-----	----------------------------------

< 7 3 3 >

日向山  
(1660m)

高橋芳恵

甲斐駒ヶ岳の素晴らしい展望の山



何年か前、原田リーダーにお願いし、雨で流れてしまった日向山を再度計画いただいた。3～4名の参加があればというリーダーの予想に反し、参加者11名となり、特急券、ジャンボタクシーなど経済的に手配いただいた上に、日帰り山行としては経費がかかりすぎるなどと過度の心配をリーダーにさせてしまったことは申し訳なく思った。天気は素晴らしい快晴。特急あずさの車窓からの緑が爽やかでこの何年か雑用に追われ、岳人あびこの山行から遠ざかっていたことの無念さを考えながらも、思い切り5月の緑を楽しんだ。

摩利支天を伴う甲斐駒ヶ岳の山並みが見える頃、小淵沢に到着。一路、ジャンボタクシーで甲斐駒ヶ岳目指して矢立岩まで向った。駅からのアクセスからして個人ではなかなか来ることがで



ニョキニョキ花崗岩とハケ岳

きない山であるが、三度目というリーダーの配慮でコースが変更され、今回は錦滝から上ることとなった。

錦滝での休憩後、かなりの急登を上りきると、雪でも降ったかと思われる白ザレの斜面に出る。ザレの足元は歩きにくく注意しながら登ったが、目の覚めるような白い山肌が今まで経験したことのない景色であり、目の前の甲斐駒の展望との対比は圧巻としか言いようがない。甲斐駒には二度登頂したが、2006年に黒戸尾根を上ったことが懐かしく、私としてはもう一度行ってみたい山の一つである。

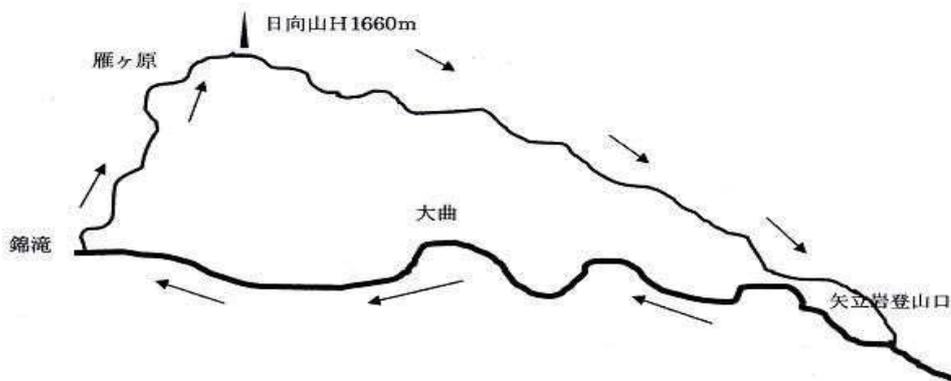
雁が原の途中で出会った山ガール、山ボーイのカラフルなファッションがやけに白い斜面に映え、「かっこいいですね」と声をかけた。この先が1660mの山頂となり、展望はないが周囲の眺めががらりと変わり、芽吹いたばかりのカラマツ林の気持ち良い林となる。

頂上付近のカラマツ林の中での昼食は何とも心地よく、短時間の間の景観の変化と1Aのグレードとは思えない内容の濃さに参加者全員が満足げである。帰路は一般道であるが、540mの標高差を矢立岩まで下る。下りてみて、リーダーが何故錦滝から上りのルートを選ばれた理由がよく理解でき、重ねてのご配慮に感謝した。

帰路のタクシーの中、全員一致で帰りも特急を利用することが決まり、明日、別の山行に参加する私とSさんを除き全員が長距離の日帰りには珍しく17:45には我孫子駅到着できたことも特筆に値する記録となった。

鈍行の旅よし、特急の旅もなおよしである。元気をいただいた日向山と共に過ごせた参加者の皆様、またよろしくお祈りします。

概念図



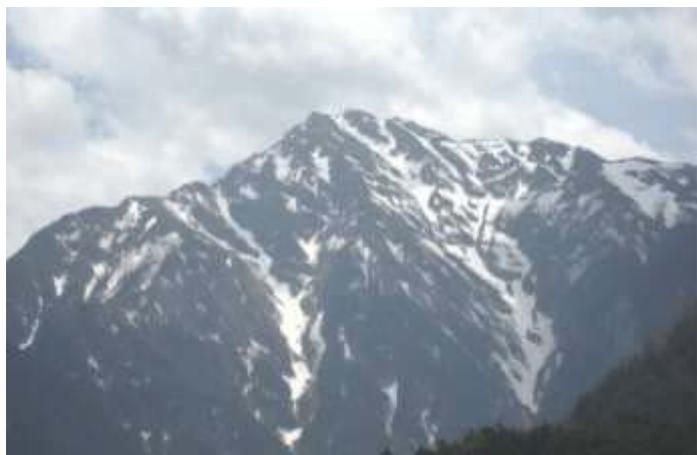
概要

山名	日向山		
月日	平成23年5月14日		
山域	中央線沿線	地形図	1/25000 長坂上条
形式	テント	グレード	1A
目的	甲斐駒の前衛・風化した花崗岩と新緑を楽しむ		
費用	10,000円	交通機関	JR、タクシー
行程	我孫子駅発 5:31→日暮里駅 6:00/6:07→新宿駅 6:27/7:00→スーパー特急あずさ1号→小淵沢駅着 8:54/9:00 タクシー発→矢立岩登山口着 9:35 登山開始 9:45⇒大曲⇒錦滝 10:30/10:45⇒休憩 11:13/11:18⇒雁ヶ原⇒日向山H1660m 12:00/12:40(昼食)⇒三角点⇒矢立岩登山口に下山着 13:45 下山口タクシー発 13:55→小淵沢駅着 14:25 スーパーあずさ特急20号発 14:36→新宿駅 16:47/16:55→日暮里駅 17:15/17:17→我孫子駅着 17:45 < 歩行時間 3時間 >		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 矢立岩登山口からの林道は路面に転石や土砂が流れ出て荒れていた。二日前の雨の絞り水が流れていた。</li> <li>・ 錦滝からは急登でロープ、鎖、階段の連続。木の根を掴んで登る所多数有る。危険な箇所も有るので注意が必要。</li> <li>・ 1本道なので案内標識は少ない、日向山ハイキングコースの案内板が数個所有る。</li> <li>・ 雁ヶ原～日向山の頂上までは白ザレの急傾斜の崩壊地である。足元は滑り易く危険なので、ストックを利用して歩幅を小さく歩く。</li> <li>・ 日向山からの下山道は普通一般の山道で特に問題は無い。</li> </ul>		

参加者	原田和(L)、高橋芳、品田、飯沼、箕輪カ藤倉、瀬田、本間、本田、矢野裕、原田君 男1名、女10名 計11名
-----	--



山頂付近雁ヶ原 花崗岩の風化した真っ白な砂



日向山山頂1660mからの甲斐駒ヶ岳

< 7 3 4 >

## 黒金山 (2231m)

高橋芳恵

### バリエーションルートを憧れの黒金山へ

昨日は日向山から甲斐駒が岳の展望を楽しみ、幸運にも、2年前、雨で中止された黒金山が翌日に計画されているとあって黒金山山行に参加させていただいた。

前日は塩山温泉に宿泊したが、塩山はすっかりさびれていて、5月の土曜というのに同行のSさんと二人だけの貸切状態となった。おかげで十分な睡眠がとれ、体調を整えることができた。翌日、タクシー会社で宿泊しているリーダー一行と合流し、タクシーで登山口である笛吹権三郎公園に向った。

入口を地図で確認し、バリエーションルートの道なき道をジグザグと急登にあえぎながら尾根の末尾まで登り続ける。青山リーダーの計画に同行すると「何もこんなルートいかなくても楽でよい道があるのに」との思いが募るが、終わってみると何か充実感があり、また次の計画に同行をお願いすることが続いている。

尾根から破線路に合流する頃には、新緑のミズナラの林となり本当に気持ちが良い。花戸(1449.2m)から防火帯のプロムナードのカラマツ林は絵にも言われぬ素晴らしい景色に全員で感激した。尊敬するリーダーは毎週のように単独で山中をさまよい歩いていると話されているが、こんな楽しさを満喫されているのかと納得した。

今日の難所と思われるスズタケの蜜藪はまだ冬枯れ状態で茂っていなかったため、以外にも楽に通過することができたが、目印もないこのようなルートは個人山行では絶対できない経験である。1989m地点まで来ると藪は収まり、ブナの大樹に感動したり、甲武信岳を見ながらの山座同定を楽しんだ。1705mから2021mまでは急登の上、道がはっきりせず、うんざりする頃、ストーンと一般道に飛び出た。一般道とはこれほど楽な道なのかと感激し、「私はやっぱり一般道が一番似合っている」と率直に話すとリーダーは苦笑していた。

ここからは快適な歩きで、富士展望の牛首のタルに到着。富士を眺めながら一服。ここから一気に黒金山に登った。途中残雪が残っていたが、山頂では奥秩父の大パノラマを満喫した。やはり憧



黒金山頂上にて

れの黒金山は想像していた通りの素晴らしさであった。再び牛首でゆっくり過ごし、地図読みの研修を傍らで聞きながら、本日の山行の充実感を味わった。

帰路は牛首のタルを經由し天科までの1400mの下りを正面に富士と対面しながら全員で歓声を上げながら急ぎ足で下山した。天科でバスを待ちながら改めて本日の得難い体験に感謝した。



牛首のタルにて

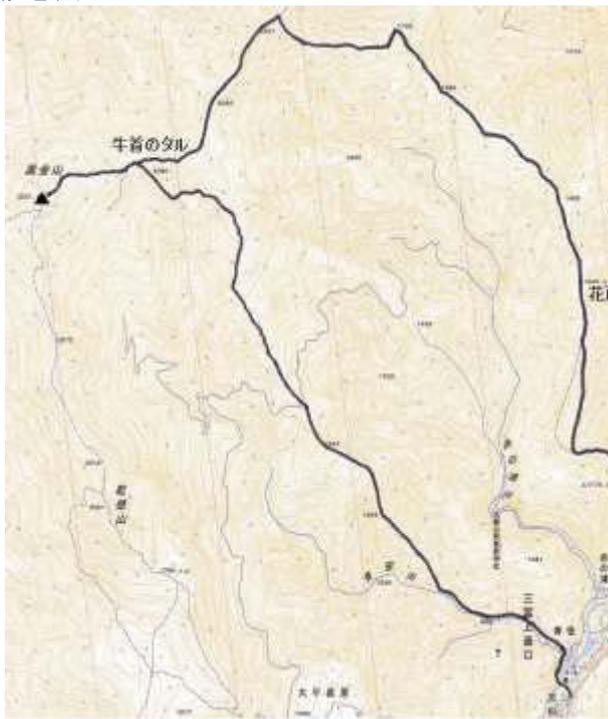


牛首のタルからの快適な下山道

いつもの遅筆の為、この原稿を青山リーダーに確認いただくことなくお別れすることになってしまった。いろいろご指導いただきながら誠に申し訳なく、今また改めて青山さんの偉大さを感じている。今日も生き続けている者は生き続けられなかった方の分まで山の素晴らしさをもう少しの間満喫したいと思っている。青山さん、本当にお世話になりました。



概念図



概要

山名	黒金山		
月日	平成 23 年 5 月 15 日(日)		
山城	奥秩父	地形図	1/25000 川浦、柳沢峠、雁坂峠、金峰
形式	夜行日帰り	グレード	3 B
目的	花戸尾根から黒金山		
費用	約 7000 円	交通機関	JR、タクシー、バス

行程	<p>我孫子駅 19:49→西国分寺 21:08→高尾 21:36/21:41→塩山駅 22:47 (塩山タクシーで仮眠) /5:00→笛吹権三郎公園 (芹沢集落) 5:25/5:35⇒花戸 6:30/6:40⇒1465M 地点 7:20⇒1589M 地点 8:20⇒1705M 地点 9:05/9:10⇒2021M 地点 10:35⇒牛首のタル 11:35/11:40⇒黒金山 12:10/12:25⇒牛首のタル 12:50/13:00⇒水場 13:25⇒林道 (1550M) 14:00/14:10⇒1264M 地点⇒天科 15:18/15:38→塩山駅 16:10/17:25→立川→我孫子駅 21:00</p> <p>&lt;歩行時間：8 時間 40 分&gt;</p>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笛吹権三郎公園から芹沢左岸沿いに林道を北西に辿り、北に曲がる所から急斜面をジグザグに登高すると尾根の末端に取り付ける。</li> <li>・尾根に出て北に進むとミズナラ林は新緑が美しい。</li> <li>・1370M 付近で左下から破線路と合流し防火帯のプロムナードを行くと、東側は唐松の新緑が目眩。西側は富士山が望める。</li> <li>・1449.2M の花戸には三等三角点があり、最近設置されたような真新しい木製の標識が立ち木にぶら下がっていた。</li> <li>・1465M から地形が広がり 1589M 手前まではスズタケの蜜窠に悩まされる。踏み跡もはっきりしなくて窠漕ぎとなる。</li> <li>・1589M からはブナの大樹に遭遇したり、やがて甲武信ヶ岳が見える場所で、全員で山座同定をして快適な時間を過ごす。</li> <li>・1705M 点には立ち木に赤テープが巻いてあったが標石は見当たらなかった。西の尾根は西沢溪谷方向に走っていて赤テープも付いている</li> <li>・2021M 地点までは急登の上踏み跡がはっきりせず、窠を漕いだり倒木が進路をふさぎ、予想外に時間を費やした。</li> <li>・2021M からは一般登山道となり、シャクナゲの登山道を小さなアップダウンを繰り返しながら牛首のタルに到着。</li> <li>・黒金山までの登山道には残雪が残っていたが直下の急登もなく、山頂からは北から西にかけての大パノラマが広がり、奥秩父主脈を一望できる。</li> <li>・牛首のタルから青笹の登山道は地図上は赤い破線だが、整備された気持ちよい登山道。富士山を道ずれに安心して歩ける。</li> <li>・1550M の林道に降り立つと展望がよく、休憩をしながら山座同定をする。</li> </ul>
参加者	<p>青山(L)、武内、高橋 (芳)、大畠、田村、瀬田</p> <p>男 1 名 女 5 名 計 6 名</p>

< 7 3 5 >

## 権現山 (1312m)

齊田記代美

### 新緑を堪能

ちょうど山行の頃は雨になりそうと心配になるほど毎日好天が続いていた。雨の中の山行も緑がきれいでも悪くはないと思いつつやっぱり好天に恵まれれば楽しさも倍増します。

予感が当たったというか、発表された週間天気予報では、閉じた傘マークになっていた。2日前の予報に傘マークに曇りのマーク加わり”フフ”と軽い喜びがわいた。小学校の時の遠足の前のような気持ちを思い出していた。

当日の朝の電車の中は”エッー、日焼け止めクリーム塗ってこなかった!”という声が聞かれるほど青空の見える天気になった。それでも、“トンネルを抜けると外は雨!ということもあるよ”と誰かにおどかされたりしたが、これもクリアしました。

上野原駅で何人かのハイカーと一緒に下車しましたが、初戸(ほど)行きのバスに乗ったのはわれわれのグループ6人のみで貸し切り状態でした。

バスを降りたら、思ったよりズーッと良いお天気で、もう少し飲み物が欲しいと思い自販機やお店を探しましたが何もありませんでした。登山道の入り口も小さな権現山登山口と書かれた標識があるのみで、どこかの民家に入っていくような感じで歩き始めました。

民家を過ぎたところに橋がかかっておりその先が登山口になっていた。しばらくはうっそうとした風も抜けない細い急な道をジグザグに登って行きました。さらに登っていくと、道を挟んで左がうっそうとした人工林、右が明るい萌える新緑の自然林と分かれており、先に進むと左右が反対になったりしているところをくり返し登って行きました。また、人工林の木の下の方は、半透明のビニールテープがぐるぐると巻きつけてあり、クマが木の皮を剥かないようにするためのテープとか・・・。ということは、熊も生息している山なのでしょうね。

道は整備されていて歩きやすく、といっても時々けもの道のような脇道があるので、惑わされないよう確認しながらです。他の登山者に出会う

こともなく、山を一人占めしているような気分で快調に雨降山に到着しました。名前は雨降り山ですが、雨が降るところか汗ばむくらいの良いお天気でした。

### 概要

山名	権現山		
月日	平成23年5月22日(日)		
山域	中央線沿線	地形図	1/25000 上野原
形式	日帰り	グレード	2A
目的	1. 奥深い静かな山 2. 萌える新緑		
費用	3,470円	交通機関	電車バス
行程	我孫子駅(成田線上野行快速) 5:33→新松戸 5:46/5:50→西国分寺 6:55→高尾 7:26→上野原駅 7:54/8:08(バス) 一初戸 8:44/9:00 登山口⇒雨降山 11:20/11:30⇒神社 12:15⇒権現山 12:25/13:00⇒和見分岐 13:25⇒林道出合 14:15(降雨のため雨具を着る)⇒高指山分岐 14:20(雨のため高指山、不老山は中止)⇒棚頭 15:00⇒不老下 15:30/16:25(バス) 一上野原駅 17:25→高尾(反省)→西国分寺→新松戸→我孫子駅 晴れのち雨<歩行時間 5時間 20分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"><li>この権現山は東西に長い主稜線をもつ山でそれを踏破するには強い体力と健脚に夕暮れを遅くしてくれるおひさまが必要だ。今回は幅の狭い南北を北から南へ抜けるコースをたどった。</li><li>道標はよく整備されていて迷うところはないが、里山特有の仕事道に惑わされることがあるので要注意。登山口付近は民家の間を縫うようにしていく。小さい標識が置いてあるので気を付けて通ること。</li><li>冬の落ち葉がまだ残っており滑りやすい。特に下りでは落ち葉の下に隠れた石車に注意。雨天時は木の根っこの滑り台にも注意。</li></ul>		
参加者	中村隆(L)、齊田(SL)、外崎蓮、箕輪力、箕輪完、桐生 男2名、女4名 計6名		

和見分岐には道標もしっかりあり権現山の方向に右折した。ここからは尾根歩きとなりいくつかの上り下りをくり返しながら権現山の由来となった神社の下にたどり着いた。日本武尊を祀ってあるというこの神社は大きな岩の上に建っていて、岩を削って数十段の階段が造られていた。その神社の脇から数分急坂を登りきったところに権現山の山頂があった。我々の晴れの付きもそろそろ終わりに近づいたようで、怪しげな雲が近づいて来ていて、昼食休憩をとって早々に高指山を目指して下山した。

帰りは先頭を任せましたが、いつもくっついて歩いているだけなので、ペースがわからずがむしゃらに歩いた。登りも急だったが下りもかなりの急坂で、また落ち葉が積っていて木の根っこを隠していたりするので緊張しながらの下山だった。時々、後ろから“早すぎる”との声を頂いた。案の定、下りから登りになったときに、私の足が悲鳴を上げ攀ってしまった。

また、林の中では、そんなに雨も気にならなかったが、林道を横切る時に結構雨脚が強いことに気付かされた。検討の結果、高指山・不老山をエスケープして直接、棚頭へ下山することになった。予報よりも多少早めの雨となったが、目的の奥深い静かな山、萌える新緑という目的は十分に堪能でき、ホリーデーパスを使っただけのお得感いっぱいの日でした。

リーダーからは、エスケープした高指山、不老山、瀬淵山の甲東三山をまた別の機会に計画しましょうと言って頂き、次への楽しみを残して頂いた山行でした。



萌える新緑の中で

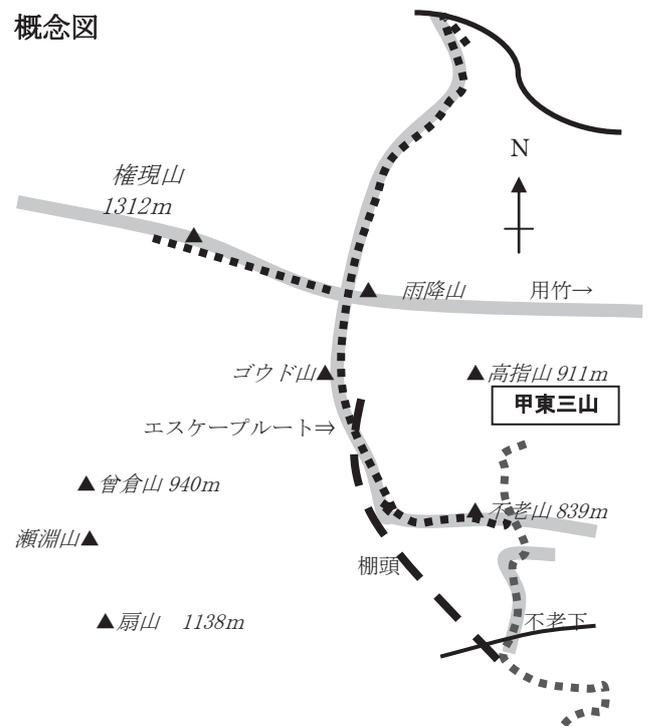


権現山山頂



快晴の雨降山頂

概念図



< 7 3 6 > 市民登山

榛名山  
(1410m~1449m)

やまたんより転載

【リーダーのメモ】

A-1 リーダー 高橋 英雄

山行一週間前あたりは曇りか雨の予想であったが、山行日に近くなるにつれて段々よくなり、当日はまずまずの天気、我孫子駅北口から大型バスに乗り込み一路榛名湖へ。常磐道、外環道、関越道を走り渋川、伊香保インターチェンジを降りて30余りのヘアピンカーブを曲がりきり榛名湖へ。B班1, 2がヤセオネ峠で降りて相馬山へ向かう。

A班グループ4班は登山口へ向かう途中でトイレタイムを取った。登山口の国民宿舎の前の広場で各グループに別れて、リーダーから注意事項そして準備体操後いよいよ登山開始。A-1が出発、掃部ガ岳へ向かう。深い緑の中を延々と歩くが、途中の丸木の階段には閉口した。

1時間前後かで(写真)に到着。周りを見渡せば湖面が見えるが、山々は霞んで見えた。

10分位の休憩を取り、そろそろ発とうかと思っていたらA-3のチームが到着。下山は急で充分注意をする。杖ノ神峠で休憩取り後続を待たされたが来なかった。杓ガ岳に向かう案内には歩き易いと思ったがとんでもなく3つのピークが有りきつかった。

頂上で昼食を20分ですませ出発。林道に出た所で時間を見たら到着時刻に間に合うか遅れるか?林道は石ころがあり歩き難い。途中で気持ちだけ早めに歩くようお願いする。

バスが待っている駐車場には10分位の遅れで到着し、皆さんが待っていてくれた。集合写真を済ませ、バスに乗り伊香保グランドホテルへ。ホテルの黄金の湯で汗を流し宴会場は男女に別れビール、酒、ソバ等が出た。市民の皆さんと交流を深め?アルコールが回ってきた頃、バスに乗り一路我孫子へ。関越道が途中から渋滞、運転手の計らいで東北道に回り我孫子に到着。やや予定通りではないでしょうか?



当チーム;

バーに恵ま

れていた。登りも下りも等間隔で歩いたのが一番良かった。メンバーに有難う。



掃部ガ岳山頂にて



美しい外輪山をバックに。



シノ科雑木林の中を歩く。気温が高く早速汗を流し、これから登るぞーと教えてあげます。これで筋肉痛は予防できます。

- ・新緑の雑木林の中を歩く。気温が高く早速汗を

かく。途中衣服の調整をしながら硯岩分岐に到着。榛名湖の眺望を見ていきかけたので硯岩へ向かう。眺望は抜群、正面に榛名湖と榛名富士の全貌が見渡せた。B班が登っている相馬山は榛名富士とちょうど重なって見えない。

- ・硯岩分岐に戻り、そのまま笹原の雑木林を掃部ヶ岳へ向かう。若葉の色が濃くなり始めた雑木林の中を登って行く道には春ゼミやカジカが声を競っている。やがて延々と続く木の階段を登ることになる。汗を流し何百回か重い足を持ち上げ、ようやくアカヤシオやヤマツツジの花が咲く明るく緩やかな稜線を登って行くと程なく、掃部ヶ岳の山頂→にたどり着く。
- ・広く開けた山頂からは緑に包まれた外輪山の山並みを見渡すことができる。水分とエネルギーを補給しながら小休止。
- ・掃部ヶ岳の山頂を下ると明るい雑木林の稜線歩きとなる。小さなアップダウンを繰り返しながら、途中耳岩の基部を巻くようにしていく。何の耳かな、ウサギかななど勝手なことを言いながら通過した。急な坂道を下って行くと小さな石祠と地藏さんが祀られた杖の神峠(林道)に降り立つ。11時30分昼食とする。
- ・湖畔集合の2時までに残された時間は2時間30分、杏ヶ岳まで往復して下山する標準所要時間は約3時間、相当の健脚でないと間に合わない。メンバーの了解を得て、杏ヶ岳への最初のピークで引き返すこととした。
- ・のんびりと昼食を済ませ出発、最初のピークの標識に鷹ノ巣岳(1317m)とあり、前方を見ると木の間から杏ヶ岳と思しき山を見ることができた。気をあの山に飛ばし登ったつもりで引き返した。
- ・杖の神峠からは長い林道歩きだった。そして2時少し前湖畔に到着した。標高差こそ少ないが手ごたえのある山ではなかったでしょうか。皆さんの頑張りのご協力に感謝します。多謝。



掃部ヶ岳山頂にて



▲ヤマツツジ咲く、明るく緩やかな稜線を登る。▼



A-3リーダー 原田和昭

- ・A-3班は市民参加者6名と岳人あびこ4名の10名編成。各自の体力と技術力が不明なのでゆっくりと安全コースを選定して歩く。登りは快調で全員歩行速度も順調で掃部ヶ岳頂上まではコースタイムで登る。
- ・天候は早朝から安定していた。新緑の緑が美しいこと赤ヤシオの花が残り、レンゲツツジの花が満開の状態を楽しませてくれた。
- ・掃部ヶ岳からの急傾斜の道を降りたところから歩行速度が遅くなる。身体に無理の無いように水分補給と栄養分の補給を取る。
- ・途中で休憩を取りながら杖ノ神峠に着く。ここで昼食を取りながら対応策を考える。市民参加者1名が体調不良なのでA-4班に同行をお願いする。
- ・9名に編成替えして再スタートする。鷹の巣山を越えて5分程行った地点で杏ヶ岳の全望が見える所で引返すことを決断する。午後2時の全員集合時間に間に合わなくなることが予想されたのでやむを得ない判断と思う。
- ・杖ノ神峠からの林道歩きは市民参加者の方には予想以上に足の筋肉に負担を与えた。朝からの疲れが一度に出たのか引きつりを起こす方が出た。
- ・登山は全員が無事に下山出来て、温泉入浴と懇親会は楽しく目的の市民交流は充分に果たすこ

とが出来たと思う。参加者の皆さんの協力で楽しい1日を過ごすことが出来ました。帰りのバスも順調で予定時間に到着することが出来た。新緑と榛名湖や連山の展望を楽しみながら目的は達成されたと思う。感謝。



国民宿舎 吾妻荘前から登山開始



青葉のトンネル 丸太の階段が続く



掃部ヶ岳山頂1,449m

A-4リーダー 武内 勇二

・陽射しはないが暑くもなく寒くもなく、絶好の登山日和となった。柔軟体操、自己紹介、諸注意の

あと、SLの藤倉さんにトップをお願いして出発。新緑の木立の中の道は、下草が刈られ人工的によく整備されている。小鳥のさえずりと蝉の鳴き声がハーモニーとなって降り注ぎ、まさに初夏の山登りで清々しい。



小鳥のさえずりと春蝉の鳴き声がハーモニーとなって降り注ぎ、まさに初夏の山登りで清々しい。

- ・やや急な坂道を登りきると稜線に出て、硯岩分岐の道標があった。硯岩は予定には入っていなかったが、僅かばかりの距離なので寄り道をする事とした。榛名湖を眼下に見下ろし、展望は良かったが、地名の由来は分からず仕舞い。
- ・掃部ヶ岳への登りは、延々と木の階段が続く。ステップが細かすぎて、かえって歩きにくい。登山道を整備してくれるのは良いが、やりすぎの感あり。
- ・掃部ヶ岳は榛名山の最高峰だけに、狭い頂上に20名程の登山者が憩っていた。アカヤシオをバックに登頂記念の写真をパチリ(→)。
- ・掃部ヶ岳からは、木の階段はなくなったのでホッとしたり。傾斜は急ではあるが、それ程歩きにくい道ではない。しかし、山慣れない人にとっては、やはり歩運びが大変で、10人の行列は長く伸びた。深い新緑と満開の山つつじ、とてもいいところだったが、必死の人にとってはそれどころではなかったかもしれない。
- ・二つ三つアップダウンを繰り返して、鉄塔付近より尾根を外れて、杖ノ神峠を目指して一気に下る。お地蔵さん2つを左に見ると、直ぐに林道に降り立った。ここでA-2班、A-3班と落ち合ったが、A-1班は既に登った後だった。時間は既に11時半を過ぎている。榛名湖畔公園集合2:00と決められているので、迷いはあったがパーティの状況を考え、杏ヶ岳は断念することとした。
- ・杖ノ神峠から榛名湖畔公園へは、ゆっくり歩いて約1時間。集合時間には早すぎるので、竹久夢二のアトリエを見学したり、湖畔の宿の歌を聞いたりしながら他の班の下山を待った。
- ・リーダーの一存で、予定していた杏ヶ岳は諦めることとなり、パーティメンバーの方には申し訳なく思っています。杏ヶ岳登頂はむりとしても、せ

めて途中まで行って引き返すことも考えなくはありませんでしたが、登りはともかく時間的に急かされた中での急な下りの危険を考えた結果なので、どうぞご容赦ください。



延々と続く木の階段。ひと休み。



▲掃部ヶ岳頂上にて

杖の神峠にて▼



B-1リーダー 外崎 蓮

- ・B-1班はB-2班と共に、榛名外輪山の相馬山～天目山～氷室山のコースを登った。
- ・ヤセオネ峠でA班より先にバスを降り、車道の脇でB-1班の顔合わせと準備体操をする。
- ・新緑とヤマツツジの中のひときわ赤い鳥居が相馬山の登山口。ヤセオネ分岐までの道に幾つかのりっぱな鳥居があり、相馬山は信仰の山であることが良くわかる。→
- ・相馬山は急登の岩場の山。登り出して間もなく20mの鉄ハシゴ、続いて手すり付きのハシゴ、その上部には太くて大きなクサリが現れる。が、ハシゴをしっかりとつかみ、木の根や岩角をつかんでゆっくり登れば何の問題もない。ただ、湿った岩は滑りやすいので、踏まないように注意した。足並みがそろい、全員、軽快に登ることができた。
- ・分岐から35分で相馬山山頂に到着。あいにく展望はうすばんやり。相馬山信仰にちなんだ石碑や石像が、わずかな広場のまわりを取り囲み、手前には信者のための御籠堂があった。広場に大きなドラム缶があり、誰が焚いたのか、まだ灰がぬくかった。
- ・スルス峠の小さなあずま屋を通過し、スルス岩の中間地点に登って休憩。木々の間から心地よい風がわたってきた。下をB-2班が通過したのがわからなかった。
- ・松ノ沢峠手前でB-2班に追い付き、道端で昼食。松ノ沢峠で1つ目の車道を横断し、榛名湖方面に向かう。七曲峠で2つ目の車道を横断。看板とトイレがあった。ここが天目山の登山口である。
- ・いきなり長い長い板の階段が天井に向かって伸びている。一つ超えると次の階段が待ち構えている。階段の途中で何度か立ち止まり、呼吸を整えながら登った。これを4～5回繰り返したところで天目山の頂上に出た。湖がかなり下に見える。そろそろ足がくたびれてきたが、もう一山がんばらなければ。行く手に、こんもりした山が立ちはだかっているのが氷室山か。
- ・最後の階段を踏ん張って氷室山に到着。ここは休憩なし。天神峠で車道に下り、直進して湖畔の宿記念公園の広い駐車場に着いた。時間は予定通りで、全員元気に歩き通した。・榛名山は燃えるようなヤマツツジに彩られ、市民登山に文字通り花を添えてくれた。綿引さん、高田さん、君子さん、菅谷さん、来年もお待ちしていますね。



新緑とヤマツツジの中の  
ひとときわ赤い鳥居が相馬山の登山口



相馬山山頂石碑や石像、御籠堂がある。



天目山山頂にて



新緑の中の登山道

- B-2リーダー 柴 勇
- ・集合時間は、皆さんさすがに見事に守って、予定通りの我孫子の出発。私達の班は、B-1と共に最初にヤセオネ峠で下車。まず、自己紹介をして、ストレッチで体を目覚めさせる。一般参加者は、この班は、一番少ない3名。歩き始めると新緑が目鮮やか、さらに春ゼミや、小鳥のさえずりが聞こえてくる。相馬山の分岐までは、ほとんど平坦で道も広くまさしく緑の散歩道。
  - ・相馬山と明記された鳥居を進むとその先は、やや傾斜のある岩場が続きさらに進むと、10mの鉄製の梯子が2箇所にある。その先の岩場を過ぎると傾斜が緩やかになりやがて頂上に着いた。今日は、日差しもきつくなく、薄日が差す程度で登山には最適。しかし、山頂からは、かすんで展望はない。晴れていれば、赤城山や、妙義山が見えたのに。山頂では、めいめいおやつを楽しむ。
  - ・スルス岩のいわれは、もみを磨るときに使うスルスに形が似ているから。磨墨（スルス）は、当て字。スルス峠からは、榛名富士の山頂も展

望できた。少し進んで、木製のベンチのある所で昼食を取ることにした。先に行っていた筈のB-1の人たちが、後からやってきた。スルス岩のすぐそばまで行ってきたからだ。一緒に昼食を楽しんだ後、先に出発した。途中、八重子さんが春ゼミを捕まえた。鳴き声を聞いたことはあるが姿を見たのは初めて。体の大きさは、ニイニイ蝉位で羽が透き通っている。可愛い。しばらく進むと、このせみの抜けガラが無数にあった。

- ・松ノ沢峠から天目山の山頂までは、標高差が2000mであるが、木製の階段が続きこれが結構きつかった。
- ・氷室山の登りも同様に木製の階段の続きだ。しかし、下りは、登りの倍以上の数の階段が続いていた。当初の計画では、天神峠から登る逆コースであったが、今日のコースは、正解であった。

全員が、湖畔の宿記念公園に集まり、集合写真に納まったときには、今日の山行が無事に終わったことで、それぞれの頑張りに胸を撫で下ろした。



紅と白の紗が美しいサラサドウダン



相馬山山頂にて



八重子さんが春ゼミを捕まえた。体の大きさは、ニイニイ蝉位で羽が透き通っている。可愛い。しばらく進むと、このせみの抜けガラが無数にあった。



【一般参加者感想】  
市民登山に参加して

A-1 大久保俊夫

岳人あびこの皆様、先日は大変お世話になりました。梅雨の季節なので天候が心配でしたがどうやら雨にならず、登山口より各班に別れ、なんとA-1は先頭に登りはじめひたすらリーダーの後をもくもくとついて行き、途中のすばらしい山ツツジ、足元に咲き乱れる植物に見とれたり（名前が知りたかった）と楽しい登山でした。

汗した額に下から吹き上がる涼風にいやされながら杏ガ岳に着き、A-1は、目標の山々を全部登る事が出来、大変満足しています。

山は、何ととっても平地と違ってすがすがしい空気、自然のすばらしさ、そして山の上からの眺め、そして役員さんの陰の力無くしては成功しないと思います。登山が終わって汗をかいた時やはり温泉に入ることが出来るのは魅力ですね。最高の日でした。

来年もまた出来たら参加したいと思います。ありがとうございました。



相馬山への岩場にある10mの鉄製ハシゴを上る

## 榛名山、市民登山に参加して

### A-2 高野セツ子

4時半起床。東日本大震災以来の山行なので、少々心配になり、SLの次、2番目に歩かせてもらいました。

元中村会長のもと準備体操をして出発。SL箕輪さんの班の歩調を考えての歩行、気配りに感謝です。硯石からの眺望、素晴らしい山登り日よりです。掃部ガ岳への登り階段には少々閉口しましたが、耳岩から杖の神峠への山歩き、久しぶりの山の空気に大満足の私でした。

峠では、他の班が昼食を取っていたようで私達も今朝は早かったのが少々早めではあるが弁当を開けました。

前の班の後を追うように杏ガ岳へむかいました。途中でリーダーが集合時間に間に合わないと言うので、又、峠のほうに向かいました。そこで水分補給の折、会員さんが磁石を取り出して、方向を確認、元会長中村様の一言で納得。この姿こそ、山を愛し、山を歩く人の姿の一端を見せてもらいました。

林道を下ること約一時間、下りには自信がない自分なので頭でガツガツではなく体でリズムを取って軽く歩くこと、なんて、復習しながら下って、竹久夢二のアトリエ前に到着。

軽くストレッチ体操をしてリュックをバスの下部に入れてもらい、全員そろった所で集合写真に入れてもらいました。立派な岳人あびこの旗とともに。

入浴後、懇親会と本日はとても気持ちの良い山行に参加させてもらいまして有難うございました。

## 岳人あびこ主催「榛名山、市民登山」に参加して

### A-3 牧野 直彦

登山は40年ぶりであったので、市民登山に参加して初歩から教えていただこうとの思いで、参加させていただきました。

梅雨入り後にも拘わらず、天候に恵まれ、新緑の山や、つつじの花を愛でながら、うぐいすの声や、春ゼミの合唱を聞きながら、足取りも軽やかに、話も弾み、楽しい1日となりました。本当に有難く、感謝の気持ちで一杯です。

#### ①「初めチョロチョロ、中パッパ」

歩き始めは、参加者の脚力を見極めながら、ゆっくりスタートしていただいたので、スンナリと歩くことができました。お陰で途中で少しペースが上がっても十分についていけました。

リーダーの心づかいに感謝しています。

#### ②「カエルの歌が聞こえてくるよ」

熊ササの原っぱを歩いていると、カエル？の合唱がわれわれを歓迎してくれているように聞

こえて、足取りも軽くなりました。(実はカエルではなく、春ゼミだったそうです。春にゼミが鳴くとは、初めて知りました。)

#### ③「山路来て何やらゆかし山つつじ」

新緑の山に咲く真っ赤な山つつじのきれいなこと。すかさず女性から「わたしほどではないけれど、キレイなつつじね」との発言に、雰囲気は一気にほぐれました。

#### ④「ごらん、あれが杏ケ岳の頂上よ」

杖の神峠で昼食を取り、杏ケ岳を目指して登り始めました。行き交う下山者に杏ケ岳まで、どのくらいで到着できますかと聞くと、「すぐですよ」とか「1時間くらいですよ」との返事に安心していました。しばらく登ったら、平らな山頂らしきところに到着したので、ここが頂上かと早合点しましたが、実は鷲ノ巣山の頂上でした。さらに少し歩くと下りに差し掛かりましたが、このまま進むと予定の時間をオーバーしそうだとのことで、“あれが杏ケ岳の頂上よ”と眺め、登ったつもりで引き返すことに全員一致で決まりました。実は少し足が痛くなりかけていたので、臨機応変なリーダーの提案にホッとしました。

#### ⑤「目に青葉、山ホトトギス、初登山」

かくして、安全に配慮していただきながら、目の保養、耳に心地よく、足取りも軽やかに初登山を満喫することができました。主催者の「岳人あびこ」様に心から感謝申し上げるとともに、機会があれば再び参加したいとの思いを強くしました。

## 榛名山市民登山に参加して

### A-4 伊藤喜久子

登山の知識も経験もない上に、自分の年齢、体力も考えずに市民登山に御誘いを受けた事が嬉しく参加を即答した私でした。その後、日が経つにつれ、歩けるかしら？御迷惑を掛けるのではと不安を募らせましたが、一緒に参加の経験豊かな友人のアドバイスと新しい登山靴慣らしの手賀沼散歩等で心を落ち着け、その日を待ちました。

事前説明会に所用で欠席してしまいましたが、資料を頂き「岳人あびこ」の存在と初めて目にした緻密な山行計画書(後日郵送の計画書と共に)に驚きと会への信頼感を深め、何度も読み返しては榛名山への期待感と団体行動から外れず完歩できる事を願っていました。

当日は天候にも恵まれ、会の雰囲気も良く新緑の樹林帯を歩き硯石からの榛名富士、榛名湖の眺めに歓声をあげ掃部ガ岳への丸太の階段を右手は初めて使うストックに頼り、左手は笹や杭、ロープに掴まって登りました。

下りに入ってから不覚にも転んでしまい前の友人に助けられたものの自信を失くし武内リーダーが前を歩き誘導して下さいましたが杖の神峠に遅れて到着、そこで、A-1～3グループは下山時刻の14時迄に集合場所に戻る範囲内で杳ガ岳に向かい、私達は昼食後、林道を歩き湖畔の宿記念公園に下山しました。

私の遅速な行動が計画変更になったのではと皆様に申し訳ない気持ちですが、安全第一に潔く決断し即実行に移すこの会に感動しました。もし、あのまま私が杳ガ岳に向かっていたら、もっと御迷惑をかけたのでは思い、自己申告と勇気ある撤退が必要だと納得しました。

下山後は伊香保の名湯に浸り山歩きの疲れをとり、交流会では美味しい料理とビールで乾杯！楽しいひとときでした。

山つつじやれんげつつじ咲く緑の榛名山行に参加させて頂き「岳人あびこ」の皆様から感謝いたします。有難うございました。

## 市民登山に参加して

### B-1 菅谷重夫

この度、岳人あびこの、市民サービスとしての山行に参加する事ができました。これで2回目ですが、よく統制された組織運営に感心しました。

山は中高年の趣味としては、最も危険な遊びだと思えます。それだけに岳人会員の、緊張感と使命感のようなものを感じ取ることが出来ました。

今回の榛名山は軽い気持ちで参加しましたが、相馬山、天目山、氷室山と3つのピークのアップダウンが大きく、ご老体には少々疲れしました。

(76歳)しかし、山麓から山頂、関東ふれあいの道等々、山つつじが満開で、疲れが癒されました。榛名山はつつじの名所だという認識をあらたにしました。

何よりも良い季節に、天気にも恵まれ(薄曇り)暑さでバテルこともなく、絶好の登山日和でした。高低差約300m、5時間の登降で、初心者コースと言った所でしょうか。

因みに、私の歩数計では16000歩でした。今回は楽しく思い出に残る山行でした、有り難うございました。

これからも我孫子市民として、我孫子を代表する山岳会として、後進の育成と市民サービス登山をよろしくお願い致します。

## 市民登山を終えて

### B-2 島田 孝子

久しぶりの山はキラキラ輝いて美しく「山はやっぱり良いなあ」と実感しました。スタート直前

までは、途中足が動かなくなるのではないかと不安でいっぱいでした。

ゆっくり歩き始めて頂いて、自然に体がなれていけたので、本当に良かったと思います。

ただ、以前のようなパワーは無く、たちはだかる山を指差して「あれが天目山よ」と聞いたときは、思わず後ずさりしそうな心境でした。

私は、少し難易度が高くて、目標が一つの方が自分には向いているのかもと思ったりもした。二次会では地域の方々とゆったりした時を過ごし、とても楽しかったです。

ありがとうございました。

## 市民登山を終えて

### 岳人あびこ市民登山実行委員会

市民登山も今回が18回目となりました。この15年間で、市民登山に対する参加者の目的も、年齢構成も大きく変わりました。当初の大きな目的は、会員募集でした。初めのころは、3月上旬でした。そのため、第1回目の石老山のときは、みぞれでしたが皆さん頑張って、山頂で暖かいトン汁を食べて元気を出しました。扇山のときは、残雪があり、アイゼンのない人のために、滑らないようにあらなわを靴に取り付けました。今の会員の多くは、市民登山の参加者の中から入会しそして会の中心的な役割を担っています。最近の傾向は、市民サービスとしての市民登山になりました。

今回のアンケートを見ると、皆さんおおむね楽しんでいただいていることは、主催するものとして、目的を達成できたと思えます。皆さん全員怪我や事故もなく1日を楽しんでいただき目的は、達成できました。

ただ、今回の料金に対して、普通であるという人が大半であることには、もう少し理解していただきたい。参考のために JR および群馬バス利用時の運賃と時刻を書いてみました。

行き：我孫子発 5:33→高崎 7:15→高崎 (バス) 7:25→榛名湖 8:55。帰り：榛名湖 (バス) 14:30→高崎 15:55/16:30→我孫子 18:43

料金：我孫子～高崎 3,440円 高崎～榛名湖 1,270円 往復合計：9,420円

いかがでしょうか？6,400円は、普通でしょうか？

バスで行くための時間的ゆとりや、安全登山の工夫(山岳保険付き等)、現地での温泉入浴、交流会。

これからも、よろしかったら参加してください。会員一同お待ちしております。

実行委員長：柴 勇

実行委員：高橋英雄、原田和昭、小松庸信、

矢野貞子、瀬田映子

概要

山名	榛名山		
月日	平成23年6月5(日)		
山城	上州	地形図	1/25000 榛名湖、伊香保
形式	日帰り	グレード	2A
目的	市民登山、市民との交流、山と温泉を楽しむ		
費用	6,400円	交通機関	貸切バス
行程	各コース共通	我孫子駅北口 5:40→柏 IC6:00→高坂 PA 6:55/7:10→渋川・伊香保 IC7:55→ヤセオネ登山口駐車場(B班下車)8:32/8:35→湖畔トイレ 8:40/8:50→国民宿舎榛名吾妻荘前登山口 8:55(A班下車・各班に別れ登山)→湖畔の宿記念公園 14:20→伊香保グランドホテル黄金の湯 14:45 入浴・懇親会/ホテル発 16:40→渋川・伊香保 IC17:00→佐野 SA18:05/18:20→柏 I C 19:25→我孫子駅北口 19:40	
	Aコース	【A-1】登山口 9:00→掃部岳 10:00/10:10→杖の神峠 11:00/11:15→杏ガ岳 12:15/12:35→杖の神峠 13:20→記念公園 14:15 【A-2】登山口 9:05→硯岩 9:20→掃部ヶ岳 10:12→杖ノ神峠 11:32/12:00→鷹ノ巢岳 12:20→杖ノ神峠 12:40→記念公園 13:45 【A-3】登山口 9:05→硯岩の分岐 9:25→掃部ヶ岳 10:10/10:20→西峰 10:40→杖の神峠 11:30/11:48→鷹の巢山 12:10→引き返し 12:17→鷹の巢山 12:25→杖の神峠 12:43/12:48→記念公園 13:40 【A-4】登山口 9:05→硯岩 9:30/9:36→掃部ヶ岳 10:25/10:40→杖ノ神峠 11:40/12:10→記念公園 13:05	

行程	Bコース	【B-1】ヤセオネ峠・相馬山登山道入口 8:35/8:45→ヤセオネ分岐・鳥居 9:10→相馬山 9:45/10:00→ヤセオネ分岐 10:25→スルス(磨墨)峠 10:40→スルス岩 10:50/11:00→松ノ沢峠 11:35→七曲峠 12:15/12:20→天目山 12:45/12:50→氷室山 13:20→天神峠 13:35→記念公園 13:45 【B-2】ヤセ尾根峠 8:35/8:47→ヤセ尾根分岐 9:10→相馬山 9:45/10:00→ヤセ尾根分岐 10:25→スルス峠 10:45→松ノ沢峠 11:00/11:20→天目山 12:40→氷室山 13:17→天神峠 13:32→記念公園 13:40
----	------	---

参加者	会員	【A-1】高橋英(副統括 L)、高橋芳(SL)、中村美、菊池、本田(一般) 大久保俊、大久保す、大井、戸田 男4名 女6名 計10名
	25名	【A-2】中村隆(L)、箕輪完(SL)、新谷、中村育(一般) 澤田勝、澤田末、高野、小池、松岡 男4名 女5名 計9名
	5名	【A-3】原田和(L)、小松(SL)、瀬田、矢野裕、(一般) 品田制、鈴木、中山、牧野、牧野、川端 男3名 女6名 計10名
	1名	【A-4】武内(L)、藤倉(SL)、本間、村松(統括 L)(一般) 加藤、増澤、石川、馬越、伊藤、川田 男4名、女6名 計10名
一般	2名	【B-1】外崎(L)、齊田(SL)、矢野貞、石垣、(一般) 綿引、高田、菅谷、原田君 男2名 女6名 計8名
	9名	【B-2】柴(副統括 L)、中村八(SL)、飯沼、村越(一般) 島田、横山、岡沢 男3名 女4名 計7名
		男20名 女34名 合計54名



湖畔の宿記念公園にて →



< 7 3 7 > BOM研修

瑞 牆 山  
(2230m)

新谷直恵

梅雨のさなか天気が案じられたにもかかわらず、青空の下我孫子を出発。今年2度目に開催されるBOMの研修山行でもあり、テント泊のための装備係りと食垣に分業して、事前の準備は早くから進められていた。いつもより重装備な仲間たちが次々と駅に集まる。

新宿駅であずさ1号に乗り込んだものの列車はなかなか発車しない。人身踏切事故が起きたようで、発車はいつになるかわからないという。座席を向い合せにしてこれから向かう瑞牆山の地図を確認しながらお喋りをしていると、次々と乗り込む乗客でいっぱい列車は1時間遅れでようやくスタート。途中徐行運転もあり、結局蕪崎駅には1時間半遅れで到着した。バスの出発時間までさらに50分待ち。

武内リーダーは全員を集め、予定の変更をせざるを得ないことを通知した。この日はテント設営後、1時間程散策して翌日山頂を極めることにするが、瑞牆山と金峰山とどちらがいいですかとみんなの意向をはかった。金峰山は他の山とかけ行くこともできるが、瑞牆山はここからしか登れないことを考え、瑞牆山ということで全員の意見は一致した。

その間にビール等の買い出しも行われ、荷物を積み直したり、他の人のザックの重さを交互に測ったりした。私自身40リットルのザックで辛い思いをした経験から、無理矢理35リットルのザックに荷物を押しこみ、寝袋用マットを持つのはあきらめてもいた。武内リーダーのザックはポンポンに膨れ上がっている。みんなの視線が集まると武内さんは荷物を外にいったん出して、荷物の詰め方をレクチャーして下さった。マットは背中側かと思ったら外側に入れて筒状をつくり、上から順番に詰め込んでいくという。テント生活にはあると便利なサンダルはリュックの外に。

バス停からは二双の山が臨め、その名前を地図で確認することになった。山座同定である。最初瑞牆山かと思えた山はじつは茅が岳であった。時間があるので軽く昼食を取り、瑞牆山荘まで1時間半のバスに乗り込む。途中観光地や温泉を巡るのどかな地元のバスであった。



いつもより重装備な仲間たち（瑞牆山荘前）

バスを降りると瑞牆山荘前で地図を取り出して全員で行く方向を確認し、静かな林道を歩き始める。先頭はサブリーダーの外崎さん。テント場の富士見平までは50分程だが、テントやお酒など重い荷物を担いでくださっている方々には感謝である。途中視界が開けると、急峻な瑞牆山の岩肌が聳え立っているのが目に入る。頂上付近の白い大岩は圧巻で、どうやって登るのだろうと思っていると、巻き道があることを聞き、少しホッとすする。

青空は見えるものの雲の動きが速く、雨が降らないうちに到着後すぐにテントを設営する。テントが4つ張れる平らな場所を探し、小石を拾ってまず整地。テントによって設営法は若干違うので、ひとつひとつのテントを全員で設営することになった。風向きを考えて入口を決める。いちばん大きなダンロップは男性用、あとの3つに入る女性たちはクジを引いて自分の寝るテントを決めることになった。



テント設営実習



野外の宴

テントとテントの間の平場に、石を円形に並べて食事の場所を作り、数百メートル降りたところにある水場まで水を汲みに出掛ける。水の音が響くほど豊かな水場だ。すでに今晚のビールは流れる水の中で冷えている。おおかたの準備が整ったところで、近くの飯盛山まで散策に出かける。途中、瑞牆山から降りてくるグループや、縦走するグループたちで土曜午後の富士見平は賑わっている。

今晚のメインメニューは豚汁とお寿司。山で焚くご飯は初めての経験で、外崎さんがレクチャーして下さる。まず沸騰してから3分待って火を止め、10分おいて再び3分間火をつける。10分ほどしてお米が炊きあがるいい匂いがしてきたらOK。3分→10分→3分→10分の法則という。刻んだ鮭と高菜の漬物、味をつけた揚げをご飯に入れて混ぜ、さらに寿司粉で和えると山のお寿司は出来上がり。汁用の鍋にはあらかじめ炒めた肉と野菜を入れて味噌を加えた豚汁もいい匂いを放っている。冷えたビールを前に、それぞれが用意したつまみを載せた皿が何度も回ってくる。武内リーダーが女性用に担ぎあげてくださった赤ワインもじつにおいしい。贅沢なひとときだ。次第に日は暮れ、西空は赤く染まっていく。歌を歌い、話し、楽しい時は続いた。

だが片づけてテントに戻るとまだ7時。そのうち山の夜はとっぴりと暮れる。シュラフを広げて寝床を作ってから、他所のテントの様子ものぞきに行く。外崎さんのテントには可愛らしいランタンが下がっていた。分けてもらった虫除けハーブクリームもありがたかった。寝入りばなは肌寒いと感じたのだが人息で次第に暑くなり、いつのまにかシュラフから抜け出て寝ていた。

翌朝は5時出発のため、3時過ぎには起き出し、4時から朝食。お湯をコンロで沸かし、それぞれの朝食だが、昨夜のお寿司もおにぎりとして並んでいる。カップ麺を食べる男性たちを横目に、山

の朝食にはもってこいことを知る。当初テントをそのままにして、そこに荷物を残して出発する予定だったが、雲行きが怪しいので出発を30分遅らせ、テントを畳むことになった。荷物は富士見小屋の物置に入れさせてもらい、5時半、瑞牆山に出発。



豊富な水が流れる水場を通り、天鳥川へと下ったところで休憩。冷たい川の水で顔を洗う人も多い。見上げる山頂付近にはガスがかかり、昨日見た山容は生憎臨めない。ぱっくりと割れ目の入った大岩やいくつかの巨石を通り過ぎ、梯子やロープのかかる岩場を通り過ぎていくうちに小雨が降ってきた。滑らないように3点確保をしながら黙々と進む。頂上付近に近づくと歓声があがる。大きな岩を巻いて頂上へ。頂上付近にはピンクのシャクナゲが雨に濡れて美しく咲いていた。ガスがかかっているのでも頂上からは何も見えないのは残念だった。記念撮影をし、眼下に360度の展望を想像する。

登りと異なって下りは多くの登山者とすれ違った。富士見平に着くとバス時間の調整のために休憩してから出発。瑞牆山荘から温泉までバスに乗る。世界有数とうたうラジウム温泉で汗を気持ちよく流し、ビールで乾杯。再びバスで韮崎駅へ。途中晴れ上がった夏の青空から甲斐駒等南アルプスの美しい姿が目に見え鮮やかだった。



地図読みと幕営技術の学習が目的だったので、みんなコンパスを首から下げ、止まると地図に見入った。川や林道など現地を確認できるところが多く、比較的スムーズに学習できたと思う。

5月の滝子山では村松リーダーがひとりずつ歩き方を指導してくださり、1カ月以上経つのだが、ちょっと歩幅を広くとると、後から村松さんの声がまるで聴こえてくるようだった。こんなふうに手取り足取りご指導いただける私たちはじつに仕合せである。



瑞牆山の岩峰



山頂近くに咲くシャクナゲ

### 概念図



### 概要

山名	瑞牆山		
月日	平成 23 年 6 月 25 日(土)～26 日(日)		
山城	奥秩父	地形図	1/25000 瑞牆山、金峰山
形式	テント	グレート	2 B
目的	BOM 研修山行 ①地図読み研修 ②テント泊りの体験		
費用	14,000 円	交通機関	J R、バス
日程	1 日目	千代田線我孫子駅 5:31→新宿 6:30 頃/7:50 (あずさ 1 号)→韮崎 10:05/10:55 (山梨峡北交通バス)→瑞牆山荘 12:18/12:35→林道 13:00/13:05⇒瑞牆山展望台 13:20/13:25⇒富士見平 13:40 研修 (テント設営) ⇒14:50 富士見平近辺散策⇒15:30 研修 (山での食事の準備) (テント泊)  ＜歩行時間 55 分＞	
	2 日目	起床 4:00⇒テント撤収研修⇒5:25 富士見平⇒小川山分岐 5:40⇒天鳥川上流の沢 5:50/5:55⇒瑞牆山 7:15/7:30⇒天鳥川上流の沢 8:40/8:50⇒富士見平 9:20/9:50⇒瑞牆山荘 10:35/11:20 (山梨峡北交通バス) →増富温泉 11:46/13:16(山梨峡北交通バス)→韮崎駅 14:09/14:54 (特急あずさ) →新宿→我孫子  ＜歩行時間:4 時間 40 分＞	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士見平テント場 林間のテント場で環境良好 利用料 1 人 5 0 0 円 富士見小屋には管理人夫婦はいたが、泊り客はいなかった模様。テントは学生グループを初めとし、1 5 張以上のテントで賑わっていた。</li> <li>・水場はテント場より 5 分、水量豊富</li> </ul>		
参加者	武内(L)、石垣、外崎、菊地、坂巻、藤倉、桐生、齋田、末永、矢野貞、瀬田、本田、矢野裕、新谷  男 4 名 女 10 名 計 14 名		

< 7 3 8 >

岩木山・白神岳  
(1625m) (1232m)

齋田記代美

今回は「世界遺産のブナの山、東北の名山に登る」を目的とした、大人の休日倶楽部の割引切符とレンタカーを利用しての熟年山行です。

私にとっては、このような山行に参加するのは初めての経験、そしてテント泊というのもとても楽しみな山行でした。

出発一か月前に座席指定券を購入するため集合したり、食担当が集まって献立のメニューを決めたりと参加者が事前に集まり準備をしていくことから今回の山行の楽しみが始まりました。

一日目（7月2日）

今日の山行先は岩木山（1625m）で、8合目まではレンタカーでの楽々コースです。上野から新幹線に乗り新青森へ、乗り換えて弘前へ、駅前でレンタカーを借りて岩木山に向かいました。ローカル線の電車の中では地元の方から話しかけられとても青森の方は人懐こく親切でした。8合目は広い駐車場があり、トイレも完備しています。

リフト乗り場の脇から登り始め、9合目までは細い登山道で、9合目からは8合目からリフトを利用して登られた方もいて賑やかです。

ここからは岩場になり少し歩きにくいけれど、登りと下りの道が分かれています。お天気は良いが雲も多く360度の展望は望めませんでした。津軽まで来て岩木山に登ることができたことの喜びでいっぱいでした。下山はこの先のことを考えリフトを利用しましたが、リフトの下はハクサンチドリが一面に咲いていました。歩いていたのではこの光景に出会えなかったのです。

再び、レンタカーに乗り、途中で食材を買い求め（事前打ち合わせの通り・・・テキパキと）、今夜の宿泊地十二湖リフレッシュ村に着きました。すでに午後6時を過ぎており、テント担当と夕食担当に分かれ準備開始です。キャンプ場は、我々以外は一台の車が止まっているのみでした。

夕食は暗くなってしまうしましたが、ランタンを囲んでの楽しいものになりました。大きな蚊に悩まされましたが、リフレッシュ村の方が蚊取り線香を貸してくださいました（ご親切に感謝・・・）

二日目（7月3日）

3時起床、朝食を取り（昨夜のうちに作りジブロックに入れたおいたサンドイッチがしっとりしていて早朝にもかかわらずとても食べやすく、美味しかった・・・）テントを撤収し今日の山行白神岳（1232m）へと4時半出発（今日も運転してくださる男性に感謝・・・）登山口までは20分余りで到着、広い駐車場があり駐車場にはすでに数台の車が停まっていました。ここには丸太小屋の休憩所がありトイレも完備しています。

必要なものだけをサブザックに入れて軽装で歩き始めました。

白神岳と言うと山深くマタギの世界のように思っていたのですが、道は整備されており、また頂上に着くまで登山者に合うこともなく我が山のように楽しく歩きました。

二股分岐を過ぎ十二湖との分岐までは少しずつ登りがきつくなってきたが、ブナの巨木も見られるようになり、また水場もいくつかあり、特にマテ山手前の最後の水場では持っていた水を捨てて、白神の水に詰め替えた（もっと大きな容器が欲しかった・・・）



蜷山山頂にて

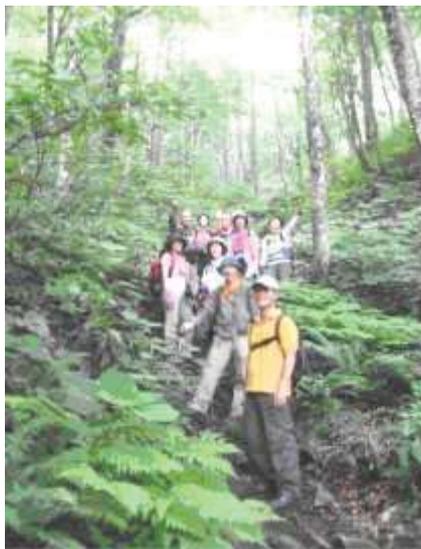


ブナの巨木が時々見られた

展望はないものの、花も多く、グンナイフウロ・ゴゼンタチバナ・ハクサンチドリ・トラノオのようなクガイソウなどなど、そして山頂付近にはニッコウキスゲが群生していた。また、ホトギスやハルゼミなどの鳴き声も良く聞こえ、メンバーの一人はツツドリが鳴くのを久しぶりに聞いたと感激していた。(ホーホーというこの鳴き声がツツドリというのね・・・)

山頂には避難小屋とトイレがあり、その先にはベンチもあり広いスペースになっていた。ここで初めて登山者と出会いにぎやかになった。「山頂からは日本海、男鹿半島、能代平野、世界遺産の核心地域、岩木山、八甲田山が見られる大パノラマです」ということでしたが、今回は残念ながら霧の中でした。(また来てねということね・・・)

昼食をとり出発しようとするとうな声聞こえ、藪の中にサルの親子が私たちに声をかけてきた。さらにその先に数匹のサルが木から木へと軽々と去って行った。私にとってこれからが試練



▲エメラルドの淡い光が降り注ぐ▼



でした(サルたちはこのことを教えてくれたいたのか・・・)。二股コースへの下山をはじめるとすぐに急なガレ場の下りになっていて、ところどころロープが取り付けられてはいるが、三点確保で慎重に下らなければならなかった。一時間近くの悪戦苦闘、途中では霧雨のような雨が降り出し、雨具も身に付けた。しかし、それを過ぎると雨も止み薄日も差すようになると、ブナ林がエメラルド色に輝きそれはそれは幻想的な美しい世界へと変化しました。

そして今度はごうごうという水の音を聞きながらの下山になった。渡渉が何箇所かあるとは聞いていたが下るにつれて水の音が大きくなり、いったいどんなところを渡るのだろうと思ひながらひたすら下った。

さて白神川に出ると川の水がごうごうと音を立て渡渉用の岩の上にも水が流れていた。(ええ・・・こんなところを渡るの!!) リーダーは難なく渡ってしまった。ストックを使い緊張しながらもなんとか無事渡った(ああ一怖かった)。2回目の渡渉、これは更に川幅が広く岩の上の水も多かった(すぐ下流が段差になっていて踏み外すと流されるかも・・・)。リーダーはロープ一本張りこれにつかまりながら渡る注意点を教えてください(なかなかスリリングな渡渉でした・・・)

その後は小さな渡渉を繰り返し無事駐車場まで戻ってきた。すでに午後3時を過ぎていた。トイレ休憩を済ますと途中で食材を買い求め今日のキャンプ地「北欧の杜キャンプ場」を目指した。到着すると午後6時を過ぎていて入り口の受け付けは閉まっており、直接キャンプ場へ入って行った。

ここはオートキャンプ場になっていてテントサイトに車は横付けでき、調理場、トイレは照明があり、温水が出る、管理棟では5分100円のコインシャワーが使えるなど至れり尽くせりのキャンプ場でした(一区画¥4000と高額なだけに、泊まるだけでなく一日ゆっくり過ごしたかった・・・)

三日目(7月4日)

今日も3時起床、今朝の食事は昨夜一人分ずつジップロックに入れておいたおにぎりです。これもなかなかおいしかったが少々冷たかった。食べただけ食べて後はザックの中に入れて好きな時に食べればよい(何と便利なおにぎりでしょう・・・)。

少し雨が降ってきてきたこともあり早々にテントを撤収して藤里駒ヶ岳(1158m)にむけて4時には出発した(予定どおりです・・・)。林

道は道が狭く曲がりくねっており、運転するのは大変。そして、雨脚がどんどん強くなり、とても山に登れるような状態ではなくなり登山を断念して引き返すことになりました。湯の沢温泉で日帰り入浴の時間にはとても早すぎたのですが、施設の方のご親切で朝風呂に入ることができました。

二日目と同様に360度パノラマで世界遺産に登録された白神山地を眺めることはできませんでしたが、又いつか・・・の楽しみを残して予定より早い新幹線に乗って帰途に着きました。

### 概念図（白神岳）



ギョリンソウに似ているが？



ブナの森は霧が似合う  
しばし幽玄の世界にひたる



クガイソウ

### 概要

山名	岩木山・白神岳		
月日	平成23年7月2日(土)～4日(月)		
山城	東北	地形図	1/25000 岩木山、白神岳、大間越、真名子、羽後焼山
形式	テント泊	グレード	2B
目的	世界遺産のブナの山、東北の名山に登る。 無雪期の危険(研修)		
費用	24,000円	交通機関	JR, レンタカー
行程	1日目	我孫子 5:30→上野 6:04/6:46(はやて 115号)→新青森 11:09/11:21→弘前 11:57/12:20(JR 駅レンタカー)→岩木スカイライン 8合目 P13:00/13:10→休憩 13:40/ 13:45→岩木山 14:20/14:45→8合目下で全員合流 15:35→リフト乗り場 15:45→8合目 P15:50/16:00→ジャスコ(食料調達)→十二湖リフレッシュ村 18:20(テント泊) 《行動時間：2時間5分》	
	2日目	リフレッシュ村 4:30→白神山 P4:50→登山口 5:05→二股分岐 5:50/5:55→大木戸沢 6:35/6:40→鯉山(まてやま)分岐 7:26→鯉山 7:30/7:36→鯉山分岐 7:40→大峰分岐 9:30→休憩 9:40/ 9:50→白神山 9:55/10:10→二股コース→休憩 11:30/11:35→雨具着用 12:30/12:35→二股 12:55/13:05→休憩 13:15/13:20→二股分岐 14:20/14:25→登山口 P 15:05/15:20→ジャスコ(食料調達)→北欧の杜キャンプ場 18:00(テント泊) 《行動時間：10時間5分》	
	3日目	北欧の杜キャンプ場 4:00→(車で黒石林道をのぼるが、雨のため引き返す)→湯ノ沢温泉(入浴)6:40/8:30→東能代駅(レンタカー返却)9:30/9:50→東能代駅 10:50→秋田駅 11:47/12:58(こまち号)→上野駅 18:02/18:10→我孫子 18:47 《雨のため山行中止》	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩木山 8合目登山口には、水洗トイレが新しい。リフトの終点あたりから岩場が続くが、傾斜がゆるく登り易い。登りと降りが歩き易いように、右側通行の標識がある。</li> <li>・白神岳 登山口には駐車場もあり、車は50台位はOK、また休憩棟があり20人程度は宿泊可能。但し、寝具はなし。トイレもあり便利だ。登りのルートは、危険箇所も無く、又全体に傾斜も緩やかで登り易い。但し、二股分岐から鯉山まではやや登りがきつい。山頂は平坦で広々としている。二股への下りは、最初いきなりガレ場でロープが二股付近まで設置されているものの急降下で足元が不安定なためかなり難儀する。種蒔苗代沢と母沢の二股には、これを渡るために丸太が設置されているが、むしろ近くを渡渉した方が安全だ。往復とも鯉山コースを取った方が楽だろう。</li> </ul>		
参加者	柴(L)、外崎(SL)、飯沼、箕輪完、藤倉、桐生、瀬田、小松、中村育、齊田 男子3名、女子7名 計10名		

< 7 3 9 >

黒 岳  
(1793m)

村越百々代

### 自然の声を聞きながらの登り下り

私にとって、今回の山行は4回目。前回までは3回とも観光バスでしたので移動が楽でしたが、今回は電車とタクシーで登山口まで移動します。

お天気が心配で、天気予報では傘マークが出ていたし、夕立が降ったらどうしようか…そんな心配を抱えながらの出発でした。東我孫子で高橋さんの姿を見つけ、ホッとしながら一緒に我孫子まで行きました。いよいよ今回の山行がスタートしました。

電車で揺られながら景色を眺めていると、藤野の駅から見える山の中腹にハート型のマークの付いたメールのモニュメントを見つけました。『ラブレターを出したい人は、ここから出すとうまくいくのではないかな…』などと話し合いながら、電車での移動を楽しむひとコマにも恵まれました。河口湖駅で下車。三つ峠入り口までタクシーで移動し、8人でストレッチをしてから登りはじめました。

すぐに登りになりましたが、なだらかな登りだったのでとても歩きやすかったです。曇りがちの天気で山の中を歩き、歩き始めてすぐに汗が出てきましたが、時々吹いてくる風が気持ちよく、だんだん登っていくにつれて気温も下がってきたのか、ひんやりとした空気がとてもさわやかでした。黒岳山頂に着いたのはちょうどお昼

でした。山頂から少し歩いての富士山展望台ではきれいに咲いた山つつじ、サラサドウダンの満開の大木の下でお弁当を食べました。眼下には河口湖が見え、目の前には雲に隠れて姿を見せてくれない富士山を想像しながらの昼食はやはりおいしかったです。20分ほどで食事を済ませ、すずらん峠、破風山、新道峠、中藤山を通過して大石峠まで登ったり、下ったり、また登ったり、下ったり…の繰り返しが何度続いたことか…歩いているメンバーからも「また登り〜!」「いつまで続く、この登ったり、下ったり…」などの声が出るほどでした。私自身「山とは忍耐だな…」と思いながら歩きました。それでも、とても整備されて歩きやすい道だったし、春ゼミやウグイス、そのほかいろいろな鳥の鳴き声を聞きながら、また、咲く花に見とれながらの山行はとても気持ちのいいものでした。昼食の時には見られなかった富士山も、下山の途中でチラッと勇姿の一部を見せてくれ、日本一の高さを改めて実感させてもらいました。

実は…前日も仕事で遅く帰ってきて、準備は何もできていないし、いつそのこと欠席の連絡を入れようか…とも思ったのですが、山の中を歩いて、「やっぱり、来てよかった。」と思いました。カラマツ草、黄花ヤマオダマキ、ヤマつつじ、サラサドウダン、アヤメ、ふうろ草などなど…たくさんの花を見て、自然の中の声を聞いて、登り下りの繰り返しのウンザリしながらも、ただ、ただ、歩いて、たくさん元気をもたらえた気がしました。

「やっぱり山はいい!また行くぞ!!」山へ行くファイトが湧いてきた一日でした。色々声をかけてくださった参加者の皆さん、ありがとうございました。



黒岳山頂



ヤマオダマキ (白)

## 概要

山名	黒岳		
月日	平成23年7月3日(日)		
山城	御坂山塊	地形図	1/25000 河口湖東部、河口湖西部
形式	日帰り	グレード	2A
目的	富士山と河口湖の展望を楽しむ		
費用	6,500円	交通機関	JR 富士急行 タクシー
行程	我孫子駅 5:33 発→新松戸駅→西国分寺駅 →高尾駅→大月駅→河口湖駅 9:17/9:23(タクシー) →三ツ峠入口 9:40⇒休憩 10:05/10:10⇒休憩 10:40/10:45⇒御坂峠 11:00⇒休 11:20/11:25⇒黒岳 12:00/12:20 ⇒すずらん峠 12:37⇒破風山 12:52/12:57 ⇒新道峠 13:12/13:17⇒休憩 13:32/13:37⇒ 中藤山 13:40⇒大石峠 14:24/14:30⇒大石 登山口 15:20(タクシー)→河口湖駅 15:45/16:00→高尾駅→西国分寺駅→新松 戸駅→我孫子駅 うす曇り <歩行時間4時間45分>		

ル ト 状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三ツ峠入口までタクシーで入ることが出来る。</li> <li>・登山口にはトイレがない。</li> <li>・登山道は整備されていてわかりやすく、歩きやすい。</li> <li>・黒岳の山頂は展望がなく、すこし進むと展望が開け、河口湖や富士山を見ることが出来る。</li> </ul>
参加者	田村(L)、村松、高橋英(SL)、石垣、 本田、末永、塩原、村越 男3名、女5名 計8名



ガンナイフウロ (紫)

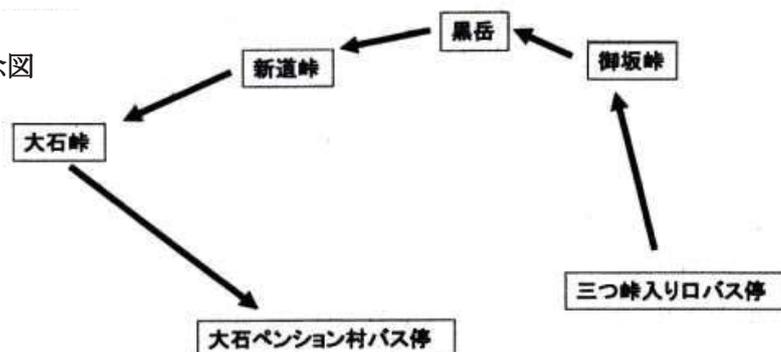


御坂峠



アヤメ (青)

概念図



< 7 4 0 >

楡形山  
(2052m)

原田和昭

### アヤメの群生地を求めて

夏山登山に向かって 2000m を超える山の事前訓練と日帰り出来る両方の山として計画しました。山行計画作成時点で過去の「やまたん」で調べて見ると楡形山には、あまり登られていないことが判りました。15 年前と 11 年前の二度だけでした。花の百名山に指定されているのに何故登らないのか不思議でした。

山行目的とした日本一のアヤメ群生地を見る。でしたがその後の調べでアヤメの花は鹿の食害で絶滅状態に有ることが判明しました。アヤメの花は無くても他の花に出会えると期待して実施した。甲府駅からタクシーで池ノ茶屋林道終点登山口に着く。

駐車場には避難小屋を兼ねた立派なトイレ付の小屋が有る。小屋の横から登山口は続いている。登山道は歩き易く両側の樹木は落葉松の青い新芽が美しい。樹林帯の樹木が変わり、鬱蒼とした大きな古木に囲まれて三角点の有る奥仙重に着く、ここから少し降りて登り返すと株立ちの米母の古木に囲まれた楡形山頂上に到着する。頂上は広いが見晴しは無い。頂上で数人の登山者が昼食をしていたので私達も昼食にする。

次の目標地はパラボタン平を過ぎて裸山の麓に着く、ここに 2m 位の高さのネットに囲まれた中に数輪のアヤメが咲いている。裸山の頂上から東南方面は開けていて楡形山で一番展望の良い場所である。天気が良ければ白峰三山が一望出来るのに残念ながら曇り空で見えることは出来ませんでした。

裸山から 20 分程歩くと今回の目標地点のアヤメ平に着く。ここでも野生のアヤメの花はネットに囲まれた中に咲いている程度で広い山の斜面には咲いていない。鹿の食害で群生地は絶滅状態になっていた。アヤメの群生には合うことが出来ませんでした。白いクサタバナの花が満開でした。アヤメ平を囲む古木の樹にサルオガセの下がる景観は見事で山の深さを感じさせるひと時でした。

楡形山に登るルートは多く有って地図を確認

しながら北尾根ルートを選定し下山開始する。途中の下山道は整備されている。急傾斜の場所も有るので慎重に下る。展望台の有る場所に花の百名山名付け親田中澄江さんの記念碑が有る。ここからは八ヶ岳連峰から北アルプス方面の山並みが一望出来る所なのに残念ながら何も見えない。北の方角には黒い雨雲が出て雷の音が聞こえて来たので急いで下山する。今まで以上の急傾斜で声を掛け合い注意しながら慎重に下山する。予定した時間に県民の森に到着。

ここで衣服を着替えてタクシーで甲府駅に向かうが、途中で大粒の雨が降り出した。花の百名山に相応しい野生のアヤメ群生地は見ることが出来ませんでした。雨の中を歩くこと無く山の楽しさを味わうことが出来て幸せに思います。甲府駅では今年の B1-グランプリで優勝した甲州名物「鳥もつ煮」とビールで乾杯して帰路に着いた。



ネットの中でアヤメは数輪咲いているが野生地では咲いていない。



ネットに囲まれたアヤメ

## 概要

山名	楡形山		
月日	平成 23 年 7 月 9 日 (土)		
山城	中央線沿線	地形図 1/2.5 万	小笠原 夜叉神峠
形式	日帰り	グレード	2 B
目的	日本一のアヤメ群生地を見る。 花の百名山を楽しむ		
費用	8,000 円	交通機関	JR・タクシー
日程	<p>我孫子駅 5:31→日暮里駅 6:01/6:07→新宿駅 6:29/7:00→(スーパーあずさ 1号)→甲府駅着 8:27/8:38 (タクシー)→池ノ茶屋林道終点駐車場登山口着 9:50/10:00⇒休憩 10:25/10:30⇒奥仙重 10:40⇒楡形山 10:55/11:25 (昼食)⇒分岐 11:38⇒分岐 11:55⇒アヤメの花 12:00⇒裸山 12:10⇒アヤメの花の所に戻る 12:15⇒分岐 12:23⇒アヤメ平 12:30/12:40⇒分岐(ルート調査) 13:10⇒休憩 13:30/13:35⇒展望台(田中澄江記念碑) 13:50/14:05⇒林道に出る 14:45⇒県民の森・グリーンロッジ着 15:10/15:28(タクシー)→甲府駅着 16:15/17:15(反省会)特急かいじ 120号 17:26 発→新宿駅 19:19/19:24→神田駅 19:35/19:40→上野駅 19:46/19:50→我孫子駅着 20:28 (解散)</p> <p>曇りのち雨&lt;歩行時間 4 時間 05 分&gt;</p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の当初計画は北尾根を登り、中尾根を下山する計画でしたが、再調査して池ノ茶屋林道終点から登り下山道を北尾根ルートに変更した。</li> <li>・登山口からの登山道は歩き易くて奥仙重の三角点を越え楡形山頂上には早く到着する。</li> <li>・楡形山には歩行ルートが多く分岐箇所が多数ある。その分岐地点に案内標識が充分とは言えないので地図による確認が必要。</li> <li>・下山道の北尾根ルートは高低差 1100m を降りるので急傾斜の所が有る。注意を喚起しながら下山する。</li> <li>・特に田中澄江記念碑の有る展望台からの約 40 分の下山道は注意が必要</li> </ul>		
参加者	原田和(L)、高橋芳(SL)、大畠、本間、郷田 男 2 名 女 3 名 計 5 名		



楡形山頂上

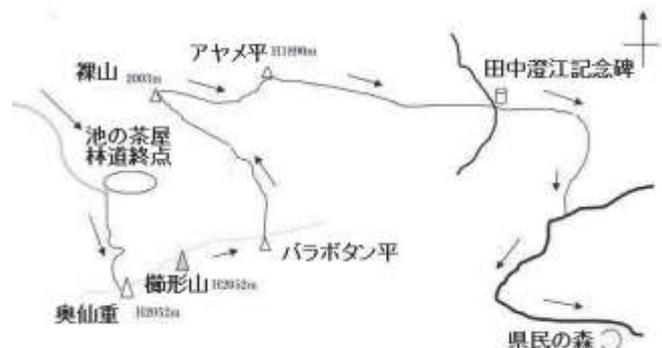


クサタチバナの花



サルオガセの下がった古木

概念図



< 7 4 1 >

岩手山～八幡平  
(2038m) (1613m)

外崎 蓮



岩手山から八幡平へ長～い稜線散歩  
…青山さんと歩いた最後の山…

7/8 (金)

夫の故郷の弘前に出かけるたびに、新幹線の窓から見える大きな岩手山が気になっていた。ところが 1998 年、岩手山周辺で火山活動が起こり、2000 年に発行された昭文社の地図には、各登山口に登山禁止の赤い囲みが記入されてあった。それがいつ頃から解除されたのだろう。当会でもすでに何パーティか登っている。

今回幸いにも同行してくれる仲間が揃い、7 月に入った金曜日の夜、避難小屋泊まりの仕度をして家を出た。八重洲の高速バス乗り場へ行くと、深夜だというのに花金(古い?)のためか勤め帰りの人々の往来の激しいこと。ユニークな名称の「ドリーム盛岡らくちん号」は定刻どおりに発車した。バスはリクライニングでトイレ付きだが、3.11 の震災のせいか道路事情が悪く、小さな振動が気になった。

7/9 (土) 信仰登山古来の道をたどる

盛岡駅前バスを降り、閑散とした待合室で朝食を食べる。30 分後、駅前に常駐しているタクシーで柳沢から馬返し登山口へ向かう。このコースは信仰登山が盛んな頃から登られてきたらしい。他にも網張、焼走り、御神坂、七滝登山道などがあり、岩手山麓の四方から山頂を目指せるようだ。馬返し登山口の駐車場付近に来たところで、運転手が不思議な現象を教えてくれた。普通なら下り坂では車が坂を下る筈だが、放っておくと坂をバックして上っていくのだ。坂道は実は目の錯覚だろうか。こんな現象を以前テレビで見たことがあった。

登山口で生ぬるい鬼又清水を飲み、ブナやミズナラの林に入る。ジグザグに登るので楽だが、汗だけはいっぱいかいた。赤土の砂礫地を何回か越えて 6 合目に着く。ここで気がついたが、合目の番号は等間隔につけられてはいないようだ。展望のよい場所とか、休める広場がある場所に置かれてあるようだ。灌木帯を抜けて 7 合目に来ると、辺りが開けて平坦になった。ハイマツの中を進んで、わけなく 8 合目に建つ瀟洒な避難小屋に着い

不動平避難小屋は岩手山と鬼ヶ城に挟まれた  
高山植物帯にある

た。広い庭にはテーブルと椅子がたくさんあり、その先には山から引かれた水がとうとうと流れ出ていて格好の休憩場所だ。100 人は泊まれるらしい。9 合目の小屋がいっぱいのときは、ここに泊まろうと思っていた。ここで空の容器に水を汲み 9 合目の避難小屋へ。不動平の一角に建つこの小屋は、かつては休憩所であったようだ。外壁が石で覆われ頑丈そのものだが、一歩中に入ると木の香りがし、床がつるつるして気持ちのいいこと。

明朝は山頂に行く時間がないので、このまま出かけることにする。昼を過ぎたばかりなのに、ガスが下りてきて薄暗くなってきた。砂礫の斜面のコマサガが薄ぼんやりと見えた。ザレたお鉢の縁に上がると風も出ている。左に曲がって岩手山の一番高い薬師岳を目指す。ガスと風がいよいよ激しくなると、左道端に等間隔に立ち並ぶ恐い顔をした石仏を頼りに登っていく。やっと着いた山頂には、祠や誰かが祀ったらしい瀬戸物のお地藏様が置かれてあった。その傍で記念撮影する。このとき私の隣に寄り添う青山さんが、この 1 か月後に帰らぬ人になろうとは。あの白いお地藏様なら予知していたらどうか。

悪天候のためお鉢は回らずに不動平の小屋に戻る。この夜、快適な無料小屋は私たちだけのものであった。

7/10 (日) 火山活動の痕跡地帯に行く

早朝に起き出して無理やりオジヤを流し込み、4 時に小屋を出る。御神坂コースを左に見送り、すぐに鬼ガ城尾根に取り付く。この尾根は旧火口の外輪山で左右が切れ落ち、非常に足場が悪い。転落しないよう緊張して越えた。このコースと平行してお花畑のコースが下の方にあるので、鬼ガ城の岩稜歩きを避ける人もいる。切通しと呼ばれる T 字路でゆっくり休憩してから黒倉山へ登る。山頂付近はザレた赤土状で、あとで知ったが、この付近は火山活動が活発だったようだ。姥倉山方

面に登っていく道も裸地化し、いかにも溶岩が流れ出たあとのようだ。このような所を歩くのは、あまり気持ちのいいものではない。姥倉山の手前から左手の犬倉山へ向かう。

小さな沢で水を汲もうとして、草むらの陰にひっそりと咲く一輪のシラネアオイを見つけた。犬倉山には巻き道があり、「巻き道、好き」の精神の持ち主である私と村松さんは、この道を歩き、「ピークを踏みたい」の精神の青山さんは武内さんと共に犬倉山に登った。T字路で2人を待っていると、網張温泉からリフトで上がってきた人が、涼しげな顔で犬倉山に向かっていく。



裏岩手山縦走は鬼ヶ城の岩稜帯通過から始まった。



縦走路には立派な避難小屋が整備されている

4人が揃い、網張方面との分岐から右手の裏岩手縦走路に向かった。2つばかりピークを越してから一気に100m登ると、稜線が平坦で端から端まで長い大松倉山に着く。兎に角でかい山だ。どんどん下って樹林を抜けると、急に開けてオアシスのような湿原に出た。山歩きはこれだから楽しい。美しい湿原の中に建つガラス張りの山荘は、この風景に実によく溶け込んでいる。ピカピカした板の間に寝転んで、本でも読みながら何日間か過ごしてみたいと思った。

ここは、北側の松川温泉から2時間半で登って来れる位置にある。三ツ石山荘で休んでいた夫婦連れは、これから三ツ石山に登ると言った。私たちが後を追う。山頂で岩手山を眺めた後、ゆるやかに下って三ツ沼に出る。沼は小波ひとつ立って静まり返っていた。どこか寂しくて、1人ではこんな沼はゴメンだ。沼から50mばかり登った道端に三等三角点が置かれてあり、そこから30分で面白い名称の小畚（こもっこ）山に着く。

展望が抜群でゆっくりしたいところだが、行程が長いので先を進むことにする。急坂を下って小沢を渡り、また急坂を200m頑張って待望の大深山岳に到着。背丈の低いハイマツに囲まれた山頂でハイ、ポーズ。あとはこの下にある大深山荘に下

るだけとなった。道が平らになったあたりに、「水場400m」の立て札が立っていた。400m下って、またここへ登り返すのかと解釈した私たちは、冗談じゃないと通過して5分ほどで山荘に着いた。

よく考えると、400mも下る筈はなく、距離であったことがどうして判らなかったのだろう。山荘の横の林から、山あいには伸びる湿原に下りて行くと、畦のような所から清水が流れ出ていた。登山道に上り返す必要などなかったのである。案内板が不親切だとなじったのはどのパーティだったか。

大深山荘も木の香りが残るきれいな小屋だ。室内がカラリと乾いているのは床が高いからだろうか。入口を入ると土間があり、その奥に男女2つのトイレがある。臭いはないが、部屋のドアを開けておくとハエのお客様が何匹も飛んできて、その都度大騒ぎした。山荘のベランダに日が当たり、手すりに濡れたものを広げる。心地よい風が吹いていた。この夜も宿泊者は私たちのみ。



大深山荘より5分の湿原にある水場で水を汲む

#### 7/11(月)裏岩手連峰を歩き通して八幡平へ抜ける

今朝もよく晴れている。今日も長丁場なので4時には小屋を出た。小屋を出てすぐに朝露の洗礼ときた。その上、この領域は入山者が少ないせいも、沿道の笹や木の枝が伸び放題である。トッポを行く私は水も滴るいい女と化し、もはやヤケクソ状態である。ピークに着くたびに私と青山さんは登山靴を逆さにして水を出し、靴下をしぼった。嶮岨森の山頂からは、岩手山や大深山荘の赤い屋根や八幡平樹海ラインが一望のもとだ。

前諸桧岳を下ると広い笹の原っぱに出る。この辺りから笹が刈られていることに気がついた。諸桧岳までは道の両側がきれいに刈られ、防火帯を歩いていく感じだ。ここまで来るうちに靴の中を除き、いつの間にか着ているものが乾いていた。諸桧岳を下ると景色は一変し、車道や建物が見えてきて、ついに八幡平にやって来た感激が沸いてくる。

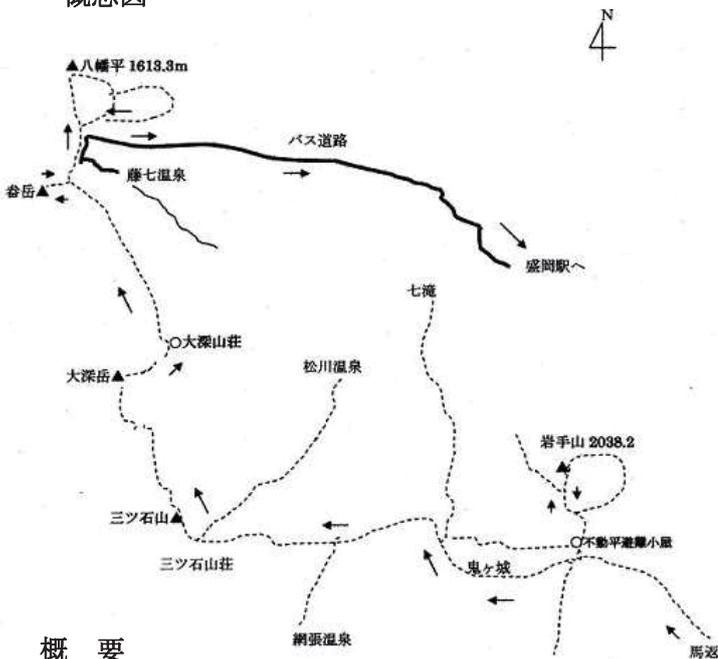
最後につりがね状をした畚岳に登る。ここから

の眺めは抜群で、越えてきた山々や眼前の八幡平の山容とアスピーテラインが箱庭を見ているようだ。畚岳から車道に出、頂上バス停に向かって坂を上がっていく。角のみやげ物店で盛岡行きのバス時間を聞き、空身で八幡平の山頂に出かける。整備された遊歩道をわけなく登り、平坦地に立てられた大きな標柱の下でハイポーズ。

何が見えるのか展望台に上がって驚いた。見えたものは、相当に伸びたアオモリトドマツの樹海であった。石畳を行くと左下方に沼と湿原が現れてきた。青山さんは源太森まで行ってみたいと言い出し、1人で八幡沼へ下りて行った。3人は見返峠からバス停に戻り、隣のレストハウスで仮の打ち上げをはじめた。満足し切った彼女が山から下りて来て、改めて乾杯する。

藤七温泉での入浴をとり止め、12時半のバスに乗る。このバスは東八幡平交通センター止まりで、ここからは偶然にも丁度居合わせたタクシーに乗ることが出来た。盛岡に向かう途中、旭日之湯に連れて行ってもらう。車の窓からは刻々と形を変える岩手山が、雲1つない青空に影絵となって浮かび上がっていた。

### 概念図



### 概要

山名	岩手山～三ツ石山～八幡平		
月日	平成23年7月8日～11日		
山城	岩手・秋田県境	地形図	1/25000 大更・姥尾敷・松川温泉・篠崎・八幡平・茶臼岳
形式	避難小屋	グレード	3C
目的	① 避難小屋に泊まる。 ② 南部富士・岩手山から裏岩手連峰を縦走して八幡平にぬける。		
費用	22,500円	交通機関	夜行高速バス・バス・タクシー・JR



八幡平の一角にある畚岳山頂からは素晴らしい展望が楽しめた。

前後	我孫子駅 22:00→東京駅 22:44→八重洲南口 23:50 (ドリーム盛岡らくちん号)
1日目	盛岡駅 6:50/7:20(タクシー)→馬返し 7:55/8:10→1合目 9:05/9:15→2合目 9:30→3合目 9:55/10:05→5合目 11:40/11:50→7合目 12:25/12:35→8合目 12:45/13:15→不動平避難小屋 13:25/13:35→岩手山山頂 14:10/14:20→不動平避難小屋 14:45 <歩行時間:5時間5分>
2日目	不動平避難小屋 4:00→鬼ヶ城通過→切通し分岐 6:15/6:30→黒倉山 6:50/6:55→網張温泉・犬倉山分岐 8:15→二手に分かれて反対側の犬倉山分岐 8:22/8:32→大松倉山 9:50/9:55→三ツ石山荘 10:20/10:40→三ツ石山 11:20/11:30→三角点 12:00→小畚山 12:30/12:35→大深岳 13:40/13:50→水場への分岐 14:15→大深山荘 14:20 <歩行時間:9時間>
3日目	大深山荘 4:05→嶮岨森 4:55/5:05→前諸桜 5:55/6:05→諸桜岳 6:50/7:10→畚岳分岐 7:55/8:05→畚岳 8:13/8:30→畚岳分岐 8:35→レストハウス 9:00/9:30→八幡平山頂 9:55/10:00→レストハウス 10:30/12:30(バス)→東八幡平交通センター13:10/13:15(タクシー)→旭日之湯 13:30/14:20→盛岡駅 14:50/15:42(新幹線こまち)→上野駅 18:30/18:45→我孫子駅 19:18着 <歩行時間:4時間45分>
ルート状況	・岩手山には、柳沢登山道、網張登山道、焼走り登山道、御神坂登山道、七滝登山道があり、山麓には温泉がある。 ・馬返し登山口には広い駐車場と鬼又清水という水場がある。そのあと8合目まで水場はないので、ここで補給しておく。
参加者	外崎 (L)、村松 (SL)、武内、青山 男2名 女2名 計4名

< 7 4 2 >

利尻岳・礼文岳  
(1719m) (490m)

外崎 蓮

## 日本列島最北の海に浮かぶ二つの島へ

この夏、幸運にも利尻岳と礼文岳の山行に参加することが出来た。正直言ってこの2つの島がどこにあるのか、はっきりとは知らなかった。地図で北海道の北の海岸に浮かぶ島を探した。円形の利尻島とタツノオトシゴのような形の礼文島を発見。それらは稚内の西の海、日本海にあった。この2つの島で私が知り得ているものは、利尻岳という山名と利尻昆布、同じように礼文岳とレブヌスユキソウにレブヌアツモリソウぐらいのお粗末さである。そんなことより、海拔 0m から 1721m の利尻岳に日帰りで登れるだろうか。一喜一憂の思いで出発した。

### 7/18 (月) 稚内からフェリーで利尻島へ

日帰りザックに手荷物 1 個の軽装スタイルで家を出る。我孫子駅で 4 人が合流。8:30 に羽田空港第 2 ターミナルに着く。搭乗手続きを終えて待合所へ移動すると、なでしこジャパンの優勝シーンがテレビで放映されていた。9:10 に ANA に乗り込む。ストックは畳んで 60cm 未満だと機内持ち込みセーフ。ハサミは出さなかったが、これもセーフ。機内の飲み物はお茶・水・ジュースは只だが、コーヒーは有料で驚いた。2 時間ほどで稚内空港に降り立つ。外に出ると、やはり夏の太陽が照りつけてくる。空港からバスで稚内フェリー乗り場へ移動する。利尻島行きフェリーが出るまで 4 時間あるので、人通りのない町へ繰り出した。まずは美味しいものを食べようと、瀬田さんお奨めの店「夢牧場」へ。ご飯の上にとっさりの新鮮なウニ・イクラの海鮮丼を、全員あつという間に平らげた。

その後、近くの高台にある稚内公園に上がった。見渡す限り真っ青な海が広がっている。園内にはさまざまなモニュメントがあり、その中に南極観測隊に連れていかれた樺太犬の訓練記念碑があった。南極物語の映画を見て、感動した思い出のある私は、タロとジロの写真を買った。さらに足を延ばし丘の上へ。真っ白な大きな風車と展望台が緑の丘に実によく映えていた。

フェリー乗り場に戻り、16:05 発の利尻行きに

乗る。先ほどまで散策していた丘の上の風車と展望台が、次第に遠のいていく。代わりに海から盛り上がった利尻岳がどんどん近づいてきた。ウミドリが三々五々、水面すれすれにフェリーと並んで利尻島に帰っていく。ずっと甲板に立ち、島の大半を占めている利尻岳を眺めているうちに鴛泊港に到着。下船すると、民宿「ペンションみさき」のご主人が車で出迎えてくれた。海に面した民宿はフェリー乗り場から目と鼻の先にあり、裏手のペシ岬が海からの風を遮ってくれる最適な場所にあった。何より正面の利尻岳が手に取るように見えるのがいい。この夜の宿泊者は 20 名ほど。夕食はこの付近の海でとれたという魚介類ばかりだ。特に 2 種類の色違いのウニの量は半端じゃない。ご満悦、ご満悦。

### 7/19 (火) 山頂から見た利尻島は、やっぱり丸かった！

鴛泊コースの登山口へ宿泊者を送り届けたご主人は、次は私たちを杓形コースの登山口へ連れて行ってくれた。「警告を無視してまで行くんだから」と言いたげな無然とした態度が感じられた。実際彼は、5 合目の登山口に着くまでほとんどしゃべらなかつた。こうなつては事故を起こさないように無事に下山することが一番だ。そんなわけで昆布漁のことをご主人に聞きそびれたのだが、宿から海岸線を走ってくる途中、早朝からあちこちの砂浜に人が集まり、幅の広い昆布を手作業で広げていた。利尻昆布は利尻だけのものではなく、礼文や稚内方面でとれたものもそう呼ぶらしい。ご主人に見送られ、草が生えた登山口へ。歩かれていない証拠のようだ。背の高いトドマツ・ダケカンバ・チシマザサの生い茂る林をゆるやかに登って 6 合目へ。前方に利尻岳が見えてきた。ここで朝食。昨夜作ってもらったおにぎりを食べる。明るくなった林の中を登って、7 合目との中間にあるコンクリートブロック造りの杓形避難小屋に着く。裏手には携帯トイレのブースがあった。そういえば民宿で半強制的に携帯トイレを買わされていた。ミヤマハンノキやダケカンバの茂る稜線を登ると、小さなお堂のたつ三跳山に出た。ここが 9 合目。切り立った利尻岳の西壁が眼前に迫ってくる。いよいよ核心部だ。三跳山の「背負子投げの難所」と呼ばれる岩場から足場が悪くなってくる。皮肉にもこの足場の悪い一帯がこのコース一番のお花畑で、真っ赤なエゾツツジや薄紫のミヤマアズマギクが咲き誇っていた。そこから右手が切れ落ちた赤土の斜面を登り、道なりに左に折れて進むとザレ場にぶち当たった。トラバース道が崩壊している。砂の中に一歩足を踏み入れると、砂や小石がサラサラと谷底へ流れ落ちてい

く。いや、常に崩れ落ちている。大岩につないだロープは、岩が動くため切れたまま。辺りには結ぶ立ち木もない。腰を曲げ、右手で砂や小石をつかみ、おぼつかない足どりで先頭の村松さんを追った。その先頭とて、難儀しているのがひと目でわかる。



### ↑ 崩壊が進む利尻岳山頂付近

1 つ目のザレ場をクリアし、小尾根の突端の岩を越えて2 つ目のザレ場にアタック。距離は前より短い。私はあるコツをつかんだ。砂の中に靴をねじ込んで潜らせた後、斜面に向かって靴を斜めに置く。こうすると、靴の下に砂が溜まって足場が出来、わりと安定して次のステップが切れた。ようやく全員無事に渡り終えると、私たちに待たされていた男性が、ヒョイヒョイと飛ぶような速さで渡り、お花畑の方向に下って行った。

ここから直登して鴛泊コースとの合流地点に出た。あとは山頂までひと踏ん張りだが、登山道は赤土が露出し、深くえぐれて歩きづらい。山頂も崩壊が激しく、南峰入口には通行禁止のロープが張られてあった。お堂のある北峰も、そのうち登頂禁止になりはしまいか。円錐形のとっぺんからぐるりと360度見下ろすと、やっぱり島が丸い。対照的に近くの礼文島はほとんど平だ。

下山は民宿のある方面に向かって鴛泊コースをとる。現在はこちらが一般的なコースとなっているようだ。合流地点に下りてくると、2名のパトロール隊員が休憩していた。彼らに向かって村松さんが「ザレ場のロープが切れていたのが大変だったよ、何とかしないとイケないね」と告げると、「何でそんなとこ来たの？」と吐き捨てるように一言。私たちはスッキリしないまま、9合目の広場に下りて来てから4人で話の続きをした。「そんなセリフを吐くのだったら、杓形コースは入山禁止にきなさいよ」と大きな声で息巻いていると、後ろで笑い声がした。見ると先ほどのパトロール隊員。まさか下りて来ているとは知らなかった。まじめな話し、大きな課題だと思った。

避難小屋の隅に、たった一輪の黄色いリシリヒナゲシが咲いていた。何やらほっこりした気分になった。展望の良い尾根道を下って8合目の長官

山へ。ここからはダケカンバのトンネルの中を下る。広葉樹林から針葉樹林にかわる4合目付近は昼なお薄暗く、トドマツ、エゾマツの高木が空を覆っていた。3合目の甘露泉水に寄り喉を潤す。日本名水百選の1つだとか。途中宿のご主人に電話し、1合目から更に下った駐車場に迎えに来てもらう。私たちを見るなり今朝の態度が一変し、明るい顔に戻っていた。8時間40分、よくも歩いたものである。

この夜の宿泊者は私たちの他、年配の女性客2名のみ。贅沢にも今晚の夕食も野菜を探すのが大変なほど。そう言えばこの島は、私の見た限りでは田んぼも畑も見当たらない。お米も野菜も稚内方面からフェリーで運ばれるのであろう。



### ↑ 雪渓の残る利尻岳

利尻岳山頂にて ↓



### 7/20 (水) 平地に高山植物が咲く花の島、礼文へ

今日は礼文島に向かう。9:30のフェリー出航まで時間があるので、民宿裏手のペシ岬に上がってみる。島の夏は、朝4時には水平線から太陽が昇り、西の海に沈むのは晩の7時を過ぎてからだという。1日がとても長くて、いいような悪いような。展望台の下は断崖絶壁で、海鳥の格好の棲家になっていた。何があったのか集団でねぐらから舞い上がり、空中でひとしきり啼きあったあと、もとに戻って静かになった。風が強いので

早々に引き上げ、近くのコーヒー店に寄る。店主は松井久幸というプロの写真家で、利尻島の写真集を多数刊行しているらしい。私たちは、ザレ場の写っている利尻岳の写真を記念に買った。

民宿に戻り、ご主人にフェリー乗り場まで送ってもらう。フェリーが動き出すと、後部の甲板に出て利尻岳に別れを告げた。感傷に更ける暇もなく、45分で礼文島の香深港に入港。フェリーターミナルを出て右手数軒先に予約してある「民宿やざわ」を見つけた。「御免下さい」と大声で何度か呼んだところで、威勢のいいご主人が玄関に出て来た。挨拶し、不要な荷物を預けてフェリーターミナルの前からバスに乗る。細長い島の海岸線に沿って走り、内路登山口で降りた。

ジグザグに丘を登ると、あとは平坦な登山道が続く。利尻岳とは全く違うハイキングの道だ。北端に位置する礼文岳は、標高が低いのに何千メートルも登った高山帯のような雰囲気があるのに気づいた。わずかな時間の間に、笹原からはじまり、ダケカンバ、トドマツの人工林、またダケカンバ、ハイマツへと移り、490mしかない山頂付近は高山の低木で覆われているのだ。解放的な明るい山道をゆっくり登っても2時間足らずで山頂に着いてしまった。海からの風をまともに受けるせいか、標柱に捕まっていないと飛ばされそう。岩陰に避難しゆっくりと景色を楽しむ。

利尻とは目と鼻の先にありながら、礼文はどうしてこんなにも違うのか。利尻島そのものが荒々しい利尻岳といっても過言ではないのに、礼文島は笹や草原に覆われた、起伏のゆるやかな島だ。島の突端には素っ頓狂な呼び名のスコトン岬が北に延び、東の海には利尻島が浮かんでいた。海上がぼやけているせいか、サハリンは見えなかった。

内路に戻り礼文タクシーを呼ぶ。このタクシーの会社(?)は民宿のすぐ近くにあった。運転手と相談し、民宿へ帰る方向にあるレブンウスユキソウの群生地連れて行ってもらう。狭い笹原の林道をくねくね走り、群生地の小高い丘の手前で降ろされた。タクシーは丘の向こう側で待っているという。カメラを出して散策路を進むと、丘の斜面の草むらに、白い綿毛に包まれたウスユキソウが咲いていた。綿毛は低温や強風から身を守るための防寒具だ。レブンと名の付いた花は他にも幾つかあるそうだが、これらは利尻にはなく、また、リシリと名の付いた花は礼文にはないそうだ。近い島なのに不思議だ。レブンアツモリソウはかつて山から大量に盗掘され、絶滅寸前で人の手によって保護されて、今では島の北西部の培養センター内でしかお目にかかれないという。運転手は帰り道、花の名をいろいろ説明してくれたが、さ

っぱりと忘れてしまった。その言葉は津軽弁。ご先祖様が昔この島に、津軽から渡ってきたのだそう。香深港付近は高いビルなどもあって、それなりに賑わいがあるのは、花の島に憧れる観光客が多いからであろう。礼文島の人口が利尻島より多いのがうなずける。民宿に戻り、近くの「礼文温泉うすゆきの湯」に出かける。建ったばかりだというのが、あまりのりっぱさに驚いた。今晚の宿泊者は14~15名。鍋が出た。しかし野菜は4人で1人前の分量だ。この島も利尻と同じで、畑も田んぼも見当たらない。

**7/21 (木) 流水とけて春風吹いて、ハマナス咲いて…♪**

稚内に戻り、帰る日だ。民宿の近くの店でお土産を買い、香深港フェリーターミナルへ。出発にまだ間があるというのに長い行列が出来ている。後でわかったのだが、このフェリーは畳式で、背もたれのあるスペースを確保するためであった。それとは知らない私たちは、通路側のあいた畳に落ち着く。そのうち座っているのがもったいなくなり、後部の甲板に出てカモメが餌をもらうシーンなどを眺めて過ごす。

稚内港に戻った私たちは、フェリーターミナルの前からバスで宗谷岬に足を延ばした。このバスは路線バスとは違い、観光のあとは稚内空港まで送ってくれる。穏やかな宗谷湾の海岸線を快適に走る。観光スポットに来たところでバスから降ろされた。北海道らしい光景が広がっている。広大な丘陵地帯がどこまでも続いている。

黒い点々は放牧されている牛の群れだ。発電用風車群の光景は以前何かで見たことはあるが、圧巻そのもの。57基も立っているという。再びバスで宗谷岬平和公園に案内された。さまざまなモニュメントや慰霊碑が所狭しとといった感じだ。人だかりのする海岸に下りて行くと、岬の突端に三角の白い塔が立っていて、観光客が順番に写真を撮っていた。塔には「日本最北端の地の碑」と刻まれてあり、私たちもその前に立って写真に納まる。近くには宗谷岬の音楽碑があった。「流水とけて春風吹いて、ハマナス咲いてカモメも啼いて、遙か沖ゆく外国船の…♪」最果てに暮らす人々の心情が、じんわりと伝わってくるような歌詞だ。短時間ではあったが、足を延ばして得した気分になった。

稚内空港に戻り搭乗手続きを行う。主人のお土産に昆布焼酎を2本奮発したので、4日間の穴埋めはこれで大丈夫? “何でも見てやろう”の欲張りな、充実した旅であった。日本列島最北端の空と海と大地に乾杯!

## 概要

山名	利尻岳・礼文岳		
月日	平成23年7月18日(月)～7月21日(木)		
山城	北海道北部	地形図	1/25000 鴛泊、礼文岳、香深
形式	山麓泊	グレード	4B
目的	1. 日本最北の名山に挑戦 2. 花の島、花の道を愛でる。 3. 最北の島々の山旅を楽しむ。		
費用	70,000円	交通機関	JR, モノレール ANA, フェリー、バス
行程	1日目	我孫子駅 6:28→日暮里經由浜松町駅→羽田空港第2ターミナル 8:10/9:10(ANA571便)→稚内空港 11:05/11:30(バス)→稚内フェリーターミナル着 12:00/16:05(食事、稚内公園散策。稚内フェリーターミナル発)→鴛泊 FT 着 17:40→民宿・ペンションみさき(泊)	
	2日目	民宿みさき発 4:55(民宿の車)→杓形コース登山口 5:20/5:30⇒6合目 6:20/6:30(朝食)⇒避難小屋 7:10⇒8合目 8:25⇒9合目(三跳山) 9:10/9:25⇒背負子投げの難所 9:30⇒浮石・ガレ場のトラバース 10:30⇒鴛泊りコース合流点 10:55⇒利尻岳 11:20/11:50⇒9合目避難小屋 12:50⇒長官山 13:30⇒6合目 14:45⇒4合目 15:30⇒3合目 甘露水 15:55⇒野営場。駐車場 16:10/16:25(民宿の車)→ペンションみさき 16:30着(泊)	
	3日目	朝食後、ペシ展望台・写真館見学(民宿の車)→利尻鴛泊 FT 9:00/9:30(フェリー)→礼文・香深 FT 10:15/10:50(バス)→内路登山口 11:20⇒廃道の分岐 12:10/12:15⇒礼文岳 13:10/13:50⇒内路登山口 15:05/15:25(タクシー)⇒植物園散策→16:15 民宿着(泊)	
	4日目	礼文・香深 FT 発(フェリー)8:45→稚内 FT 10:35/11:00(バス)→宗谷岬散策 12:00/13:15(バス)→稚内空港 13:40/15:05(ANA 574便)→羽田空港 16:50/17:10→浜松町駅→上野駅 18:02→我孫子駅着 18:35	

- ・利尻岳への登頂ルートは現在2通りある。鴛泊(おしどまり)コースと杓形(くつがた)コースで一般ルートとしては鴛泊コースの往復を多くの人が利用している。
- ・登りに利用した杓形コースは厳しい。登山道は一本道のため迷う心配はない。しかも1合目毎に標識が有り、現在地の確認とペース配分の目安になる。尚、利尻岳登山は地形の厳しさと自然保護のため、携帯トイレ(400円)を持参するようになっている。(専用ブースがある)宿に置いてある。
- ・9合目(三跳山)から鴛泊コースの合流点迄は特に緊張した箇所が続く。背負い子投げ、子不知、親不知、確保点のない崩壊地のガレ場のトラバース等。但し残雪のある時、天候の悪い時、経験の少ないメンバーの場合はこのコースは避けた方が良い。
- ・山頂直下は火山灰と急坂のため登山道が激しく、えぐられている。転倒には充分注意したい。
- ・礼文岳の登山道は内路(ないろ)と起登臼(きとうす)の2カ所あるが現在は起登臼ルートは通行止めになっているため内路コースから入る。

ルート状況

参加者 村松(L)、外崎、瀬田、飯合  
男1名 女3名 計4名



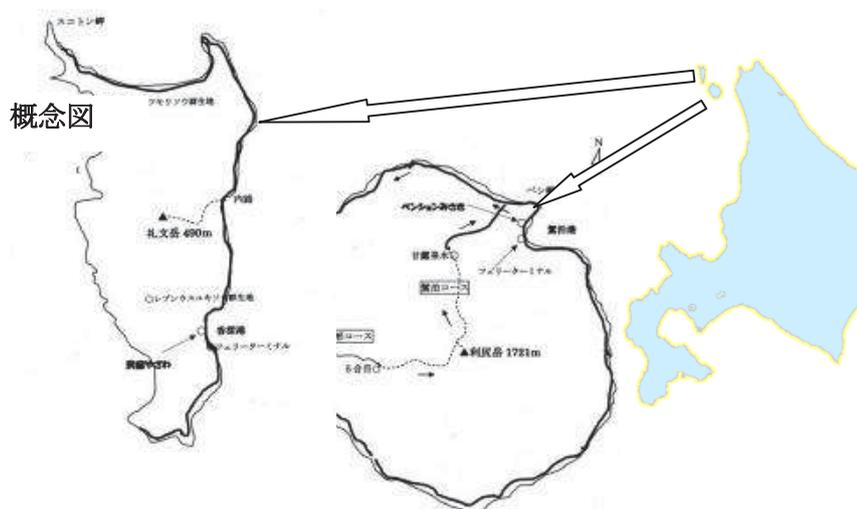
幻の花ウスユキソウ(礼文岳)



山頂に咲くミヤマアズマギク



地面を這うように咲くエゾツツジ



概念図

< 7 4 3 >

雲ノ平～高天原～鷲羽岳

(2464m)

(2924m)

矢野裕子

### 北アルプスの懐深く

「北アルプスの懐深く、入ってみたいと思います。」山行計画紹介で武内さんがこう言ったとき、身の程知らずの私は心を奪われてしまった。山溪百名山地図帳では、登るのが大変な山1位黒部五郎岳(13時間15分)、2位鷲羽岳(12時間50分)となっている。思えば私は春に足首骨折をして以降まともに長いコースを歩いておらず、この参加には無理があった。けれども同行の皆さんのお蔭で歩き通すことができ、本当に感謝と充実の四日間となった。

### 出発前

関東も富山も台風のと雨が続く、予報もよくない。出発3時間前、リーダーからの電話。現在、薬師沢への橋が流され通行不能という情報ですが、コース変更も視野に入れながら予定通り出発します、とのこと。いったいどんなことになるのか。でも武内さんに付いて行けば間違いない。3列シート快適なドリーム号上野発金沢行きバス2階席で、私は北陸道有磯海SAのトイレ休憩までぐっすり眠った。

### 7月29日(金)

富山駅で横付けされたバスに乗り換え、折立へ。ここでやっぱり降り出した。カップを付けて出発。そば降る雨の長い太郎坂をゴゼンタチバナ、コバイケイソウ、カラマツソウに慰められ、4時間半かけて太郎小屋へ。ここですでに私の両腿、ふくらはぎはぴりぴり。直ぐに田村さんがカイロをくださり、当てると痛みがほわっと和らぐ。小屋で橋の状況を聞くと、薬師沢へ入れるとのこと。行動時間帯なのに、悪天候のため大勢の客が小屋に待機している様子。外の軒下で霧雨を避けて昼食。その時ちょうど外から帰ってきた男性が、今薬師沢への2番目の橋を直してきたところだと言った。これで予定通り前へ進める!

今度は黙々と下る。沢の音がごうごうと聞こえてくると渡渉地点。第一、第二、第三。豊富な黒部の水が勢いよく渦巻いているが、橋はしっかりと結び付けられていて不安なく渡れた。



薬師沢第二渡渉点の橋を渡る

辛抱して下る途中、前方に立ちはだかる壁を指差して武内さんが、明日はあの壁を越えるんだよと言う。見上げて覚悟を決める。やがて木立の間に赤い屋根の薬師沢小屋が見え、いきなり戸口に降り立った。

小屋は小さいが清潔な感じで、今日の客も少ないため着替えの部屋も借りられた。乾燥室もあり衣類、カップ、ザックを順番に乾かしながら、食堂の一角で疲れを癒した。太郎小屋でのタイムリーな情報のお蔭でここまで予定通りにスタートでき本当に幸運であった。後で聞くと橋の復旧を知らずにコース変更したり、諦めて小屋に連泊した人もいた。美味しく夕食をとる。テーブルにお箸を置く度に、窓の方へ転がって笑う。こんな沢の急斜面に立つ小屋だから、少々傾いているらしいのは仕方ないと思う。ずうっと轟々という沢の音を聞きながら眠りに着いた。

### 7月30日(土)

また雨。完全装備でぐんぐん登る。急登だが、朝一番なのでまだ元気だった。目指すは雲ノ平だから天国への一步一步。2時間ではあっと目の前が大きく広がった。木道がずっと続き両脇は池(普段は無い)と花畑。あるはずのぐるりの展望は真っ白で本当に雲の中の雲ノ平。アラスカ庭園、奥日本庭園を過ぎて雲ノ平山荘。昨年立て替えた真新しい丸太の小屋。このときは雨が上がっていたので、外のテーブルで昼食。齊田さんが薬師沢小屋で注文した中華ちまきを、分けてくださった。もちもちと柔らかく、とっても美味しかった。

元気を取り戻して高天原峠まで降りていく。薄っすら日も射して来た。道はもう沢下り状態。初めは石の上を踏んでいたが次第に靴の中がドボドボになるにつれて、私は楽しくなってきた。水溜りをじゃぶじゃぶ歩いた。やけくそだねと笑う。3時間、ひと夏分の水遊びをした気分。峠の先の梯子を降りたら、ニッコウキスゲがどこまでも続く高天原。奥深い別天地だった。ここまで入って



高天原のお花畑

きた人だけがもらえるご褒美かな。デッキの広い高天原山荘も赤い屋根がこの風景にぴったり。やっと重く濡れた合羽を脱ぐ。新しい小屋で二階の梁の見える大部屋は堂々としている。身軽になって温泉へ出発。



夢の平にて

露天風呂と夢ノ平を目指して、初めて青空の下気分良く歩く。直ぐに硫黄の匂いがしてきた。広い河原に出るとすだれで囲った露天風呂。男性の方は石で囲っただけ。通り越して先に夢の平へ。細い道を分けて進むと竜晶池。さらに奥へと行くと、出た！まさしく夢の平だった。もうその先は地図にも無い。ひろい草原に濡れたワタスゲの露が光る。雲間に赤牛岳がよく見えた。青空が本当に清々しかった。写真を撮り、戻って露天風呂。白濁の本当にいいお湯でした。きっとこれは一生忘れない。汗を流しただけでも何と気持ちの良いこと。残念ながらまた濡れた靴下と靴を履いて山荘へ。今日は一番明るい気分で乾杯。後から後からたくさんツアー客などでごった返したが、早く着いた私たちは衣類もすっかり乾かすことができた。隣の寝床の神戸からのグループは、夕食後暗い中、温泉へ出かける様子。そのうちに眠ってしまった。

### 7月31日(日)

いよいよピークハンターの日。曇り空だがカップなしで歩けるだけでも気分が弾む。岩苔乗越まで3時間。水晶池に映ったのは木立のみ。一昨日から同行の5人と前後しながら、雪溪を見下ろし、花畑を觀賞して鷺羽の麓へ。ここからは岩稜帯、一箇所だけ危険箇所がありますが注意して登りましょう。苦しい歩みのふと

目の前に、雷鳥親子が現れた。入会以来念願の初お目見えに大喜びする私に、武内さんはああ残念…雲が下りる…。本当にその通りだった。やっとの思いで辿り着いた山頂に展望は無かった。出会った女性から昨日は新潟で豪雨、洪水、電車も不通とのニュースにびっくり。下りで「ほら、鷺羽の山頂よ」と大島さんが声をかけてくれて、振り返ると見事な岩峰だった。また、一瞬だけ黒部五郎のカールが見える！との声。このとき見た雪溪の雄大なカールは、今回一番印象深く目に焼きついている。そして尾根の先にある三俣山荘でトイレ休憩、また本降り。軒下に立って昼食。私は疲れで喉を通らない。三俣蓮華へ向かう。苦しい。一步一步よ、と励まされる。本当に息も絶え絶え、のろのろと足を運びようよう上がれた。ここでお二人とお別れになる。梅干、チーズ、飴、私たちより後が長いのに、元気の素をみんな分けてくださって、二人は疲れを知らない足取りで黒部五郎岳へと向かった。



三俣蓮華岳頂上にて

さて、L武内さんはテルモスも医療ポーチも皆引き取って、私と齊田さんを気遣いながら双六を目指す。寂しくなり、静かに進むうちに雷。二度目が近くて怖い。リーダーは、尾根ではなく中道を行きますと宣言。下って周りながら雨の中足元だけを見て、やっとの思いで双六小屋に辿り着いた。大きな大きな小屋とキャンプ場と池。山腹の別天地に私はまた驚いた。やっとな今日が終わった。ず

ぶぬれのザックはダンボールが用意され、てきばきと大勢のスタッフが動き回っていた。強力なヒーターのある乾燥室だが、衣類しか干せない。昼食が全く採れなかった私は、武内さんのお汁粉をお代わりしてご馳走になりやっとお腹が温まった。煮物やてんぷら等たっぷりの夕食後、また濡れた道具の手当てをして眠る。

### 8月1日(月)

出発の小屋の前で、リーダーはお別れする鷲羽方面の展望を待つ。しかし残念ながら白い霧の中。カップは無しで小池新道を下る。雪渓を踏んで遊び、キバナシャクナゲやダイヤモンドソウ、キヌガサソウにお別れを言い、鏡平、秩父沢、ワサビ平へと下りた。



鏡池にて。湖面に映る逆さ槍が見えないのは残念

新穂高温泉で平湯のバス乗り継ぎの確認をして、中崎温泉でゆっくり汗を流すことができた。足はむくみ、顔は虫刺されと疲れで鏡を見てびっくりしたが、ビールは最高に美味しかった。厳しい天候の長旅を無事に終えることができ、私は大きな達成感があった。アルプスの懐の深さを実感した感動の4日間であった。



ヒメシジミチョウ

### 概念図



## 概要

山名	雲の平～高天原(夢の平)～鷲羽岳		
月日	平成23年7月28日夜～8月1日		
山城	北アルプス	地形図	1/25000 薬師岳、三俣蓮華岳
形式	山小屋	グレート	3C
目的	1 アルプス最奥の秘境雲の平と、温泉と湿原の高天原を訪ねる。 2 部源流の山々の展望とお花畑		
費用	45,000円	交通機関	高速バス、路線バス
行程	夜前	我孫子 21:00→上野→上野駅入谷口 22:10(ドリーム号金沢行)→	
	1日目	→富山駅前 5:50/6:10(富山地铁バス)→折立 8:00/8:30⇒三角点 9:40/9:50⇒五光岩ベンチ 11:45⇒太郎平小屋 12:50/13:10⇒薬師沢第一渡渉点 14:10⇒薬師沢第二渡渉点 14:25⇒薬師沢小屋 15:50(泊) 雨<歩行時間 6時間 50分>	
	2日目	薬師沢小屋 5:30⇒木道始点 7:30⇒アラスカ庭園 8:00⇒奥日本庭園 8:30⇒雲の平山荘 9:10/9:15⇒高天原峠 11:20/11:30⇒高天原山荘 12:40/13:30⇒夢の平 14:20/14:35⇒温泉(入浴)14:50/15:20⇒高天原山荘 15:50(泊) 午前中雨のち晴れ<歩行時間 8時間 30分>	
3日目	高天原山荘 5:30⇒水晶池分岐 6:20⇒水晶池 6:25⇒水晶池分岐 6:30⇒水晶岳直下のお花畑 7:50/8:00⇒岩苔乗越 9:00/9:10⇒ワリモ北分岐 9:30⇒鷲羽岳 10:45/11:00⇒三俣山荘 12:05/12:30⇒巻き道分岐 13:20⇒三俣蓮華岳 13:50/14:00*⇒中道分岐 14:50⇒双六小屋 16:00(泊) *大島さん、田村さんは、三俣蓮華岳頂上で別れ、以降は個人山行で黒部五郎小屋⇒折立へ下山。 午前中晴れのち雨<歩行時間 9時間 20分> 双六小屋 5:15⇒弓折乗越 6:30/6:50⇒鏡平(鏡池)7:25/7:30⇒シシウドヶ原 8:10/8:25⇒秩父沢 9:10/9:20⇒笠新道分岐 10:30/10:40⇒中崎山荘(入浴)11:30/13:20⇒新穂高バス停 13:30(バス)→平湯バスターミナル 14:00/14:33(高速バス新宿行)→新宿駅西口 19:30⇒新宿駅→神田→上野 21:06→我孫子 21:40 曇り<歩行時間 5時間 15分>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出発直前、「薬師沢第二渡渉点にかかる橋が流され通行不能」との情報あったが、現地に到着前に仮橋が復旧し、予定通りのコースを行くことが出来た。</li> <li>・雲の平～高天原の下りは泥濘と降雨のため水が沢のように流れていて難渋した。</li> <li>・薬師沢小屋の乾燥室は、宿泊客が少なかったこともあり、衣類に加え、雨具、ザック、靴も持ち込むことが出来た。高天原、双六は雨具、ザック、靴は乾燥室に持込み禁止だった。</li> </ul>		
	武内(L)、齋田、矢野裕、大島、田村 男1名 女4名 計5名		

< 7 4 4 >

## 甲斐駒ヶ岳 (2967m)

新谷直恵



山の名をあまり知らない私にとって、甲斐駒は唯一慣れ親しんだ山の名だといってもよい。若い頃通り詰めた入笠山の山小屋からお天気の良い日には必ず見えたのが、富士山とその横に立つ甲斐駒だったからである。夏でも冠雪しているようなその美しい山に登る日が来るとはそのときは考えてもいなかった。

新宿発 8 時のあずさに乗り、甲府から山梨交通・広河原行きのバスに乗り継ぐ。広河原までは約 2 時間、次第に深い山裾を分け入る。さらに南アルプス私営バスに乗り継いで北沢峠へ。乗客数は数えられ、必要人数分の臨時バスがその都度出る。バスの終点を降りると、そこはもう山小屋長衛荘。鬱蒼とした原生林の中、山小屋の赤い灯が誘う。小屋で昼食をとるが、私は小屋の豊富なメニューに魅せられ、わらびもちパフェを注文。今日の登山はないので、午後は近くの見晴らし台まで散策をし、ゆったりとした時間を過ごす。都会を離れ、高原のひんやりとした空気が身心に解放感をもたらす。

翌朝は 3 時半から味噌汁のセルフサービスがあるとあって、3 時を過ぎるとあちらこちらで身支度の音が騒がしく寝ていられない。私たちも 4 時には前の晩に配られた朝食のお弁当を食べ、外は霧が立ち込めているので雨具をつけて 4 時 50 分に出発。

仙水峠に至る道まで少し下って登山道に入る。入口近くの北沢長衛小屋前の北沢河原には色とりどりのテントが張られている。沢に沿って登っていくと豊かな飲み水が湧く仙水小屋があり、やがて道は歩きにくい岩塊の斜面に出る。上の方は緑なのにこんなにたくさんの岩はいったいどこ

から湧いて来たのだろう。仙水峠で一休み。立ち込めていたガスが晴れて目前に、巨大な摩利支天の白い大岩壁が聳え立つのが目に入る。その圧倒的な雄姿はこの先の道中を少し不安にさせる。

そこから左の樹林帯に入るが、木の根や岩の多い急登ですぐに息が切れる。もう嫌だと思ふ頃ようやく駒津峰に到着。霧が晴れて周囲への展望が開ける。道中、「頂上に着いたら霧が晴れて 360 度の展望がきく」と励まし合いながら登ってきたので皆満足顔。さらに地蔵山のオベリスクが確認できたところで、地図を広げて山座同定を行う。

駒津峠から先、甲斐駒頂上への道はさらに息を飲む。雪をかぶったような真っ白な山頂と、その横に聳える摩利支天の威容、そしてそこに進む細くて長い道。いくつもの露岩を登ったり降りたりしながら進むが、目の前に見えながら山頂までの道は一向に縮まらない。私たちより早く出発した団体が次々と下山してくる。真っ直ぐに登攀する道もあるらしいが、私たちはほとんどの人が行くように摩利支天の方へ道を巻きながら進む。



甲斐駒ヶ岳の雄姿

やがて道はまぶしいほどの白砂に変わる。標高も高くなり、息も短くなる。「胸が苦しい」、「頭が痛い」など、二人のメンバーには軽い高山病も起きた様子だ。一步ずつゆっくりゆっくり進むことにする。歓声をあげた広い山頂には祠が立ち、信仰を集めてきた山の様相が確かにある。そして途中願ったように雨はやみ、周囲の風景が再び現れる。風の冷たさに体を縮めながら、大きな岩の陰で昼食を取る。

下山は計画では駒津峰から双子山を下る予定だったが、前晩食事中に小屋の管理人さんが全員にアドバイスされていた話では、双子山経由では 1 時間余分にかかるので、できれば登りと同じ道を帰った方がいいということだった。すでに計画時間よりかなりオーバーしていたこともあり、私たちの足も相当くたびれていたのも、アドバイスに従って仙水峠へ下ることになる。駒津峰から仙水峠までの道がやはり長く感じられ、なかなか薄暗い緑陰から抜け出せなかった。木立の間から明



帰途、駒津峰にて。霧の合間を縫って撮影。

るい空間とともに北沢河原に並ぶテントが見えたときにはホッとした。

小屋に戻ると入口に、甲斐駒を始めいろいろな山から降りてきた人々の雨具が所狭しとかけられている。夕食は2番目の6時からとなって、外のテーブルを陣取って全員ビールで乾杯。10時間以上歩いた長い一日の充実感が体から立ち上ってくるようだった。長衛小屋のこの日の宿泊数は定員ギリギリの150名だった。食事は肉、野菜、デザートとバランスのとれたじつに美味しいもので、今晚のメニューが楽しみである。今日の反省を含め、明日の仙丈ヶ岳は帰りの最終バスが15時30分と決まっているので、余裕を見て朝は早めに出ようということになった。

翌朝3時頃リーダーが目覚めると、どうも足を捻挫したらしいということになり、この日の山行を中止してまっすぐ帰宅することになった。普通なら仙丈ヶ岳に登れないのは残念なはずだが、前日の甲斐駒ヶ岳があまりにも充実していたので、その予定に異存はなかった。

甲斐駒のあの美しい威容な姿は、下山後の今思い出しても肌がざわつくような感触が蘇ってくる。信仰の山として永年慕われてきたことがわかるほんとうに美しい山であった。

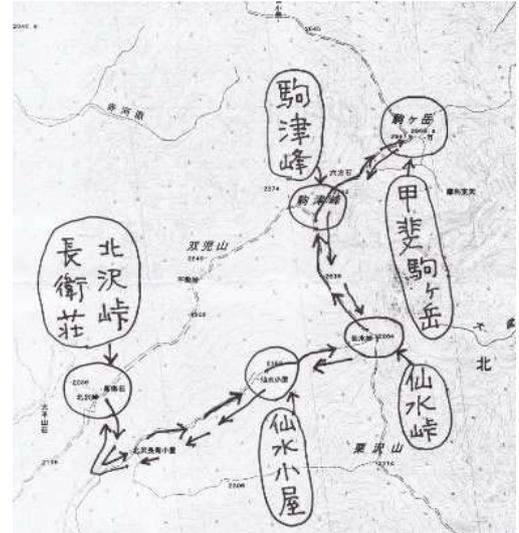


甲斐駒ヶ岳頂上の祠

甲斐駒ヶ岳頂上より北岳と間の岳



## 概念図



## 概要

山名	甲斐駒ヶ岳		
月日	平成23年7月29日(金)～31(日)		
山城	南アルプス	地形図	1/25000 甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳
形式	山小屋	グレード	3B
目的	夏の手頃な山		
費用	28000円	交通機関	JR,バス
日程	1日目	我孫子 6:28→日暮里→新宿 7:23/8:00 (あずさ5号)→甲府 9:28/10:00 (バス)→広河原 11:56/12:15 (バス)→北沢峠 12:40 長衛荘 (泊)	
	2日目	長衛荘 4:50⇒北沢駒仙小屋 5:00/5:05⇒雨具調整 5:20/5:25⇒仙水小屋 5:45/5:53⇒仙水峠 6:32/6:40⇒駒津峰 8:30/8:50⇒六方石 9:50⇒甲斐駒ヶ岳頂上 11:03/11:25⇒六方石 12:00⇒駒津峰 13:05/13:20⇒仙水峠 14:52/15:02⇒仙水小屋 15:40⇒北沢駒仙小屋 16:18⇒長衛荘着 16:35 (泊) <歩行時間9時間35分>	
	3日目	北沢峠・長衛荘発 7:25 (バス)→広河原 7:50/8:00 (バス)→甲府 9:56/10:31 (あずさ10号)→新宿 12:04→我孫子 13:06	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙水小屋から仙水峠へ向かって仙水峠の手前1キロほどは石の原。アップダウンはなくほぼ水平の道。</li> <li>・駒津峰から甲斐駒ヶ岳へ向かって急降下の岩場。下りもきついが帰路の登り返しもきつい。</li> <li>・六方石から甲斐駒ヶ岳頂上へは、直登の岩尾根道と右から巻く砂礫の道がある。往復とも後者を取った。</li> <li>・北沢峠と駒津峰の間は2ルートあり。仙水峠経由の(南)ルートと、双児山経由の(北)ルート。南ルートで登って北ルートで下山する計画であったが、北ルートの方が所要時間が1時間ほど多くかかるとの長衛荘の人の話であったので、往復とも南ルートを取った。</li> <li>・仙水小屋に水場あり。</li> </ul>		
参加者	小川誠(L)、菊地(SL)、小松、郷田、藤倉、桐生、塩原、新谷 男4名、女4名、計8名		

## 葛葉川本谷遡行

瀬田映子  
やまたんより転載

### 前夜は豪雨 水量多く林道にて遡行終了

渋沢からタクシーで入渓地点の駐車場まで行くと、他にも数人のパーティーがいて準備をしていた。我々も身支度をはじめたが初心者なので時間がかかる。やっと終了したと思ったら地元の人らしい優しそうな男性が私の身支度をみて「最近はこちらにもヒルがでるんだよ。スッパツの中にズボンを入れないとヒルが入ってくるよ」とアドバイスしてくれた。身支度をやり直し、桐生さんが持参した「ヤマノック」を靴とスッパツにおもいっきり塗布していざ出発。

遡行を始めるが水量が非常に多い。昨日は雷を伴い豪雨が丹沢を襲ったようだ。そのため沢全体に水かさが増え、沢登りを一段も2段も難しくしていて、私たちにはハードルの高い沢登りとなった。最初は水をよけながらおそるおそる進むが・・・靴の中に沢の水がジュワーとしみこんできた。初心者の私には初めての体験である。なに？この感触・・・当たり前ですよ。沢登りだもの。数個の小滝を経験すると水の中は涼しく、子どもに帰ったような気持ちになり気分爽快！しだいに足元を意識することなく遡行できるようになった。

しかし大きな滝に直面すると我々初心者にはどこを登ればいいのか分からない。ただ呆然と大きな滝と岩を見ているだけでした。すると、村松リーダーとサブリーダーの高橋重さんが登りやすい岩をいろいろ探してくれた。そこを挑戦して登るが、初心者の私は上手くいかない。あぶなげない登り方で足を滑らせ落下した。その際、顎を岩にぶつけ少々かすり傷を負った。高橋重さんがすぐにザイルを下ろしてくれ確保してくれ登ることができた。この際、登るときは「行きます」の声かけするように指導を受けた。

登っていくうちに林道の橋が上流に見えてきた。林道の下の大滝は今まで以上に一段と高く水量も多かった。村松リーダーとサブリーダーの高橋重さんが登りやすい岩を探してくれたが、我々には無理だと判断され高巻きをして林道に出ることになった。しかし高巻きして林道に出るのがこれまた大変でした。前夜の雨で斜面の土が緩く

なりズルズルとすべりやすくなっていた。浮いた石を落とさないように、すごく神経を使った。しかし何度か落石があった。みんなで「落！」と大声をだして知らせた。足をずらさないで、斜面に押し付けるようにして少しずつ歩いた。しかし、Sさん・Oさんが足を滑らせ斜面にへばりついた状態で動けなくなった。手がかりの岩もつかむとボロボロに崩れる。手がかりが何もない。助けに行きたくても助けることも出来ない。緩い土と格闘しながら自力で這い上がるのを見ている以外にない。滝の方から回りこんだサブリーダーの高橋重さんがこの様子をいち早く見つけザイルを下ろしてくれた。そして息も絶え絶えやっと全員「蟻地獄」状態の斜面から脱出し、林道に出ることが出来た。大平橋で今回の遡行は終了となりホッ！！とした。

BOMの机上講習で遡行図と地形イラストを見比べ理解し、自宅でもしっかり復習したつもりだったが、とにかく付いていくことに夢中で、何度か遡行図と眼前のルートを照らし合わせてみたが、登っている滝がなんと言う滝なのかわからずに通り過ぎた。もちろん沢に慣れている人はどの滝かわかるのでしょうか・・・。何分初めての経験なので様々なことに手間取ってしまった。講師の村松さん・高橋重さんそしてBOMに参加した皆さんありがとうございました。

ヤマヒルはゴメンナサイ！！でも機会があったら再度挑戦してみたいですね。



8時26分葛葉の泉、装備装着

### 研修生の感想

<やまたんより転載>

#### 葛葉川の感想

小川誠二郎

沢は私は今回で3回目の体験です。

1回目は、平成19年5月13日、丹沢セドの沢。経験者の佐藤健さんらと沢の入り口で分かれて、初心者を堀口さん、千葉さん、由布さんらが

指導してくれました。研修生は桐生さんと小川誠。水量が少なく、登山靴で溪流を歩き、ロープを使って岩登りの練習をしました。最後の岩壁を登るその最後の一息のところは垂直以上の傾斜で、由布さんがトップで登り、千葉さんも難なくクリアし、二人が力を合わせて小川をロープを使って引っ張り上げてくれました。沢は登山道でないところに行くので、面白い山行もあるものだと思います。

2回目は、平成21年7月5日、柴さんがリーダーで奥多摩の水根沢。11名参加。水量豊富。沢は濡れるものと覚悟を決めてはいましたが、足場の根拠が狭いところを横歩きして滑って滝壺に転落、水面が1メートルほど頭上にきらめいていました。それは泳ぎ着いてなんでもなかったのですが、そのあと、あとで考えれば低体温症状。思考停止。青山さんに雨具を出して着るように言われてああそうかと気付いて着る。田村さんに白湯をもらって気分回復。夏とはいえ、全身ずぶ濡れになると寒いものだと思います。その数日あとで例のトムラウシの大量遭難。低体温と聞いて、想像がつかしました。

沢は、好きな人たちは盛んになさっているようですが、私はまあ、もういい、と思っていたのですが、BOMのプログラムにあると知って、きちんと学んでおきたいという気が起き、それで今回の私には3回目の体験学習に参加しました。道具を一式柴さんにお借りしました。ヘルメット、ハーネス、靴、靴下、スパッツ。これだけ揃えるには、沢に入れ込む気概がないとできないこととまず感心。沢では腰をかがめたり背伸びして岩にしがみついたり、動きが激しいので、装備を身軽にと心掛けました。滝壺に落ちて水につかってもいいように、先日の教室での講義でもあった通り、ザックの中はいちいちビニール袋に個装しました。これは前回もそうして助かりました。

さて入渓。トップ村松リーダーの次に位置を取って、足の運びを学ぼうと心掛けました。沢靴の靴底が意外にもほとんど滑るおそれのないことに感心しました。水の中の岩の面や濡れた岩を踏んでも滑らないので、慣れてからは恐れずに歩くことができました。岩の面を横や上へ進むには、三点確保が必要ですが、ときにはそうもいかない瞬間もありました。前回滝壺に落ちたとき、岩の面を腹がこすって落ちた、そのために、岩の凹凸であれば骨を打って、数日痛かったので、滑り落ちるときは、体が岩に触れないように一気に落ちるのがいいかもしれない、なんぞと思いつきながら岩を辿りました。幸い、今回は落ちることなく過ごせました。水量豊富で、通常なら滝を登るところが、横の山に入って滝を巻くところがありました。

土の斜面は傾斜角度せいぜい30度くらいでしょうが、柔らかくで崩れやすい土なので、うっかりすると斜面を滑って相当下まで落ちそうで、大変動きにくいことでした。通常はそういうところも登山道しか歩かないので、自然のままの山の斜面は動きにくいところであることを実感しました。巻道に入ると体は泥だらけになりますので、沢は水に濡れることはあっても、きれいなもの、と思っはいけないと知りました。家に戻って装備や着物を洗うと、笑ってしまうくらい泥にまみれていました。



葛葉川 9:17 ヘツル生徒、攀じる先生



9:23 余裕? 瀬田さん

ヒルも、想定範囲内ではありましたが、結構やられました。手の指の又に吸い付いて小さくなっている奴を何度か引き離しました。途中から長袖シャツに着替えましたが、半袖のときは、しばしば腕に吸い付いていました。ヒルが岩の角に立って首を長く伸ばしている姿には一種の愛嬌も感じました。

沢は、道中リーダーが、行く道を、滝を登るか、

巻道に行くか、どのルートに登るか、いちいち判断し、要すればサブリーダーにロープを準備してもらい、それらを迅速に判断手配しながら道を進んで行くことに感服しました。登山道ができているところを上り下りする通常の山行とは違う、独特の判断能力の問われる山行であることを認識しました。そして、とても自分一人では来ることができない沢の山行で体験を積むことができることに感謝しました。

沢は自分には依然遠い世界ですが、機会があればまた行く気が起きそうでもあります。なにはともあれ、今回の懇切なるご指導に厚く御礼申し上げます。

### 葛葉川の感想

桐生恭子

3回目のBOM基礎講座実技編は葛葉川本谷の沢登りでした。「葛葉の泉」で装備をつけていると地元の人らしい男性が「最近はここにも「ヒル」が出るんだよ」と話しかけてきました。「えー！ヒル」なんとなく用心に持っていった「ヒルノック」が大活躍の一日でした。

水量は前夜の雨のため多く私たち受講生にとって厳しい条件でした。それでも多少は水と戯れ、泥だらけになり、ヒルをよけ、リーダーの指示に従いへつたり、高巻いたり、登ったり、降りたり、バラエティに富んだ研修でした。

もう少し水の中での歩き方、ルートの取り方等も学びたかったと思います。

水の音で声が聞こえにくいので合図は大きくしっかりと出す。

石を落とさないように、落としたら大きな声で「ラク」という。

リーダーの指示には的確に従い、言われたことは迅速に行動する。

まだまだ勉強することがたくさんあると実感した研修でした。

村松リーダー、高橋サブリーダーには大変お世話になりました。ありがとうございました。



9:31 高巻き

### 葛葉川本谷廻行

中村育子

今回の沢登りは、私には本当によい実地訓練になり、とてもよい勉強になった。何度も叱られ、注意されたが、それが身にしみて有り難かった。そして自分の甘さを痛感した。

丹沢地域に降った前日の激しい雷雨のせいで川は増水。普段なら初心者にはうってつけなのだろうが、今回は私たちにはハードルが高く、巻き道に登ることが多くなった。リーダーの村松さんは半分ほど登った所で沢登りの中止を判断され、林道を引き返すことになった。参加人数7名。葛葉の泉出発8時40分、林道到着11時40分。約3時間の沢登りとなった。

出発当初は天気も良く、目標のように「暑いときに水と戯れる」ことが出来て爽快だった。ヒルさえいなければ、もっと気分良くジャボジャボ歩けたと思う。水の中は涼しく、子どもに返ったような気分になる。無邪気に足を水に浸しながら、前を歩く瀬田さんに遅れないようについていった。今回で沢登りは2回目。前回は靴が大きすぎて、ぴったり地面についているという安心感がなく、石の上に安心して足を置くことが出来なかった。事前に履いて確かめた時、沢シューズとはこんなものなのかと思ってお借りしたのだった。今回はお借りした靴がしっかり足になじんでとても歩きやすかった。靴ひとつで快適さがこんなに違うものかと驚いた。今回分かったことは、前回の疲労は体力不足もあったが、靴があわなかったことも原因だったのではないかということだ。

水は歩き始めのころは適量かと思ったが、最初の小滝を見たとき、すごい水量だ！とわかった。村松さんに事前にいただいた資料には、登るのに「問題はない」と書いてあった所が「大滝」になっていた。「大滝」になったところどころで、先頭のリーダーと最後尾の高橋重さんは初心者の方



10:20 登る

私たちの登りやすい方法を探す。巻き道を登るか、ロープを垂らすか、自力で登るか。そうして登ってゆくうちに、林道の橋が上流に見えてきた。ついに林道の下の曲り滝のところで立ち往生してしまった。滝は今まで登ったものより一段と高く水量が多かったからである。村松さんが左右から挑戦したり、重さんが軽々(?)と登ったりしてくれたが、私たちには無理だった。巻き道を登ることになった。傍目にはそれほどでもないよう見えたが、実際は前夜の雨で土はざらざら流れやすくなっていた。大きな石も、つかむとぼろぼろ崩れる。斜面の土が緩くなっている、ずずずと滑る。何人かがズルッと足を滑らせて斜面にへばりついた状態になる。手がかりが何もないので、誰かが助けに行きたくても助けることも出来ない。濡れた土と格闘しながら、自力で何とかはい上がるのを他の人は見ている以外にない。運良くそばに誰かがいれば手をさしのべたり、ロープを投げたりする。そんな私たちのズルッバタッ状態を滝の方から回り込んだ重さんがロープを垂らして助けてくれた。ロープを結んで一人ずつそこから脱出していった。最後に残った村松さんは「みんながつかんだ石がもうぼろぼろで、つかまる石なんか一個もなかった」と嘆いたが、みんなほっとして笑った。全員「蟻地獄」状態から脱出して、沢登りは終了となった。

私の反省その一。石は誰もいないと分かってても下には投げないこと。浮き石が後から来る人の邪魔にならないように、石を投げま〜すと叫んで川に投げた時のこと。川音で私の声は後方の人たちには聞こえない。ジャボ〜ンという大きな音。何だあの音は。私の後を歩いていた人たちは大変驚いてしまった。石は投げないで!とお叱りをいただく。反省その二。落石があったとき、「落!」と叫ぶこと。自分が落とした石ではなかったが、落石をみて、「石!石!」と叫んでばかりいた私は、当然ながらお叱りを受けた。石はそこら中に

あるのが石。落石だから「落」なのだと桐生さんが分かりやすく説明してくれた。頭では分かっているもとっさの時に出来なかつた。渋沢駅での反省会の時、村松さんは落石の怖さを改めて話された。学友が落石で命を落とされたという。その石は上を歩いていた誰かが落としたことは明らかなのに、誰が落としたのか分からなかった。そのお話を伺って思わず胆を冷やした。反省その三。エイトカンを持参しなかったこと。事前の研修の時、シュリンゲン2本で研修したが、アウトドア専門店でシュリンゲンを購入した際、エイトカンの代用ができると聞いてやり方を教わった。実際には初心者には使い方が難しかった。足にまとわりついて邪魔になり、体にぐるぐるカラビナで固定した。ところがいざ必要になったときカラビナを外そうとうろたえていると、「もたもたするな!」とリーダーの叱声。一刻も早くみんながそこから脱出しなければならなかったのに、皆さんを待たせてしまったのである。反省その四。ザイルの結び方を素早く出来るようにしておくこと。え〜とえ〜とではとっさの場合間に合わない。自分はおろか誰かの命にも関わりかねない。素早く、そして山のルールに従って出来るかどうか命が助かるかどうかの分かれ目になる。そのことを改めて実感した。村松さんには沢山ご指導いただいた。また、重さんは度々ロープで確保してくださり、さぞお疲れになったことだろう。お二人に心から感謝申し上げます。



11:06 ルートは2つ?





< 7 4 6 >

## 鳴虫山 (1104m)

桐生恭子

夏場の低山ということで計画された山です。今年からリーダーを勤めさせていただくのですが、初リーダーの山行でした。鳴虫山とは、この山に雲がかかると必ず雨が降るとい、「泣き虫山」から変化した名だといひます。今年梅雨明けが早く、連日の猛暑で、「熱中症注意予報」なるものが出ています。低山で猛暑、大丈夫かなという思いでした。また日光ということで午後になると雷も心配でした。



### 根っこを乗り越え暑さに負けず「ファイト！」

東武日光駅へ降りると日差しがまぶしく登山口へ歩いていると汗が噴出してきました。アスファルトの照り返しはきつく、今日は一日暑さとの戦いだと思いました。駅から登山口までは歩いて15分ほどで着きます。ところが、登り始めると、木々が日差しをさえぎってくれて、余り暑さを感じる事がなくなりました。



神主山で一息



### 山頂で

最初から急登が始まり、ゆっくり尾根を目指して登っていくと左側が開けて町並が見えてきました。神ノ主山です。ここから日光の町がよく見えます。

次に鳴虫山をめざして尾根を登っていきます。「鳴虫山2.3キロ」の標識あたりからいくつもピークを超えていくのですがなかなか山頂に着きません。左側は杉、桧の人工林、右側はブナ、ミズナラなどの自然林の緑いっぱいの尾根道が続きます。時々涼しい風がふいてきます。なんて優しい風でしょうか。汗が引いていきます。登山道はところどころ木の根が張り出してきました。山頂は展望には恵まれませんが、風が心地よくわれわれパーティのみの貸しきり状態でした。

また、山頂直下には立派な階段ができていました。ただ階段の周りの土が流されていて歩きにくい箇所がいくつかありました。滑りやすい道を注意して降り総合会館まで帰って来るとにぎやかな日光の町に戻ってきました。

平日山行の為か、暑さのためか。会ったには単独の男性一名と小さな子供をつれたファミリーだけという本当に静かなゆったりとした山行でした。

暑さ、午後の雷等、心配しましたが、一緒に歩いてくださりいろいろ助け舟を出して下さったリーダー、時には正確さにかけた指示も出しましたがご協力くださったご参加の皆様、本当にありがとうございました。

## 概念図



## 概要

山名	鳴虫山		
月日	平成23年8月12日(金)		
山城	日光	地形図	1/25000 日光南部
形式	日帰り	グレード	1A
目的	夏バテ防止		
費用	約3000円	交通機関	電車、バス
日程	北千住 6:32 → 東武日光 8:27 → 登山口 8:55/9:05 (地図読研修) ⇒ 休憩 9:35/9:40 → 神主山 9:53/10:00 ⇒ 鳴虫山 11:27/12:03 (昼食) ⇒ 合峰 12:25 ⇒ 独標 13:30/13:35 ⇒ 第一 発電所 14:40 ⇒ 憾満ヶ淵休憩所 14:55/15:05 ⇒ 総合会館前バス停 15:20 → 東武日光(区間 準急)16:59 発 → 我孫子 19:57 <歩行時間 5時間 05分>		
ルート 状況	・ルート上には案内標識が整備されている ・山頂からの急なくだりは階段になっている ・独標の先の階段は、土が流され階段が壊れているため歩きにくい		
参加者	桐生(L)、外崎、原田、高橋重、箕輪カ、齋田、郷田 男3名 女4名 計7名		



笑っている三地蔵

< 7 4 7 >

常念岳～蝶ヶ岳  
(2857m) (2677m)

矢野 裕子

雲海の御来光

穂高の肩には満月

圧巻の大パノラマ——大満足です！

8月13日(土)

前日夜のムーンライト信州で男性3人、夕方のあずさで女性2人、翌朝穂高駅で4:53に全員揃う。快晴！タクシーで一ノ沢登山口に着くと指導所のおじさんがあたたか～いおもてなし。お茶、漬物、きゅうりにトマト、食べて行ってよと。ありがたく朝食のお供にご馳走になった。何だか幸先いい予感。この日の1,200mの上りと最後の胸突八丁は難関。沢の水のみ場で喉を潤し、寝不足の目をこすりながら、樹林の中をゆっくり登った。

人の声が聞こえてきた。大きな大きな常念乗越の明るいテーブルには、もう大勢の人が賑やかに談笑中。傍らのテント場にはカラフルなテントがいっぱい。左手に美しい傾斜でそびえる常念岳山頂を見て、その奥の階段を下りやっこのことで常念小屋に辿り着いた。大きな小屋の食堂やテラス席は最高の眺め。ちょうど昼食の時間となり、目の前の槍に被さる雲が取れるのを待ちながら、乾杯してお腹が膨れると心地よい疲れでそのまま爆睡…(幸せ…)。夕方は小屋の前から、きれいに雲の取れた槍もすっきりと見えて満足。お盆だったが心配した程の混雑でもない。若者はテントが多く、小屋は落ち着いており居心地が良かった。また、夜通しずっとお茶とお湯のポットが置いてあり大変有難かった。

8月14日(日)

たっぷり眠った翌朝、混雑を避けて朝食は各自でとり、小屋の前で美しい槍穂の朝焼けに感動。いよいよ目の前の常念岳へ向かう。快晴。足元の大きな岩を一つ一つ登ってゆく。見上げると直ぐのように見えたが、なかなか大変。きれいな斜度のでっぺんが恨めしく、実は山頂は、見えていたその奥に在ると言う。八分がた登った辺りでハプニングがあった。仲間がバランスを崩してザックと共に大きく2回転、大岩の間

に挟まって止まった。ああ、助かった。手も足も動いて喋れる。奇跡だ。よかった。このとき若い山男が駆け下りてきて、的確に指示をくれた。手足をゆっくり動かして確かめて。痛みは？頭を丁寧に見てあげて。少し休んで落ち着いてから登りましょう。大変に心強く有難かった。でも、私は目の前で見た恐怖の場面に、暫く震えが止まらなかった。

気を取り直して山頂へ。展望図にあるとおり360度大パノラマ。これほどの雄大な眺めはもちろん初めて。槍と穂高、あれが東鎌尾根、御岳山、木曾駒、後ろ奥に鷲羽、三俣蓮華、雲ノ平。左手は素晴らしい雲海が朝日に照らされる。満たされた気持ちで、記念撮影。

慎重に慎重に岩を下り、常念の形を振り返って仰ぎ見る。進むにつれて右手の槍と穂高は形を変え、雲の装飾を変えて見守ってくれていた。南東には雲海の彼方にうっすらと富士も見える。しかし、その後の行程の長いこと長いこと。樹林帯をふっと抜けたら、すぐそこにあると思っていた蝶ヶの突端が、遥か彼方に見えて本当にかっかり。こんなことを繰り返し、真夏の日差しに耐え、尾根の強い風に休憩もそこそこで、歩いて歩いて午後4時過ぎにやっと蝶ヶ岳ヒュッテに着いた。10時間半、よく頑張った。蝶ヶ岳はやさしい緩やかな丘で、小屋には幼児も小学生も多かった。板敷きに畳を置いた大部屋で、余裕があり過ごしやすかった。

8月15日(月)

大展望にお別れの朝。東は雲海の御来光、西は満月を肩の上に掲げた穂高。両方同時の絶景で、それはそれは素晴らしかった。ここのテント場は最高の眺めです。これを見せたくて、と若いお父さんが幼子を連れて登って来ていた。

三俣への下りは歩きやすく、ファミリーもまたたくさん登って来ていた。終始天候に恵まれたこのコースは、雄大な北アルプスの展望を満喫できて、文句なしの心に残る山行となりました。



トウヤクリンドウ

## 概要

山名	常念岳～蝶ヶ岳		
月日	平成23年8月12日(金)夜～15日(月)		
山城	北アルプス	地形図 1/25000	穂高岳 信濃小倉
形式	小屋泊	グレート	3B
目的	展望と花		
費用	約28500円	交通機関	JR、タクシー
日程	1日目	我孫子駅 22:36 発⇒日暮里⇒新宿駅着 23:20/23:54 発快速ムーンライト信州 81号	
	2日目	穂高駅 04:53 着、穂高駅よりタクシー⇒ヒエ平一の沢、登山口着 05:20 一の沢、登山口 05:45 発⇒笠原沢着 08:25 ⇒胸突八丁着 09:35 ⇒最後の水場着 10:25 ⇒第一ベンチ着 10:51⇒第二ベンチ⇒第三ベンチ着 11:34⇒常念小屋着 12:05 ＜歩行時間5時間20分＞	
	3日目	起床 04:20 常念小屋 06:00 発⇒小川さん転倒 07:23⇒常念岳頂上 08:26/08:45⇒岩場道下りきった地点 11:11 (昼食) ⇒岩場道を登りきった地点 12:45⇒蝶ヶ岳登山口(鞍部の最低地点) 14:07⇒蝶ヶ岳ヒュッテ着 16:40 ＜歩行時間10時間40分＞	
	4日目	来光 05:05⇒蝶ヶ岳頂上 05:20/05:40⇒まめうち平 08:15/08:25⇒三股着 09:50/10:05 (タクシー) ⇒ホリデー湯 10:30/11:35⇒穂高駅前蕎麦屋着 11:50 昼食、反省会、穂高駅前にて自由行動、穂高駅発 15:22 (あずさ26号) ⇒新宿駅着 18:36⇒上野駅発 19:22⇒我孫子駅着 20:00 ＜歩行時間4時間05分＞	

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>一の沢の登山口は人でいっぱい、又登山口の番人の計らいで小屋の中に漬物や果物、お茶などが用意されていた。笠原沢までは普通の道程、そこから胸突き八丁はきつい急坂、最後の水場まで大変である。</li> <li>常念小屋から頂上まで案内では1時間程だがとても其の時間では登れない2時間ぐらいはかかるのではないかと。頂上からの下りはザレ場や浮石などが有り蝶ヶ岳登山口(鞍部の最低地点)まで苦勞する。蝶ヶ岳が見えてから広々とした平地で真ん中に道があり歩き易い。</li> <li>蝶ヶ岳からの下りは道幅が狭いが歩き易い、まめうち平を過ぎ、川を渡りようやく三股に着く、そこからタクシー乗り場まで800mもあった。</li> </ul>
参加者	高橋英(L)、中村隆、小川誠、新谷、矢野裕 男3名 女2名 計5名



日の出 8月15日 5:10



穂高と満月



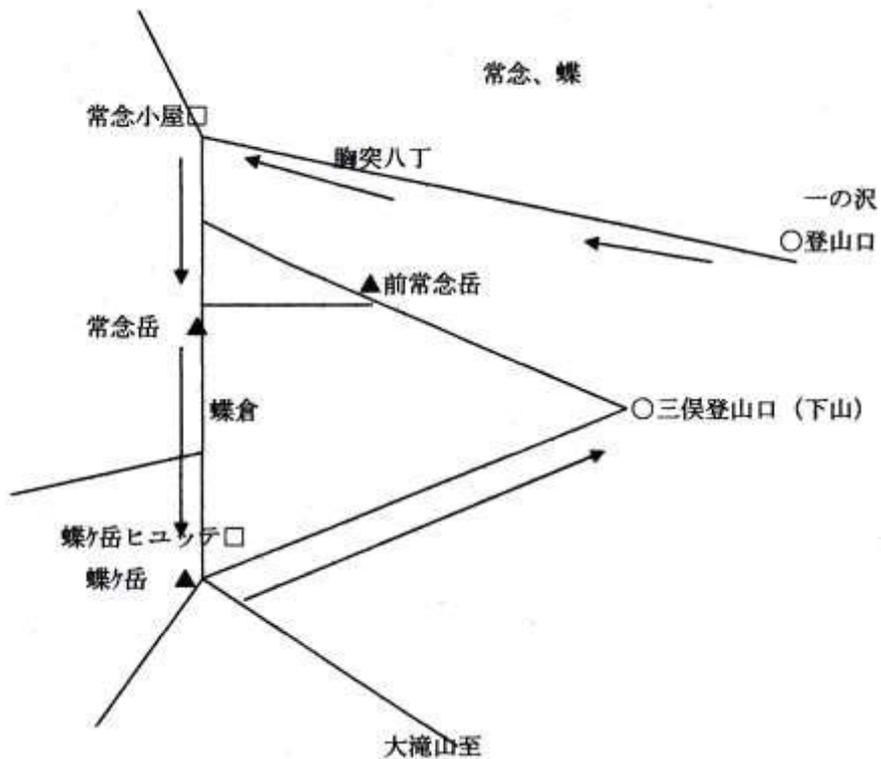


常念岳頂上

岩稜帯を行く



概念図



< 7 4 8 >

薬師岳  
(2926m)

武内勇二

当初の計画は、黒部川奥の廊下から赤木沢を遡行する計画であったが、雨による黒部川増水と悪天候のため、計画は2転3転、最終的には薬師岳登頂となった。7月末の定例山行で、太郎～雲の平～高天原～鷲羽～三俣蓮華～双六を歩いた（このときはリーダーだった）が、晴れたのはわずか1日（高天原～鷲羽）で、2日間は完全に雨、1日は展望の全くない曇り空だった。今回こそ晴天の下での北アルプスの美渓を楽しみたいとの期待もむなしく、また雨の中の折立からの出発となった。

折立からは広葉樹林の中の急坂をひたすら登る。ぬかるみを避け、足場を選んでゆっくりと登る。幸いにも雨はさほどではなく、登山道が水路になって水が流れ下るほどではない。いくつかのパーティに追い抜かれたが、気にせずゆっくりペースを維持した。なぜか分からないがアラレちゃんの漫画のプレートが大木の根元に置かれてあった。4代目とあるので、たびたび取り替えられたのだろうか。程なく三角点にでた。天気によければ薬師岳を仰ぎ見ることができる地点だが、霧に包まれ展望は全くない。ここから太郎平までは、標高差約500m、約3時間の行程である。

一旦、緩やかに下りそのあと徐々に高度を上げてゆく。草原の中を石畳の道が延々と続く。所々にベンチが設けられ、太郎平までの距離が書かれた道標があるので励みになる。五光岩ベンチは対岸の五光岩を眺める好位置にしつらえてあるが、今日は霧で岩山は見えない。このあたりで、三角点と太郎平のほぼ中間点、あと太郎小屋まで1時間半の地点。雨は小止みとなり、時折雲は薄くなり、暖かい日差しを首筋に感じられるようになった。太郎小屋で黒部川の情報を得たが、少なくとも前日薬師沢小屋に入った人は、今日の入渓を断念したとのこと。今日も雨だったので、川の水量はそれほど変化がないと思われる。赤木沢遡行の計画は断念せざるを得ないことは決定的となった。残る選択は、本日薬師沢小屋まで下り、明日雲ノ平経由で三俣山荘に行くか、それとも、今日は太郎に泊り、翌日黒部五郎経由で三俣山荘に泊まるか。メンバーの疲労度勘案、リーダーの決断は、「本日は太郎泊まり、翌日の行動は天気のみ

合をみて」だった。

小屋は一部屋を提供してくれた。早速、ビールを買い込んで今日の労をねぎらった。窓からは、薬師岳の全容が見渡せた。天気は回復したようだ。山も見たいし飲みたいしで、ウイスキー持参で外に出た。薬師岳、水晶岳、ワリモ岳、祖父岳の後ろに鷲羽岳、三俣蓮華岳～黒部五郎岳はまだ雲がかかっていた。景観に酔いしれながらウイスキーをちびり、ごくり。これだから山はやめられない。



入山日の束の間の晴れ間と薬師岳



太郎平より雲の平方面

翌朝、天候回復の期待もむなしく雨だった。「黒部五郎へ突っ込むのは無理。薬師岳を往復して、本日中午に折立に下山」とのリーダーの判断がでた。雨の中、展望のない尾根を延々と歩いてもしようがない。黒部五郎はつい10日前に個人山行でも行っているのだから、個人的にも異存はない。

薬師峠のテント場を過ぎるとまもなく沢筋に

沿った登りとなる。2年前、立山から縦走してきたときは大雨で濁流となっていたことを思い出す。幸いにも今日は雨粒は落ちてはいるか、水嵩は殆んど無く楽に歩けた。テープとペンキマークに導かれて、程なく薬師平の湿原に出た。短い本道が整備されており、踏み跡で荒されていないのが嬉しい。

薬師平より少し上の斜面にはまだ豊かなお花畑が残っていた。展望がない分、どうしても視線は花に注がれる。チングルマはまだ花卉をつけており、白山イチゲの白い花も健在、ピンクが美しい白山フウロの群生、黄色のウサギ菊も自己主張していた。しかし、雪溪からの冷たい風が汗ばんだ体を冷やし寒い。風を避けてどこかで休憩しようとして話しながら登ってゆくと、薬師岳小屋15分の道標があり、程なく小屋についた。小屋の温度計は9℃を示していた。前線の北側に入ったと思われる。

小屋は新しく、昨夏に改築したとのこと。宿泊者は殆んど発った後で、ひっそりとしていた。1、730mと書かれた手製のプレートが、防風用の石垣に掛けられていた。休憩の合間に女性が小屋のトイレを使わせてもらった。利用料300円はチイとばかり高い。



**雨の中、薬師岳山荘では9℃**

愛知大学生の遭難碑へのお参りは帰りにすることとして、山頂へ向かう。石のごろごろ道を20分ばかりゆくと、霧の中に山頂の祠が浮かんでいた。人影は他に見当たらない。今日は「雨だからここに来だ」のだからしょうがないとして、過去2回とも薬師岳で晴れた日はない。鍵のかかった祠の扉越しの如来様に、登山の安全とともに、次回は晴れてねとこっそりお願いした。初登頂のKさんは感激の面持ちで三角点に挨拶していた。

頂上より20分ほど下の稜線上にある遭難碑

は、ケルン状に小石を積み上げて固め、くりぬいた中に木の仏様が祭られていた。昭和38年、愛知大学山岳部パーティは頂上目前で登頂を断念し、東南稜に迷い込んで遭難した場所である。当時は大学3年生で、まだ登山は始めていなかったが、同年輩の人たちの事故だったので大きな衝撃をうけたことを覚えている。生きていれば皆、孫に囲まれ穏やかに暮らしているだろうに思うとやるせない。手を合わせご冥福をお祈りした。近くにある小さな避難小屋は屋根も扉も朽ちて、3方の石組みだけが残っていた。最悪時に3~4人はビバークできるかもしれない。



**薬師岳山頂にて**

休憩は、薬師小屋を素通りして、お花畑の美しい場所まで足を伸ばして、リュックを下ろした。折り良く雨も上がっており、風も無くそれほど寒くない。弁当を広げ、ゆっくりと寛いだ。節電モードの下界へ、このまま下山してしまうのは惜しい気がする。午後晴れるのであれば、もう一泊太郎に泊まり、北の俣岳方面を歩いたら楽しいだろうなという気持ちもする。



**チングルマ**

薬師平を通り、沢沿いの道を下り、薬師峠のテ  
ンバを過ぎて太郎平に帰着。残念ながら雲は厚い  
ままで晴れる兆し無く、折立に下山已む無し。小  
屋の自炊室を使わせてもらってデポした荷物を  
パッキングした。雨は上がっていたので、雨具も  
スパッツも脱いでザックにしまった。女性3名は  
つけたままだった。やはり女性は用心深い。

小屋を出て歩き出すと大勢の登山者とすれ違  
った。考えてみれば、今日は土曜日。登山者が多  
いはずである。30人ほどのツアー登山者ともす  
れ違った。おそらく、小屋は混み合うだろう。途  
中から降り出した雨は、やがて本降りとなった。  
雨具をつけようかとも迷ったが面倒なので、その  
まま折立に下山した。

バスは有峰口行だった。ここで地鉄電車に乗り  
換えて、富山駅前についた。駅前銭湯の「観音湯」  
で汗を流し、着替えてサッパリした後、越後湯沢  
経由で帰路についた。予定の赤木沢には入れなか  
ったが、雨だったからこそ静かな雰囲気薬師岳  
を楽しみ、そして、気心知れた山仲間との楽しい  
語らい、等々、良い山行でした。



富山観音湯で、雨も汗も流す



## 概要

山名	薬師岳（黒部川赤木沢から変更）		
月日	平成23年8月18日(木)～20日(土)		
山城	北アルプス	地形図	1/25000 薬師岳、三俣蓮華岳
形式	山小屋	グレード	3C
目的	黒部源流の美溪を楽しむ		
費用	約35,000円	交通機関	バス、JR
行程	前夜	我孫子駅 21:00→上野駅 21:39⇒上野入谷口 22:10（ドリーム号金沢1号）→	
	2日目	富山駅 6:00/6:10(富山地鉄バス)→折立 8:10/8:30⇒三角点 10:20/10:30⇒太郎平小屋 13:15（泊） 雨～曇～雨<歩行時間4時間15分>	
	3日目	太郎平小屋 5:45⇒薬師峠 6:00⇒薬師平 6:40⇒薬師小屋 7:20/7:35⇒薬師岳 8:20/8:30⇒慰霊碑 8:45/8:55⇒薬師峠 10:35/10:45⇒太郎平小屋 11:05/11:35⇒三角点 13:20⇒折立 14:45/15:10（バス）→有峰口駅 16:10/16:29（富山地鉄）→富山駅 17:24/18:59（はくたか25号）→越後湯沢駅 21:01/21:35(たにがわ428号)→上野駅 22:58/23:20→我孫子駅 23:53着 雨<歩行時間7時間50分>	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>折立～太郎平の上半部の登山道は開放的で歩き易い。</li> <li>太郎平小屋：昨年同様、個室だった。乾燥室が利用できる。1%の缶ビールが売られている。昼弁当はチラシ寿司だった。</li> <li>薬師岳山荘は昨年新築された。トイレ利用300円。</li> </ul>		
参加者	高橋重(L)、武内(SL)、外崎、田村、桐生 男2名 女3名 計5名		

## 概念図



< 7 4 9 >

爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳  
(2670m) (2889m) (2814m) (2696m)

塩原 百合子

## 北アルプスの山並みを見渡す

20:53の上野行きに乗り新宿へ、地下通路をとおり都庁大型バス駐車場へ行くと若い人達も大勢いた。登山客ばかりではないようだ。22:30出発。車内は満席。座席はゆったりしていたが、足の置き場があればもっとゆっくり眠れたのではないかと思った。

翌日、扇沢に5:20に到着し、朝食を各自とり5:50出発。国道を横切り柏原新道入り口からいよいよ登っていく。樹林帯をジグザグに登り、ケルンが置かれている地点に着くと種池山荘が見えてくる。とてもよい天気だ。石ベンチあたりで雲がかかり始めた。真っ赤な実のななかまどがとてもきれいだった。ガレ場になり鉄砲坂を過ぎると雷鳥が現れた。一時間ほどして爺ヶ岳南峰に着きさらに中峰を登り北峰をまいて冷乗越、冷池山荘に早めに着き、夕食まで宴会が始まった。夕食が終わるとかなり早めの就寝。

2日目はまだ真っ暗な4:10冷池山荘を出発した。稜線を歩き少し寒いが気持ちの良い朝の出発だ。4:45夜が明け始め、5:15ご来光。なんてきれいなんだろう。何十年ぶりかで見たご来光だ。

鹿島槍ヶ岳南峰6:20北アルプスの山並みがほとんど見渡せた。30分近く休憩して吊尾根を歩き、取付点のコルにザックをデポし、北峰を往復した。荷物のない身軽さを実感。キレット小屋までは八峰キレットの岩稜帯を通過する。とても安全とはいえない岩場を歩くわけだが、三点確保とバランスに気をつければそんなに恐れることはなさそうだ。キレット小屋からロノ沢のコル、北尾根の頭までの登りがきつく、途中でへたってしまった。足と体がついていかない。途中でザックの中味を分けて持ってもらい、アミノ酸などを補給してなんとか無事五竜岳に着く事が出来た。後でどうもしゃりバテだったのではないかと判明。確かに朝食を食べてから水ばかりでエネルギー源を摂っていなかった。メンバーの人達には助けられた。五竜岳の登りは岩だらけだけれどもお

もしろかった。



八峰キレットの梯子を登る



鹿島槍ヶ岳北峰頂上にて

五竜山荘へは下りが続く。天気もよく皆疲れが出てきたのか、ゆっくりペースで山荘に着いた。ザックを2F個室に置き外で宴会が始まる。夕食はカレーだった。昨日ほどではないが今日も20時前に眠りについた。

3日目5:45出発。今日も天気は良さそうだ。山荘の外から五竜岳を見ると雄大に見え、こんな

所を歩いてきたんだと感激した。出発後ハイマツ帯に雷鳥をまたまた発見。間近に寄ってもちっとも怖がらない。目がとても愛らしかった。3時間ほど歩き唐松岳山荘に着く。またザックを置いて空身で唐松岳山頂をめざす。途中コマクサを見つける。やはり砂礫地に咲いていた。山頂からはアルプスが見渡せる。しばらく目に焼き付けて頂上を後にした。山荘に戻ってきて一服。外のテーブルでリーダーがお湯を沸かしておしるこを振舞ってくださった。目の前にはけんたけ劔岳がみえる。なんて幸せなひと時だったろう。今までの大変さが一気に吹き飛んでしまった。ここで終わりではない。あと3時間は歩かないと。八方尾根はずっと下りで、下から上がってくる人も多く中学生の夏季登山ともすれちがった。



大国岳登りから五竜岳を振り返る

扇雪溪もありお花も沢山咲いていた。第三ケルンの八方池近くではファミリーも多く、木道も整備されていた。八方池山荘の下がったところからリフト2基とゴンドラに乗り継ぎ八方駅までおりる。リフトからの眺めも気持ち良かった。視界が悪ければリフトも乗りたくなかったがそんな心配は無用だった。しばらく歩いて八方温泉郷の湯で3日間の汗を流す。近くの蕎麦屋で今山行最後の反省会。

お天气に恵まれ山行計画どおり実施出来たことにより感謝したい。また高山植物も数多くみることができた。

八方バスターミナルから長野駅まで1時間15分バスに乗り、18時過ぎの新幹線で上野に向かうまで車内でもワイワイがやがや、他の乗客の迷惑ではなかったかと降りる頃反省。平日にもかかわらず車内は満席であった。21時自宅に帰った。

## 概要

山名	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳		
月日	平成23年8月26日(金)夜～8月29日(月)		
山域	北アルプス	地形図 1/25000	信濃大町、神城・白馬町
形式	山小屋泊	グレード	3C
目的	① 後立山の主峰に足跡を残す。 ② 北アルプスのダイナミックな景観を楽しむ。 ③ 高山植物および自然の雄大さ、美しさに感動。		
費用	約 35,000 円	交通機関	登山バス・ゴンドラ・JR
行程	前夜	我孫子 20:53→日暮里→新宿/新宿大型 BT22:30 (さわやか信州号扇沢・白馬行) →	
	1日目	→扇沢 5:20/5:50⇒ケルン 7:25/7:30⇒石畳 8:50/9:00⇒鉄砲坂 10:00/10:10⇒種池山荘 10:25/10:55⇒爺ヶ岳南峰 11:50/12:00⇒爺ヶ岳中峰 12:25/12:30⇒冷乗越 13:30⇒冷池山荘 13:50(泊) 晴れのち曇り<歩行時間 6時間 50分>	
	2日目	冷池山荘 4:05⇒布引山 5:20/5:30⇒鹿島槍ヶ岳南峰 6:25/6:45⇒分岐 7:20/7:30⇒鹿島槍ヶ岳北峰 7:40/7:45⇒分岐 7:50/7:55⇒キレット小屋 9:30/9:45⇒口ノ沢のコル 11:10/11:20⇒北尾根の頭 12:00/12:05⇒分岐 14:50⇒五竜岳 14:55⇒分岐 15:00/15:10⇒五竜山荘 16:20(泊) 晴れのち曇り<歩行時間 10時間 45分>	
3日目	五竜山荘 5:45⇒大黒岳直下 7:15/7:20⇒唐松山荘 8:45/8:50⇒唐松岳 9:05/9:20⇒唐松山荘 9:40/10:10⇒丸山ケルン 11:00/11:05⇒第三ケルン手前 12:15/12:25⇒八方池山荘 13:15⇒八方ゴンドラ駅 13:40⇒バス停 14:00⇒第一郷の湯(入浴)⇒反省会 15:00/16:00⇒バス停 16:10(長野行)→長野駅 18:08(新幹線)→上野→我孫子 20:40 晴れのち曇り<歩行時間 9時間 20分>		
ルート状況	・鹿島槍南峰から八峰キレットは岩稜沿いの難所で結構手強い。キレット小屋を過ぎても岩稜が続き、鎖場が連続して気が抜けない。 ・北尾根の頭から五竜岳の登りは、鎖場あり、ガレ場ありの急登で結構きつい。 ・五竜～唐松間は、大黒岳から牛首間がガレと岩場で緊張を強いられる。		
参加者	武内(L)、坂巻、菊地、本田、矢野裕、塩原 男3名、女3名、計6名		



唐松岳頂上にて



雲沸く稜線 遠くに唐松岳

概念図



お汁粉タイム（唐松小屋前にて）

< 7 5 0 > BOM研修

岩 山  
(328m)

瀬田映子  
やまたんより転載

垂直な岩、足が竦む、  
でも安心感・・・

膝を痛めてしばらく山行に参加できなかった。2ヶ月ぶりの山行です。それも岩山研修です。昨夜は心配でなかなか眠れなかった。顔で笑って心は何とやら・・・・・・・・・・

久しぶりの山友との会話に心も弾み、北千住から東武線で一路、新鹿沼へ・・・・・・・・・・

新鹿沼駅から30分ほど車道を歩き日吉神社に到着。境内には早朝から掃除をするらしい人が数人いました。その人達に「気をつけて・頑張って」と励まされ岩山の研修が始まりました。

まず日吉神社の境内でハーネスを装着。装着するのも一苦勞です。ハーネスにもいろいろな種類があり自分のハーネスは装着できましたが、Nさんに「これどうするの」と聞かれても答えてあげることが出来ませんでした。それからロープワークの練習

- ①フィッシャーマン・ダブルフィッシャーマン結び
- ②エイトノット・末端処理を忘れないように
- ③エイト環を落とさないセット・その他

机上講習でロープワークはしっかり練習していたつもりですが、なかなかうまくいきません。「分かりません。もう一度お願いします!!」の連続、柴さんごめんなさい。

ロープワーク練習後岩場へ向かいました。日吉神社から20分ほどでゲレンデに到着。

東京の山岳クラブの男女10人ほどのパーティの先客がいました。高い大壁の岩にロープが3本下がっています。(すごいな!!こんな所登れるか?不安が脳裏をかすめる。) まず私たちは左側の小さな岩で3点確保の練習をしました。柴さん確保の壁をクリアした人は村松さん確保の壁に挑み、高橋英雄さんの確保でクライムダウンや懸垂下降の練習をしました。誰がトップで挑戦するか・・・・・・・・Kさんが挑んでくれた。「よし、次は私!!」私は膝が心配でしたが最初のスタンスとホールドがうまくいきスムーズに登れました。眺めの良い岩山の山頂で早めの昼食をとり、その後山頂正面の高い大壁に挑みました。柴リーダーが確保用のロープを背負って壁を登りはじめま



した。大変だな!! こういう苦勞があつて私たちは安全に岩山が楽しめるのだなと感謝の気持ちでいっぱいになりました。高い大壁は、最初の登りだしの数歩にスタンスもホールドも少なく、なかなか登れません。しかし、そこをクリアしてしまえばスタンスもホールドも随所にあり快適に登れました。しかし、ピークでセルフビレーをするためのスリングとカラビナを下に忘れてきたことに気づきました。「命綱を忘れるなんてんでもない!!」と柴リーダーに「カツ!!」を入れられませんが、優しい柴リーダーはスリングとカラビナを貸してくださり、セルフビレーをすることが出来ました。垂直に立つ岩は上から覗くと足が竦みます。



これを下りるのか!! ともたもたしている私に下から村松さんの声が「クライムダウンか懸垂下降か!!」、「懸垂下降で行きます。お願いします。」と大声で答えました。しっかり確保されているという安心感があり懸垂下降で下りをクリア・・・・・・・・何度か練習するうちにだんだん面白くなってきました。時間のたつのは早いもので研修無事終了。研修が終わった時はすごい充実感で膝の痛みはどこかに消えてなくなっていました。帰りは、新鹿沼駅で反省会を開き「ニラ蕎麦」をいただき帰路に着きました。

翌日、心配していた膝の腫れもなく安心しました。そこで10月14日～16日の武内リーダーの山行を早速申し込みました。私たちBOM研修のために準備から当日まで大変苦労された柴さん・村松さん・高橋英さんそしてBOMに参加された皆さん本当にありがとうございました。

### <やまたんより転載>

#### 岩登りの研修を受講して

本田 愛子



私は岩登りはやらないつもりでしたが、高い山に行くには岩登りの技術を身につけてないと行かれないと思い、参加しました。

一回目は岩にへばりついて足元に力が入らず下からの声でやっと上ったが、恐怖心で上手く懸垂下降で下りてこられなかった。指導を受けて少しコツが解ってきて楽しくなってきた。登れない岩場もあって、課題を残し終わった。もっと経験して、岩に慣れて高度感、恐怖心をなくすようにしたいと思っています。講師の方々には休む間もなく指導をして下さって感謝しています。次回を楽しみにしています。ありがとうございました。

#### 岩登り研修に参加して

新谷直恵

1 昨年、初めて岩登りの研修を受けたとき、終わった後の爽快感が忘れられませんでした。今回あらためて



挑戦することになると、初めの恐怖感が蘇ってきました。気持ちが萎縮し、体もこわばっていましたが、「岩から手を離すと、まわりがよく見えるだろう」と指導を受けると、少し余裕が出て、どう

にかまわりを見渡すことができるようになりました。「絶対安全だから安心してチャレンジしなさい」と面倒を見てくださった講師陣のおかげさまで、貴重な勉強をさせていただいていることを実感しました。そして今回もまた、終わってみると不思議なことに爽快感と楽しさとだけが残っているのです。

### 岩 山

桐生 恭子

今日の訓練は、岩山で「三点確保」と「ロープワークの練習」でした。岩山での訓練参加は3回目になりますが、いつも最初の1, 2回はなんだか足場も不安定でしっかり岩の上に立てません。

講師の方に「体を起こすように」、「腕ではなく足で登るように」と注意を受けました。何度か繰り返していくうちに、体が岩からはなれて足場が見えるようになりました。



何度も参加して実際になれることが本当に大事なことだと実感しました。(翌日は腕が筋肉痛になりました。足ではなく腕で登っているんだと思いました。)

ロープワークも同様に実際に何度もやる事が必要だと思いました。

3名の講師の方はずっと受講生の確保で本当にありがとうございました。



#### 岩山山行に参加して

中村 育子

今回、私は指の怪我で見学だったが、見ていだけでも勉強になった。3人の講師の方々は一日中ロープを持ち続けて、さぞお疲れだったに違いない。

懸垂下降・クライムダウンなどの指導の後はみなさんの登り降りがうまくなってゆくのが分かり、うらやましく思いながら写真を撮っていた。一ヶ所、難しい岩場があったので、おせっかいな口を出していたら、「じゃあ自分で登ってみなさいよ！」と言われ、私も挑戦してみたが登ることが出来ずに皆さんの失笑を買ってしまった。でも登るように仕向けてくださったみなさんにはとても感謝している。

### 手取り足とり

齋田 記代美

手取り足とりロープの結び方、使い方などなど懇切丁寧に教えていただいた後、実際に使ってみるという貴重な体験をすることができました。落下しないように慎重に登り下りの練習をして



いた時に、“確保しているのだからそこから落ちてみろ”と言われた時が一番怖く、そして難しかったです。もし次の機会があれば、がんばって落ちてみたいと思います。

### 研修山行（前日光・岩山）

菊地 功

3点確保、ロープワークのトレーニングを目的とする今回の研修山行では、岩山に取り掛かる前に登山口の神社でロープの基本的結び方の研修を受けました。電車の中で予備練習はしていたのですが、神社での実地練習では、もう難儀をしている始末。先が思いやられました。

基本練習を終えて、神社から少し歩くともう実地訓練の岩場につきました。鎖やロープが張っていない岩場はかなりな迫力で、登れるのかなと不安になりました。でも、命綱をハーネスに繋いでいただいたら、ぐっと安心感が出てきて、いざトライ。実は、私は岩場は嫌いではありません。それは子供の頃、ふるさとのリアス式海岸が遊び場だったからです。でも、釣竿などを片手に持って上り下りしていたため、常々思っているのですが、3点確保というよりも2点確保で動くのが多いことです。開始早々、時々2点確保が出てくるとの指摘を受けてしまいました。

昼食後はより長い岩場へ場所を変えて、行われ

ました。どうしても懸垂下降では不安感が取れないのですが、大失敗をしてしまいました。それは、右に倒れそうになって、あわてて右手を離してしまい、落下しそうになったことです。4～5mの高さはあったでしょうか。落下していたらと今でも思い出すと背筋がゾッとしま



す。登山は危険と隣り合わせであることを実感しました。慎重の上にも慎重であるべきことを痛感しました。

そして後日、中村育子さんから当日の写真をいただいてビックリ。村松先生の岩場への取り付く様子がすごいのです。体がまったく自然体で、どこにも力が入っていません。自分にこのような姿勢で岩登りができる日が来るかは自信ありませんが、基本的知識は習いました。多くの岩場でそれの一つひとつ思い出し、確認しながら、安全な山行を楽しみたいと思っています。1日ロープワークをしていただいた先生陣、どうもありがとうございました。



### 岩山研修

矢野 裕子

私は、二度目の岩山でした。振り返れば前回は、懸垂下降が怖かったこと！

「岩場に強くなるには、高度感や雰囲気慣れるよう何回も岩場を経験すること。」…事前学習でいただいた詳細なプリント、まさにその通り。この日の研修が終わって、改めてそれを実感しました。

力強く胸元のロープで体を支えていただき、「えいっ」と覚悟を決めて上ってゆく。これ程ありがたく頼もしい実地訓練はありません。ほんの小さな窪みや出っ張りに足をかけて体重をのせていく、その勇気と技術がまだまだ足りません。けれども、こんな貴重な研修の機会を設けてくださった講師の皆様には、心から感謝いたします。



先生方、私達をしっかりと確保していただき  
どうもありがとうございました！

## 概要

山名	岩山		
月日	平成23年10月2日(日)日帰り		
山域	前日光	地形図	1/25000 鹿沼
形式	日帰り	グレード	2 B
目的	3点確保、ロープワークのトレーニング。		
費用	4,420円	交通機関	JR, 東武
行程	我孫子:5:31→北千住 6:23/6:32→新鹿沼 7:57⇒岩山神社 8:40/9:30 (トレーニング準備) ⇒岩山トレーニング 9:40/11:00 ⇒昼食 12:00⇒トレーニング 14:00⇒新鹿沼 16:20→春日部 17:18→柏→我孫子 18:06 ＜研修時間：4時間20分＞		
参加者	柴(L)、村松敏、高橋英、桐生、瀬田、本田、中村育、矢野裕、齋田、菊池、新谷 男4名 女7名 計11名		



10月2日  
岩山研修

< 7 5 1 >

**横隈山**  
(2000m)

齊田記代美  
新谷 直恵  
やまたんより転載

**齊田記代美**

この山行は中村隆泰リーダーのもと、「あなたがリーダーだったら？」という実地研修を兼ねた山行です。そして、研修生の新谷さんと私が今日のリーダーに任命されました。リーダーの役割とポイントが書かれたレジメが前もってメールで送られていましたが、行きの電車の中で、8か所のチェックポイントが書かれたB5サイズに拡大された地形図も配られました。

秩父鉄道野上駅で下車、準備体操の後、まず、私が先頭に行くことにしました。本当のリーダーからの最初のアドバイスは、「スタートの方向を間違えるのが一番みっともない」と、コンパスを一番近いチェックポイントに合わせ、出発しました。

駅前を通り過ぎて県道に入り、地図を片手に緊張の面持ちで歩いていたのですが、さっそく山道に入るわかれ道を通り過ぎてしまいました。本当のリーダーは無言でしたが、ほかの参加者の皆さんからアドバイスされ、すぐに修正することができました。県道をまっすぐそのまま進めば、横隈山の登山道にたどり着くのですが、今回は里山に暮らしていた人に思いを巡らしながらの山行です。

出牛(じゅうし)峠を越えながら、庭先や道端の花々が咲いている中を歩き、お寺の門前をお借りして休憩しました。山道に入ると段々畑で農作業をしている方とあいさつを交わし、雑木林には栗が落ちていて栗拾いもしました。山に住む人、特に子供たちは毎日この峠を越えて学校に通ったことに想像を巡らしながら歩きました。里山に住むというのは大変でしょうが、山歩きで訪れる里山には、町で育った私にとっても子供のころを思い出す懐かしいものがいっぱいあり、私たちの子供の頃の話に花が咲きました。

いよいよ横隈山の登山道です。中村隆泰リーダーからは、「クモの巣に気を付けて歩いて下さい」とアドバイスがありましたが、山道は、下草が刈られておりその心配はありませんでした。チェックポイントでは、参加者の全員が地図を広げてチ

ェックしてくださり、無事頂上に着くことができました。

当日の朝、集合場所を勘違いした人が2名もいて、前途多難を思わせましたが、参加者皆さんのご協力で道に迷うこともなく、秋の一日とても気持ちの良い山行でした。



**三人娘額を寄せて地図読み**



**横隈山の山頂にて**

**新谷直恵**

体育の日をはさんだ十月の三連休中日、小春日のなかを奥武蔵の原風景を一日歩きました。いつもユニークな山行を計画してくださる中村隆泰リーダーのもと十人が集結。そしてまた今回は実地教育として、「もしあなたがリーダーだったら？」という課題が出され、齊田さんと私が交代にリーダー役を仰せつかいました。

駅前で、準備体操後に二人のリーダーは交互に先頭を歩きます。道の分かれ目が多く、山道に入ってから幾つか目の分かれ道で道を誤りました。地図を見ながら歩いていたのですが、こっちだろうという思い込みが原因でした。出牛と書いて

「ジュウシ」と読む峠を越え、横畑に出ます。「昔は長瀬の町に出るのに人々はこうした峠を越えて歩いていました。そういう道をみんなに歩いてもらいたかったのです」とは、中村リーダーの言です。

山道の両側には、ムラサキツリフネソウやアカマンマ、ミズヒキなどが星くずのように一面に咲いていて、小さな虫の鳴き声も途絶えることなく続いています。栗の木が多く、毬のついたままの実が道にたくさん落ちていて、それを拾いながら歩きます。

川を横切って横畑の幸福寺で一休み。ここでリーダー交代。坂道の両側に続く部落を抜けて道は横隈山へと続きます。蚕を飼う昔ながらの大きな家もあり、庚申塚など山間部で暮らす生活を垣間見ながら、急坂を登ります。途中幾度か林道と交わりながら、横隈山を目指しますが、途中頻りに看板があり、道に迷うことはないと思えました。

けれど、山頂付近に差し掛かると藪が深く生い茂り、道がありません。それでもその延長線上に突き進んでいると、「こっちに道があるよ〜」と後ろから声が聞こえ、戻ります。そちらに確かに踏み跡が続いていたのですが、見落としていました。こんなとき道に迷うのだなあと思ひ知りました。

おもいのほか早くコースを達成して里に降りると、予定のバス時間にはまだ1時間半もあります。そこで駅までタクシーを頼むことになりました。タクシーが来るまでの間私たちはバス停前の道路に腰掛けてティータイム。そこに鎌を手にしたおじいさんが現れました。「今日は十三夜だからね。ススキを刈りに行く」のだと言います。見れば、反対側でもススキを刈っているおじいさんがいるではありませんか。

十三夜という言葉が気になり、その夜調べてみました。すると「お月見」といって、中秋の名月(葉月十五夜)が一般的ですが、日本には古来よりもうひとつ「長月十三夜」の月も美しいとされ、お月見をする風習がありました。十五夜は里芋をお供えするので「芋名月」と呼ばれるのに対し、十三夜の頃はちょうど大豆や粟の収穫時期で「栗名月」または「豆名月」と言われています。関東では、十五夜だけお祝いして十三夜に月見をしないのは、「片月見」と言われ、縁起がよくないこととされていました」とありました。

この里に暮らす人々は、まさに昔ながらの秋の風物を愛でていることに感動しました。いつも電車や汽車を乗り継いでそのまま山に登りますが、今回はその山裾野で暮らす人々の暮らしの一端に触れることができ、大変思い出深い楽しい山行になりました。

## 概要

山名	横隈山		
月日	平成23年10月9日(日)		
山域	奥武蔵	地形図	1/25000 鬼石
形式	日帰り	グレード	2B
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静かな目立たない山へ</li> <li>・確かな道をたどるには</li> <li>・研修「あなたがリーダーだったら？」</li> </ul>		
費用	4150円	交通機関	電車
行程	<p>我孫子駅 5:31→上野 6:15(高崎線)→熊谷 7:20/7:41(秩父鉄道)→野上駅 8:24/8:45→萬福寺→長瀬ゴルフ倶楽部入口 9:10→長瀬高原ビレッジ門柱前 9:40→出牛峠 9:55→出牛(西福寺) 10:15→光福寺 10:25→分岐点 11:05→平沢峠 11:24→横隈山(三等三角点) 11:55→石碑・展望地点 12:10/12:35(昼食)→平沢峠 12:55→四等三角点(491.4m) 13:05→現地確認の地図読み研修 13:20→林道(上武秩父線) 13:35→更木 13:48→出牛平 14:30/14:52(タクシー)→野上駅 15:02/15:13→熊谷駅 15:57/17:10(反省会)→上野駅 18:03→我孫子駅着 18:46</p> <p style="text-align: right;">&lt;歩行時間4時間35分&gt;</p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭文社の地図には荒れ道があり山慣れた人向きコースとある。手元のガイドブックにも「コースも整備されているとはいいい難い。低山とはいえ山慣れた人にすすめたいコースである」とある。なんだか興味をそそる一文である。</li> <li>・最近では登る人も増えたのか新しい道標が見られ山道も整備されつつあり、迷うところはほとんどない。(2B→1Aグレードダウン?) ただ林道や車道が山間まで伸びており、間違うととんでもない方向へ連れて行かれる。地図読みと周辺の確認をしっかりとやる必要がある。</li> <li>・日陰のない車道歩きが多いので夏季の山行は不向き。</li> <li>・交通機関は東武東上線、武蔵野線、高崎線などいろいろあるが、今回はホリデーパスの有効利用と日頃あまり利用しないルートとして上野から高崎線熊谷経由とした。</li> </ul>		
参加者	<p>中村隆(L)、坂巻(SL)、外崎、高橋芳、原田和、箕輪カ、箕輪完、矢野貞、齊田、新谷</p> <p style="text-align: right;">男4名 女6名 計10名</p>		

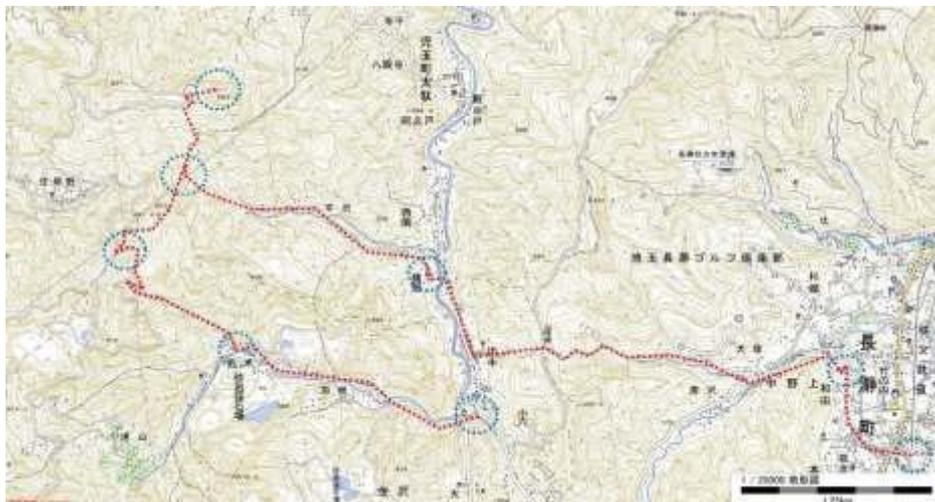
## リーダーのメモ

・ガイドブックに「横隈山の名を知る人はそう多くないだろう。奥武蔵の一角にあって目立たない山の一つであり、コースも整備されているとはいいい難い。低山とはいえ山慣れた人にすすめ

たいコースである」とあり、しかも「健脚向き」とある。標高600m足らずの山でこれほどグレードが高いのはなぜだろうかと興味をそそられ定例山行に入れた。

- ・今回の山行には研修課題が与えられた。「あなたがリーダーだったら？」である。リーダーは山行の前後にやっていることがたくさんある。それを整理したものと山行当日の仕事をまとめたものをメンバーにメールした。
- ・出発前、山行の概要と研修の内容を説明し、齋田、新谷のお二人に実践して貰うこととした。
- ・野上駅から出牛までの峠越えはおまけのコースで、昔の人が大きな荷物を背負って出牛峠を行き交った名残を味わいたかった。(皆野駅からのバスに乗らないで)
- ・長い車道歩きの後、ゴルフ場の門の左から山道に入る。足の下が柔らかくなり気持ちいい。栗の実がいっぱい、忙しくなった。雑木林が続いている雰囲気である。目論みと違って草深い山道も整備がなされ歩きやすい。峠には林道が走っており、かつてのよき峠の風情が消えたのはさびしい。
- ・やがて出牛に下り立ち再び車道歩きである。出牛はかつては宿場町として賑わったらしいが、時代とともにさびれ静かな山村となった。平沢の集落を過ぎると車道も終点で、ここから山頂に向かって本格的な登りである。
- ・麓の人が「上まで草を刈っておいたよ」と言ってくれた。ありがたうございますとは言ったものの、作戦上はまずいなと思った。研修リーダーには、手入れしてなく登る人もいないのでクモの巣を枝で払いながら行くように言ったが予想が外れたことになる。確かに草を刈ってあり、歩きやすかった。(グレードダウン！)

## 概念図



## 石碑(御嶽大神国常立尊)にて

- ・山頂まで難なくクリアして予定通り無事到着。証拠写真を撮って、少し下った見晴らしのいい石碑のところで昼食。下りも順調で、お二人の研修は「合格」です。メンバーの温かいご指導とご協力に多謝。

## 実地研修「あなたがリーダーだったら？」

- A. リーダーの役割
  1. どんな登山をしたいか、どこにどう登るか決める。
  2. メンバーの人数は適正か、それぞれの力量や体調を把握する。
  3. 危険回避のための判断をする。
  4. 1～3を考慮した計画書を作成する。  
(いつ、だれと、コースと時間、必要な装備、宿泊、交通手段など)
- B. 行動中のリーダーのポイント
  1. 集合・コースと時間、計画の確認
  2. 装備・食料・水などの確認
  3. 準備体操・身支度の確認
  4. 歩く順番の設定
  5. 歩くペースづくり
  6. 行動時間の読みとペース判断
  7. 休憩時間のピッチと時間の判断
  8. 危険予知と回避
  9. 天候と行動の判断

< 7 5 2 >

## 羽黒山

本田愛子

みちのくのアルプス神室連峰は、いつか行ってみたいと漠然と思っていたが、小又山、火打岳のテント山行があったので、迷わず参加しようと思った。

東京駅八重洲口から新庄行き夜行バスで11:00発、翌朝6:12新庄駅到着。週末は全国的に天候が悪くなるという予報だったが、予報どおり新庄駅に着くと雨が降り出していた。駅の待合室で朝食を摂り、支度をしながら空模様を気にしていたら、川の増水もあるので小又山登山は中止になった。出羽三山の羽黒山神社に行くことになり、3台のレンタカーで国道47号線を酒田方面に向かった。最上川添いを走っていると、川下りの船が見えた。

約1時間で羽黒山駐車場に到着。雨は上がっていた。羽黒山神社のある山頂まで車でも行けるが、2400余りの石段の修験道を歩いた。古い五重の塔、茶店が1件、芭蕉三日月塚、埴山姫神社があり1時間半で羽黒山神社に着いた。大きな萱葺き屋根の荘厳なお社で辺りは杉の大木で囲まれた歴史的な出羽三山の神社でした。

登ってきた石段を降りて、駐車場に戻りお蕎麦を食べに行ったり、おにぎりを食べたり30分ほどの昼食タイムの後、新庄方面に戻った。途中買い物して白川公園キャンプ場に14:40に着いた。駐車場の側にトイレ、炊事場があるが、カメムシが気持ち悪くういよウヨウいて調理

ができる状態ではないため、少し下がった場所にテントを張って調理と食事をするようになった。テントを張る床板は数ヶ所あったが、今日は私達だけだった。床板は雨で濡れていた。新人だけでテントを張りだしたが思うようにいかず、結局先輩方に手伝って頂くようになった。

すぐに食担係りが食事の支度をはじめた。メニューは、野菜たっぷりのキリタン鍋、つまみ、漬物等で16:30頃から野外で夕食の宴会が始まったやがて暗闇の中で、ランタンを灯し、ヘッドランプで楽しいひと時を過ごした。

周囲が静寂の中で川の水音がゴウゴウと鳴る。雨音で目を覚ますと激しく降っていた。

4時に起床の予定だったが、今日の火打岳登山も諦めることになった。雨水がテントの中まで、浸みできてザックやシュラフも濡れた。

6時に朝食の準備に炊事場まで行ったら、昨日あんなにいたカメムシがまだ寝ているのか見当たらなかった。昨日の鍋に野菜とご飯を入れて雑炊を作って充分食べた。

皆でテントをたたみ、後片付けをして、国道47号線を鳴子方面に行くことになった。鬼首地獄めぐりに行き、秋の鳴子峡に行ったが通行止めに入れず鳴子温泉に戻り、素朴な共同浴場で温泉に浸かってから新庄駅12:30に戻ってきた。駅中のそば屋で昼食を摂りながら打ち上げをした。

帰路は新幹線で上野までゆっくり座って戻れた。今回の山行は天候に恵まれなかったが、出羽三山神社や最上川、鳴子温泉等を巡って東北の空気を味わえた。テント山行は2度目で反省する事が多々ありますが、楽しい東北の旅でした。ありがとうございました。



山名	羽黒山 (小又山・火打岳変更)		
月日	平成 23 年 10 月 14 日(金)夜～16 日(日)		
山城	東北	地形図	1/25000 神室山、瀬見、鬼首峠
形式	テント泊	グレード	1 A
目的	テント泊りの体験		
費用	23,000 円	交通機関	夜行バス、レンタカー、JR
日程	前夜	我孫子駅 21:00→東京八重洲通り発 22:50 (TOKYO サンライズ号山形・新庄行) → 新庄駅前 6:12/8:05(駅レンタカー)→羽黒山 いでは文化記念館前駐車場 9:08/9:15→五重塔 9:38→二の坂茶屋 10:00→芭蕉翁三日月塚 10:10→埴山姫神社 10:25→月山神社 10:40/10:50→羽黒山頂上茶店 11:00/11:10→月山神社 11:16→芭蕉塚 11:35→駐車場(昼食)12:10/12:45→大堀手前の川の駅にて食料品調達 14:05/14:15→白川溪流公園キャンプ場 14:40 (泊)	
	1 日目	キャンプ場車発 7:10→鬼首地獄めぐり駐車場着 8:25/8:30→紫地獄 8:37/8:50→引き換えし地点 9:00→駐車場発 10:30→鳴子峡駐車場着 9:45 (鳴子峡は水害のため通行止めで引き返し、こけし館見学) 駐車場発 10:30→鳴子温泉大滝の湯 10:45/11:30(入浴)→新庄駅レンタカー12:35 着、反省会 13:15/14:40→新庄駅 15:27(つばさ 150 号)→上野駅 18:58/19:10 →我孫子駅着 19:47 (解散)	
2 日目			

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初は、山麓に BC を置き神室連峰 2 山(小又山、火打山)を往復する計画。出発前、2 日間とも雨の予報だったが、バス切符予約済、レンタカー予約済だったため出発、霧雨程度であれば山行を強行しようと思っていたが、2 日間とも予想以上に天気が悪く、山行は取止めざるを得なかった。</li> <li>・(偵察) 小又山西又沢登山口までは、溪流公園より車約 5～6 分、大又沢登山口までは車約 15～6 分、何れも悪路。</li> <li>・白川溪流公園キャンプ場：利用料無料、テント台約 10 台、炊事場、トイレあり。我々以外、他に利用者なし。</li> <li>・炊事場、トイレには、カメムシがべったりはりついていて、炊事、宴会は空いているテント台を利用した。</li> </ul>
参加者	武内(L)、村松敏、原田和、高橋重、外崎、田村、本田、齋田、新谷、矢野裕、瀬田 男 4 名、女 7 名、計 11 名



随神門が羽黒山登山？の出発点



随神門から始まる表参道は、全長 1.7km、2,446 段の長い石段。両脇には樹齢 350～400 年の杉並木(特別天然記念物)が続く。



石段に刻まれた 33 個の徳利と盃を見つけると願い事が適うという。チャレンジしたが、7 個ほどしか見つからなかった。

< 7 5 3 >

丹勢山  
(1398m)

箕輪完二

## 道のない笹藪

### 冒険・探検が楽しかった

丹勢山は一昨年に中村八重子さんが計画した山であるが事情があり実施できなかった。原田和昭さんが引き継いで昨年計画したが台風で中止となり、今年再度計画する山であるとの説明を受けた。また過去の山行記録にも無い、日光では馴染みの薄い山との説明も受けていました。

そして今回も朝から空は雨模様で曇りの天候だった。しかし日光に向かう電車の中では、真っ青な晴れ間も見え、皆で歓声をあげたほど地域的には天気が回復してきた。日光清滝派出所の警察官に登山道の様子を聞いたところ「車は通れないが人は通れる」と何とも怪しげな返事が返ってきた。1/25,000の地図には清滝丹勢町、と記されている。数十軒はあると思われる町の終点には登山道入口が在る、誰しもそう思って先を急いだ。

しかし、その最初のカーブで近道と思われる階段を登ったのがかえって時間をとってしまったと思う。そこには町は無く、建物もほとんど無く、在ったのは荒涼とした造成地だったのです。元に戻って雑草に覆われた表男体林道入口の看板を見つけるまでには少々時間を要しました。国土地理院の地図を100%信用するのも良くないし、また登山道入口までは「急がば回れ」で慎重に探すことが大切だと思ったものです。

登山道入口からはヘヤーピンカーブの続く長い林道が始まりました。林道は荒れており倒木や山崩れ等もあって歩き難く滑りやすい所もあった。しかし、このカーブにはいろは坂と同じような番号が付けられていた、道路の周辺には針葉樹の間に紅葉も点在しており、秋の雰囲気を感じることもできました。またその途中では轟音をたててマウンテンバイク数台が危ない走行で追い越し憤慨もした。

一方ではよくこんな坂道を登ってきたもの

だ、そして追い越した時の言葉は悪くないなと妙な感心もしたりしました。沼の平入口には方向指示板が在りました。その後すぐ電波塔があり、それを横に見てほとんど道のない笹藪の中をテープ頼りに歩いてやっと沼の平に出ました。ここ的一面黄色く紅葉したカラマツ林は笹藪の緑とのコントラストが良い所だと思いました。



↑ 沼の平は笹藪



沼の平をしばらく行くとまた急坂の山となる。案内板等も無く、地図で丹勢山と思われる山の方向を確認しながら登る。テープと赤ペンキ表示を探して左右、急登の笹藪を必死で登ること約1時間、やっとのところで確かなルートを発見し、一同ホットしました。その近くで昼食休憩となり、ここで体を休めることができました。

その後、細い踏み跡を頼りに登るとカラマツ林の中に、大小様々な岩が映えている頂上付近に出ました。周囲には二ツ三ツ高い峰が見えてきました。この中の一つが目指す丹勢山だと思いながら林道に出た、その林道の車の回転広場と思われる場所に着きました。近くに樹木で覆われた小さな岩山があり、その急登を登るとそこが目的の丹勢山でした。

ガスが多く展望はあまり良くはありませんでしたが北西方向に時折、雲の合間から顔を見

せる雄大な男体山とそれに連なる大真名子、女峰、赤薙山と素晴らしいパノラマを展望することもできました。



帰りは野州原林道と上りに使った表男体林道という二つのヘヤーピンカーブの林道を慎重に下り、日光駅前が無事下山の乾杯と反省をして帰途につきました。今回の山行では肝心な所に案内や道がなく手探りの山行でしたが、それだけに途中小さな冒険や探検をするような山行となり、それがまた楽しかったと思います。そして自分が持っている高度計が山行途中で電池切れとなり、ちょっと慌てました。これなどもきちんとチェックしなければいけないと反省しました。二年がかりで山行を計画してくれた原田和昭さんとメンバーの皆さんに感謝いたします。



リンドウ



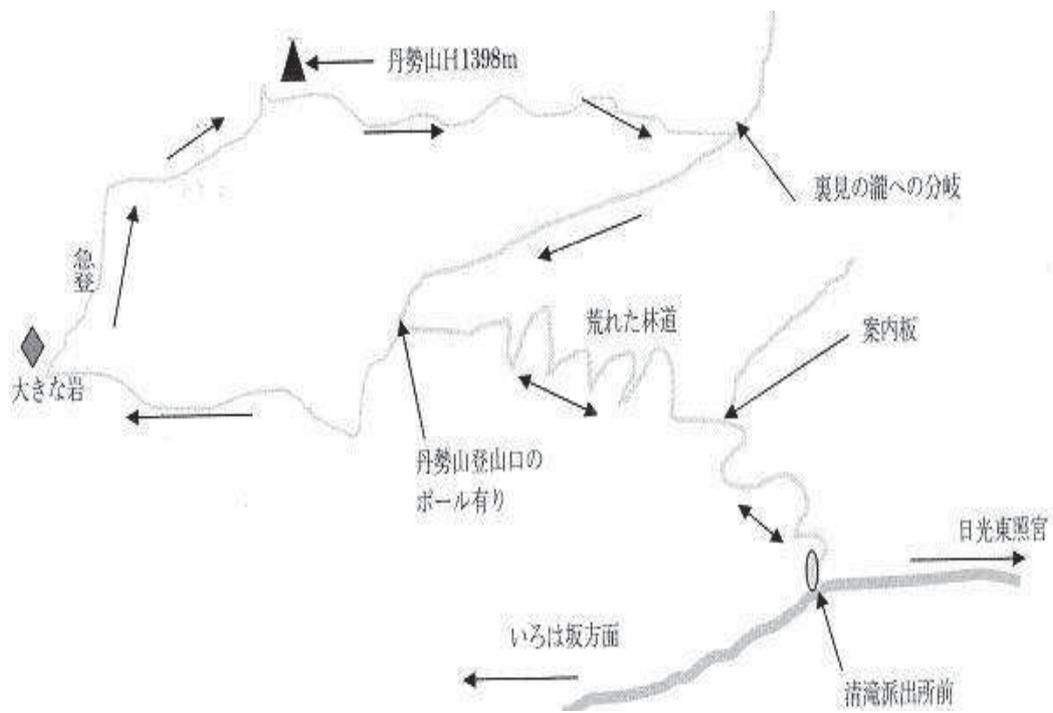
## 概要

山名	丹勢山		
日付	平成 23 年 10 月 23 日 (日)		
山域	日光	地形図	日光南部 1/2.5 万
形式	日帰り	グレード	2 A
目的	晩秋の丹勢山を探訪しよう		
費用	5,000 円	交通機関	JR、東武、バス
日程	<p>北千住駅東武線で集合発 6:32→(東武線快速電車)→東武日光駅着 8:27/8:40 (バス) →清滝派出所バス停 8:55/9:05 ⇒表男体林道標識確認 9:35⇒休憩 10:00/10:05⇒カーブNO13 地点 10:32 ⇒休憩 11:00/11:05⇒沼の平入口標識 11:10⇒電波塔 11:17⇒(沼の平)⇒昼食 12:15/12:30⇒林道に出る 13:05⇒丹勢山頂上 13:20/13:30⇒林道に降りる 13:44⇒休憩 14:30/14:35⇒裏見の瀧への分岐 14:40⇒沼の平への標識 14:55⇒カーブNO13 地点 15:22⇒表男体林道標識 15:50⇒清滝派出所前バス停 16:00 /16:20 (バス) →東武日光駅 6:40/17:30 (反省会)(快速)18:08 発→春日部駅 20:20/20:28→柏駅 21:10/21:16→我孫子駅着 21:20 (解散) 曇り&lt;歩行時間 6 時間 15 分&gt;</p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清滝派出所の警察官に登山口を確認して歩き始める。途中には標識や案内板は無く地図を見ながらルート確認。</li> <li>・表男体林道入口の標識を確認してからは長い林道が始まる。</li> <li>・林道は荒れて歩き憎い、倒木や山崩れが有って滑り易い所もある。沼の平入口には方向指示板がある。沼の始まりに電波塔が有る。そこからは笹沼でテープを目印に歩く。</li> <li>・案内板は何処にも無い。地図で方向を確認しながらテープと赤ペンキ表示を探して歩く。約 1 時間の藪漕ぎをした所で確かなルートを発見する。</li> <li>・人が歩いた細い踏跡を頼りに登ると頂上直下の林道に出た。そこから頂上までは岩が多く注意が必要です。</li> <li>・下山は荒れ果てた野州原林道と表男体林道を約 11 km 歩いた。往復で 20 km 以上を歩いたと思う。案内板が無いので注意が必要。</li> </ul>		
参加者	<p>原田(L)、箕輪完(SL)、小川誠、箕輪力、品田、外崎、田村、瀬田 男 3 名 女 5 名 計 8 名</p>		



丹勢山山頂にて

概念図



< 7 5 4 >

蔵山  
(1033m)

末永三江子

長い長い道のり  
それが楽しい！

私にとってずいぶん久しぶりの山行に、朝から体がだるく、心はブルーの状態だった。5時過ぎの電車。起きるのが辛く、働かない頭。不安になる。電車で皆さんの顔を見てホッとす。飯能駅から名郷行きのバスに乗り、登山口へ。

ラジオ体操をして歩き始めた。ずいぶん歩いていないせいか、足にもつれ感があった。急登にさしかかると何となく楽しくなってきた。心の中で鼻歌も出てきた。(調子があがってきたようだ。)紅葉にはちょっと早いのか探してみたがきれいな紅葉はない。それでも久しぶりの山歩きに心が弾んだ。



紅葉の下で、一息つきました  
頂上はすぐそこです

背中がしっとり濡れる。仕事でかく汗と登山で

かく汗は全然違う。「登山って何てすがすがしいんだろう。」そんなことを思いながら2時間程度で頂上に着く。昼には早い昼食をとる。みんなで持ち寄った美味しいものが回ってくる。頂上で食べると何ておいしいんだろう。この空気のすがすがしさが味を変えるのだろう。朝、あんなに拒否していた気分が180度変わってしまった。天気予報は雨だったが、曇り時折り太陽が顔を出す。景観ははっきりしない。30分ほど頂上を楽しむ。下山にはいる。



無事に頂上到着  
これから長い下りがまってるぞ！！

長い長い同じような道のりをずんずん歩いていると、仲間の中からボヤキが聞こえた(眠くなった、だらだらで疲れた、etc)が、私はそれが楽しい！予定より早く温泉に入れそうだ。

民家が見えたとき、道の脇から声をかけてくれる人がいた。ここで町おこしをしているという。私たちにりんごをひとつづつくださる。疲れた体にりんごの味は体にしみわたる。美味しい。紅玉か？これを食べてまた歩く力が湧いた。温泉に入り、汗を流した。村のみんなの温泉のようなところだった。バスに乗り、飯能駅へ。駅でもらったパンフレットを見て、蕎麦屋に入り、反省会。同じ汗をかいた仲間と一緒に呑む酒はなんて美味しいんでしょう。久しぶりに充実した一日をいただきました。有難うございました。

## 概要

山名	蕨山		
月日	平成23年10月30日(日)		
山城	奥武蔵	地形図 1/25000	原市場
形式	日帰り	グレード	2A
目的	奥武蔵の山並みを楽しんだら麓の温泉に		
費用	約4500円 (入浴代含む)	交通機関	電車、バス
行程	我孫子駅 5:31⇒日暮里⇒池袋駅 6:29⇒飯能駅 7:22/7:40(バス)⇒名郷バス停 8:40/8:55⇒蕨山 11:10/11:30⇒藤棚山 12:00⇒金毘羅神社跡 13:25⇒さわらびの湯 14:10⇒さわらびの湯バス停 15:16⇒飯能駅 16:00⇒秋津駅⇒新秋津駅⇒新松戸駅⇒我孫子駅 18:40 < 歩行時間 4時間30分 >		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名郷からは登り道2時間、下り道3時間の行程となるので、登り切った後は景色を眺めながら緩やかな下り坂を楽しむことになる。棒ノ折山の姿を仰ぎ見て、眼下には名栗湖が視界に入ってくる。</li> <li>・標識はしっかり設置されていて道に迷うことはない</li> <li>・蕨山頂上はある程度、視界が開けていて四方の山が見渡せる。又、ベンチが数台あり、ゆっくり休むことができる。</li> </ul>		
参加者	坂巻(L) 石垣(SL) 藤倉 本田 末永 高橋英 男3名、女3名 計6名		



名郷登山口



金毘羅神社跡



林の中の急登

## 概念図



下山道

< 7 5 5 >

笹子雁ガ腹摺山  
(1358m)

箕輪カオル

笹子雁ガ腹摺山、この山は故青山さんが計画されていたとのこと。リーダーからいただいた計画書には、ルート概念図・エスケープルート省略とありました。2万5千分の1の地図には、調べてもルートが記載されていないのです。中央線笹子駅から、国道20号（甲州街道）を40分ほど歩いて登山口に到着です。中橋を渡ってすぐ左手に見る墓地が目印でした。ここで衣服調整をして出発しました。歩き始めてすぐにジグザグの急登でした。ひたすら登るのみで、さらに直登となるのです。しばらくして私は、登るのが辛くなりました。「休みたい！」と休憩を申し出たら、どこで仕入れてきたのでしょうか、リーダーの村松さんが笹子名物の笹子餅を差し入れてくれました。（どうやら笹子駅近くに馴染みの餅屋さんをご存じらしく、いつの間にか仕入れてきていたのです。）このひと時は、エネルギー補給とともに呼吸を整えるよい休憩となりました。



笹子餅お一つどうぞ

元気を取り戻して歩いて間もなく、富士山が後方に見えました。斜め前方には、大きな古ぼけた反射板が見えてきました。この反射板は、今は使われていないもののようでした。その後15分ほどで山頂に到着しました。12時山頂到着予定を大きく短縮しました。山頂は比較的狭く、みんなが座る場所を確保するのがやっとでした。しかし、

南には御坂山塊を前に富士山、北には甲斐駒ヶ岳等の南アルプス、また八ヶ岳等が眺望でき、さすが山梨100名山と思えました。（大和十二景）



富士山

山と山の間には霧が立ち込めていて、墨絵のようで何とも幻想的でした。下山は、地図には載っていない急坂を東電の208号鉄塔をめざして下りました。208号鉄塔から望む山々の紅葉がきれいでした。（何とんでもこの鉄塔の大きいこと！鉄塔の下に立つ私たちは、ガリバーの足元にいる小人のようでした。）曇り空が恨めしい。と思うも束の間、ぽつりぽつり雨が・・・。弱い雨なので取りあえず傘をさして、足元には十分注意しながら下りました。急な階段（プラスチック製が埋まっている）でよく見えないし、滑りやすいので注意して下りました。どういうことで誰が建てたのか石仏を見かけました。さらに山の神を通過して、下山路の途中途中に見る紅葉を楽しみました。

道の駅に出るまでの間には雨もあがっていません。道の駅で地元の農産物を売っていたおじさんの話では、私たちの下山してきた道は「昔は炭焼きのための道」だったとのことでした。そのため、今は使われていない道のような感じでした。誰も行かないような山歩き。これこそ、青山さんらしい計画だったのでしょか。個人ではなかなか行けない山、経験豊富なリーダーあつての山行、そして仲間と行く楽しさに感謝です。

さて、ここから甲斐大和駅までは、また国道20号を延々と歩くこととなりました。民家の入り口に大きなカボチャや、珍しい種類のカボチャが置いてあったのが印象的でした。大月駅前のお店で反省会でした。

## 概要



笹子雁ヶ腹摺山山頂にて



山名	笹子雁ガ腹摺山		
月日	平成23年11月3日(木・祝)		
山城	南大菩薩連峰	地形図	1/25000 笹子
形式	日帰り	グレード	2B
目的	1. 雁ガ腹摺山、3山の内の1山に登る。 2. 山頂からの景観と紅葉を楽しむ。 3. 青山さんの計画の検証と実行。		
費用	約3,000円	交通機関	JR、
行程	我孫子駅発 5:33→西国分寺 6:55→高尾駅 7:26→笹子駅 8:28/8:40⇒登山口 9:15⇒ 笹子雁ガ腹摺山山頂 11:12/11:50⇒208号鉄塔 12:08⇒山の神 12:20⇒棚小屋沢橋 13:00⇒ 道の駅 13:15/13:35⇒甲斐大和駅 13:55⇒ 大月駅 16:12⇒我孫子駅 18:45		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2万5千の地図には仮称、南面の尾根ルート及び北尾根のルートについては登山道の記載はない。又、昭文社の大菩薩連嶺の地図では破線で記されているが踏み跡程度と記されている。</li> <li>・登山口は笹子駅を降りたら、国道20号線を西に向かい右に大きくカーブして旧道と分岐する場所です。(駅から約30分)左に墓地が見える。</li> <li>・その後は、標識は少ないが北に向かって樹林の中をひたすら山頂に向かう。ルートは割合はっきりしている。</li> <li>・下山のルートは山頂から300m位の所に米沢山・お坊山へ向かう縦走路(米沢山への標識が有る)が右に曲がる所を左の尾根に入る。(北尾根への道標はない)</li> <li>・東電の送電線の巡視路を208号鉄塔に向かって急坂を降る。</li> <li>・林道に降りると東電の「208号に至る」標識がある。逆を登る場合の目印になる。</li> <li>・仮称北尾根は正確な尾根に乗り、北に向かって時々コンパスで方向をチェックすれば問題ないルートです。もっと多くの人が利用しても良いのでは</li> </ul>		
参加者	村松(L)、外崎(SL)、武内、箕輪カ、箕輪完、 新谷 男3名、女3名、計6名		



← 女性もきれい

紅葉がきれい →



<756>クリーンハイク

手賀沼一周

本田愛子

今年で5回目の手賀沼一周クリーンハイク。天候も良く暖かい一日でした。私は入会して3回目の参加です。今年も夫も参加したいと言うので半周で帰るつもりで参加しました。

駐車場の都合もあって、A班にして頂き水の館前に8時に集合しました。

参加者は18名(ゲスト1名)でタバコ、缶、ビン、燃えるごみとそれぞれ分担して拾う。市役所の交差点で外崎さんが加わり、手賀沼通りの裏通りをゴミ拾いしながら歩き始めた。急な石の階段を上がると、子の神社があり小さな社のすぐ隣にめだたない三等三角点が立っていた。今日の最高峰 20.3 m でした。今回初めて立ち寄った。階段を下りて西方に向かって歩いていくと、志賀直哉邸跡地に着いた。昔は小高い跡地から手賀沼が良く眺められて、のんびりした別荘地だったのだろう。現在はビルや住宅が建ち手賀沼は見えない。

少し行くと、杉村楚人冠公園がある。階段を登って句碑の前にて記念撮影をしてから皆は記念館の方へ向かったが、私だけアビスタの前でB班の清家さんが待っているのので先に行きました。10分位遅れて皆も来てトイレ休憩してから、また手賀沼の裏通りをごみ拾いしながら歩き出す。暫く行くと薄くらい林の中を少し登って小さな森

を抜ける。

船戸の森を抜けると武者小路邸跡があり、今日は門が開いて中に入れた。手入れの行き届いた庭で、草木が紅葉して落ち着いた別荘地でした。

森を下りて元の通りに戻り、15分位行くと小高い丘の上に根戸城跡がある。小休止で記念撮影してから通りに下りて、てくてくゴミを拾いながらふる里公園まで来た。文学史跡散歩も終わり、ここからは手賀沼沿いを延々と歩いて行く。

手賀沼には、白鳥がいて水面をのんびり優雅に浮かんでいた。遠くにヨットが見えた。土手沿いの道にはサイクリングやマラソン、犬の散歩をする人達で晩秋の小春を楽しんでいた。道の駅には11時30分到着。50分の昼休み休憩でゆっくりする。

これからフィッシングセンターまでは手賀沼沿いをひたすら歩く。遠くにフィッシングセンターの建物が見えるがなかなか近づかない。1時間で到着。休憩をしてから我孫子側の桜並木の遊歩道を沼に在る鳥を観察しながら歩いて、やっと滝下広場に14:15到着。ここで皆が拾ったゴミの量を自己申告して収集した。ゴミの量は、雑ゴミ: 6kg、缶類: 3kg、タバコ: 200g、ペットボトル: 30本。その他: アメの包み紙が多かった。これを滝前広場にて集約し昨年同様、公園の隅に置いた。

手賀沼一周クリーンハイク全行程6時間を終了したが、天候も良く、暖かい日差しの中、歩いて気持ちの良い一日だった。夫も最後(ココスの打ち上げ)まで付き合った。

概念図



子の神3等三角点 ▶



▼ 武者小路実篤邸跡にて



滝見公園でゴミを集約しているところ

概 略

山名	手賀沼一周		
月日	平成23年11月27日(日)		
山城	我孫子・柏	地形図	1/25000 取手
形式	日帰り	グレード	1A
目的	①ふるさとの自然を見直す。 ②足慣らしと親睦。 ③手賀沼周辺をきれいにする		
費用	なし	交通機関	徒歩

行程	<p>Aグループ「水の館」駐車場 8:00⇒手賀沼北側道路を西へ⇒子の神神社にて三角点(三等)を確認 8:13/8:18⇒志賀直哉邸跡 8:25/8:30⇒杉村楚人冠公園と記念館 8:35/8:50⇒9:00 アビスタ玄関前にて Bグループと合流 9:10⇒手賀沼北側の道(自動車道路と平行の北側の道)を西へ⇒船戸城址(船戸の森) 9:30⇒武者小路実篤邸跡 9:35/9:50⇒根戸城址 10:08/10:20⇒北柏ふるさと公園 10:35 発⇒北柏ふるさと大橋を北から南へ渡る⇒手賀沼南側の遊歩道を東へ⇒道の駅「沼南」にて昼食休憩 11:40/12:25⇒手賀沼大橋は渡らず、手賀沼南側遊歩道を東へ⇒フィッシングセンター 13:35/13:40⇒手賀沼北側遊歩道を西へ⇒滝前広場にてゴミ集約 14:20/14:35⇒手賀沼大橋北側の交差点着 14:50(山行終了)手賀沼大橋北側の「COCOS」にて反省会 15:00/16:30、解散。</p>
ルート状況とメモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回は第5回目であるが、子の神神社の三角点探訪を初めて取り入れた。杉村楚人冠の記念館探訪も初めて行った。武者小路実篤邸跡では門が開いていて無人。紅葉最盛期の庭を拝見した。我が我孫子に風情のあるスポットがあることを認識した。</li> <li>交通事故に遭わぬよう注意を喚起した(手賀沼の北側は対自動車、南側は対自転車)。</li> <li>各人の歩速、ごみ拾いの熱心度によりパーティーが長くなったが、互いに見える範囲であり、道は平坦であったのでよしとした。沼の西端、道の駅、東端で全員集合して休憩を取った。</li> <li>無風、晴れ。うらかな一日であった。雉、翡翠等、意外な遭遇は少なかった。メンバーの中には雉を見た人が居た。</li> </ul>
参加者	<p>小川誠(L)、箕輪完、高橋重(SL)、桐生、外崎、矢野貞、清家、瀬田、高橋英、本田、中村美、中村育、小川洋、菊地、飯沼、郷田、箕輪カ、本田(ゲスト)</p> <p>男7名 女11名 合計 18名</p>

<757>忘年山行

旭山～達沢山  
(842m) (1358m)

やまたんより転載  
小川洋子  
矢野貞子  
瀬田映子  
末永三江子

リーダーのメモ

CL 坂巻明

- \* 予定より40分遅れで8:40登山開始となる。又、急な登りが続く落ち葉が多く歩きにくい。
- \* 嵐山釣り堀のご主人が親切にも草木を伐採して、テープを張りめぐらしておいてくれたので迷うことなく大変助かりました。
- \* このルートは来訪者が少なく踏み跡がほとんど見えない。落ち葉の音が心地よい。登山道には木の枝が張り出して行く手をさえぎる。
- \* 尾根に出ると落葉した木々の間から左右の街並みが見通せて気持ちいい。富士山も時々、顔を出してくれた。
- \* 遠く南アルプスの山並みがあり、白峰三山(北岳・間ノ岳・農鳥岳)は雪をかぶってはっきりと観えた。
- \* 途中、Aグループが遅れて隊列が乱れた場面がありました。ひやりハットもなく、全員無事にゴールできました。
- \* 結局、BBQの開始が2時間ほど遅れて開始となった。午前中吹いていた風は止み絶好のタイミングとなりました。食担係の手際良さに感心しながら、ご馳走にありついた。
- \* チームごとの余興の出し物はゲームやお面を使った踊りなどユニークなものばかりで大いに盛り上がった。
- \* 駆け足の山行になってしまいましたが、全工程が終了できたことは天候に恵まれたこととメンバーの協力あってのことと感謝の気持ちです。なんだか忘れられない山行になりそう!!

A班リーダー

中村 育子

美しい山並みと紅葉を堪能しながら落ち葉の上を歩き、少しハードでしたが素敵な山行でした。A班はゆっくり歩いたので皆さんをお待たせしてしまいました。坂巻さんはじめ皆さんはさぞ気を揉まれたことでしょう。でも皆さんはあの日のひざしのように、あたたかいまなざしで待っていてくださいました。感謝しています。その後のバーベキューでは、馬のようにお肉や人参を頬張り

ました。あのおいしさの秘密はどこにあるのでしょうか。

また、A班の皆さん、不肖な私が余興を考えていなかったばかりに、大変お世話になりました。皆さんは100ワットの電球のようにパッとアイデアをひらめかせ、それが次々と出てくるのでびっくり。楽しかったです。今となってみれば、十二支全部やってみたかった。え?だめですか?他の班の余興もと〜っても楽しみました。有難うございました。



B班リーダー

矢野貞子

久方ぶりの山行で緊張ぎみでバスに乗ったら、B班リーダーをせよとのことで、あわててしまった。登りはC班の後を付いて歩けたが下りは先頭になってしまい緊張しました。



C班リーダー

矢野裕子

優しい先輩方にCL坂巻さんが加わり、C班は終始仲良く和やかな忘年山行でした。先頭を歩くにあたっては、美智子さん、藤倉さんが常にこっちな、これでいいねってアドバイスをしてくださり、瀬田さんは真ん中で前と後ろのバランスに気を配ってくださいました。また前々日には、余興のことが気になりメンバーの皆さんにメールをしたところ、力強く支持をいただき、音を携帯

に入れてきてくださったり、歌詞をプリントしてきてくださったり…さすが C 班です！登山中は先を急いでしまって全く練習時間を持ってませんが、ぶっつけ本番でテンポよく何とか合わせられたのは、みんなの気持ちが一つになっていたからだと思います。BBQ のたっぷり焼肉とホクホクかぼちゃも最高。私は今回、リーダーを承り、目標に向かって仲間と繋がる充実感を味わいました。どんな顔合わせになるか毎回わからないけど、いつも和気あいあい…にんげんていいな・岳人さんていいな…と。先輩の皆様ありがとうございました。1,358mは手強かった。



#### D班リーダー

本田愛子

初冬の旭山から達沢山は、この時期に登るのには一番いいかなと思う山でした。紅葉も終わり、落葉を踏みながら木々の間から遠く南アルプスの山々、八ヶ岳、奥秩父の山々が見え、近くには、甲府盆地の町並みを見下ろして歩く気持ちのいい山でした。旭山から達沢山までは幾つかのピークを越えるので、アップダウンがあって思っていたより長く感じられた。達沢山に着いた頃には予定時間がかなり遅れてしまった。長い林道を下ってバスに乗ったときは、ホッとしました。さすが山の会の皆さんは元気満々でバーベキュー会場に着くと、アツという間に準備してアツという間にパクパク食べて、各班ごとの余興もそれぞれに趣向を凝らした楽しいひと時の宴会になったと思います。チーフリーダーさんはいろいろ大変でしたが、何事もなく楽しい忘年山行が出来たことを感謝します。

#### A班 小川洋子

今年の初冬は比較的暖かな日と冷たい雨を伴った寒い日が交互にやってくる。しばらく雨と気温の低い日が続いた後、今日の忘年山行の日を迎えた。天気予報通りの暖かな、快晴。昨日までの雨が嘘のようだ。参加者 24 名を乗せ

たバスが我孫子を 5 時 30 分に出発。忘年山行と言えば房総や茨城方面が多かったが、今回は甲府、石和で車窓から見える景色もいつもとは違い都心を通り中央道に行く。早朝のため首都高も中央道も順調に進み、高層ビルを後にしてほどなく雪を被った真っ白な富士山が見えてくる。雲一つない青空に真っ白な富士山は一幅の絵を見るようだ。



春には桃の花でピンクに染まる甲府盆地も今は静かで、時折リンゴを収穫した後の白い覆い袋が風に揺れているのを見るだけだ。8 時 30 分嵐山釣り堀公園に着く。準備体操などを各班毎に行い、8 時 45 分に C 班を先頭に出発する。連絡をした所為か釣り堀公園の主人が釣り堀公園などを野生動物から守ってくれる柵の扉を開けてくれる。まだ山には鹿、イノシシなどが生息しているのだ。旭山は滅多に人が入らない山なのだろうか、私たちが山に入るのを知って、登山道に沿って白い紐を張り巡らせておいてくれた。

10 分ほど雑木林の中を歩くと嵐山寺に着く。それから 1 時間黄色い落ち葉を敷き詰めた広葉樹の雑木林を進むと 842m の旭山に到達する。道標の後ろには甲府盆地の市街地が広がる。季節柄葉を落とした草木のお蔭で進むことができるが、夏などは藪の中を進むことになるのだろう。ここから達沢山へは何度かの急な下りと登りを繰り返すことになる。広葉樹の落葉は滑りやすいので注意が必要だ。迂闊にもストックを忘れてきたので下りは特に神経を使う。それにしても登りはいつも急登だ。前日の雨のせいかな？気を付けないと登りでもよく滑る。葉を落とした木々の間から富士山が見え始める。河口湖から見る富士山とは角度が違う。新緑も深緑もよいけれど、木々を通して視界が広がるこの季節も捨てがたい。

山梨百名山の一つ、達沢山への登りはいつも急登だ。大きな岩が見えてきて山頂はもうすぐだと掛け声はかかるが、急登の次にまた急登と続く。広葉樹の枯葉を踏みしめながら左下に甲府盆地の街並みを右前方には南アルプスが見えてくる。

たどり着いた達沢山山頂（1358m）からは甲斐駒、鳳凰三山から北岳、農取岳とよく見え、みな冬の装いだ。12時30分。予定よりかなり遅れての到着だ。お腹を満たす余裕もなく間もなく出発。10分ぐらい下ると鞍部にでる。左に行けば京戸山だ。途中ブナとミズナラの合体巨木やヤマナシの古木に目を引かれる。しばらく続いた、開けた明るい下りから一転暗い針葉樹林帯の中を下ることになる。その暗さに慣れるまで足元に注意。暗さの中に差し込む日差しが強い。下りながらも杉やヒノキの落葉の絨毯は足にやさしい。これなら滑ることもなく怖がりの私にも安心だ。そのあと長い林道を歩いた後、林道入り口から採石場に出る。平日はトラックが行き交うのかもしれないが、今日は日曜日、静かだ。達沢バス停付近で待つバスに乗り、BQ会場となる御坂路さくら公園へ向かう。14時05分。

30分ほどで公園に着く。大きなさくらの木があり春には見事な花を咲かせるのだろう。鉄板も用意され、食担の持ち込んだ食材で早速班ごとにBQが始まる。みな手慣れたもので次々と焼きあがる。遅い昼食に待っていましたと、頬張る。一段落したら、班ごとの出し物発表会だ。我々の班は今年のウサギ年から来年の辰年へのバトンタッチセレモニー、来年も岳人あびこの、日本の、発展を期待して会を締めくくる。

素晴らしい晴天と暖かな中での山行を心行くまで楽しみ、お腹も十分満たされて16時20分バスに揺られ帰路に着く。我孫子着20時30分。C班Lの坂巻さん、A班Lの中村育子さん、他みなさんに感謝。

#### B班 矢野貞子

今年は病に襲われ、思うように山に行くことが出来なく残念だったので、今年の締め括として参加した。

バスを降りて釣り堀のおじさんの案内で登山口へ。「みんなが来るから、尾根までの道の枝を払って、途中までテープを張っておいたよ」との言葉のとおり寺の裏からテープが這わせてあった。尾根までのはっきりしない道のところどころに腰くらいの高さの枝を切った跡があった。切り口が鋭く危ないかなと思える物もあったが、それがあることで、分かりづらい登りも安心できた。尾根に出たら赤いテープが見え安心した。そこからは尾根道伝いに旭岳へ向かって行くのだが、登る人が少ないようで落葉にかくれたはっきりしない山道が続いた。踏み跡もはっきりしないので、道も荒らされておらず、きつい登りもそれ程難儀はしない。厚く積もった枯葉に足を取られ滑りやすい。

天気に恵まれ木々の間から大きく迫る富士山をはじめ、雪を被った白根三山、鳳凰三山、八ヶ岳、遠くに穂高連峰を見ることができた。

山を下りて頂いた焼肉（厚切りの牛肉）がおいしかったです。2期生の当番だったとのこと、ベテランさんはやっぱり手馴れていますよね。余興もそれぞれの班がし好を凝らし楽しかった。



右のとんがり甲斐駒ヶ岳、左、鳳凰三山

#### C班 瀬田 映子

忘年山行の前に、旭山～達沢山ルートをインターネットで検索したが、山行者はあまりいないらしく参考になる資料が見つからなかった。

当日は天候に恵まれ、中央高速のバス車窓から見える雪帽子をかぶった富士山にバスの中は歓声で何度もどよめいていた。7:40分サービスエリアでトイレタイム、この場所からは目の前に雪をかぶった雄大な景観の富士山が見られ、数名の人が何枚も写真を撮っていた。予定時間を20分過ぎたころ嵐山釣り堀公園に到着。40分遅れでグループごとに登山開始。釣り堀のおじさんが草木を伐採してくれ、テープをはりめぐらせておいてくれたので迷うことなく登れた。しかし出発地点の釣り堀から旭山の尾根に出るまでは登山者が少ないようで、踏み跡がほとんどなくルートがはっきりしなかった。紅葉も終わり、サクサクと落ち葉の音が心地よい。だが、旭山から達沢山まではいくつかのピークがあり、アップダウンの連続、又、落ち葉で滑りやすく、登山道には木の枝が張り出して行く手をさえぎり歩きにくく、辛かった。

尾根に出ると落葉した木々の間から遠くに雪をかぶった南アルプスの山並み、近くには甲府盆地の町並みが見通せて気持ちが良かった。又、落葉した木々の間から富士山が時々顔を出してくれ、疲れた体にパワーのシャワーを浴びせてくれた。

我々のグループの余興は（たぶん他のグループも同じだったと思うが）登山中の休憩時間に練習することになっていたが、思っていたよりハードな山で時間がなく、先を急いでいたために全く練習時間が持たなくて、ぶっつけ本番になった。達沢山に着いたころには予定時間がかなり遅れていた。長い林道を下って達沢バス停に13:40分に到着。それからバスに乗り御坂路さくら公園バーベキュー会場に14:30分に到着。予定時間では14:30分には食事を終え、帰りの出発時間になっていた。結局2時間遅れでバーベキュー開始となった。

到着後は食担さんのテキパキとした手馴れた準備で、高級なお肉と盛り沢山の野菜のバーベキューをすぐに始めることが出来た。時間がないのでグループの余興は中止との声もあったが、折角準備をしたこともあり、食事を取りながらの各グループの余興が始まった。

Aグループ 干支のウサギからタツにバトンタッチ。Bグループ 缶の塔倒し当て。Cグループ くまの子見ていた かくれんぼのお遊戯。Dグループ おかめとひよっここの御はやし

どのグループも手作りのお面・衣装・笛などを持ち込み、準備が大変だっただろうと思わせるような趣向を凝らした面白く、楽しいものでした。結局2:15分の予定だった食事と各グループ余興は1:30分で終了した。その後余韻を残しながら会場を後にした。

思ったよりハードで時間がかかり、駆け足の忘年山行でしたが何事もなく無事に終わり大変楽しい忘年山行でした。リーダーを始め食担のみなさん本当に有難うございました。

#### D班 末永三江子

我孫子を出発し、中央高速に入ると富士山が真っ白だ。なんてすばらしい。最近登山をしても富士山はみたことがなかった。何か得したような、運がよいような気がしてくる。

登山口は釣り堀の脇から始まった。落葉のジュータンを踏みしめながら、いきなり急な登り。気を抜くと後ろに倒れそう。リーダーより、この山の尾根に着いたら今日の出し物の説明をします、とのこと。今回の忘年山行は、4つの班に分かれて演芸会？私たちD班は笛に合わせて「おかめひよっこ」を踊る。手と足の基本動作を本田リーダーに教えていただく。15分ほどの説明だったが、それぞれに覚え、理解した様子だったが！

歩き始めると、南アルプス、北アルプス、八ヶ岳、中央アルプスなどの雪をかぶった山々が見えた。今日は風があるせいか空気が澄みきって、遠

くまで見渡せる。立ち止まると汗が冷えて寒い。反対側を見ると大きな富士山がある。富士の形をした鉄の上に雪が積もっているように見えたのは私だけなのではなかろうか。

旭山、達沢山と森林の中の頂上で写真撮影をして予定通りはるかに長い歩行。バスまでの林道。疲れ果てた気がした。

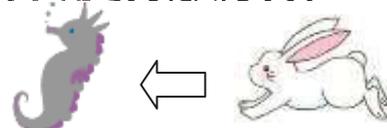
無事バスに乗車出来、さくら公園の会場へ。昼をとくに過ぎ腹ペコだ。この会の人たちは、はじめて来た会場で、誰も何も言わなくてもさっさと鉄板を運び、火をつけ、熱し、肉や野菜を並べる。その間にもビールで乾杯する。空腹の腹にビールがしみる。「どれもこれもうまい。最高だね。」山の話より食べ物の話で盛り上がる。お腹もふくれたところで出し物となる。D班は先頭をきって舞台へ。何も無いが、笛が鳴り始めると、おかめが出て、その後ひよっこが追う。そろったところで挨拶のはずが、ひよっこが手ぬぐいをプレゼントした後、やってないのでその後の動作をどんなふうに踊ったのかも記憶にない。「大失敗」と思いきや、見ていた観客から盛大な拍手をもらってひっこんだ。（どんな動作で踊っていたのかしら。何だか恥ずかしさでいっぱいでした。）

C班、B班、A班と出し物が続く。それぞれ色々考えてみんなを楽しませる気が満々なんだな～偉いね。すっかり酔って楽しい気分で見ている。そんなひと時も終わり、片づけが始まると、その手早さにも感心させられる。皆さんのおかげで今日一日、程よく疲れ、おいしいものを食べ、おしゃべりしてストレス解消の忘年山行でした。ご苦労様でした。

今年一年、私を色々な山へ案内していただいて有難うございました。また来年もよろしくお願い申し上げます。



干支のウサギからタツにバトンタッチ





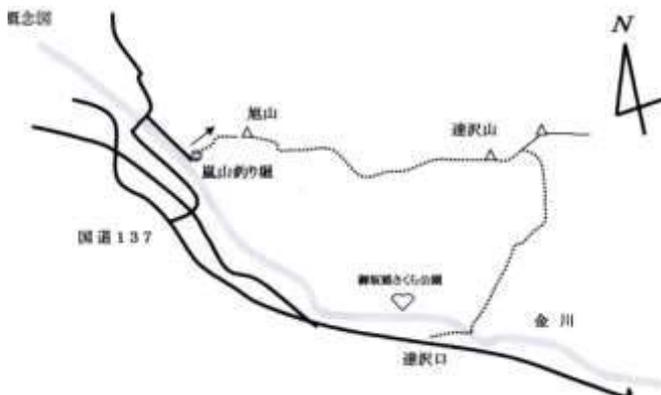
クマの子みていた  
かくれんぼ



この直後に缶の塔崩壊



お色気たっぷりでした。笛、よかった



概略

山名	旭山～達沢山		
月日	平成23年12月4日(日)		
山域	中央線沿線	地形図	1/25000 石和
形式	日帰り	グレード	2A
目的	忘年山行		
費用	4,350円	交通機関	貸切バス(中型)
行程	我孫子駅北口 5:35→柏IC→初狩PA→一宮御坂IC→上黒駒→嵐山釣り堀公園 8:20/ 8:40 ⇒旭山 9:40⇒達沢山 12:30⇒ナットウ箱山鞍部⇒達沢林道入口⇒達沢バス停 13:40→御坂路さくら公園B B Q 14:30/ 16:15→一宮御坂IC→(中央高速・圏央道)→柏IC→我孫子駅北口 20:30 < 歩行時間 4時間10分 >		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出発地点の嵐山釣り堀から旭山の尾根に出るまでは登山者が少ないようでルートがはっきりしない。又、嵐山釣り堀の敷地を通るので事前に問い合わせを入れ、了解を得た。</li> <li>・旭山から達沢山まで標識はない。尾根道は薄いながらも踏み跡を忠実に辿れば迷うことはない。</li> <li>・ナットウ箱山鞍部の分岐点には、R137と書かれた小さい標識があるが見落としそ。</li> <li>・下山道の半分以上は舗装されている達沢林道を歩くことになる。</li> </ul>		
参加者	A班 中村育(L)、武内(SL)、田村、小川誠、中村八、小川洋 B班 矢野貞(L)、村松敏(SL)、石垣、大島、榊原、桐生 C班 矢野裕(L)、中村隆(SL)、藤倉、瀬田、中村美、坂巻(CL) D班 本田(L)、高橋重(SL)、末永、原田和、高橋英、清家 男9名 女15名 計24名		

< 7 5 8 >

三峰山  
(935m)

北川勝久



まずは、本厚木駅前のバス停（7：50 発）から宮ヶ瀬行のバスで 40 分ほどで煤ヶ谷まで。天気はまずまずで登山日和である。

煤ヶ谷で下車して川沿いの緩い傾斜を歩いていく。少し歩いていくと三峰山への登山口があり、その坂道を登っていく。途中に正住禅寺がありここを過ぎると舗装路が終わり登山道となる。それ程、きつい登り坂ではないが、やはり登り始めは体が慣れるまでは少々しんどい。



とりあえず、物見峠を目指して右へ左へ行きながら登っていく。最近の登山ブームを反映してか、女性 2~3 名のパーティが多いようである。何組か先に行ってもらいながらゆっくりのペースで登って行く。驚いたことに、登って行くうちに雪道が出てきた。数日前に、降ったのだろうか？多

いところで 5~10 センチ程度の雪が残っている。登山道は整備されているが、斜面を多少削って、道をつけたようなところもあるので慎重を期して登って行く。約 1 時間程で、物見峠に到着。多少見にくいですが、東京方面にスカイツリーらしきものも？

少し休憩をしてから、山頂を目指して登って行く。ところどころ雪が残っているので慎重に。1 時間半程歩いて、山頂付近の核心部といえる岩場に。木のはしごと言うか木道がところどころ架かっているのだが、雪と氷のミックスの登りとなっておりで非常に危険な感じ。

軽アイゼンでもあれば何でもないが、四つん這い状態になって行ったり、木道を避けて、土道を行ったりでなんとか、危険個所と思われるところを通過。

で、やっとメインである南峰に到着する。12：00 頃。山頂には、結構な人がいて、昼食をとったり休憩をしていたり思い思いに過ごしている。残念なことにこの頂上は展望があまり良くないが、写真を撮ってもらい、我々も昼食とする。



頂上付近は占領されていたので、足場は多少悪いが、山頂から多少はずれたところで各自昼食をとる。30 分程休憩して下山にかかる。ゆっくりペースで下って行く。下って行くに従い沢沿いの道となっていく。1 時間半程で不動尻キャンプ場に到着。時間がこの時点で 14：00 を過ぎていたので、当初の予定であった鐘ヶ岳は帰宅時間を考えてパスすることにした。

不動尻キャンプ場から舗装路を下って広沢寺温泉を過ぎ、河鹿の沢バス停に 15：00 過ぎ頃到着。非常にタイミングの良いことに、丁度バスが来た。このバスに乗って本厚木まで。

本厚木には、16：00 頃に到着。早速、打ち上げ場所を探す。年末でもあり、忘年会もかねての楽しい打ち上げとなる。

今回の山行は、天気にも恵まれ、また、予期せぬ雪道を歩くことができたこと、危険な感じの岩場の通過などもあり、標高はそれ程高くはないが、非常に楽しむことができた山行であった。



概念図



概要

山名	三峰山		
月日	平成 23 年 12 月 11 日 (日)		
山城	東丹沢	地形図	1/25000 厚木・大山
形式	日帰り	グレード	2 B

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>青山さんの定例山行を代行する</li> <li>丹沢の晩秋の山を歩く</li> </ul>		
費用	約 3300 円	交通機関	電車、バス
行程	<p>我孫子駅 5:33(千代田線)→代々木上原駅 6:40/6:46(小田急線)→本厚木駅 7:31/7:50(バス) →煤ヶ谷バス停 8:25/8:30⇒物見峠 10:10/10:20⇒北峰 12:02⇒南峰(三峰山山頂)12:10/12:35(昼食)⇒不動尻キャンプ場 14:08/14:15⇒山ノ神トンネル 14:35⇒河鹿の沢バス停 15:10/15:11(バス)→本厚木駅 15:55/18:46(小田急線)→相模大野駅 18:56/18:59→代々木上原駅 19:34/19:36→我孫子駅着 20:43</p> <p style="text-align: right;">&lt;歩行時間：5 時間 45 分&gt;</p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>煤ヶ谷バス停で下車したら、すぐ左折して川沿いの道に行く。間もなく二股に別れ、右手の坂道が三峰山の登山口。坂の途中右手に正住禅寺がある。</li> <li>物見峠への分岐には木製のテーブルが置かれてある。左手へ近道して行けば、山ノ神に着く。右手をとれば、山壁に沿って平坦な道を長時間歩くことになる。私たちは後者を選んだ。この辺りから登山道や林の斜面に雪が出てきた。多い所では 5~6cm の積雪。</li> <li>三峰山は北峰、中峰、南峰の 3 つの峰からなり、尾根は狭いナイフリッジになっている。危険箇所の立て看板が目立った。</li> <li>北峰へは、階段状の坂を 100mほど一気に登る。山頂部に休憩場所はなく、「北峰」と書かれた小さな標識が木に打ち付けられてあるのみ。</li> <li>北峰からはハシゴや鎖場が続く。霜や雪が張り付いていなければ難く渡れるが、折からの積雪がハシゴに付着し、解けずに凍り付いて非常に危険な状態になっていた。何故か頼みの鎖は足首の高さに張られ、使用不可能。鎖が設置されていない平坦なハシゴもある。ハシゴというより、橋ととらえるべきか。</li> <li>中峰は小さなピーク。南峰が三峰山の最高峰で三角点がある。南峰の下りもハシゴと鎖が登場するが、南面のため雪なし。積雪期にはルートを北峰の方から登り、南峰から不動尻方面に下ると楽かも。</li> <li>不動尻キャンプ場を下る沢沿いの道は、ぬかるんでいる上に狭いため、左下の沢に転げ落ちないように要注意。</li> </ul>		
参加者	外崎(L)、村松(SL)、北川、原田和、小川誠、箕輪カ、箕輪完、新谷、郷田 男 6 名 女 3 名 計 9 名		

<759>クリスマス山行

日光白根山  
(2578m)

田村光子

### ホワイトクリスマス

1日目 12月17日(土) 曇のち雪

私の勘違いで成田線を1本早いのに乗ってしまい、誰にも会わず不安になり、改めて計画書を見直し間違いに気付き、我孫子駅で皆を待つことになってしまった。

上野駅から新幹線で高崎駅まで行き、乗り換えて沼田駅に向かう。沼田駅に近づくにつれて辺りが白くなり、雪がちらついていた。駅前からジャンボタクシーと小型タクシーの2台で丸沼スキー場に向かう。途中酒屋でポジョレヌーボを2本買い、お金を払って外に出ると2台ともタクシーは行ってしまい、私はワインと入れ替わって、置いてきぼりをくってしまいました。携帯電話があるのですぐに連絡を取ることができ、タクシーが迎えに来てくれて、笑い話で済むことができました。



早朝に降った雪で、峠付近ではスリップしている車やチェーンを付ける車などがあり、スキー場までは時間が掛かってしまった。山頂駅までロープウェイで一気に登り、身支度をし、神社で登山の安全祈願をして、七色平をめざし出発する。トレースの後を交代しながら進んでいった。山全体がクリスマスツリーで覆われているようで、素晴らしい雪景色に出会えて、寒さも気にならずに到着する。名前の通り平らで、皆で一列になり雪を踏み固めてテント場作りをし、テント設営をする。



人数が多いため、テント内では炊事及び食事をするには狭く、200m程先の荒廃した避難小屋に皆で移動した。小屋は底冷えがする寒さで、置いてきぼりの原因になったワインで乾杯し、外崎様のサプライズで思いがけず雪山でクリスマスケーキを食べる事ができました。余りの寒さにじっとしてられず立ったり座ったりしていたが、食担の人がシチューを作ってくれて、いくらか体があたたまりました。プレゼント交換はテントに戻ってからすることにして、早々に小屋を後にし



用意されたクリスマスケーキ



避難小屋の窓ガラス



カンパニー！

ました。テントの温かさにホットし、歌に合わせてプレゼントを交換し、それぞれのテントに引き上げました。8時頃にはシラフの中に入ったが、寒さで何回も目が覚めてしまいました。

2日目 12月18日(日) 雪

それぞれのテントで朝食を済ませ、6時に出発予定であったが、雪が降っていたので6時半に変更となる。夜中も降っていたので、木に積もった雪も重そうである。アイゼンを付け、昨日と同じように順番にラッセルしながら進んだが、私の番になってうまくラッセルすることができずに足が埋まってしまい、すぐに北川様が変わってくれて、見事なラッセルで道を作ってくれました。多い所では腰のあたりまで雪が積もっていました。武内様と北川様のラッセルのおかげで、2時間ぐらいで9合目付近まで行くことが出来ました。風が強く、吹雪いていて寒く、頂上に行くのをやめ

概念図



て写真を撮り、下山しました。下山は道も付いているので歩きやすく、樹林帯に入ると風もなく、周りの景色を見る余裕もでき、1時間でテント場に戻ってきました。アイゼンを外し、テントを撤収する時には雪がかなり降っていて、リュックが白くなってしまった。

昨日と同じ登山道を下山したが、雪はかなり積もって木などは垂れ下がっていた。ロープウェイの山頂駅にはボードやスキーをする若者で賑わっていて、われわれは場違いのようであった。スキー場内の温泉に入り、冷えた体を温めほっとした。タクシーで沼田駅に向かう途中は道路には雪がなく晴れていた。沼田駅で反省会をし、北川様とは高崎駅で別れ、

我々も帰路について。寒くて雪山はもういいと思っていたが、素晴らしい雪景色を見るとまた行ってもいいかと思ってしまう。本当に皆様にはお世話になり、ありがとうございました。

帰りの常磐線で松戸駅に着いた時、老人が突然倒れ、駅員に抱えられて下りられましたが、大事に至らなければと思いつつ我孫子に帰ってきました。今回は私にとって、いろいろハプニングがあった山行でした。



寒さに震えながら



本日限りの日光白根山頂(2420m)

概要

山名	日光白根山		
月日	平成 23 年 12 月 17 日～18 日		
山城	奥日光	地形図	1/25000 丸沼、男体山
形式	テント	グレード	3D
目的	1. 美しくも厳しい雪山への挑戦。 2. 雪と氷の技術の習得。 3. 恒例クリスマスを雪のテント内で祝う。 4. 雪上でのテント生活を体験する。		
費用	15,000 円	交通機関	JR, タクシー
日程	1日目 我孫子駅発 6:28→上野駅 7:01/7:14 (新幹線) →高崎駅 8:08/8:24(上越線)→沼田駅 9:11/9:20(タクシー)→丸沼高原スキー場 10:40/11:00(ロープウェイ)→山頂駅 11:10/11:50⇒七色平避難小屋付近着 13:10 BC (テント) 設営		

2日目	<p>テント場 (BC) 発 6:50⇒日光白根山 9 合目 (2420m付近) 8:50/9:00⇒テント場 (BC) テント撤収 10:10/10:55⇒山頂駅 11:50 (ロープウェイ) →12:00/13:30→ (丸沼高原スキー場レストハウス内で入浴) →沼田駅 14:35/16:05 (上越線) →高崎駅 16:50/17:26 (快速アーバン) 上野駅→我孫子着 19:50</p>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>山頂駅迄のロープウェイの運行状況が決まらず、(スキー場の他のリフトは運行していた) 一時は菅沼登山口からの入山をすべく覚悟を決めたが、前日 (16 日) 14 時頃ホームページで 17 日からシーズン始まるの運転が決まりほっとする。</li> <li>沼田方面に早朝に降った雪は辺り一面真っ白に覆っていた。突然 (?) の雪で椎坂峠付近ではスリップしている車、チェーンを付ける車等あり、スキー場迄は予想以上時間が掛かる。</li> <li>スキー場レストハウスから山頂駅迄のロープウェイは一気に標高 2,000m迄運んでくれる。料金は往復 1,200 円</li> <li>山頂駅からは二荒山神社の鳥居 (湖畔の二荒山と関係があるのだろうか) の脇から登山道に入る。雪は 20~30cm程。</li> <li>新雪に付けられたトレースの後を忠実に辿ると七色平に着く。名の通り平らな地形にテントを設営する。</li> <li>200m程先に避難小屋があるが荒廃していて使うには勇気がいる。但し 10 名の多人数が炊事及び食事するにはテントでは狭くて (ダンロップ 5~6 人用) 危険を伴うため、我々は此処に勇気を持って移動。</li> <li>翌朝、南面の樹林帯コースから小雪の降る中を山頂を目指す。トレースは途中までであるが、中途からなくなり、深い新雪の登山道が続く。</li> <li>吹きだまりは 1m近くの雪が有り、トップは厳しいラッセルを強いられる。標高が上がるにつれて、雪交じりの風が強まる。</li> <li>森林限界を越えて稜線に出ると風は益々強くなり、肌を刺すような冷たさで襲ってくる。</li> <li>標高約 2420m地点で視界も悪く、風、雪も益々厳しくなり登頂を断念して引き返す。</li> <li>素早くテント撤収の後、ロープウェイの山頂駅に戻る。</li> </ul>
参加者	<p>村松(L)、外崎(SL)、武内、北川、田村 桐生、瀬田、高橋重、本田、矢野裕 男4名、女6名、計10名</p>

<760>BOM 研修

日光高山  
(1668m)

やまたんより転載

CLのコメント

高橋重

1. 用具の使い方、歩行に関して、雪山の技術に関して

- ①上記3項は、知っていれば「想定外」とはならない点を考慮し、まずまずの天候の中、表面的ではあるがひととおりの「雪山の体験」を行った。村松さんはじめ多くのリーダー・サブリーダーのご尽力で、ある程度「雪山の厳しさ」を体験し、研修成果は得られのではないだろうか？
- ②用具装着時、歩行時のトラブルなどを見ると、事前練習して来たのだろうが、参加の姿勢に物足りなさを感じた。雪山は真剣勝負との緊張感を持って取り組んで欲しかった。
- ③雪中での落とし物（地図）、装備の紛失については、個人に取って致命的になること、その結果パーティー全体が事故に向う可能性が高まることを、今後は充分意識していただけるだろう。
- ④メンバーの疲労に対して現場での対策は取れたが、適度な休憩や食事摂取が出来たのかは疑問。疲労の原因が低温・風による体力の消耗、低血糖や体力の衰えによるものとの意識を、メンバー全員が持つことが重要であろう。
- ⑤ルート上の情報（黄テープ）や、急斜面の足の置き方にはメンバーがかなり注意を払っていた。
- ⑥雪が硬い、急な斜面が無かったため、滑落停止やロープワークは出来なかった。

2. まとめ（リーダーとして）

- ①雪山では小さなトラブルが、パーティー全体に大きなダメージを与える結果となることをメンバーは実感したと思う。夏のトムラウシで起きた事故などは「雪山ではいつでも、どこでもすぐに起こる」と肝に銘じる必要がある。
- ②知識や技術が生死を分ける厳しい世界「危険に身を置く」との研修時の話が伝わっていなかったことは、伝えてないのと同じだった。反省が必要と感じる。
- ③「想定外」のバス事故、我孫子までどう戻るか対応に苦戦したが、全員無事に柏まで戻れた。いろは坂で排気ブレーキ・クラッチが壊れていたらと思うとぞっとする。6月のミズガキ山、

金峰山でも交通機関トラブルがあったと言うが、移動時の事故も想定しておく必要がある。

- ④次に出掛けるであろう雪山では、いつも本番の意識を持ち、自己責任ですべて行える「自立した登山者」になることを期待している。“親父の小言は後から効いてくる”



アイゼン装着

研修参加者の感想

郷田進

初めての雪山山行で、机上研修から実山行まで、大変貴重な研修ができました。（感謝）特に、アイゼン歩行とピッケル取扱い方、手袋の扱い方、わかんの扱い方、ルート情報、行動食の内容等など大変勉強になりました。全ては基礎が重要と認識しています。本研修で得た知識・経験を基礎に、次回は更に向上を目指したいと思えます。ご指導本当にありがとうございました。

桐生恭子

雪山研修でしたが、私も含めて（ザックの中のものがどこにあるかわからない！すみませんでした。）装備の着用に時間がかかり過ぎると思えました。言われた時間内で何でも準備をしなくてはだめですね。今回は天候に恵まれていましたが、吹雪の中でぐずぐずしては、遭難してしまいます。雪山の楽しさと厳しさを勉強させてもらいました。



耐風姿勢

中村育子

日光高山山行では大変お世話になりました。山行に参加できたことをうれしく思います。リーダーの皆様にはご指導いただきましたことに本当に感謝申し上げます。特に重さんにはたくさんのことを教わりました。まずは雪山山行に対する心構えを教えてくださいました。肝に銘じておこうと思います。また、耐風や滑落防止時の姿勢も、勉強になりました。当日必要な装備品の借り出しから返却にいたるまですべてお世話になりました。ピッケル、アイゼンの技術習得にはまだまだ訓練が必要だと実感しています。六本爪のアイゼンは履きにくいように思いますが、慣れればいいのでしょうか。

さらに、昨日、我孫子駅の電車出発の間際に、あわててピッケルを重さんをお願いしてしまい、本当に申し訳ありませんでした。最後までご面倒をおかけしてしまいました。

矢野裕子

今日も最後に歩いた白樺林の雪原など、本当に美しく、目に焼き付いています。でも、手袋ひとつ、一步の油断、道具の取り扱いなど…些細なことが雪山では命の危険につながる。そのことを繰り返し教わり、身の引き締まる思いです。また、氷点下の世界で風に吹かれる冷たさ、立ち止まる怖さなども少しだけ体感し、机上研修からの流れは有意義で大変わかりやすかったです。

私は雪も寒さもとても怖いけれども、行くたびに厳しさの中にある深い魅力を見てしまいます。それに何より、みんなと行くのは楽しい。またチャンスがあったら、無理のない範囲で雪山へ出かけたいです。

矢野貞子

久方ぶりの楽しい雪山でした。忘れていた、道具の使い方を一つ一つ確認できました。また、行きたいと思えるような山行でした。しかしながら少し気になることがあったので研修生の身ですが、あえて書かせて頂きます。

今回は研修だったことを差し引いても、参加者の皆さんの雪山に立ち向かう姿勢があまりに安易だと感じたことです。アイゼン、ワカンを付けるのに、講師が跪いて面倒を見ていましたがこれはやりすぎだと思います。机上でもしくは付ける前の説明で現場では最後まで自分で付けるべきです。その為の事前研修があったはずですが、時間もかかりすぎています。

今回は天候もさほどではなかったから幸いでしたが、最長でも10分で着脱して行動に移すようにしたいと思います。30分位もたもたしていたら、雪山では体が冷えて来て次にまた問題が生じてしまいます。村松さんの注意を皆さんが真剣

に受け止め、次の雪山では緊張感を持った山行にしたいと思いました。

瀬田映子

①用具の使い方については良く理解できた。②雪山の歩行については、机上研修での勉強がよく理解できた。③雪山の技術に関して (a) 確保技術について理解できなかった。(b) 滑落停止、耐風姿勢についてはもう少し実践する時間が欲しかった。

小川誠二郎

登りでバテて皆様に荷物を持っていただいた。最終歩行で、バテて糖分・水分摂取・小股歩行・深呼吸のご指導をいただいた。

上記、雪山の忘れがたい勉強をさせていただきました。ご迷惑をお掛けしたことを深く反省し、申し訳なく思いますとともに厚く厚く御礼申し上げます。

藤倉貞江

私自身アイゼンの着けかたを練習はしていたが、実際は間違っていたので、皆に迷惑を掛けてしまった。手袋、ストックを風に飛ばされないように注意すること、実際にあったので良い経験をしました。ストックの使い方を少しは出来るようになったかな。

本田愛子

今回の雪山研修での日光高山は厳しいところも無く、歩行時間も丁度良く、BOMの初めての訓練には良い山だと思います。滑落停止はピッケルで、その場で形だけは行ったが、実際に滑落してみても、安全な場所でやってみたかった(本当に止められるか不安なので)

新谷直恵

どんなところでアイゼンを着けたらいいか、はずしたらいいか、個人判断は難しいと思いました。

末永三江子

机上研修に出席しておらずの雪山研修でしたが、頼れる講師と仲間がいたので心配はありませんでした。雪が深い所は足が取られ転倒もありました。机上での研修も大切であり、実際に行くと、知らないことが多すぎて分からないことだらけでした。その時の実技で分かったようでも、忘れてしまうので定期的に来たら実になるでしょう。



ワカン装着

## 概要

山名	日光高山		
月日	平成 24 年 1 月 15 日(日)		
山城	日光	地形図	1/25000 男体山
形式	日帰り	グレード	2 B
目的	BOM (雪山の体験)		
費用	5,000 円	交通機関	貸切バス・タクシー・電車
行程	<p>我孫子 5:40(貸切バス)→佐野 SA7:05/7:20→竜頭の滝上 9:20/9:35⇒1,600m 地点 10:35/11:00(アイゼン装着)⇒高山 12:00/12:30(昼食)⇒熊窪先の北東分岐 13:30/13:55(脱アイゼン・ワカン装着)⇒柳沢林道 14:30/14:40⇒石楠花橋 15:05/15:10(貸切バス)→バス故障 16:00/バス下車 16:35(タクシー)→東武日光駅 16:50/18:41→今市 18:50/18:52→春日部 20:01/20:08→柏 20:48→我孫子</p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竜頭の滝～1506m 鞍部までは積雪 15cm ほど。トレースもありツボ足歩行をした。</li> <li>・高山との鞍部手前で歩行訓練のためアイゼン装着。ここから稜線、雪は少し減る。途中でアイゼンが外れ、付直しの際、風に飛ばされた手袋を回収する場面があった。</li> <li>・高山への登りは積雪 20cm ほど。山頂には三等三角点があり、雪は飛ばされている</li> <li>・箇所、吹溜りの箇所など様々。昼食を 25 分、講習を 5 分行う。</li> <li>・熊窪分岐までは急斜面のトラバースやジグザグの下り。鎖も数箇所付いている。標識は殆ど無いが黄テープがついている。この間は注意が必要。</li> <li>・熊窪分岐からは小田代ヶ原方面(北側)に下るので雪も 30cm 程と多くなり、トレースも無くなった。大きなダケカンパの下で、アイゼンを外し 6 人がワカンを装着した。ワカン以外の後続組はサラサラ雪のため歩きにくい。雪も降って来る。</li> <li>・柳沢林道で通り掛かりの車に、疲労メンバー 1 名を乗せて貰い赤沼茶屋に送り届けていただくよう依頼。石楠花橋手前でバスドライバーに連絡し、バス到着と同時にバスに乗車した。今日出会った登山者は 1 名のみ。シカの柵はあったが鹿にも会わぬ、静かな山行だった。</li> <li>・いろは坂の最後「ん」のカーブを過ぎて、馬返し手前までの間にバスが 2 回程ノッキング状態となった。馬返しでトイレに寄った時には排気ブレーキが効かないと言う。ギヤを落として細尾入口(細尾大谷橋)まで何とか走行するが、ここでクラッチが効かず走行不能となる。自力走行できないので 16:20 サンエイタクシーを呼び 16:35 東武日光に向う。</li> </ul>		
参加者	<p>A 班:村松(全体指導)、外崎(L)、桐生(SL)、小川誠、矢野貞、瀬田、本田、 B 班:武内(L)、田村(SL)、藤倉、矢野裕、中村育、末永、郷田、高橋重(CL) 男 5 名 女 10 名 計 15 名</p>		

## 概念図



竜頭の滝上 男体山を背後に出発



慎重に！



美しい白樺林



日光高山頂上ジャスト12時



昼食

もういやだ 雪山なんて  
また来たよ▼



オイラン歩き隊



< 7 6 1 >

大蔵高丸  
(1781m)

末永三江子

雪の富士が裾野まで広がって

甲斐大和駅からタクシーに乗り登山口近くまで行けるはずだったが、思いのほか雪が多く、神社の前でタクシーを降りて歩き始めた。解けた雪が凍ってツルツル滑る。「なんて危ないんだろう」。それでも転ぶ人は誰もいない。登山口へ着いた。もうそこは白一色。千葉では見たこともない深い雪。ツボ足で歩いても何故か足が沈んで歩きづらい。50～60cmは積もっている。歩きづらいのに熊笹が前を遮る。顔に直撃して、頬が痛い。沢沿いの道では沢の流れているその上に薄い氷が張っていた。それがまた不思議な模様を作っていて色白い。落ちたら自分もまた凍ってしまいそう。

小屋が見えてきた。約半分の行程時間だったのでココでゴールかと思ったら、まだ上に行くという。(行くの?)と心で叫んだ。



湯ノ沢峠  
避難小屋

30分で食事を済ませるとさっきののだるい気持ちが悪転して、元気になった。湯ノ沢峠にさしかかると天気は晴れて青い空だが寒風に吹かれ凍るほどの寒さに見舞われたため全員衣服調整を行う。前回の雪山で教わったように風に飛ばされないために小物はポケットに入れる。全員風が通らないものに着替え出発。「ここから1時間くらいかな」とリーダーが言った。「う～」と思った。

少し下って又上に行き歩いてゆくと大きな富士山が見えた。そこから10分もかからずに大蔵高丸山に到着。富士が裾野まで広げた前で写真撮影をしておしゃべり。楽しい。来て良かった。



大蔵高丸山頂 後ろは白谷ヶ丸

下山は時間がかかりすぎたということで来た道に戻る事となる。みんなで踏み固めた道をそのまま降りたが、沢沿いでほんの少しの道の隙間で足を滑らせてしまった。120cmくらい滑ったところで止まった。掴むところがなく自分ではどうしようもない。「助けて」といったが誰も助けてくれない。その時間の長いこと。リーダーの指示で私の前を歩いていた瀬田さんに声がかかりあげてもらった。(怖かった。心が凍りそうでした。)傷もなく無事でよかった。皆と同じところに足を乗せたのに、私だけが滑って落ちるなんて歩き方に問題あり?気分を変えて歩くと熊笹がジャマをした。ゲートまで長かった。5分休憩後、凍った道を神社まで歩いた。「アイゼン付ける?」と聞くと「このくらい大丈夫」と言っていたので歩いていると2度転んだ。「やっぱり歩き方に問題あり?」とリーダーに聞くと「慣れだよ」といわれた。「アイゼン付けるのも自分の判断だよ」と、誰かが言った。この身体は自分のものだから無理せず使えば痛い思いをせずに済んだものと反省。一人では絶対行かない。皆と一緒にこんな経験も出来た。感謝。ありがとうございました。



冬枯れと深雪  
の大菩薩南嶺  
からの富士  
←



## 概要

山名	大倉高丸		
月日	平成24年2月4日(土)		
山城	大菩薩	地形図	1/25000 笹子
形式	日帰り	グレード	3B
目的	冬枯れの南大菩薩		
費用	約5,000円 (反省会費用除)	交通機関	JR、タクシー
行程	我孫子駅 5:33→新松戸 5:46/5:50→西国分寺駅 6:46/6:55→高尾 7:22/7:26→甲斐大和駅 8:34/8:45→龍王宮 9:00/9:05→焼山沢林道ゲート 9:20/9:45→湯ノ沢峠登山口 10:25/10:35→湯ノ沢峠 11:50/12:15→お花畑 12:30/12:35→大蔵高丸 13:20/13:40→湯ノ沢峠 14:25/14:40→焼山沢林道 15:40/15:45→龍王宮 16:35/16:40→甲斐大和駅 16:55/17:01→高尾 18:20/19:39→西国分寺 20:01/20:12→我孫子 21:29 < 歩行時間 5時間45分 >		

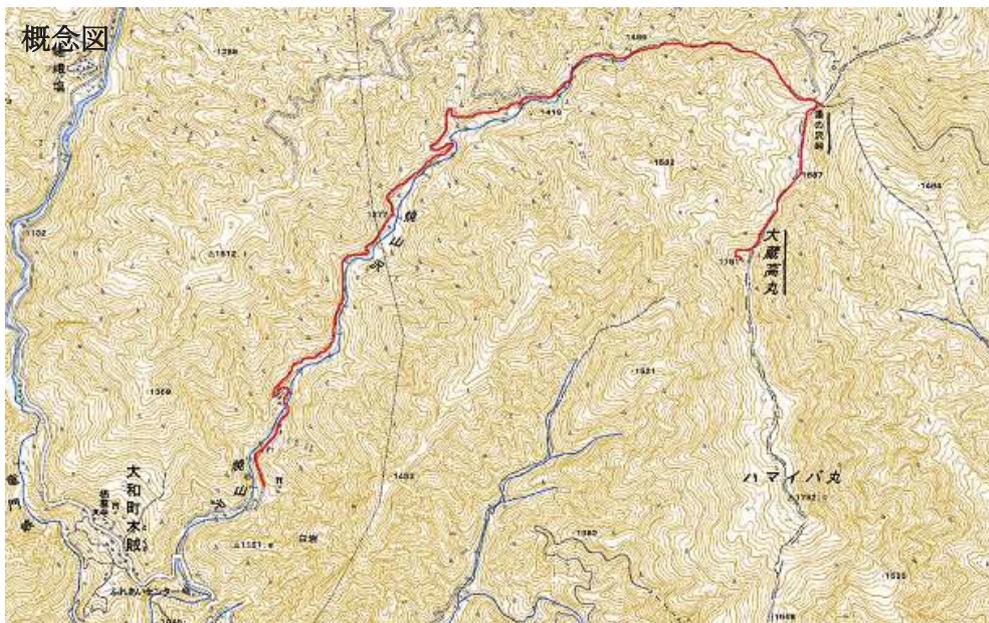
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車は23日の南岸低気圧による降雪のためゲート手前の龍王宮までしか入らず。</li> <li>・湯ノ沢峠登山口は立派な標識がある。峠までは柳小場沢右岸に行くが、岩に張った氷、積もったサラサラ雪のため踏ん張りが利かず歩きにくい。</li> <li>・湯ノ沢峠避難小屋は電気も布団もあり、泊まるには快適そうだ。</li> <li>・峠から南の1687m付近は風が吹き抜け、プレーカブルクラストしている。踏み抜くので歩き難い。新緑、花の季節には快適そうな場所だ。</li> <li>・大倉高丸への登りは地図では読めない Zig Zag の登りで時間がかかる。</li> <li>・山頂の南側は大きく開けており、展望が良い。ここから先は積雪が多いと、目印が少ないので苦労するだろう。</li> </ul>
参加者	高橋重(L)、桐生(SL)、外崎、村松、瀬田、本田、坂巻、矢野裕、菊地、末永、郷田 男5名 女6名 計11名



冬枯れの大倉高丸



←大倉高丸山頂  
 「山頂で富士山をみた途端、雪山なんて..なんてステキなんだろう。また行くわ!! 疲れなんか風とともに何処かにいっちゃった!!」



< 7 6 2 >

## 大塚山～御岳山～日の出山 (920m)(929m)(902m)

原田和昭

### 一年の安全登山と健康祈願

平成 24 年になって定例山行に始めて参加する。今回の参加者は珍しく女性より男性が多い。一年で一番寒い時期に参加するのは勇気が必要だ。家に居れば暖かくて楽なのに何で寒い山に登るのか不思議に思う。天気は晴れたり曇ったりで雨の心配は無い。

古里駅に定刻到着、各自で準備運動して登山開始。駅前の奥多摩街道に出て信号機をわたり、吉野街道に入り多摩川に架かる万世橋を渡って約 10 分先を右折すると御岳山道入口がある。ここから急坂が始まる。地元の人達が良く手入れした飯盛杉の中を登るのは気分爽快である。真冬の冷たい空気の中で身体全体に汗をかいてくる。約 1 時間 10 分登ると枝尾根に出る。一面は真白い新雪で美しい。尾根の南西方面に白く冠雪した大きな富士山の展望に歓声が上がる。

ここからは 2～3 センチ積もった新雪を踏みしめて快適に尾根道を歩く。踏み跡も無い静かで他の登山者とも出会うことも無い。電波塔の施設を過ぎて左に大きな避難小屋がある。その横を通り抜けて円形状の大塚山に到着。

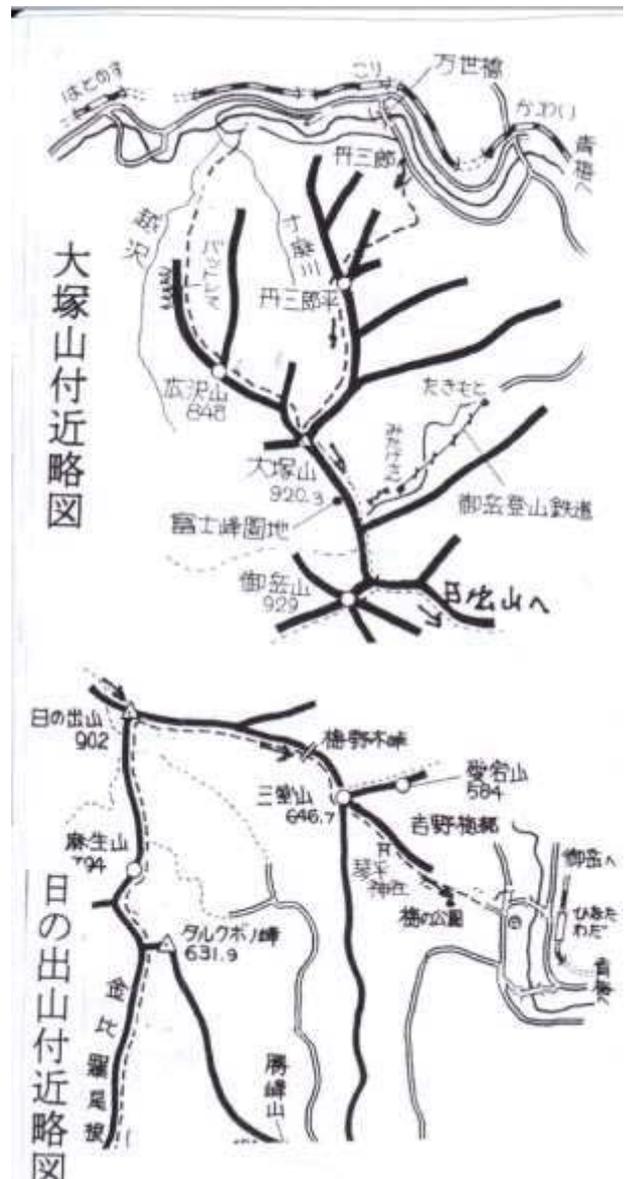
一本入れた後、尾根道を南東に御岳山の宿泊施設やお寺などの集落に出た。樹齢 4 千年の歴史と貫録の有る「みたけ櫓」の横を通り、朱塗りの随神門をくぐり、整備された御影石の階段を上る。この階段は急坂で長く、厳しく苦しい。やっとの思いで頂上の御岳神社に到着。今年の安全登山と健康を祈願して登山目的をはたす。茶店で昼食した後、日の出山に向かうがルートは整備されて登山者もいたので安全に歩ける。日の出山の頂上には登山者が多くいた。山頂からの展望は奥多摩や丹沢の山々、武蔵野平野の展望を楽しんだ後下山開始する。

今回の下山コースは急坂で長距離、その上に積雪が有るので滑り易いので注意しながら下山する。途中でアイゼンを装着して安全確保を図る。梅の木峠まで下山すると雪も無くなり精神的に楽になる。峠から吉野梅郷方面に降りる

道を慎重に下山、琴平神社の裏を抜けてゴルフ場の横に降りる。もう少し行くと梅の公園に下山するが梅の花は咲いていない。地元の人がテントの中にいたので開花状況を尋ねたら、今年は寒くて 2 週間位遅れているとのことでした。

市街地の中を通り抜けて日向和田駅に到着。自然環境の厳しい長いコースを全員が無事に完歩することが出来て安堵する。青梅駅で途中下車し、寒くて長い一日の反省会を楽しんで帰路に着く。ありがとうございました。

### 概念図



## 概要

山名	大塚山～御岳山～日の出山		
月日	平成24年2月18日(土)		
山城	奥多摩	地形図	1/25000 武蔵御岳
形式	日帰り	グレード	2A
目的	1. 今年、一年の無事と健康を祈る 2. 展望豊かな山頂で一年の願を掛ける。		
費用	約3000円	交通機関	JR
行程	我孫子駅発 5:33→新松戸駅 5:51→西国分寺駅 6:55→立川駅 7:00/7:15→古里駅 8:19/8:30⇒大塚山 10:40/10:48⇒御岳山 11:30/12:15⇒日の出山 13:04/13:10⇒梅の木峠 14:20⇒日向和田駅 15:25→青梅駅 15:55/18:00→立川駅 18:48/18:54→西国分寺駅経由→我孫子駅 20:21 晴く歩行時間5時間56分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的に道標がしっかりして迷うことはない。それよりも多すぎる事の方が心配だ。</li> <li>標高が上がるにつれ、雪は2~3cm位か、大塚山の山頂には休憩舎があり悪天時には良い避難場所になる。対岸の川苔山、本仁田山が大きな山容を見せてくれた。</li> </ul>		
参加者	村松 (L)、外崎、中村隆、原田、箕輪完 本田、菊池 男5名、女2名、計7名		



最小の経費で何を願ったのかなあ ↑



お控えなすって…?



雪の混じる静かな登山道



< 7 6 3 > BOM 研修

陣馬山  
(857m)

やまたんより転載

登山の基礎講座  
(BASIC STUDY OF MOUNTAIN)  
終わる

23年1月の定例集会にて登山の基礎講座の受講者の募集をしたところ、多くの応募者が有り、4月より研修開始し、月1回計11回の研修を重ねて、この2月の陣馬山卒業山行を最後に無事終了しました。一年間、協力していただいた講師の方、及び熱心に受講して安全登山の基礎を学んだ受講者の皆さん、お疲れ様でした。特に受講者の皆さんはこの講座で学んだことを活かして今後の登山を楽しんで下さい。

【A班】

1. 予定コース

藤野駅→寺外戸バス停→一ノ尾根→陣馬山→  
栃尾尾根→西沢林道入口→藤野駅

2. ルートの状況

- ・バス停寺外戸で降り、一ノ尾根へ取り付くルートを探す。コンクリートで固められた崖が一カ所開いていて細い道が続いているので登ってみると、たしかに墓地があり、ここが起点であることを確認。
- ・だが、お墓の裏を見回しても道らしき道が見当たらず、とりあえずヤブの中を尾根に向かって登り始めるが、「これは道ではない」と、メンバーたち。付近をしばらくウロウロ探索の結果、少し戻って道らしき道を発見し、そこから登り始めるが、途中で道は再びなくなる。だが尾根沿いであることは確かなので、しばらくヤブの中を濡れた落ち葉を踏みながら登攀。上を見上げると一ノ尾根に続く道であることが確信できたため、ひたすら登る。
- ・小一時間で一ノ尾根に出た。汗をぬぐい、一休みしていると、下から2班のメンバーたちも尾根に着いたたようで賑やかな声が聞こえる。
- ・風花が舞い始め、一ノ尾根の道は次第に白くなる。天気は晴れの予報だったが、厚い雲は晴れず、山頂は雪模様だった。山頂のテーブルに薄く積もった雪を払い、昼食をとる。講師の高橋重さんが卒業記念にと桜茶を全員に振る舞ってくださって感激。あたり雪の積もった桜の枝

先は桃色に膨らんで春を待っている。

- ・下山コースの栃尾尾根は、最初雪が融け田んぼ状態だったが、降りるに従って春の気配が漂い、下の部落では梅が花開いていた。

3. リーダーのメモ

- ・当初、西沢コースだったが、直前に寺外戸ルートに変更になった。西沢コースはルートがわかりにくそうので不安だったため、メンバー一同ホッとした。下見までしていただき、ありがとうございました。
- ・1年間 BOM のためにさまざまなプランを練って実施していただき、また今回は全員に認定書まで用意していただき、感謝にたえません。ほんとうにありがとうございました。



寒い！山頂にて



雪と林の中を元気よく



## 【B班】

### 1. 予定コース

藤野駅→バス→鎌沢バス停⇒バス停車前⇒一ノ尾根⇒陣馬山) ⇒陣馬高原下バス停→高尾駅

### 2. ルートの状況

- ・鎌沢バス停で下車し登山口を探す。鎌沢バス停車前20m程のところに登山口を発見。坂道を少し登ると材木倉庫があった。車庫の左側にピンクのテープがくり付けてある木があり、そこから山道が延びていた。
- ・積雪はしていなかったが、雪が解けて滑りやすく、また地面がゆるんで足がすべり、登りにくい。
- ・支尾根に乗ったところで道が二手に分かれていた。みんなで計画を立てた時右は作業道であることを確認していたので左の急登を登った。
- ・分岐手前に大量のタヌキの糞。見ていたら分岐を見逃しそうになった。
- ・一ノ尾根までの登りはバリエーションルートなので道標がなく急登の藪こぎが続き辛い。
- ・四つん這いになって登るが、時々トゲのある枝を掴み激痛に耐える。
- ・620m地点手前付近で藪こぎがなくなり、踏み後ははっきりしてきた。また、鞍部で空き缶を見つけ、ルートに間違いがない事を確信する。
- ・上部和田分岐あたりから気温が急に低くなり小雪が降ってきた。
- ・下山はルートがはっきりしているので間違えることはなかった。しかし、雪が凍っていて滑りやすくなっていた。

### 3. リーダーのメモ

- ・天気予報では晴れ。しかしどんより曇ってすっきりしない。時間がたてば晴れるかと期待していたが上部和田分岐あたりで雪がちらついてきた。
- ・計画では藤野駅和田峠行きバス 8:11 だったが、臨時バスが出ていて 8:08 分に乘れた。
- ・支尾根に乗ったところから藪こぎの急登が続く。藪がうるさい。
- ・陣馬山からの富士山を期待し、展望を楽しみながらの昼食予定だったが富士山も見えず、寒くて早々に山頂を後にした。
- ・下山は雪が凍っているところもあり滑りやすくなっていた。予定より早めにバス停に着き、バス時間までザックの整理・登山靴などを洗った。

- ・BOM研修（机上6回・実技5回）、講師の先生方、研修の立案から実技まで1年間本当に有難うございました。



早めの昼食



陣馬山



下山途中

## 【C班】

### 1. 予定コース

藤野駅→和田バス停⇒陣馬自然公園センター  
登山口⇒一の尾尾根⇒陣馬山頂⇒明王峠⇒大  
平小屋跡⇒与瀬神社 13:10⇒相模湖駅

### 2. ルートの状況

- ・陣馬自然公園センターからのバリエーションルートだが、登山口は紛らわしいところが他にもあり、分かりにくかった。
- ・登山口から和田第二尾根までは踏み跡がうっすらとついていて、また、尾根近くになると赤いペンキの目印がいくつも木の幹にしっかりとついていて、尾根だと判断できた。
- ・和田第二尾根から一の尾尾根は途中から踏み跡を確認しにくくなった。雨雪などの影響や木の葉で隠れてしまったものと思われる。ただ主稜線（一の尾尾根）への見通しはつく。
- ・山頂近くはところどころ雪で白くなっていたが、アイゼンの必要はなかった。
- ・山頂から奈良子峠の途中までの道はぬかるんで歩きにくかった。
- ・奈良子峠から相模湖駅までの道はよく整備されており、標識もしっかりしていて歩きやすかった。

### 3. リーダーのメモ

- ・バリエーションルートの登山口は、手元に「詳細地図」があったので簡単に分かると思っていた。が、実際は難しかった。講師の方たちのさりげない「つぶやき」と、班員の冷静な判断のおかげで無事に登ることが出来た。出来る限りの事前の情報入手や地形図を読む力が不足していた。
- ・和田第二尾根から一の尾尾根620m地点に出る道を途中で見失い、西にトラバースしてしまった。判断に迷ったときに進行方向を確認すべきだった。
- ・登山口で手間取り、頂上 10:20 着の予定が 20分ほどオーバーしてしまった。
- ・昼食は明王峠でとる予定だったが、頂上でとって、時間調整を図った。
- ・下山は、時間調整をしながら歩いたので、ルート変更の必要もなくスムーズに遂行できた。班員全員が事前に内容をよく把握していたからだと思う。計画段階から全員が真剣に取り組み、共通理解がはかれていた。
- ・講師の方たちが黙って、しかし、暖かく見守ってくださっていたのは大変心強く、また有り難かった。
- ・陣馬山は卒業山行にふさわしい山だった。「卒業山行」という形態をとって、力量不足をしっかりと認識させられた。講師陣の方々には「脱

帽」である。



尾根はどっち？



山頂 昼食後に記念撮影



明王峠 ほっと一息

高尾駅構内レストランにて「自立した登山者」検定テスト実施。受講者それなりに高得点にて合格、認定書及び記念品授与。



▲ 認定試験

▼認定証授与



概念図



## 概要

山名	陣馬山		
月日	平成 24 年 2 月 26 日(日)		
山城	高尾	地形図	1 / 25000 与瀬
形式	日帰り	グレード	1 A
目的	①BOM 卒業山行 ②各班に別れてバリエーションルートに登る ③検定テストを行って認定書（自立した登山者）を授与。		
行程	我孫子駅 5:33→新松戸 5:46/50→西国分寺 6:46/55→高尾 7:22/26→藤野駅 7:50/8:08 <以降、A, B, C 3 班に別れ陣馬山集中登山後、高尾駅近くのレストラン 14:00 集合> 14:00 (机上検定試験・卒業認証授与式・反省会) /16:00→我孫子駅 A 班 バス→寺外戸着 8:20/8:35⇒一ノ尾根 9:25⇒陣馬山頂 10:15 (昼食) 栃尾尾根經由下山 10:45⇒西沢林道入口 12:05⇒藤野駅 12:45 /12:58→高尾着 13:15 <行動時間：約 4 時間> B 班 バス→鎌沢バス停→鎌沢バス停手前登山開始 8:30 分⇒分岐 8:45⇒衣服調整 8:50⇒一ノ尾根 (620 地点) 9:25⇒下部和田分岐 9:41 ⇒上部和田分岐 9:58/10:05 ⇒陣馬山 10:25/10:55 (軽昼食) ⇒陣馬高原下バス停 12:15/12:40 (バス) →13:15 高尾駅 <歩行時間：2 時間 5 0 分> C 班 バス→和田バス停 8:23/8:35⇒陣馬自然公園センター登山口 (バリエーションルート) 8:55⇒和田第二尾根 9:10/9:17⇒一ノ尾尾根 9:50/9:55 ⇒山頂まで 0.7 k m 地点 10:22/10:25⇒陣馬山頂 10:40 (昼食) /11:00⇒明王峠 11:32/11:40 ⇒大平小屋跡 12:10⇒休憩 12:46/13:00⇒与瀬神社 13:10⇒相模湖駅 13:25/13:40→高尾駅 13:49 <歩行時間約 4 時間>		
費用	3,000 円	交通機関	JR、バス
参加者	A 班：新谷(L)、矢野貞、藤倉、斎田、講師：高橋重、田村 男 1 名、女 5 名 計 6 名 B 班：瀬田(L)、菊池、本田、末永、講師：外崎、高橋英 男 2 名 女 4 名 6 名 C 班：中村育(L)、桐生、矢野裕 講師：武内、坂巻、 男 2 名 女 3 名 計 5 名		

<寄稿>

県連 石巻支援に参加して

武内勇二 中村育子  
高橋 重 中村隆泰

石巻支援に参加して (23.6.17-19)

武内勇二

労山関東ブロックの大震災支援の千葉県連52名の一員として石巻支援に参加しました。6月17日(金)夜9時に新鎌ヶ谷駅に集合、マイクロバスと自家用車に分乗して出発。当初あびこからの3名は車で現地に入る予定だったが、運よく船橋の仲間が運転をかってでてくれ、マイクロバスに乗せてくれたのはラッキーだった。東北道菅生IC内で、県連用意のテントで仮眠後、石巻に向かった。心配した通勤ラッシュにも遭わず、8時の集合に間があるので、石巻港近くの大曲地区の被害状況を見せてもらった。かつては豊かな水田地帯であった所が、津波に洗われ瓦礫が散乱、荒涼とした荒地に変わっていた。



田に漁船が残され、散乱する瓦礫に混じった小さな三角屋根は川岸のブロックが流されたものだった。道路は陥没し通行不能、津波で破壊された家が全く手付かずに半壊の状態而建っていた。地形は平坦で、低い山が遙か遠くに連なっているだけ。避難できる高い場所はなく、住んでいた住民は車で逃げおおせたのだろうか。100年に1度の大津波を心配して、「ここに住むな」というのはとても無理な話だと思う。頑丈な建物を造り避難場所にするしかないだろう。

大曲小学校近くの集合場所で自家用車組と合流、石巻労山代表で見えられた岡さんの挨拶後、千葉県連と群馬労山総勢約60名は2班に分か

れてビニールハウス内の瓦礫の撤去と泥出しの作業に入ることとなった。マイクロバス組他約30名は中屋敷地区のKさんのビニールハウスを担当することとなった。全部で5棟のビニールハウスのうち3棟は壊滅、辛うじて2棟が残されたので、まずこれを復旧させたいとのことだった。震災前にはきゅうりがたわわに実っていたことだろう。

ハウス横の道具置き場には農協が準備してくれた、一輪車、熊手、長い柄の鎌、スコップその他作業に必要な道具が準備されていた。新しいものもあり今回の支援に備えて準備してくれたと思われる。5月のボランティアでは道具不足で動きが制約されたと県連ニュースにあったので、自宅からスコップ一本持参したが、必要ではなかった。ボランティアをする側、受け入れる側も経験を積んでそれなりに事前準備がしっかりとされるようになってきたということだろう。

作業前のハウスは、上からビニールがぶら下がり、瓦礫が散乱して見る影もない状態だったが、幸いにも土は乾いていた。土埃と汗にまみれて、破れたビニールの撤去と瓦礫の分別撤去が進んだ。30名を超えるマンパワーはさすがにすごい。約1時間働いて10分休みのゆったりとした作業ペースに拘わらず、午前中にまず1棟の瓦礫撤去に目鼻がついた。

道路脇にへたり込んでの昼食だったが、幸いにも曇り空で適度に風もあり疲れも回復できた。午後は3時までと時間を区切って作業開始、午前が続いて1棟目の泥出しと2棟目の瓦礫撤去を行った。大分要領が良くなって作業はどんどん進み、作業終了時点ではハウス内が大分すっきりとした状態までこぎ着けた。但し、2棟目のハウス内には、流れ着いた車が何台も折り重なっている箇所があり、これだけは人力では如何ともし難いのでそのままとせざるを得なかった。

本日は、地震大津波から丁度100日目の区切りにあたり、2時46分にあわせ作業の手を休めて黙祷した。

作業終了後、女川、大川の被災地をバスで回った。ビルが横倒しになり、土台を残して根こそぎ持って行かれた家、残された家とても住めるような状態にない廃墟と思しき惨状に思わず驚愕の溜め息が洩れる。70名を越す生徒が犠牲になった大川小学校の現場は、まさに北上川の本流近くの低地にあり、裏山が近くにあるにもかかわらず何で山に逃げなかったのだろうかと言しく思われる。地震の際の津波は頭になかったのだろうか。何で橋の方向に逃げたのだろうか。生徒が流された橋の袂の高台に花束が置かれ、犠牲者を追悼している人々の姿があった。何とも痛ましい。



(上)ビフォー (下)アフター



道の駅上品（じょうぼん）の郷温泉で汗と埃を落とし、今夜の宿泊場所の水沼東部改善センターに着いたのは、午後7時頃、先発隊の食担の女性が食事を作って待っていてくれた。群馬、埼玉、練馬各労山のメンバーの食事はもう始まっていた。交流会ということで、各自持ち込みのアルコールでこの日の疲れを癒した。震度4の地震には驚いたが、石巻メンバーは平然としていた。

翌朝は、晴れの天気。暑くなるので予定を早め7時20分頃から作業開始、1棟目、2棟目の泥出し作業の継続により、すっかりきれいになった。作業を切り上げるに当たって、Kさんの奥さんから津波のときの話があった。ハウス近くのKさんの家は1階天井付近まで浸水、近くに住む娘さんの3階のアパートに歩いて避難して難を逃れたとのこと。着いたときは直ぐ後まで水が迫り、まさに危機一髪だったとのこと、渋滞した車が人を乗せたまま流されて行くのが見えたという。津波後3日間は水が引かず、ボートに乗ってハウスの状態を見に来た時には呆然自失、これからどうしようかと途方にくれたという。幸いにも一家6名は全員無事だった。親戚の方6名を失い、畑の復旧のため体を動かしているから気がまぎれるが、じっとしているとたまらなく辛い思いがこみあげてくるという。涙ぐみながらのお話に思わず貰い泣きしそうになった。現在は避難所暮らしということですが、お礼とともに「今後も頑張っていく」との言葉があり、ボランティアし甲斐があったとの何とも清々しい気持ちになり、逆に勇気を貰った気がした。今回は山登りではないが、山から下山したときに味わう達成感があった。県連の

他の会のメンバーの殆どの方とは初対面であったが、山という共通項で一致する仲間達なので、打ち解けるのも早い。和気あいあいと和やかに、こんなことでもなければやらない辛い仕事も不平の一言も言わずに頑張れたと思う。



復旧の手が回っていない女川

#### 石巻の農家支援に参加して（23.6.17-19）

中村育子

今回の千葉労山の参加者は52名（男25、女27。会員外参加者4名を含む）で、千葉の支援は13回目ということです。関東からの参加者は78名。千葉の他に群馬22名、東京5名。埼玉からも十数名が参加合流しました。関東山岳連盟の支援体制が出来、毎週第一、第三週末に支援が展開されるそうです。

今回の仕事はハウス内のがれき撤去でした。参加人数が多かったので、2カ所に別れての作業です。私たちが支援に行った農家は、津波が2メートルの高さになり、4日間も水が引かなかったという場所でした。きゅうり栽培用のビニールハウス5つのうち3つがつぶれ、つぶれずに残った2つのハウスの入口には、泥だらけのビニールが垂れ下がっていました。

仕事は多岐にわたりました。支柱にからまったビニールを剥がす、垂れ下がった紐を片付ける、埋もれたパイプやビニールを泥土の中から引きずり出す、大型機械を運び出す、がれきをスコップで掻き出す、熊手でかき集める、手押し車で運ぶ、等。つぶれた3つめのハウスの支柱の所に乗用車が5台、一列縦隊に重なって並んでいました。その周辺は手つかずのままで、ビニールを引きずり出すと汚泥から悪臭が出て、そのまま消えませんが、でもひどい腐敗臭やハエの大量発生など、心配するようなことはありませんでした。

一日目は8時から3時まで、二日目は7時から11時まで働いて、ハウス内がきれいになりました。

瓦礫撤去は声をかけ合い、賑やかにやるのが大事でした。

最後に家主の奥さんが挨拶されました。ご当主は2つの葬式に行っていて留守だということでした。毎日することがあって気を張っているから元気になっているけれど、とって言葉が詰まらせて横を向いた時は、私たちももらい泣きをしてしまいました。土は塩でやられているので、このままでは使えないのだそうですが、大変喜んでいただきました。



泥出しに奮闘中

今回は、船橋の山の会の方がマイクロバス（23名）の運転をしてくださり、岳人あびこはそれに便乗してもらいました。バス以外の参加者は乗用車。往復の高速代は申請すれば無料。県連から2食分の食費の補助が出る。今回の経費は計6千円（レンタカー・バス内での缶ビール・2日間の温泉代込み）でした。宿泊は農協関係の体育館。食事は、個人で火を使ってはいけないそうで、52名分を一緒に作り合同の夕朝食。買い出しも食事作りも佐藤さんという方を中心に全てやってくれたので、私たちは楽をさせてもらいました。今後も石巻での宿泊はここになるので、次回からは食事当番を決めたいとっていました。

理事長の吉田さんが挨拶する度に「とにかく来て、見てください。そして帰ったら見たことを皆さんに伝えてください」といって、あちこちに連れて行ってくれました。瓦礫撤去が進んでいない女川、大川小学校、石巻漁協と海沿いが見下ろせる日和山公園、市街地。海岸沿いを通った時、バスの中はしんとなりました。窓という窓、ドアというドアがなくなり、壁と屋根だけ残った家並みが視野の限り続いているのを見て、復旧に何年かかるだろうと誰かがつぶやいていました。往復のバスの中で繰り返し流された石巻の歌に「ふるさとの豊かな豊かな里山よ／あゝ石巻 緑の緑のハイキングロード」という歌詞がありましたが、そのハイキングロードには、今土嚢が積ま

れていました。

支援には足・腰・腕の筋力が必要でしたが、体力に応じて支援すればいいのでしょうか。武内さんが「登山と一緒にだね」といっていましたが、本当にその通りでした。

## 石巻支援に参加して（23.7.15～18）

高橋 重

梅雨が明けた7月15日～18日、千葉県勤労者山岳連盟の東日本大震災石巻支援に参加した。15日夜松戸に集合し、岳人あびこ2名（中村隆泰さん）は県連理事長車に乗せていただいた。東北道菅生SAで入山祝い後、テントで仮眠した。翌朝8時前、JA石巻北上支所に県連の30人近くが集まった。目の前の桃生訪問看護ステーションの中は無残、津波が到達した身長の高さに黒い線が残っていた。その先にはガラスが割れ、室内に電線が垂れ下がり、玄関にソファが立っていたり、冷蔵庫が倒れていたり、瓦礫で埋まった家が何軒もあった。この目で初めて見る被災地のひどい光景だった。



初日の田圃

作業は北上川沿いの田圃のガレキを畦縁に集め、重機が入って撤去できるようにするものだった。自衛隊が生存者を探すため集めたガレキの小山もあるが、田圃の中はガレキだらけ。家の柱、壁材、畳、布団、ヌイグルミ、冷蔵庫、ノート、靴、置物など生活の臭いのするものばかり。木材は釘が出ていて底の薄い長靴では注意しないと危険だ。一輪車と人力、そして小さなキャタピラ1台で午後3時頃までかかり多くのゴミを片付けた。田圃の塩分を水で流す作業を繰り返す予定だが、水路は流された車が逆立ちしていたり、壊れたり、ガレキが詰まったりしている。どこもへドロが積もっている。稲が出来るまでは、まだまだ遙か遠い先に思える。それにしても人の力は大きい。これがたんぼ？が田圃らしくなった。まだまだ人の力が必要だ。



**新北上大橋に  
ぶつかった  
コンクリート**

作業後、多くの子供たちがさらわれた大川小学校付近へ行く。直ぐ近くの新北上大橋は流されているので、対岸までグルッと廻り、途中土台だけの家、1階だけ津波に破壊された穴だらけの家、打ち上げられた舟、廃墟と化した土地を見て声も出ない。被災の小学校を望む橋の袖には、壊される前の写真や花束や水が供えられていた。小学校の奥は跡形も無く流されている。なすすべも無く流された多くの子供達、背後の急な斜面に逃げられなかったのだろうかかと心が痛む。近くの橋の破壊も凄まじかった。これまで以上のひどい光景に厳しすぎる、と頭が真っ白になる。道の駅「上品（じょうぼん）の郷」で風呂に入る。芋の子を洗うようだった。皆ボランティアだろう。途中夕食の材料を調達し、水沼構造改善センターで、交流会を行った。センターの時計は動いていたが、地震の影響が大きく傾いていた。今回の支援メンバーは82歳を頭に70代の方も結構おられたようだ。田圃や交流会で、私より先輩達の元気さを見て、この先まだまだ山へ登れるぞ、と少し得をした気分になった。帰る日まで、どこへ行っても『ハエ』が多かった。



**交流会**



**2日目、ガレキだらけの田圃、暑い。**

翌朝、再び北上支所に集合。千葉県連会長や群馬、茨城、東京練馬などのメンバーが増えた。今日は朝から快晴、気温も高く、スタートからキツイ。30分～40分に一回、休憩を取る。カンカン照りなので、あぜ道の車と車に張ったタープで休む。水分補給量が減茶苦茶多い。タオルで頬かむりし、麦わら帽を被るが顔を流れる汗は滝のよう。目にこれほど汗が入ったことはこれまでに経験がないほど、3年分くらいの汗をかいた気分だ。午後には船橋山の会の数名も加わった。片付かないのではと思っていた大量のガレキ撤去作業が進む。今日も年長の方、女性陣のパワーに圧倒される。休憩時には冷たい果物や梅干も配られる。3時前終了の掛け声、手を着けたところだけは見回すとかなりスッキリした感じになった。いやァ～汗かいた。



**大川小学校そば**



**←鎮魂の碑**

夕刻、宮城労山赤間会長、石巻労山岡会長が出席した交流会となる。「被災者の気持ち、環境はまだまだマイナスの状態。ボランティアの中にも被災者を傷つける人もいる。組織で支援してくれることはありがたい云々・・・」地元岡さんからの話はジーンと来る。乾杯が終わると、昨晚同様、他の会の方たちとも直ぐに打ち解ける。先日支援

に行かれた武内さんの言われたとおり、共通の趣味を持つ仲間だからだろう。

18日の朝は早くから「なでしこジャパン」のテレビ放送があった。優勝が決まり、食事前から大いに盛り上がる。作業無しで解散となる。私たちは、岡会長夫人のご案内で地元の水沼山に出掛けた。山頂には鎮魂・復興祈願の碑が建てられ、登山口には今日、一段と映える「ナデシコ」が咲いていた。その後見た途中の風景は、基礎だけ残った家、転がされたコンクリートビルなど、想像を絶する。高台の女川町立病院の駐車場は、4階建てのビルより高い所にあるが、病院1階まで津波が来たという。そのビル屋上の茶色く枯れた木、いくつものゴロツと横になった建物に言葉が出ない。

市内の万石浦付近は被害が少ないが、日和公園から見た海側はひどい状況だった。被災後片付けられ、山積みとなったおびただしい数の車。地盤沈下のため水が溜まった土地、流された周囲の建物の中に残った石巻市立病院の対比など異様な光景だ。この高台に避難した人も多く、11日には地獄絵だったろうと心が裂けそうだった。あの辺は繁華街だったのだろうか。公園での休憩中、下の方から、オカリナで「ふるさと」を繰り返し演奏するのが聞こえる。のぞき込むが姿は良く見えない。海に向かって吹いている。「♪忘れ難き故郷～♪」が耳に響く。何とも表現できない気分、厳しすぎる。田圃で見たヒバリとカモの卵、早く飛び立って欲しいと願う。他は、もう見たくないと思った。



ヒバリとカモの卵

6月に、1970年の大地震でワスカラン 6,768mの氷河が崩れ落ち 2万人が埋まったままのペルー：オールド・ユンガイの街に寄った。地震はどこにでも、時を選ばず起こる。地震に伴う自然現象の怖さ、県連吉田理事長の「見たことを、伝えてください」との言葉が身に浸みた石巻だった。



復旧が進んでいない女川（1ヶ月前に武内さんが撮影したビルと同じと思われる）



地割れ

宮城石巻支援 中村隆山(隆泰)

我、石巻に到りて 両三日  
 田圃の瓦礫集めて山となる  
 炎天下遮るものなく  
 流れる汗 瀧の如し  
 この汗、農家の悲涙一滴にも満たず



田んぼに瓦礫の山 車も

田園草木轉荒涼  
 百里風腥瓦礫山  
 津波来家並忽消  
 奥州海辺傷悲惨

(田園草木轉た荒涼)  
 (百里風腥し瓦礫の山)  
 (津波来つて家並忽消ゆ)  
 (奥州海辺傷みて悲惨)

(金州城下の作〈乃木希典〉をもじって作る)



多数の児童がなくなった大川小学校の献花場



廃墟になった石巻港(日和山公園より)



ビルが横倒し(女川町立病院より) ▶

<寄稿>ペルーアンデス遊山

ブランカ山群:

**Santa Cruz & Quebrada Ulta Trek  
~ pisco (5752m)**

高橋 重



ピスコ山頂からワスカラン 6,768m

昨年10月末、新穂高温泉で、アンデスに行かないかと2人に声を掛けたのが本計画のスタートだった。1人は「山学力」に卓越した秋山氏。もう1人は海外の山の経験があり、行けなくても現地とのやり取りをしてくれる、との返事をいただいた古里氏。

ペルー・アンデス:コルディエラ・ブランカ山群は、高いところまで自動車道路が通じており、トレッキングなどで十分な高度馴化を図れば、平均年齢64歳の我々の体力でも何とか登れそうだった。未知の高度である5,000m以上で、技術的には難しくない氷河のある山を探した。目星を付けた5,000m峰3つを登れないかと検討したが日程的に余裕が無い。クスコ郊外の3,800mの遺跡まで足を伸ばした後マチュピチュを見物、更にトレッキングで薄い空気に順応してから「ピスコ峰5,752m」1山を登る計画に変更した。

5月の連休、トレーニングに富士山へ出掛けた。8合目付近はアイゼンのツアッケしか刺さらないほどコリコリ。滑落事故者に遭遇し、救助のヘリを待つ間、3,300m付近で思わぬ高度順応の時間を過ごすことになった。

前半のトレッキングは2,900m~4,850m、後半のピスコは3,900m~5,752m、呼吸が苦しく、頭が少しクラクラする時もあったが、トレッキング中は少しの霧雨と、ピスコのキャンプで半日の降雪があった以外はほぼ毎日が快晴。アンデス・ブルーの空に映える数多くの白い6,000m峰を眺め、氷河や岩・石の上を歩き、インカの石造文化に触

れ、初めて見る動植物に出会い、高山病にもならず、ブランカ山群の素晴らしさを満喫した。

<6/1 成田出発 ~ 6/8 ワラスまで>

■6月1日、成田とリマ間を米国で2回乗継ぐ少し安いアメリカン航空は、シカゴ空港に予定より早く着陸したが、ボーディングブリッジトラブルのため、乗継予定の飛行機は既に離陸してしまった。航空会社が急遽手配した予想もしないシカゴでのホテル一泊は、部屋には2ベッドしかなく、1つのベッドに2人で寝るハメになった。何時もながら山へ入れば何とかなるが、文明の世界では事がうまく運ばない。

■2日、マイアミからパナマ運河上空を飛行、23時45分、予定より19時間遅れでリマ空港にランディングした。遠かった。夜中にも拘らず快く待っていてくれたペンション当山のオーナー「ペペさん」と打合せし、朝3時前に就寝した。

■3日、地上を守る聖なる動物ピューマの姿をイメージして造られたインカの都、標高3,400mのクスコに飛び、多国籍混載ツアーでカテドラルやインカの要塞サクサイワマン、富士山より高い所にあるタンボマチャイ遺跡などを観光した。

街なかの土壁には大統領選挙のポスターならぬKEIKOとオリヤンタ候補の文字があちこちに赤字で大きく書かれていた。

■4日、朝6時に車でクスコを出発、オリヤンタイタンボへ。そこからペルーレールでマチュピチュ駅へ。マチュピチュは今年で発見後100年の記念の年だ。午前中、日本語ガイドの案内で遺跡を1周、昼食後、独自に遺跡のポイントを再見学した。大統領選挙だった5日まで3日間、リマではアルコール販売が制限されていたが、クスコは厳しくなかった。ペルーを代表する酒、ピスコサワーを飲む。



マチュピチュ遺跡



マチュピチュ山から

■ 5日、1日の入山人数に制限のあるワイナピチュ山(若山)を避け、静かなマチュピチュ山(古山 3,100m)へ登り、インカトレイルのほんの一部を歩いてインティ・プンク(太陽の門)を往復した。

何日もインカ道を歩き、辿り着いたインティプンクから見る箱庭のようなマチュピチュの全景は、数百年前のインカ人もきっと感動したんだろうなと思った。夕方の列車でクスコに戻る。



インティ・プンク(太陽の門)から



モンテレー(プール)

■ 6日、クスコ市内の石畳のロレト通りや、カミソリの刃も通さないとされる精巧な建造物の石組芸術を巡った後、インカ博物館を見学。午後の飛行機でリマへ戻る。

■ 7日、パスポートのチェックと厳しい荷物検査

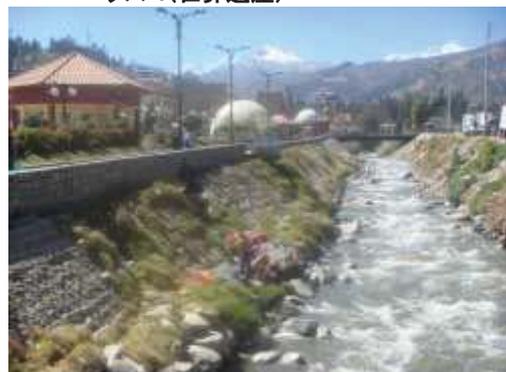
を受け、リマからワラスに向う Cruz der Sur 社の SEMI CAMA バス(61 ソル:1 ソル≒30 円)に乗り込む。8 時間ノンストップの快適なバスの二階先頭部分に座る。昼間なので未知の風景が楽しめて良かった。軽食と飲み物が出るが、量も少なく、長時間なので水と食べ物を用意したほうが良いだろう。海岸の砂漠地帯を越え、4,000m の高原状のコノコーチャ峠を過ぎると 3,090m の登山基地ワラスは近い。

バス終点にはトレッキングガイドが迎えに来ていた。ワラスでのベースとなるホテルワスカランは町外れにあり、ワンドイ・ワスカラン・ワルカン・チョピカルキの 6,000m 峰が良く見える。街なかには放し飼いの犬が目立つ。夕食に出かけたアルマス広場まで寝転ぶイヌの足を踏まないか気になった。ペルーの車の運転は日本では想像できないほどけたたましいが、轢かれた犬は見なかった。日本の犬ならすぐに交通事故死だろう。昼夜の寒暖の差が大きく、出かける時は薄手の長袖、帰りはダウンを着るような気温だ。

■ 8 日、「カサ・デ・ギアス」(ガイド協会)に地図を買いに行く。在庫が無く「カフェ・アンディーノ」を紹介される。1 枚 1,200 円ほどだった。宿に戻りガイドとトレッキングの打合せ後、コレクティーボ(ハイエースロングを改造し 15 人以上詰め込む、路線が決まった自由乗降バスで車掌がいる。@ 1 ソル。)で、モンテレーの温泉(プール)に出掛ける。小さな虫が多い。明日から山へ入る。



クスコ(世界遺産)



ワラス 5,000m クラスの山

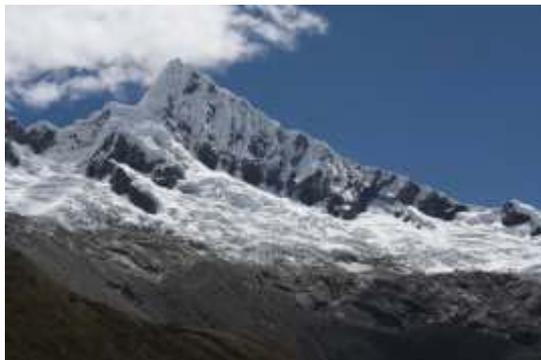
**Santa cruz & Quebrada Ulta Trek**  
 <6/9 ワラス～カシヤパンパ～サンタ・クルス  
 ～ケブラダ・ウルタ～6/15 ワラス>

■ 9日、6時、ガイドのオチョワ氏とコックのアブラン氏がホテルに迎えに来る。ベンツワゴンの屋根は荷物で一杯だ。途中オールド・ユンガイで一時的下車した。ここは1970年の大地震でワスカランの氷河が崩れ落ち、10数km流れ下った雪崩がユンガイの町もろとも2万人もの人を生き埋めにしたと言う（土地を国有化し掘返しを禁止した、と戻ってから知った）。東日本大震災の後だけに、各地で起こる地震の悲惨さに心が痛む。ワスカランと教会の十字架が印象的だった。

新ユンガイの町を通り、ジャガ芋やヒエ畑のパッチワークを見ながら、ユーカリの多いカシヤパンパに着く。ロバが運んでくれる私物を、前日バッグに準備していたので、すぐに歩き始める。アリエロ（ロバ使い）とロバ6頭、コックは荷物をまとめて後から出発したのだが、直ぐに追い抜かれる。途中、ロバ15頭を従えた身体の大いスペイン登山隊10数人とすれ違う。多くのクライミングギアを運んでいるのでキタラフかアルパマヨに登ったのだろう。初昼食は川岸で、パンと皿に盛られたアボガド・コーン等をフォークで食べる。

今日の泊地ヤマコラル 3,760mには臨時の売店や石造りのトイレもある。一帯にはルピナスの花が多い。タウリラフが良く見える。夕食は魚フライと大きなジャガ芋2個だった。夜、秋山氏下痢。

■ 10日、朝飯はパンケーキ。イチコーチャ湖、ハトゥンコーチャ湖にはトトラと呼ばれるアシが生えている。チチカカ湖の舟もコレで作るそう。なぜか「カモメ」が飛んでいる。キタラフへの道を左に見て、アルパマヨ BC の道に入る。世界一美しいと言われるアルパマヨとキタラフの吊尾根が見える所で、サラダとサツマイモ、大粒コーンのランチ。ピラミデ 5,885mとパリア 5,720mも見える。



アルパマヨ 5,947m



ピラミデとルピナス

今日の泊地はタウリラフ 5,830mが高く聳えるタウリパンパ 4,250mだ。タウリとはケチュア語でルピナスを意味し、♂♀があり、雄株は花が柱状に付き背が高く、Taulli macho と言うそう。夕食は高いところなのにうまく炊けたご飯とロモサルタードなど。南十字星、月がキレイだ。タウリラフの岩壁にヘッドランプが点滅している。明け方天の川が、ほんとうにミルキーウェイのように見えた。



タウリパンパからタウリラフ 5,830m



ルピナス♂ 6/19

■11日、ウニオン峠 4,750m を越えるので出発が7時と早い。朝食時、ココ茶とカモミールティーで水分をたっぷり補給する。空気は乾燥しているが、1日 625mlの水2本で充分足りている。朝と4時過ぎに2杯ずつのお茶、食事で摂る1ℓ以上の水分でトータル3ℓ以上は身体に入っているだろう。

インカの素晴らしい石畳道を歩き、リリヒルカとヒマラヤ巒の美しいプカヒリカ 6,040mを見ながら9時過ぎにウニオン峠に着く。少しフラットにするが頭は痛くない。500mの標高差を2時間少しで登った。順調だ。歩き易い道は日本の登山道と比べると雲泥の差だ。かつてインカ帝国の時代には、荷物を運ぶ動物は体重約20kgのリヤマだけだったが、スペイン人が体重90kgを越えるロバやウマを持ち込んでから道の傷みが激しくなったそうだ。オチョワ氏が、昨日のライトは救難信号だったと言う。峠から少し下り、遠くのテントを確認していた。

歩いて来たサンタクルス谷は快晴、向うアマゾン側のワリパンパ谷は曇り空だ。山も花崗岩から堆積岩へと変わり風景が一変する。センブリのような紫の花と、ヤチボウズが多い。途中の湖でオチョワ氏が「待っている」と言い、「リマ・リマ」の花を見つけて来た。ケチュア語で「speak speak」の意味、帽子の飾りにも使われるとか？変わった花だ。



ウニオン峠 4,750m



リマ・リマ

リア谷を越え、魚取りの子供達に会う。樹皮が紙のように剥れるケニユアルの林を過ぎ、泊地

3,700mのワリパンパ(カチーナパンパ)に着く。人里近いせいか、テントのそばに女性と子供がピンを並べ、物売りに来た。買い手は私たちしかいないのだが。今日は27,000歩。



ワリパンパ谷



ワリパンパ 3,700m

■12日、夜中1時過ぎに起きた時は小雨だったが、朝には上がっていた。山がうっすらと白い。イタリアの宗教団体が土地を購入して作った小綺麗な家や畑を見ながら、コルカバンパ村に入る。久しぶりに車道に出るとトヨタ車があった。この辺りの家々、人々の顔はカシヤパンパ側と少し違う。昔、鉱山開発のヨーロッパ系の人々が住んでいたそうだ。雲の中にチャクララフがちょっとだけ見える。開けた谷の3,500m付近の、木のように大きく太いジャガイモが生えた道端で休む。ジャガイモはペルーが原産で数百種類もあるという。日曜日なので教会に向う人が多い。



ジャガイモの木？



Qantuta

途中クイ（食用モルモット）が飼われていた。クスコのカテドラルにある「キリスト最後の晩餐」の絵は現地らしく皿に「クイ」が乗っていた。チャルワ村に入ると色とりどりのトウモロコシが干されていた。売店（ペルー版コンビニ）のそばで借りたトイレが洋式でキレイなのにびっくりした。コックのアブラン氏が黄と赤の「インカの聖なる花」カントウータを持って来た。ペルーの国花だそうだ。

ルピナスの咲く小道を辿り、川辺の、草ふかふかのモリノパンパに着く。我々パーティー以外誰もおらず、3,600mまで下ったので、前日の泊地で少しだけ飲んだ「ピスコ（ブドウの蒸留酒）」を、ゆっくりと飲む。ロバもたっぷりと草を食んでいた。Tea timeにはチーズをワンタンで春巻風に包んだ揚物が出た。

■13日、Inca lawの教えは「盗むな、怠けるな、嘘つくな」だと聞いてスタート。トレッキング最高地点ヤナヤク峠を越えるので気を引き締める。コントラヒエバス 6,036mの氷河から岩斜面を幾筋もの滝が落ちている。それに沿って時々ドーンと氷河が崩れ落ちる。4,100m付近で、その氷河湖で切り出した氷を運ぶロバ数頭と出会う。今日はこの一行しか会わなかった。道には花が多い。白や黄色の背丈の小さな花や、Milli-Milli、Wallmi-Wallimi、Chinchiなど。4,000m付近での花の写真撮影は国内の比ではないほど呼吸が苦しい。



Wila-Wila

Ichuと呼ばれるヤチボウズのような草は、牛馬の餌や屋根・帽子に使われる。ケチュア語でWila-Wilaという目立つ花は英語で「Fat」を意味し、スペイン語では「Venado（鹿）の耳」とのこと、なるほど。オチョワ氏はフランス語の発音が混じるので、ただでさえ英語が分からない私には聞き取りにくい。確認すると、音声学のことを説明するなど勉強熱心だ。

「こんな道をロバが通れるのか」と思うような崖道を辿り、狭いヤナヤク峠 4,850mに着く。標識一つない。反対側もかなりの急坂で、うっすらと雪が残っている所もあった。

曇り空で寒いので、100m程下りサツマ芋の様なジャガイモと卵、オリーブの昼飯。気温5℃。食欲衰えず、あまり好きでないサツマ芋もどきも完食。泊地はヤナヤク湖からかなり下り、谷が広がった、のんびりできる4,300m付近。コントラヒエバスが見え、小高いところには十字架が目立つ。皆、元気だ。テントで、オチョワ氏が日本語を教えてくださいと言う。



ヤナヤク峠への道



ヤナヤク峠 4,850m

■14日、朝のテント内は3℃。ウルタ谷は一面ルピナスが咲いている。車が待つオリムピカ峠 4,890mからの道路も近くなり、オチョワ氏が、メインルートを外して景色の良いところを探しながら進む。全姿を現さないコントラヒエバスや、

きりりとした三角錐のウルタ、チョピカルキなどが見える。東側から見るワスカラン南峰は雪のつき方も少なく、これまでとは表情が大分違う。



ワスカランとルピナス



ウルタ 5,875m

9時半、迎えの車が待つ道路 4,050m に着く。道路は大々的に拡幅工事をしている。しばらくすると、3頭に減ったロバと荷物を担いだアリエロが走って下りて来る。他のロバは昨晚の泊地で待たせているのだろうか。6日掛けて歩いたルートを一泊でカシヤパンパへ戻ると言う。出発からずっと付いて来たアリエロの犬、ウニオン峠の手前でいなくなったが、帰路に見つかるよう祈る。

帰りの道路はアマゾン側へ通じる主要道路で交通量が多い。大型の重機やダンプが入り何か所も拡幅工事をしている。工事の信号待ちのため1時間ほど待たされたが、ホテルワスカランへは昼過ぎに着いた。早速コレクティブでモンテレーの温泉（風呂）へ出かける。

夜は中華を食べる。いつもどおり量が多く、チャーハンが3人で分けた。ビールが出てくるのが遅い。どうしたのかと見ていたが、どうやら他の店に買いに行ったようだった。ワラスの街なかで「北国の春」が流れていた。これまで聴きなれぬ音楽ばかり耳にしたので驚いた。



荷物担いで走るアリエロ

■15日、赤く染まるワスカランが美しい。9時過ぎ、ホテルで、ツアー会社「JM Expedition」の責任者マリオ氏が、登山靴やアイゼン、手袋などの装備のチェックをする。クライミング用品は3人分を一袋にまとめるよう言われ荷作りした。昼前、レンタル用品を借りてJM-Eに出掛けるが、マリオ氏がおらず、「カフェ・アンディーノ」で昼食を摂りながら時間をつぶす。

Huamashraju 5,434m などが近くに見える。

その後、再びJM-Eに出向き登山ガイドと対面、ピッケルなどを身体に合わせて選ぶ。ほとんどの登山用具はここで借りられる。アルマス広場の土産物売り場に行くと、多くの店は16時までシエスタ（昼休み）のため閉っていた。店は十数軒、品数は多くない。一旦ホテルへ戻り、再度土産を見がてら、客が欧米系の人ばかりのレストランで夕食を食べた。

## Pisco

<6/16 セボヤパンパ～ペルー小屋～モレナ・キャンプ～ピスコ～ラグナ 69～セボヤパンパ～6/20 ワラス>

■16日、久しぶりに心地よいベッドで寝たせいかわらぬ、6時に慌てて起きる。今日もワスカランが朝日で赤い。朝食時、誰も鍵を持っていない。「言葉が通じないので困ったな」と急いで部屋に戻ってみると、ロックしていない。良かった。2つのミスが尾を引かねば良いが。7時45分、ガイド2名（ショルトン氏、カルロス氏）、ポーター1名（ウーゴ氏）、コック1名（トレッキングと同じアブラン氏）とホテル出発。ユンガイ経由、世界遺産に登録されているワスカラン国立公園のチェックポイントで小休止。美しいヤングヌコ湖<チナンコチャ湖とオコンコチャ湖>を通り、10時45分にセボヤパンパ 3,960mに着いた。すぐに、軽いリュックを背負いスタート。ガイドのショルトン氏は後ろを気にしながら、ゆっくりとしたペースで歩いてくれる。4,150m付近でオムレツ風卵

焼き、バナナの昼食。4,680m のペルー小屋には14時過ぎ到着。今日はロバ3頭とポーターが荷を担ぎ上げてくれる。トレッキングと違い、食堂テントは無い。ガイド、コックも結構な荷物を背負っている。アリエロとロバは直ぐ帰った。セボヤパンパとの間を往復しているのだろう。

今夜、3人はペルー小屋泊だと告げられる。直前にならないと判らないことが多い。驚いたが、もう慣れた。部屋は個室で日本の山小屋とは大違い、高い2段ベッド。上段に手すりがなく、石床に落ちると怖いのでマットを下ろした。外は時々雪が舞い、日陰や石作りの小屋内も結構寒い。夕食はスパゲッティと醤油味チャーハンにティラミスが付いた。他に宿泊者はアメリカ人1人だった。

■17日、今日は4,950mのモレナキャンプまで。ペルー小屋には世界各国の人達の書き込みノートが数冊置かれているが日本人の記述は無い。古里氏が初めて日本語でメモを書く。

ゆっくりと9時に出発。小屋から氷河のサイドモレーンへ登り、そこから崩れやすい急坂をモレーンの底まで下る。そして氷河を横断して岩だらけの踏み跡を登り返し、対岸へ渡る。小さな氷河湖が多い。ロバは使えないのでポーターの担ぐ荷物はかなりの重量だ。

1時間半ほどでモレナキャンプ到着。時々アラレや雪が降る。天候を見て13時過ぎに、テント場から5,000mを越えるモレーンの丘に登ると、遭難者を吊う十字架やモニュメントが立っていた。



氷河を越えて(上)モレナキャンプが小さく(下)

ピスコやワンドイが目の前に大きい。ワンドイ6,350mとのコルまでのルートも確認できる。午後や夕食時も雪やアラレが時々降り明日の天気が心配になるが、夜10時過ぎには晴れていた。明日は3時半朝食、4時発予定。



モレナキャンプからピスコ

■18日、1時45分起床、粟にイチゴヨーグルトをかけたものとパンを食べ、予定どおり4時出発。行動食が2食分配給される。いつもの袋詰めにピーナッツとプラム・レーズンなどのドライフルーツがプラスされている。

4時35分、氷河の取り付きでアイゼンとザイルを着ける。岩に溜まった水は凍っている。カルロスー高橋ー古里、ショルトンー秋山でアンザイレンするが、カルロスのペースが速すぎ、20分程登った所で古里氏と秋山氏を入替える。私は、周囲が赤くなる6時半過ぎまでは快調だった。しかし、ソフトクリームのようなピスコ頂上へのルートが良く見える5,350m付近まで来ると、朝食が少なかったのかシャリバテ状態。休憩をお願いし、チョコ等を口に入れる。気温-12℃。

クレバスをいくつか越え、ピッケルを頼りに雪壁を20mほど登る。ペースは相変わらず速く、3パーティーを追い抜く。5,500m付近で、急に足が鉛のように重くなった。数歩歩いては立止まる。ザイルがピンと張られる。でも足が出ない。休むと秋山氏が追いつく。まだブドウ糖が働かないのか？そんな繰り返しの高度差100m程は酸素不足の影響なのか良く覚えていない。

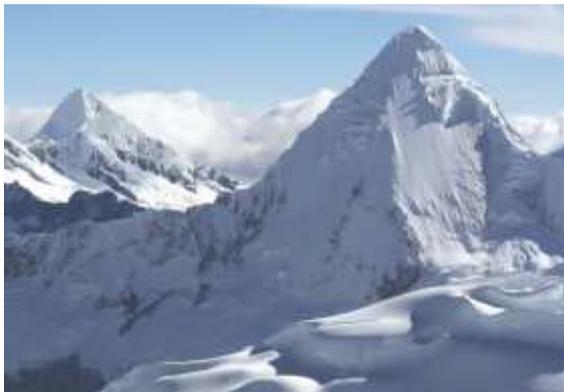


ピスコ山頂からワンドイ6,356m



チャクララフ 6, 112m

8時半前、青空に向かってちょっとした雪の斜面を登ると、ひょこっと平らな頂上に出た。結構速いと思っていたが、帰国後いくつかの記録を見ても確かに速い。快晴、周囲の 6,000m 級の山が全て見える。圧巻。ガイド、秋山氏、古里氏とハグ、3人とも登れて良かった。チャクララフのヒマラヤ壁、アルテソンラフの三角錐、キタラフ、アルパマヨ、カラス、もちろんワスカランやチョピカルキも手に取るように見える。お守りに持ってきた友人田島の写真と共にブランカ山群の記念写真を撮る。



ピスコからアルパマヨとアルテソンラフ 6,025m

国際色豊かな山頂を後にすると下りは早い。雪壁はシングルザイルで下り、クレバスを越えた所でアンザイレンを解除した。下りも3パーティほど抜く。



クレバスを下って



山頂を後に

11時にアイゼンを外し、11時半モレナキャンプに戻った。やはり疲れた。これからペルー小屋まで下ると言う。コック、ポーターは待っていたがテントなど荷物の一部はすでに運ばれていた。再度氷河のモレーンを歩き 14時半頃ペルー小屋下のテントに着くと、雪がバラつく。夜は晴れて、天の川がキレイだった。氷河の大きさに驚いた一日だった。

■19日、日の出を見るため5時起床。ヤナパクチャ方面の雲が茜色になり、ワスカラン・ワンドイ主峰が燃え、ワンドイ西峰の肩に月が沈む。

今日は、ピスコアタックの予備日として取った日である。そこで遠回りをして、氷河湖「ラグーナ 69」を回りセボヤパンパへ下ることにした。1/75,000 地図では、4,650m のペルー小屋から等高線に沿って歩き、ほぼ同じ高さのラグーナ 69に着くはずだった。歩き始めて直ぐ、尻尾が長い兔のようなビスコッチャを見る。ピスコからの尾根を2つ越え、地図とは違ってペルー小屋から高さ 300m 近く登り、「キツくて長い」と思った時、突然、目の前にチャクララフの氷壁が現れ、その迫りに圧倒された。キラーマウンテンと呼ばれるのが頷ける。



ペルー小屋へ下る 6/18



ワンドイ夜明け

この少し先から、エメラルドグリーンラグーナ 69 に目が釘付け、宝石のようだ。今日はアブラン氏がいなかったため昼食の盛付はカルロス氏。食後、私も他の2人に数日遅れて下痢。油の影響か。夜には落ち着いた。連日の行動食にはオレンジやバナナ、みかんなど果物が必ず付く。パッションフルーツを食べたのは私だけだった。



ワンドイとピスコ: 尾根を越える



ラグナ 69

湖を越えると良い道になり、多くのトレッカーに出会う。すれ違う人は、Hola (やあ) の挨拶が8割くらい、他はブエノス・ディアスだ。セボヤパンパ近くからはルピナスが多い。今夜も南十字星と天の川が美しい。

夕刻ショルトン氏とアブラン氏の SP02 (動脈血酸素飽和度) を計る。SP02 は我々と大きく変わらない。

高所で元気なのは基礎体力の差だろうか？

■20日、ドライバーが8時半前にテント場に到着しワラスに戻る。ポーターは前日下山したので、15分程かけて個人の全荷物を車まで運ぶ。チナンコチャ湖への途中、ベナード(鹿)を見つける。湖で下車しピューマの剥製を見る。湖畔から見るワスカランが高い。



チナンコチャ湖からのワスカラン北壁

バケリアやアマゾン側に抜ける 4,800m ほどの峠を越える未舗装道路は、すれ違うバスがとても多い。殆ど満員。鉄道がないので公共交通機関はバスが頼りだろう。あと 30 分程でワラスという所で、突如道路脇に車を停めて最後の昼飯、チャーハンを食べる。旅行の契約内容に忠実で、昼食を食べさせないとこのピスコツアーは終了しないのである。

午後は、モンテレーの温泉(風呂)に行く。夜は、ワラスの街でアンティークーチョ(牛の心臓串焼 BBQ) ミックスとピザ、セルベツツア(ビール)で乾杯。帰りに高級ピスコ(55 ソル) を購入し部屋で再び乾杯。誰が飲んだのか、朝にはすっかり空になっていた。



昼食: ワンドイ、ワスカランを見ながら



ピスコ

<6/21 ワラス ～ 6/24 成田>

■21日、リマ行バスの2階席は6人程の乗客でガラガラ、ビンゴゲームのカードを渡されるが言葉が判らない。4,000mの高原付近の岩山は葉サボテン、2,500m～1,500m位まで柱サボテン、それ以下はほとんどハゲ山。開けた谷はトウモロコシ畑、さらに低くなると一面サトウキビ畑が広がる。ペルーの砂糖消費量はかなり多いそうだ。海が見え、どこまでも砂漠が続き、所々に事故と思われる十字架があった。

太平洋側はどんよりと曇っている。今夜は当山ペンションから近い「日秘会館」の日本料理店で天ぷら定食(30ソル)を食べる。小エビ天4尾、タコ・マグロ刺身、豆腐と野菜炒め、肉うどん、パパイヤなど量は相変わらず多い。少し霧雨が降っていた。

今晚もピスコを飲んで寝る。

■22日、リマ市内にお土産買いに歩いて出る。道が分からなくなり振り出し近くに戻ったのは昼前だった。昨晚の「日秘会館」でラーメン(15ソル)を頼むが、コショーではなくトウガラシが出てきたのでいやな予感がした。ビーフンとソーメンを足した味の薄いソバ風、醤油を加えて食べた。

タクシーで、「地球の歩き方」に出ていた日系人が経営する土産物屋に向うが閉まっている。後で分かったが、この手の店はシャッターが下りていてもベルを鳴らして開けて貰うのだそうだ。

行き先を変え旧市街からミラフローレスにタクシーで向う。ここは新しい街らしく、とてもきれいだ。ペルーの印象が変わった。いくつかの店を覗くが入りにくい。海岸にあるショッピングセンター、ラルコ・マルに行き、店を見たが品数は少ない。

太平洋を眺めながらお茶を飲み、遊覧パラグライダーが飛んでいるのを見た後、イエローキャブで日秘会館近くへ戻る。キャブは行く先により料金が決まっていて、料金交渉の必要はないが、個人タクシーの2倍ほどの値段。巨大スーパーマーケットで土産のピスコを買いペンションに戻ると、「近くにアマゾンの草木染の店がある。シャッターが下りていてもやっている。」と言うので出掛ける。なるほどその通り。夕刻、リマ空港に送ってもらう。

■23日、マイアミ空港はアメリカ、ペルーと違い横断歩道では車が必ず止まる。蒸し暑い。ダラスは乗り継ぎの待ち時間が殆どなく直ぐに搭乗した。どの便も満席状態、往きと比べて順調だが飛行機に乗っているだけの22時間は、身体にこたえた。



(上)4,000mの高原 (下)ジャガイモ



イエローキャブ

■東日本大震災の後だったが予定どおり出掛けたペルー。ハプニングもあったが、事故や病気、高山病も無く、素晴らしい24日間だった。アタック日以外は、リュックの中は少しの私物だけ。三食+行動食付き、朝食後に軽い荷を背負いスタートすれば、テント場に到着した時既にテントが張られ、4時には「My friend, tea!」との声が掛かる。山中での酒精は、高度のこともあり3,000m台のところで嗜む程度。夕飯までは昼寝の大名登山だった。技術的に難しいところも殆ど無く、体力と高度順応がうまく行けば雄大な山を相当楽しめると感じた。多くの友人からの応援、家族の大きな理解、「いくらかの経費」と「健康な身体」があったので、楽しめた6月になった。大感謝!! 男三人、何とかなると思ったペルー行きだった。帰ってきた日本は「菅退陣」と「原発」のニュースばかり、殆ど変わっていなかった。

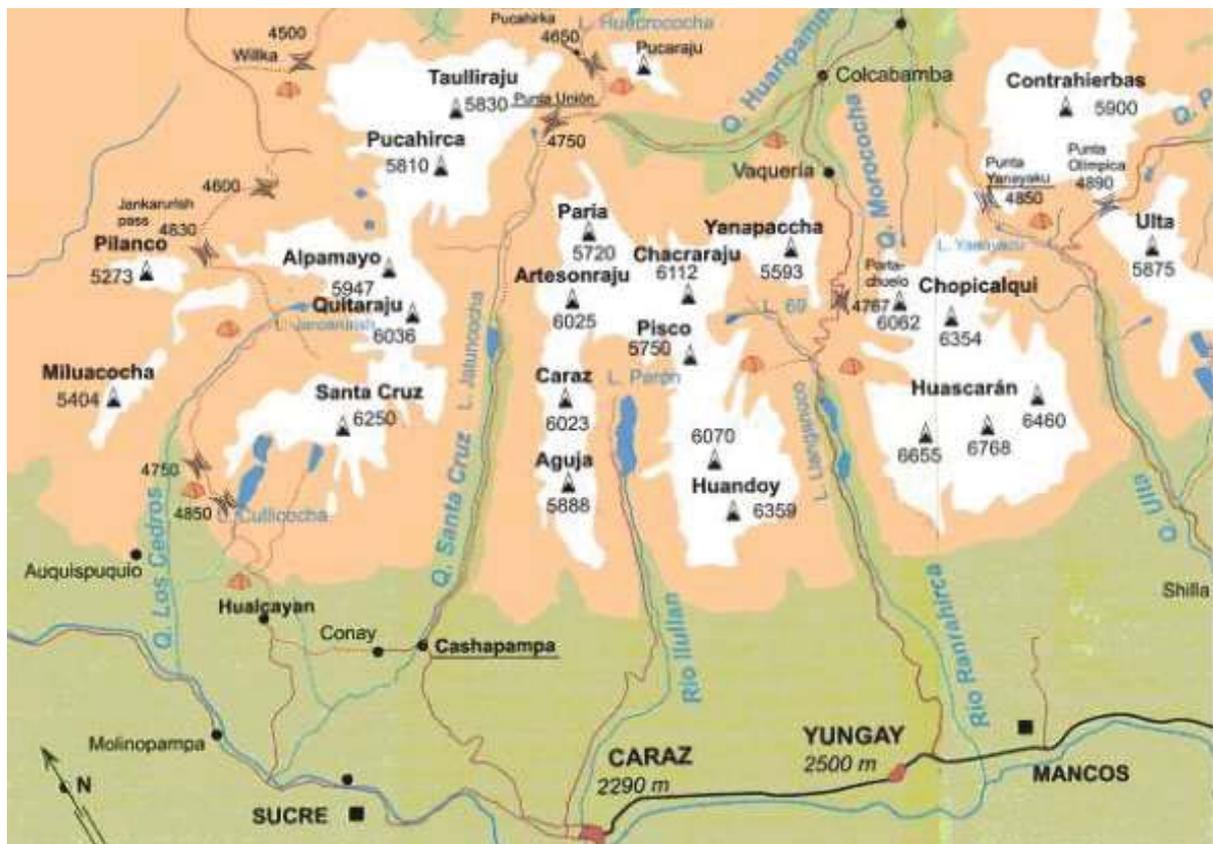
<ルート状況など>

- ① 雪原、氷河以外のトレイルはインカ石造文化のお陰で、とても歩き易かった。
- ② テント適地は牛馬やロバが多いので、豊富な雪解水は飲料不適。湯冷しを飲んだ。
- ③ 季節は冬、乾季なので雪がドカッと降るようなことは無い。
- ④ 寝袋・マット・着替などはバッグに整理して残し、最低限の私物のみを持って歩く。
- ⑤ トレッキング:ガイド1名、アリエロ (ロバ使い兼ポーター) 1名、コック1名、登山:ガイド2名、ポーター1名、コック1名。ロバは初日数時間のみ。
- ⑥ 低いところではブヨのような小さな虫がいる。

<メモ>

- ・登攀用具などは現地で借りられる。ピッケルは3人とも借りた。1日3ドル、少し高い。
- ・朝晩パルスオキシメーターで SP02 を測定、タウリパンパ 4,250m、モレナキャンプ 4,950m で70台に落ちたが、翌日には90台に回復するなど、馴化は順調だった。5月連休の富士山、マチュピチュ郊外、トレッキングでの高度馴化が、ピスコ登山に役立ったと思われる。高山病対策に用意したダイアモックスは利用しなかった。
- ・費用:62万<航空券:16.8万、旅行手配会社:37万(マチュピチュ11万、トレッキング12万、ピスコ11万、ワラス滞在3万)、POメーター・薬剤など:1.2万、航空機内など:0.5万、現地:7万(食事・交通費・チップ etc) >+保険代α。現地でエージェントと直接交渉すれば、費用は半分程度か?・物価は安い。食堂の1食は日本で想像するよりかなり量が多い。水は625ml:1ソル。Sin Gas と Con Gas (炭酸) あり。空港の水は5~7ソルと高い。

概念図



概要

山名	Santa Cruz～Quebrada Ultaトレック (ヤナヤク峠 4,850m)～Pisco (5,752m)		
月日	平成23年6月1日～24日		
山城	ペルーアン デス：ブラ ンカ山群	地形 図	Cordillera Blanca Nord1/10万
目的	Peru Andesを楽しむ (山、氷河、花、文化、歴史など)		
1日	我孫子 12:46→13:44 成田空港 18:15→ (AA154) →15:45 シカゴ泊		
2日	シカゴ 12:45→(AA2074) →18:15 マイア ミ 19:15→(LA2515)→23:45 リマ→0:45 当 山ペンション泊		
3日	当山ペンション 7:10→7:40 リマ空港 9:10→ クスコ空港→ホテルミドリ→市内～サクサ イワマン～タンボマチャイなど→ホテルミ ドリ泊		
4日	ミドリ 6:05→オリヤンタイタンボ駅 8:00→9:25 マチュピチュ駅→9:45 マチュピ チュ 15:30→16:00 マチュピチュ駅→ホテル インティブク泊		
5日	マチュピチュ駅 6:10→6:35/6:50 マチュピチ ュ⇒7:15 入山チェックポスト⇒8:35/9:00 マ チュピチュ山(3,100m)⇒10:00 ポスト ⇒11:00/11:20 インティブク ⇒11:55/12:20 マチュピチュ入口⇒12:40 マ チュピチュ駅 16:20→オリヤンタイタンボ 駅 18:10→20:00 ホテルミドリ泊		
6日	ホテル 7:00⇒12 角・14 角の石、インカ博物 館、アレキバ通り・ロレット通り⇒ミドリ→ク スコ空港 13:15→14:40 リマ空港→当山ペン ション泊		
7日	ペンション 8:30→8:55 クルスデル社 9:30→17:10 ワラス→17:30 ワスカランホテ ル⇒アルマス広場付近⇒20:50 ワスカランホ テル泊		
8日	ホテル⇒カサデギアス⇒アンディーノカフェ ⇒ホテル⇒モンテレー⇒ホテル⇒ホルン⇒ワ スカランホテル泊 (トレッキング打合せ 13:00)		
9日	ホテル 6:05→7:10 オールドユンガイ→8:40 カシャパンパ 9:05⇒11:20/11:35 3,450m 地 点(昼)⇒14:15 ヤマコラル 3,750m		
10日	7:00 朝食:8:00⇒10:15/10:30 ピューマパンパ ⇒11:20/11:40 3,920m アルパマヨ分岐 ⇒12:30/13:00 4,150m アルパマヨ見る ⇒13:55 タウリパンパ		
11日	6:30 朝食:7:00⇒9:15/9:30 ユニオン峠 4,750m⇒11:20/11:45 4,200m⇒12:20/12:40 4,050m⇒13:30 パリ ア谷通過⇒14:40 ワリパンパ 3,700m		

12日	7:00 朝食:7:30⇒9:20 コルカバンパ車道⇒ 10:00/10:20 3,470m⇒11:30/12:05 3,650m(昼)⇒13:00 モリノパンパ 3,600m
13日	7:00 朝食:7:30⇒9:30/9:45 4,050m⇒12:15/ 12:20 ヤナヤク峠 4,850m⇒12:30/13:00 4,750m(昼)⇒14:05 4,300m ウルタ谷
14日	7:30 朝食:8:00⇒9:20/9:45 オリンピカ峠か らの道路→13:00 ワスカランホテル→モン テレー⇒ホテル⇒JM expedition 社⇒ホテ ル
15日	9:20JM社装備点検 11:30⇒カフェアンディ ーノ⇒13:00 JM 社ギア調整⇒ホテル⇒ア ルマス広場⇒ホテル
16日	7:45→10:45/11:00 ヤングヌ湖セボヤパン パ⇒11:40/12:25 4,150m⇒14:10 ペルー 小屋 4,680m 夕食 18:30
17日	9:00⇒10:30 モレナキャンプ 4,950m (12:00 昼食 散策)
18日	朝食 3:30:4:00⇒4:35/4:50 アイゼン装着 ⇒6:50/7:10 5,350m (シャリバテ; 休憩依 頼:気温-12℃) ⇒8:25/9:00 ピスコ 5,752m ⇒11:00 アイゼン解除⇒11:30/12:55 モレナ キャンプ⇒13:55 氷河対岸⇒14:25 ペルー 小屋付近 4,680m<15:00頃から雪パラツク >
19日	8:00 朝食:8:30⇒10:45 4,850m⇒11:45/ 12:45 ラグナ 69⇒14:10/14:30 小屋跡⇒ 14:45 セボヤパンパ
20日	8:00 朝食:8:45⇒道路車発 9:20→11:55 (昼) →13:00 ホテルワスカラン→モンテレー→ ホテル⇒ホルン夕食⇒ホテル
21日	7:30 朝食:10:15→10:30 クルス・デル・ス ル社 11:00→18:30 リマ着→19:00 当山ペン ション
22日	7:30 朝食:9:05 ペンション⇒1日市内観光⇒ 16:30 ペンション 18:00→18:30 リマ空港 23:10→(AA918) →
23日	→5:00 マイアミ空港 10:05→(AA1625) → 12:00 ダラス 13:05→(AA61) →
24日	→16:00 成田

<寄稿>

## スペイン巡礼記

小川誠二郎

去る5月10日成田発から6月30日成田着まで50日間、主にスペインに旅行し、そのうち、5月12日から6月14日までの34日間、サンチアーゴ・デ・コンポステーラの巡礼の道を、相棒二人と三人で歩いて来ました。

まずパリに行き、新幹線TGVでフランスの西南端バイヨンヌに行き、そこからバスで巡礼の出発点の町サン・ジュアン・ピエ・ド・ポーに行き、そこで巡礼のスタンプ帳を買い(€2=240円)、アルベルゲ(巡礼宿)に一泊(€9=1080円)、翌5月12日から巡礼の始まりです。

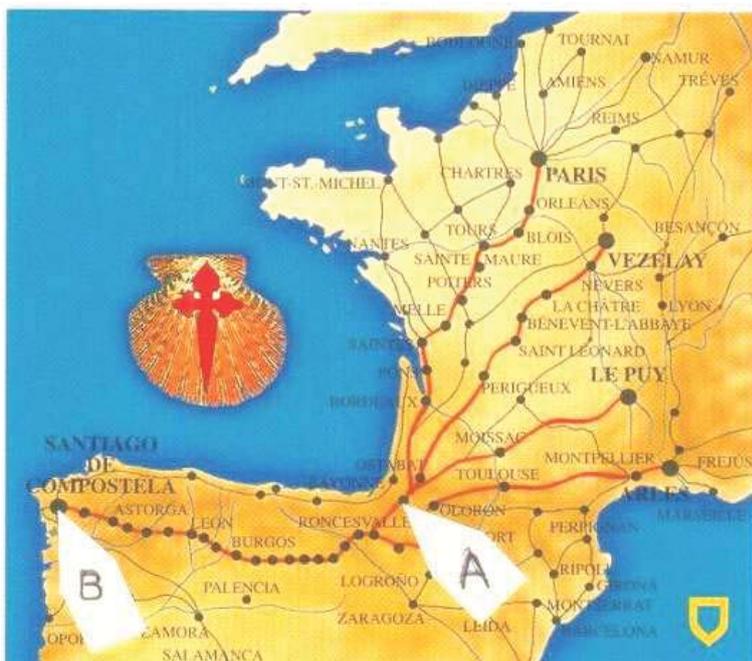
この巡礼は、サンチアーゴ即ちセント・ヤコブがローマ帝国で布教していて処刑され、その遺体を弟子が運んで埋葬したとされる地サンチアーゴ・デ・コンポステーラが聖地となり、そこへの巡礼が定着したというものです。

初日は歩いてピレネーの山越え(標高差1200m、26km)でスペインに入り、ロンジェスバージュスのアルベルゲで一泊、その後も巡礼の道(巡礼の道はいくつかありますが、フランス・ルートというのが一番ポピュラーな道で、それを歩きました)を歩き、スペインの西北端の町で巡礼のゴールの町サンチアーゴ・デ・コンポステーラ

ラまで、777km(東京から岡山を越して尾道辺りまでの距離)を16kgの荷物を背負って34日間、毎日、一日平均24、5km、長いところで31、2km歩いて来ました。ポピュラーなガイドブック、ミシュランの本によれば、34日で歩くのが標準となっており、ほぼそれ通り歩きました。中には21日で完歩したという韓国の若者と最終日に一緒になりました。この道のほかに、ヨーロッパ各地からの道があり、中にはスイスの自宅から往復半年かけて歩くという夫婦にも会いました。

毎晩巡礼宿アルベルゲの大部屋の二段ベッドの上段か下段に泊り(一泊平均5ユーロ=600円)、いびきの大合奏に参加しました。各自持参の寝袋で寝ます。大部屋に先着順に男女混ぜこぜでベッドをあてがわれて宿泊。ヨーロッパ各国からの老若男女、皆さんたくましく巡礼を続けていました。全行程を一気に歩く人が約4割、何年かに分割して歩く人が6割、といった感じでした。ヨーロッパの女性の中には老若を問わず紐のような下着で部屋をうろつくこと平気の人が居ることがあり、既に人畜無害の我が身も、それならばとしっかり拝見しました。

道中いろいろな人と交流しますが、各自歩くペースが違いますので、2、3日同じ宿とかのあとは後先に別れて、何日かの後また会って、という調子のご縁でした。お国を聞けば、スペイン、フランス、イタリア、スイス、ドイツ、イギリス、ロシア、アメリカ、カナダ、コスタリカ、韓国、中国、台湾などでした。日本人は極めて少なく、珍しがられました。「福島は大丈夫か」と随分聞かれました。



**A 点(出発の町フランスのサン・ジュアン・ピエ・ド・ポー)**(ここから初日ピレネー山脈を越えてスペインに入ります)から  
**B 点(ゴールの町サンチアーゴ・デ・コンポステーラ)**まで777kmを34日で歩きました。





巡礼仲間と

相棒二人は私（74歳）より若いし（70歳と62歳）、日頃ウォーキングで鍛えているので、歩く速度が私より速い（彼らが言うには私が遅い）ので、しばしば彼らが先に行って適当なところで私を待つという甚だ申し訳ない形でありました。

定年後、巡礼にはまり込んで、年に3ヶ月、アルベルグでボランティアとして働いているという日本人男性に二人会いました。



家1軒ない麦畑の中の一本道

家一軒ない麦畑を2、3時間歩いて村に辿り着き、そのBAR（バー）といって飲食のできる店で休息し、また歩く、という毎日でした。大体、朝6時半頃出発し、午後1時、2時、3時頃、稀に長い距離のときは5時頃、宿に入る、という日常でした。山越えや長い上り坂などがあって、結構体力を消耗します。10kmおきくらいに村や町があって、そこにあるアルベルグに予約なしで泊ります。満員のため断られたことは2回ありましたが、同じ町にある別のアルベルグに泊ることができました。巡礼最盛期の夏場は、町中の宿が満員で、次の町まで行かないと宿が取れないという事態もあるそうです。宿に入ると温水シャワー、洗濯のあと、BARでビール、夕食はアルベルグの巡礼定食（だいたい€10=1200円でスープかサラダ、メインディッシュに肉か鶏か魚、ワイン、デ

ザート）か自炊、または近所のBARかレストラン。朝、昼食はBARか、前日に町の店で買っておいたパン、チーズ、果物などで過ごしました。50日の旅行で、飛行機の切符代、新幹線代も入れて総額約35万円ほど使いました。

5、6月のかんかん照りの麦畑の一本道は、空気が乾燥していますから日本ほどではないにしても、充分疲れます。西に向かって歩きますので、左腕ばかり日焼けして、2回皮が剥けたのに、右腕は大して日焼けしない、といった調子でした。

ドイツ人がまじめな冗談で、明日からは右腕を南に向けて、後ろ向きに歩こうと思う、なんぞと言っておりました。

スペインの牧畜や麦畑の地帯の田舎道を、牛の糞を踏まないように注意して歩くのですが、崩れかけた石積みのお家の村やそこにゆったりと生活する人たちの醸し出す雰囲気は、日本では日ごろ触れないものですので、大変心なごませられるものでした。

ドイツ人が「巡礼は、歩く、洗う、食う、寝る、これの繰り返しだ」と言うので、「プラス、飲む、だろう」と言ってやりました。毎日、宿に落ち着いて飲むビールは至福の時でありました。

道中、行き倒れで亡くなった人の碑がところどころに建っていました。日本人の碑もありました。



ところどころ道中なくなった人の碑が・・・

歩き始めて5日目に、道に男の人が寝かされていて、74歳（私と同じ）のデンマーク人がいま死んだところだと警官が言い、通行禁止、迂回路の山道を行けとの指示でした。それを見て、無事完歩して帰国するのは大変なプロジェクトだと認識して、禪を締め直したことでした。

カトリック信者でもない日本の仏教徒が何故巡礼に来たのかとしばしば聞かれますので、その都度説明しましたことは、日本人は全員、悪いことをすると神様のバチが当たると信じている、その神様は漠然とした神様で、姿形は思い描いていない、これ、すなわち、イスラムのアッラーと同じ概念で、キリスト教、ユダヤ教の神様も同じ概念。つまり、日本人の神様も、イスラムのアッラ

一も、キリスト教、ユダヤ教の神様も、共通の神様、COMMON GODだ、これを銀行に喩えれば、本店がその共通の神様で、神道、イスラム教、キリスト教、ユダヤ教などは、主要な支店で、その下にそれぞれまた支店があると思えばよい、預金をどの支店でしても、結局本店で合算されるのと同じで、どの宗教でどの教会で神様にお祈りしても、結局共通の神様 COMMON GOD に届くのだ、それゆえ、私は、どの神社、教会、モスクに行っても、敬虔なお祈りを捧げるのだ、と説明しておりました。そうしたところ、ある晩、アルベルゲの夕食のときに、フィンランドの青年との話で、その青年は大学の神学部の大学院を修了して、目下神父になる修行をしている身とのことでしたが、彼が言うには、その COMMON GOD の概念に関しては、自分の考えとあんたの概念は COMMON、共通である。フィンランドで子供にその話をするのは立場上できないが、自分もあんと COMMON の概念、COMMON GOD の概念を持っている。その考えを世界中の人が持つならば、宗教上の争いは意味のないことと判るはずだ、と言ってくれて、意を強くしました。

アルベルゲなどではいろいろな人と話をしますが、イギリス人に「スペインもフランスもドイツもイタリアも通貨がユーロになって大変便利だが、イギリスもユーロにしたらいんじゃないか」と言ってやりましたら、「タイミングを逃がしてしまっただけ、変なナショナリズムがあるから難しい」と言っていました。また、「ユーロに統一したついでに言葉も統一したらどうか」と言ってやりましたら、まじめな顔で「それはグッドアイデアだ、その場合は、スペイン語に統一するのがいいと思う。英語は外国人が学ぶには文法も発音もクリアーじゃないし例外が多くて難しい言葉だが、スペイン語は明解で学び易い。それに、スペイン人は田舎者で、外国語を学ぶ気はないから、我らがスペイン語を学んでやるのが言語統一の近道だ」と言っていました。

そのイギリス人が「禅を長年研究しているが、あの瞑想、Meditation というのが判らない」と言うので、「瞑想は禅の第一歩だ。眠っていないのに心に何も考えていない状態にする、これが瞑想だ。神様は人間を120年生きるように設計製作されている。それなのに、人間は、日が昇っても起きない、日が沈んでも寝ない、下らない野心で心を乱す、希望や失望で心を乱す、人や物を好いたり嫌ったりして心を乱す、これらは皆、心にストレスとなって寿命を縮める。人は皆、わざわざ自分で寿命を縮めている。それゆえ、それらのことを心から追い出して心を一切無にする。それによって生き方、Way of Life が修正、Rectify さ

れて、神様が考えた生き方に戻るのだ。そのために瞑想をするのだ」と言ってやりました。するとそのイギリス人は「禅の本は随分読んで長年研究して来たが、神様の設定した寿命との関連の話は初めて聴いた。大変 interesting な話だ。お前さんとは時間があればもっと話したいが、残念ながら時間がない」と言って喜んでくれました。私も禅のことを知るわけではありませんが、聞きかじりを総合して思うところを述べてみたわけです。まあ、この種のことは、人それぞれの考えの流儀でよかろうと思っています。

印象的だったのは、巡礼で出会う一般的欧米人の対話のお行儀が大変いいことでした。こちらが話す間はじっと聞く、質問や反論は聞き終わってから穏やかに言う、その基本のお行儀がどの人も身に付いていると見えることでした。そのために話し合いが順調に積み上がって行く感触を感じたことでした。レストランの隣のテーブルでドイツ人の60歳台と思しき13人の男女の集団が食事しながら話していましたが、一人が話す間ほかの人は黙って聞く、終ると別の人が話す、司会者が居るわけでもないのに、話が穏やかに進行する、話し手を無視して近くの人と別の話をするとか、話し中に反論や質問をはさむとかをする人は居ない、そのお行儀のよさに感心しました。

この巡礼は、年中、夏も冬も世界中から人が来て、年々盛んになっているそうです。7、8、9月が最盛期で宿は込むそうですが、5、6月は一日約200人が参入して歩いているように感じました。道は一本道で、黄色の矢印が至る所、家の壁や道路の石や木の幹などにペンキで印してありますので、道迷いの心配はほとんどありません。また、前後を見渡せば、必ず何人かの巡礼者が見られます。



巡礼道の一こま

巡礼宿アルベルゲや立ち寄る教会やBARなどで、最初の日に貰った巡礼パスポートと称するスタンプ帳にスタンプラリーのようにスタンプを貰います。これは最後に完歩証明書を貰うときの

審査材料になります。特に最後の100kmでは、車やバスで来たのではなく、ちゃんと歩いて来たことを証明するために、BAR などでもこまめにスタンプを貰って歩きます。スタンプは無料ですので助かります。最後の100km分を歩くだけで完歩証明書は発行されるようです。

毎日24、5km歩きますので、靴は登山靴で正解でした。スペイン人の若者は、運動靴のような軽い靴でしたが、足の裏の皮がぺろんと剥けて、医者から3日間寝ていろと言われてしまいました。私は毎朝両方の足の裏にテーピングテープを二筋貼り付けて出ましたが正解だったようです。長距離を連日歩くのは登山と少し異なるノウハウがあると思いました。

道中、年寄りとお見受けする人に年齢を聞いておりましたが、74歳の私を越える人には二人お目にかかっただけでした。一人は76歳のアメリカの男性で、お金持ちらしくて每晚予約のホテルに泊まり、荷物はホテル間を車で運んでもらう手配をしての巡礼、もう一人は見るからにホンモノの山男、80歳とは見えないがっちり構造の体格のスイスの男性で、20kgを越える荷物を軽々と背負って颯爽と出発して行きました。一般的には70歳前後が限界のように感じました。



16kg 背負って、毎日歩きました

巡礼は何回かに分けて歩く人も多いようですが、全行程を一気に歩くと、次第に自分が変わることが実感できて興味深いものがあります。まあ、要するに、寛大な気分になって、本当に大事なことで、大して大事ではないことが見えて来る気がしました。

この巡礼、もう一回行くかというのと、とてもその元気は出ない気がします。

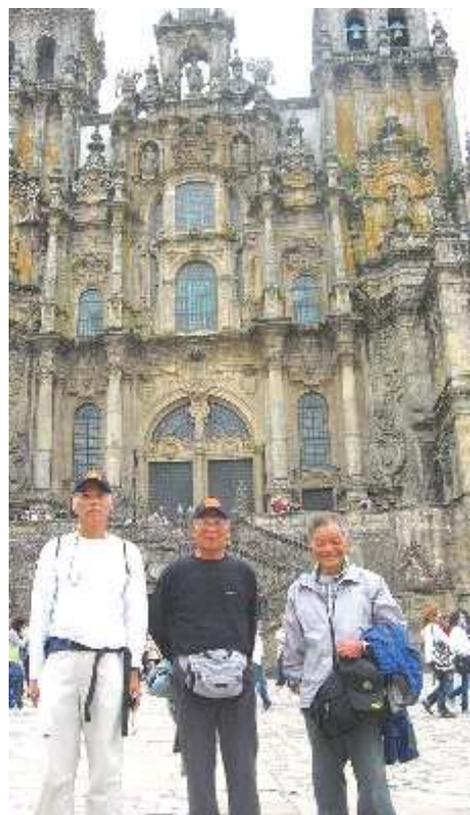
巡礼の後、スペインの西端の岬フィニステラにバスで一泊旅行し、観光の売り物、夕日見物をしました。昔、地球が丸いと知られていなかった時代、夕日が沈む沖に船で行くと、滝のように船が奈落の底に落ちると信じられていたそうです。日没はサンマータイムで午後10時25分です

た(ヨーロッパは無理に時間帯を一つにしているので、スペインは太陽の位置より時計を早める形になっているようです)。

そのあと、ポルトガルリスボンや、スペインの北の海岸線沿いの町をバスで旅行し、パリで4日間散歩して、なんとか死なないで帰国しました。



完歩証明書



ゴールの町サンチアゴ・デ・コンポステーラの大聖堂の前で。



# 資料

推移グラフ（1996年～ ）

山行一覧表（2011年3月から2012年2月）

活動の記録(2011年度)

山行(山名)索引（1996年～2012年2月）

# 活動の記録

その1

年	月	日	行 事	場 所	備 考
1996年	10	12-13	創立記念山行	会津朝日岳	テント泊、自家用車利用
平成8年	10	17	県連理事会	千葉弁天会館	県連加盟の承認

\*\*\*\*\*  
 会の創立から平成21年（2009）/2月までの活動の記録はやまなみ第10号に記載  
 \*\*\*\*\*

年	月	日	定例集会	運営委員会・山行部会議	備 考
第14期	3	8	湖北台近隣センター	10 市民プラザ	
2009年	4	8	アビスタ	14 市民プラザ	
平成21年	5	13	アビスタ	19 市民プラザ	
	6	4	湖北近隣センター	16 市民プラザ	
	7	8	アビスタ	14 市民プラザ	
	8	5	アビスタ	18 市民プラザ	
	9	9	湖北近隣センター	15 市民プラザ	
	10	4	アビスタ	13 市民プラザ	
	11	4	アビスタ	10 市民プラザ	
	12	6	湖北近隣センター	15 アビスタ	
2010年	1	6	アビスタ	12 アビスタ	
平成22年	2	3	アビスタ	9 市民プラザ	
	2			14 久寺家会館	(拡大委員会)

年	月	日	行 事	場 所	内 容
2009年	3	8	第13回総会	湖北台近隣センター	
平成21年	3	29	新人歓迎山行	元清澄山	
	5	23	市民登山説明会	市民プラザ	
	6	6-7	市民登山	湯の丸山・四阿山	一般7名、会員30名、計37名
	7	8	山行文集「やまなみ」第10号発行		平成20年3月～平成21年2月
	8	1	「やまたん坂口よし江さん追悼号」発行		
	9	5	ウイズハイク	雨引山	一般19名、会員26名、計45名
	10	4	岳人祭	五本松公園	
	12	6	忘年山行	雪入山	
2010年	2	14	入会説明会	市民プラザ	
教育研修	月		机上研修		実技研修
2009年	3		オリエンテーション	新人歓迎山行	山のマナー、山の歩き方など
平成21年	4		山歩きの装備と衣服	天狗岳(北八ヶ岳)	春山のステップアップ(残雪の山)
	5		地形図の読み方(磁北線の引き方)	石割山	地形図を見ながら歩く
	6			流石山～大倉山	地形図を見ながら歩く
	7			水根沢谷	沢の基礎
	7		夏山に向けての注意事項	木曾駒～三の沢岳	高所登山での体調管理と注意点
	8		生き生きシニアの栄養	越後駒ヶ岳	豪雪地の山の花と写真を撮ろう
	9			岩山(鹿沼)	岩場の3点確保の訓練(初級)
	10		ザイルを使って斜面の登下降の練習	大菩薩嶺	個人装備と山小屋の生活
	11		山行計画の立て方		
	12		山の気象(気象遭難を起こさないために)	忘年山行	行事山行時の食事の作り方
2010年	1		地形図の読み方(記号、等高線など)	吾妻耶山・今倉山	冬山の基礎とテント生活
平成22年	2		坂口さんの遭難時の気象について	鍋割山～丹沢山	冬山の初級
	2			伊豆ヶ岳	新人による山行計画の作成と実行

年	月	日	定例集会	運営委員会・山行部会議	備 考
第15期	3	14	湖北台近隣センター	16 市民プラザ	
2009年	4	7	アビスタ	13 市民プラザ	
平成22年	5	12	アビスタ	21 市民プラザ	
	6	10	湖北近隣センター	15 市民プラザ	
	7	7	アビスタ	13 市民プラザ	
	8	4	アビスタ	17 市民プラザ	
	9	9	湖北近隣センター	14 市民プラザ	
	10	3	五本松公園	14 市民プラザ	
	11	10	アビスタ	19 市民プラザ	
	12	2	湖北近隣センター	14 市民プラザ	
2011年	1	12	アビスタ	18 市民プラザ	
平成23年	2	2	アビスタ	8 市民プラザ	
	2			13 市民プラザ	(拡大委員会)

年	月	日	行 事	場 所	内 容
2010年	3	6-7	市民活動フェアーin我孫子	アビスタ	当会活動の紹介(写真展示他)
平成22年	3	14	第14回総会	湖北台近隣センター	
	4	4	新人歓迎山行	高鈴山	
	5	23	市民登山説明会	市民プラザ	
	6	5-6	市民登山	茶臼山～三本槍岳～朝日岳	一般13名、会員24名、計37名
	7	7	山行文集「やまなみ」第11号発行		平成21年3月～平成22年2月
	9	4	ウイズハイク	雨引山	一般19名、会員26名、計45名
	10	3	岳人祭	五本松公園	
	12	5	忘年山行	御前山	
2011年	2	13	入会説明会	市民プラザ	
教育研修	月		机上研修		実技研修

# 活動の記録

その2

2010年	4	新人のオリエンテーション	新人歓迎山行	山のマナー、三点確保の練習
平成22年		山歩きの衣服	アモウ沢・瀧子山	山菜と調理とキャンプ体験
	5	地図の読み方・コンパスの使い方	唐松岳	春山のテント生活と雪上歩行
	6	山の歩き方とストックの使い方	鶏頂山	地形図を見ながら歩いてみる
	7	山で事故にあった時の対処法	御岳山～日の出山	夏場の低山歩き
			白砂山・人間山	ブナの持つ働きを知ろう
			八ヶ岳	八ヶ岳の魅力を味わう
	8	山行中の食事摂取と水分補給	常念岳～槍ヶ岳	山行中の食事と水分補給の実践
	9	山歩きの体力とトレーニング		
	10	ザイルを使って斜面の登下隆の練習と担架	天狗角力取山	避難小屋に泊ってみよう
	11	天気図の基礎と天気予報の見方	手賀沼一周	手賀沼のゴミを拾い、景観を大
	12	雪山の装備と歩き方	忘年山行	行事山行時の食事の作り方
2011年	1	ストレッチングで体を柔らかく		
平成23年	2	三角点について知ろう		
	3		新人卒業山行	15期生による山行計画の企画と
年	月	定例集会	運営委員会・山行部会議	備 考
第16期	3	13 湖北台近隣センター	15 市民プラザ	
2011年	4	3 市民プラザ	12 市民プラザ	
平成23年	5	11 アビスタ	17 市民プラザ	
	6	9 湖北台近隣センター	14 市民プラザ	
	7	6 アビスタ	12 市民プラザ	
	8	3 アビスタ	9 市民プラザ	
	9	8 湖北近隣センター	13 市民プラザ	15周年記念山行の延期決定
	10	5 アビスタ	11 市民プラザ	
	11	9 アビスタ	15 市民プラザ	
	12	8 湖北台近隣センター	13 市民プラザ	
2012年	1	11 アビスタ	17 市民プラザ	
平成24年	2	1 アビスタ	12 市民プラザ	
	2		13 久寺家通り会館	(拡大委員会)
年	月	日	行 事	場 所
2011年	3	13	第15回総会	湖北台近隣センター
平成23年	4	3	東日本大震災義捐金	
		10	新人歓迎山行	赤雪山
	5	11	山行文集「やまなみ」第12号発行	
	5	22	市民登山説明会	アビスタ
	6	5	市民登山	榛名山
	6	19-20	我孫子市民フェアに参加	アビスタ
	6	17-19	県連の東日本大震災石巻支援に参加	
	7	15-18	県連の東日本大震災石巻支援に参加	
	10	5	15周年記念T-シャツ配布	
	10	5	やまたん 青山寿子さん追悼号発行	
	12	5	忘年山行	達澤山
2012年	2	11	入会説明会	市民プラザ
教育研修	月		机上研修	実技研修
2011年	3		新人のオリエンテーション	
平成23年	4		BOM研修 登山計画書作成	BOM 瀧子山南稜
	5		BOM 地図の読み方・テント泊装備	
	6		地図の読み方	黒金山
	7		BOM 装備と服装	BOM 瑞牆山
	7			岩木山・白神山
				岩手山・八幡平
				甲斐駒ヶ岳
	8		装備・ロープワーク	常念岳～蝶ヶ岳
				雲の平～高天原
				BOM 葛葉川本谷
	10		ホームページ・やまたんなどのメディア	
				BOM 岩山
				横隈山
				羽黒山
	11		山行グレード判定基準	
			BOM 山行中のアクシデント対応	
	12		BOM 雪山の技術	
			山行中のアクシデント、応急手当	
2012年	1			BOM 高山
平成24年			雪山の技術	
	2		山のアンダーウェア	大蔵高丸
	2			BOM 陣馬山

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
1	会津朝日岳 (創立山行)	会津	1996	10/12-13	テント	B	細野省二	1	4
298	会津朝日岳	会津	2002	12/21-23	テント	C	川下敬史	4	253
492	会津朝日岳	会津	2006	7/1-2	避難小屋	3C	外崎 蓮	8	46
110	会津駒ヶ岳	会津	1999	6/26-27	民宿泊り	B	大串秀雄	2	60
269	会津駒ヶ岳・平ヶ岳	会津	2002	6/21夜-24	テント	B+	武内勇二	4	161
121	荒川三山・赤石岳	南ア	1999	9/12-15	山小屋	C	大串秀雄	2	86
225	赤石岳～聖岳	南ア	2001	8/27-30	山小屋	C+	大串秀雄	4	52
497	荒川三山～赤石岳	南ア	2007	8/4-7	山小屋	3C	外崎 蓮	8	61
445	岩菅山～赤岩山	上信	2006	6/25-27	避難小屋	4B	外崎 蓮	7	47
258	赤岩尾根	西上州	2002	4/20-21	テント	D	柴 勇	4	133
582	赤岩尾根・烏帽子岳	西上州	2008	4/26-27	テント	3C	柴勇、坂巻明	10	20
316	赤岩山～古賀志山	前日光	2003	4/27	日帰り	B	柴 勇	5	26
284	烏帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
56	赤城山 (黒松山)	上州	1998	6/21	日帰り	A	外崎 蓮	1	98
323	赤城山 (黒檜山)	上州	2003	6/1	日帰り	A	柴 勇	5	42
571	赤城山 (黒檜山)	上州	2008	1/19-20	テント	3C	高橋 重	9	119
524	朝日山・赤鞍ヶ岳	道志	2008	2/3-5	山麓泊	2B	村松敏彦	8	135
641	編笠山～権現岳～赤岳	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11	64
694	硫黄岳～赤岳	八ヶ岳	2010	7/24～25	山小屋	3B	外崎蓮	12	63
560	赤薙山 (県連平日ハイク)	日光	2007	10/11	日帰り	1A	斎藤清一、県連	9	91
378	赤ぼっこ～天狗岩	奥多摩	2004	5/23	日帰り	1A	日下芳十	6	24
728	赤雪山 (新人歓迎山行)	足利北部	2011	4/10	日帰り	1A	外崎蓮	13	1
330	阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
271	秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋/旅館	B	大串秀雄	4	168
545	秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	奥羽	2007	6/30-7/2	山麓泊	3B	柴 勇	9	52
174	秋田駒ヶ岳	東北	2000	9/16-17	旅館	B	外崎 蓮	3	76
483	熊野古道・悪四郎山	熊野	2007	5/14-17	山麓泊	3B	細野清子	8	18
153	浅草岳・守門岳	会越	2000	5/3-6	テント/民宿	D	村松敏彦	3	20
346	浅草岳・守門岳	会越	2003	10/18-19	民宿	2B	柴 勇	5	130
21	白馬岳～朝日岳	北ア	1997	8/7-10	テント&山小屋	B	細野清子	1	33
399	朝日岳～白馬岳	北ア	2004	9/16-19	山小屋	3C	石垣吉朗	6	78
22	朝日岳・白毛門	谷川	1997	8/30-31	テント	C	細野省二	1	37
112	朝日岳・白毛門	谷川	1999	7/24-25	避難小屋	B+	外崎 蓮	2	63
524	朝日山・赤鞍ヶ岳	道志	2007	2/3-4	山麓泊	2B	村松敏彦	8	135
695	白馬岳～朝日岳	北アルプス	2010	7/30～8/2	山小屋/テント	3C	外崎 蓮	12	65
686	茶臼岳～三本槍岳～朝日岳 (市民登山)	那須連峰	2010	6/5-6	旅館泊	2A	高橋重	12	37
757	旭山～達沢山 (忘年山行)	中央線沿線	2011	12/4	日帰り	2A	坂巻明	13	87
99	朝日連峰 (ゴールデンウィーク合宿)	朝日連峰	1999	5/1-4	避難小屋	D	村松敏彦	2	29
165	朝日連峰	朝日連峰	2000	7/28-30	テント	C	柴、清家	3	47
500	朝日連峰	朝日連峰	2006	9/16-18	避難小屋	3C	千葉有子	8	69
204	鼻曲山～浅間隠山	上州	2001	5/12-13	山荘/テント	A+, C	細野清子	4	12
242	浅間隠山	上州	2001	11/18	日帰り	A	外崎蓮	4	95
644	仙丈ヶ岳～アサヨ峰	南アルプス	2009	8/28-30	山小屋	4C	外崎蓮	11	72
411	矢倉岳～足柄古道	箱根	2005	11/8	日帰り	2A	高橋芳恵	6	109
2	愛鷹山連峰	富士周辺	1996	12/14-15	無人小屋	C	柴 勇	1	5
211	愛鷹連峰縦走<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/16-17	旅館	C	清家三保子	7	34
355	足和田山	富士周辺	2003	12/7	日帰り	1A	斎藤・中村	5	151
660	足和田山～紅葉台	富士周辺	2009	12/12	日帰り	1A	千葉有子	11	114
446	烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2007	6/26-29	山麓泊	5B	高橋 潔	7	49
630	湯の丸山・四阿山 (市民登山)	上信越	2009	6/7-8	山麓泊	2B	佐藤健一	11	29
379	畦ヶ丸	丹沢	2004	5/29	日帰り	2B	斎藤清一	6	26
727	畦ヶ丸～加入道山～大室山	丹沢	2011	2/19-20	避難小屋	3B	北川勝久	12	153
670	日ノ出山～麻生山	奥多摩	2010	2/28	日帰り	2A	高橋英雄	11	136
266	阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
566	愛宕山・ボンボン山	京都	2007	11/20-22	山麓泊	2A	細野清子	9	105
260	愛宕山～吾国山	常陸	2002	4/28	日帰り	A	中村八重子	4	136
29	愛宕山	房総	1997	10/19	日帰り	A	県連、高橋英	1	56
704	愛宕山 (ウイズハイク)	茨城	2010	9/4	日帰り	1A	石垣吉朗	12	95
138	安達太良山	福島	2000	1/15-16	山小屋	C	柴 勇	2	131
267	安達太良山 (公開登山)	福島	2002	6/9	日帰り	A	大串秀雄	4	153
359	安達太良山	福島	2004	1/10-11	山小屋	4C	川下敬史	5	162
14	吾妻連峰	吾妻連峰	1997	5/17-18	山小屋	C	柴 勇	1	22
74	一切経山～東吾妻山	吾妻連峰	1998	10/31-11/1	山小屋	B	村松敏彦	1	149
228	吾妻連峰	吾妻連峰	2001	9/15-16	避難小屋	B+	外崎 蓮	4	60

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
109	湯の丸山・四阿山	上州	2000	6/19-21	民宿泊り	B	外崎 蓮	2	58
512	大峰山～吾妻耶山	谷川	2007	11/6	日帰り	2B	青山寿子	8	104
663	吾妻耶山・今倉山	谷川	2010	1/23-24	山小屋	3C	高橋 重	11	120
213	雨ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	7/1	日帰り	A	外崎 蓮	7	37
177	雨飾山	頸城	2000	10/8-9	民宿	B	大串秀雄	3	84
559	雨飾山	頸城	2007	10/8-9	山小屋	2B	清家三保子	9	89
443	尼ヶ禿山～迦葉山	上州	2005	6/16	日帰り	2B	斎藤清一	7	41
97	天城連山	伊豆	1999	4/24-25	民宿	B+	細野清子	2	26
337	西岳～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎 蓮	5	93
614	西岳～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎 蓮	10	110
641	編笠山～権現岳～赤岳	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11	64
405	阿弥陀岳	八ヶ岳	2004	10/11	日帰り	4D	千葉有子	6	93
645	雨引山(ウイズハイク)	茨城	2009	9/5	日帰り	2A	石垣吉朗	11	76
673	アモウ沢～滝子山	大菩薩	2010	4/17-18	テント	2B	佐藤健一	12	7
32	七ヶ岳・荒海山	会津	1997	11/1-2	テント	B	村松敏彦	1	62
121	荒川三山～赤石岳	南ア	1999	9/12-15	山小屋	C	大串秀雄	2	86
497	荒川三山～赤石岳	南ア	2006	8/4-6	山小屋	3C	外崎 蓮	8	61
341	未丈ヶ岳・荒沢岳	会越	2003	9/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	107
344	荒島岳・能郷白山	白山	2003	10/10-13	テント	3B	細野省二	5	123
190	荒船山	西上州	2001	2/4	日帰り	A+	川下敬史	3	104
351	荒船山	西上州	2003	11/9	日帰り	1A	榎原文子	5	142
539	荒船山	西上州	2007	6/3	日帰り	1A	武内勇二	9	35
200	有間山～蔵山	奥武蔵	2001	4/22	日帰り	A	外崎 蓮	4	5
527	有馬山～蔵山	奥武蔵	2007	4/8	日帰り	3B	青山寿子	9	8
239	安房高山(ふれあいハイキング)	房総	2001	11/3-4	日帰り	A	県連、外崎	4	90
642	摺古木山～安平路山～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	5C	村松敏彦	11	66
292	北信三山(黒姫山・戸隠山・飯縄山)	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329	戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
220	飯豊連峰縦走	飯豊連峰	2001	8/2-5	テント	C+	柴 勇	4	48
554	飯豊連峰縦走(北股岳～大日岳～飯豊山)	飯豊連峰	2007	8/24-27	テント	4C	武内勇二	9	75
45	天狗岳～硫黄岳	八ヶ岳	1998	3/28-29	山小屋	C	村松敏彦	1	84
694	硫黄岳～赤岳	八ヶ岳	2010	7/24～25	山小屋	3B	外崎蓮	12	63
555	五十沢～金城山	上越	2007	9/1-2	避難小屋	4C	千葉有子	9	78
291	石鎚山	四国	2002	10/25夜-28	民宿	B	斎藤清一	4	235
194	石割山	富士周辺	2001	2/25	日帰り	A	斎藤清一	3	110
627	石割山	道志	2009	5/17	日帰り	2B	外崎 蓮	11	18
55	伊豆ヶ岳(新人研修)	奥武蔵	1998	6/7	日帰り	A	外崎 蓮	1	97
16	伊豆ヶ岳(新人研修)	奥武蔵	1997	6/8	日帰り	A	柴、細野清	1	26
619	伊豆ヶ岳東尾根	奥武蔵	2009	2/8	日帰り	1B	堀口昭二	10	125
669	伊豆ヶ岳	奥武蔵	2010	2/28	日帰り	1A	矢野裕子	11	134
327	船形山～泉ヶ岳	船形連峰	2003	6/21 - 22	避難小屋	B	石垣吉朗	5	60
578	子の権現・伊豆ヶ岳(新人歓迎)	奥武蔵	2008	3/30	日帰り	1A	やまたん	10	6
74	一切経山～東吾妻山	吾妻連峰	1998	10/31-11/1	山小屋	B	村松敏彦	1	149
685	古峰原高原・横根岳～井戸湿原	前日光	2010	5/28-29	ロッジ泊	1A	柴 勇	12	35
313	稲倉山・御荷鉢山	西上州	2003	4/12-13	町営宿舎	A	中村隆泰	5	19
332	伊吹山・賤ヶ岳	近江	2003	7/25-27	テント	2A	武内勇二	5	77
77	今倉山～二十六夜山	道志	1998	11/14	日帰り	A	村松敏彦	1	154
663	吾妻耶山・今倉山	谷川	2010	1/23-24	山小屋	3C	高橋重	11	120
515	伊予ヶ岳・富山(県連40周年)	房総	2006	11/18-19	テント	1A	高橋英雄	8	112
388	易老山～光岳	南ア	2004	7/17-19	山小屋	4C	外崎 蓮	6	48
233	祝瓶山・大朝日岳	朝日連峰	2001	10/5夜-8	テント	C	細野省二	4	74
340	岩木山・八甲田山	津軽	2003	9/13-15	民宿、旅館	3B	高橋英雄	5	102
448	岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2005	7/22-24	テント	3D	細野清子	7	56
738	岩木山・白神岳	東北	2011	7/2-7/4	テント	2B	柴 勇	13	34
445	岩菅山～赤岩山	上信	2005	6/25-26	避難小屋	3B	外崎 蓮	7	47
402	岩手山・姫神山	東北	2004	9/18-20	宿	3B	高橋英雄	6	85
545	秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	東北	2009	6/30-7/4	山麓泊	3B	柴 勇	9	52
601	岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
741	岩手山～三ツ石山～八幡平	岩手・秋田県境	2011	7/8-7/11	避難小屋	3C	外崎 蓮	13	41
237	岩殿山	中央沿線	2001	10/21	日帰り	A	日下芳十	4	86
311	岩殿山	中央沿線	2003	4/6	日帰り	A	日下芳十	5	14
417	岩殿山	中央沿線	2004	12/19	日帰り	1A	高橋英雄	6	121
478	宮地山～岩殿山	中央沿線	2007	4/3	日帰り	3B	青山寿子	8	7
532	岩櫃山	上州	2007	5/3	日帰り	2B	原田和昭	9	17

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
51	岩山 (リーダー研修)	前日光	1998	5/24	日帰り	B	村松敏彦	1	91
105	岩山 (リーダー研修)	前日光	1999	5/30	日帰り	B	村松敏彦	2	47
162	岩山 (新人研修)	前日光	2000	7/2	日帰り	A	高橋英、安田	3	42
202	岩山 (新人研修)	前日光	2001	4/29	日帰り	A	細野省二	4	6
307	岩山	前日光	2003	3/16	日帰り	A+	柴 勇	5	1
318	岩山	前日光	2003	5/11	日帰り	A	坂口よし江	5	31
418	岩山(登山教室)	前日光	2004	6/12	日帰り	1B	柴 勇	6	141
429	岩山	前日光	2005	4/3	リーダー研修	1B	村松敏彦	7	10
456.1	岩山 (登山教室)	前日光	2005	8/28	日帰り	1B	村松敏彦	7	131
531	岩山	前日光	2007	4/29	日帰り	2B	柴 勇	9	15
646	岩山	前日光	2009	9/13	日帰り	1B	高橋英雄	11	80
750	岩山(BOM研修)	前日光	2011	10/2	日帰り	2B	柴 勇	13	69
279	木曾駒ヶ岳～空木岳	中ア	2002	8/23-25	山小屋	C	大串秀雄	4	196
394	木曾駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2005	8/19-23	山小屋	4C	大串秀雄	6	67
552	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2009	8/12-16	山小屋	3C	佐藤健一	9	68
732	乗鞍岳・美ヶ原(春山山行)	北アルプス	2011	5/3-5/5	テント	4C	村松敏彦	13	13
205	雁ヶ腹摺山～姥子山	大菩薩	2001	5/19	日帰り	A	斎藤清一	4	17
369	馬立山～九鬼山	中央沿線	2004	4/11	日帰り	1B	武内勇二	6	6
464	裏高尾縦走	中央沿線	2005	10/16	日帰り	2A	千葉有子	7	100
354	裏妙義	西上州	2003	11/15-16	国民宿舎	4D	柴 勇	5	148
280	越後三山(越後駒ヶ岳、中の岳、八海山)	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
465	越後駒ヶ岳	越後	2005	10/16-18	避難小屋	3C	大串秀、高橋潔	7	102
639	越後駒ヶ岳	越後	2009	8/6夜-8	山小屋	3B	高橋 重	11	60
195	越前岳 <富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	3/18	日帰り	A	武内勇二	7	14
348	恵那山	中ア	2003	10/25-26	避難小屋	3B	石垣吉朗	5	135
493	樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2007	7/2-8	山麓泊	4B	大串秀雄	8	49
115	烏帽子岳～穂高岳縦走	北ア	1999	8/6-12	山小屋	C+	細野清子	3	111
536	霧島・祖母山・烏帽子岳	九州	2009	5/21-26	山麓泊	3B	大串秀雄	9	27
446	烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2005	6/26-27	山麓泊	3B	高橋 潔	7	49
582	赤岩尾根・烏帽子岳	西上州	2008	4/26-27	テント	3C	柴勇、坂巻明	10	20
284	烏帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
621	小出俣山	谷川	2009	3/14-15	テント	4D	高橋 重	11	1
203	大笠山・笈ヶ岳	白山	2001	5/2-6	テント	D	村松敏彦	4	8
707	津梅川・追良瀬川	白神山地	2010	9/22-26	テント	3C	千葉有子	12	101
633	奥入瀬溪谷・八甲田山・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	2B	細野清子	11	43
722	曾倉山～扇山	中央線沿線	2011	1/9	日帰り	2A	村松敏彦	12	142
233	祝瓶山・大朝日岳	朝日連峰	2001	10/5夜-8	テント	C	細野省二	4	74
285	大洗海岸水族館(ウイズハイク)	常陸	2002	9/28	日帰り	A	外崎 蓮	4	217
437	塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2006	5/14-16	山小屋	4B	柴 勇	7	28
203	大笠山・笈ヶ岳	白山	2001	5/2-6	テント	D	村松敏彦	4	8
41	扇山(公開登山)	中央沿線	1998	3/8	日帰り	A	三浦七郎	1	78
249	扇山	中央沿線	2002	2/10	日帰り	A	松本 豊	4	114
561	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2008	10/21-23	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
575	大霧山	奥武蔵	2008	2/10	日帰り	1B	高橋英雄	9	128
10	大楠山(新人歓迎)	三浦半島	1997	4/20	日帰り	A	細野清子	1	16
281	大雲取谷	奥多摩	2002	8/31-9/1	テント	C	川下敬史	4	203
543	大雲取谷	奥多摩	2007	6/23夜-24	夜行日帰り	3D	堀口昭二	9	48
372	大蔵高丸～ハマイバ丸	大菩薩	2004	4/29	日帰り	2A	細野省二	6	12
761	大蔵高丸	大菩薩	2012	2/4	日帰り	2B	高橋 重	13	101
561	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2009	10/21-24	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
631	三本槍岳～流石山～大倉山	那須	2009	6/27-28	3B	3B	武内勇二	11	38
676	鈴ヶ尾山～大桑山	中央線沿線	2010	4/24	日帰り	2B	村松敏彦	12	17
140	大洞山～大沢山	中央沿線	2000	1/23	日帰り	B+	細野省二	2	135
95	大鹿山(新人歓迎山行)	大菩薩	1999	4/18	日帰り	A	細野省、清家	2	22
628	大峰山・大台ヶ原	紀伊山地	2009	5/24-28	山麓泊	3B	大串秀雄	11	20
101	大峰山～大台ヶ原山	台高山脈	1999	5/1-3	テント	C	細野省二	2	40
528	大高山	奥武蔵	2007	4/15	日帰り	2B	中村隆泰	9	10
42	大岳山(2期生卒業山行)	奥多摩	1998	3/15	日帰り	A	日下芳十	1	80
455	大岳山	奥多摩	2005	8/21	日帰り	2A	中村八重子	7	77
495	大岳山	奥多摩	2006	7/16	日帰り	3B	中村隆泰	8	57
243	奥多摩三山(大岳山、御前山、三頭山)	奥多摩	2001	11/23-24	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
551	大岳山～鋸尾根	奥多摩	2007	8/12	日帰り	2B	高橋英雄	9	67
151	大塚山～中塚山	房総	2000	4/29	日帰り	A	外崎 蓮	3	13
762	大塚山～御岳山～日の出山	奥多摩	2012	2/18	日帰り	2A	村松敏彦	13	103

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
373	鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～大栃山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
587	大行沢～カケス沢	東北	2008	6/14-15	テント	4D	千葉有子	10	41
87	大岱山	甲州	1999	2/7	日帰り	A++	細野省二	2	9
380	大幡川四十八滝沢	富士周辺	2004	5/30	日帰り	4D	堀口昭二	6	28
403	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2006	9/25-30	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
366	大平山～晃石山	北関東	2004	3/20-21	宿	2A	大串秀雄	6	1
557	太平山 (ウイズハイク)	北関東	2007	9/23	日帰り	1A	小川誠二郎	9	83
140	大洞山～大沢山	中央沿線	2000	1/23	日帰り	B+	細野省二	2	135
606	奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
342	女峰・大真名子山・太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109
512	大峰山～吾妻耶山	谷川	2006	11/5	日帰り	2B	青山寿子	8	104
101	大峰山～大台ヶ原山	台高山脈	1999	5/1-3	テント	C	細野省二	2	40
628	大峰山・大台ヶ原	紀伊山地	2009	5/24-28	山麓泊	3B	大串秀雄	11	20
347	大室山・加入道山	丹沢	2003	10/23	日帰り	2B	原田君子	5	133
427	加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2006	3/20-22	避難小屋	4B	青山寿子	7	5
616	大室山・赤鞆ヶ岳	西丹沢・道志	2009	1/17-18	山麓泊	2B	小川誠二郎	10	116
727	畦ヶ丸～加入道山～大室山	丹沢	2011	2/19-20	避難小屋	3B	北川勝久	12	153
616	大室山・赤鞆ヶ岳	西丹沢・道志	2009	1/17-18	山麓泊	2B	小川誠二郎	10	116
18	大山～三峰山	丹沢	1997	6/21	日帰り	A	清家三保子	1	28
295	大山～三峰山	丹沢	2002	11/17	日帰り	A	中村隆泰	4	246
302	大山	丹沢	2003	1/19	日帰り	A	高橋芳恵	4	263
625	大山	丹沢	2009	4/26	日帰り	2A	柴 勇	11	14
564	小川山	奥秩父	2007	11/10-11	テント	3B	柴 勇	9	100
484	小川谷・悪谷	奥多摩	2006	5/21	日帰り	3B	堀口昭二	8	21
102	奥久慈男体山	常磐	1999	5/9	日帰り	A+	中村隆泰	2	43
309	奥久慈男体山	常磐	2003	3/30	日帰り	A	堀口・青山	5	6
231	日光白根山	日光	2001	9/29-30	避難小屋	B	武内勇二	4	69
703	戦場ヶ原～小田代ヶ原・奥白根山	奥日光	2010	8/28-28	テント	3C	柴 勇	12	92
759	日光白根山(X'mas山行)	日光	2011	12/17-18	テント	3D	村松敏彦	13	94
541	カヤの平・奥裾花 (市民登山)	北信濃	2008	6/9-10	山麓泊	1A	堀口昭二	9	39
229	奥秩父の沢、川胡桃沢・鶏冠谷右俣	奥秩父	2001	9/23-24	テント	B, D	村松敏彦	4	64
170	奥穂高岳・北穂高岳	北ア	2000	8/25-28	山小屋	B+	大串秀雄	3	63
390	前穂高岳～奥穂高岳	北ア	2004	7/24-26	山小屋	3D	大串秀雄	6	54
598	奥穂高岳	北ア	2008	8/22-24	山小屋	4C	坂口よし江	10	69
61	西穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳	北ア	1999	7/18-21	山小屋	D	村松敏彦	1	107
47	石裂山	前日光	1998	4/19	日帰り	A+	柴 勇	1	87
430	石裂山	前日光	2005	4/10	日帰り	2B	高橋芳恵	7	12
603	石裂山	前日光	2008	10/5	日帰り	2A	高橋重	10	82
486	那須旭岳・大白森山	那須	2007	5/27-29	テント	3C	村松敏彦	8	25
602	尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
703	戦場ヶ原～小田代ヶ原・奥白根山	奥日光	2010	8/28-28	テント	3C	柴 勇	12	92
577	お天気山～羽賀場山	前日光	2008	3/16	日帰り	2B	安田みづほ	10	4
391	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6	57
700	常念岳～大天井岳～槍ヶ岳	北アルプス	2010	8/19夜-23	山小屋/テント	3C	武内勇二	12	81
537	鬼石沢	丹沢	2007	5/27	日帰り	3C	青山寿子	9	31
479	鬼ヶ岳～節刀ヶ岳	富士周辺	2006	4/9	日帰り	2B	武内勇二	8	9
373	鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～大栃山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
617	大室山・赤鞆ヶ岳	中央沿線	2009	1/25	日帰り	1B	瀬田映子	10	120
180	小野子山～十二ヶ岳	上州	2000	11/3	日帰り	A+	外崎 蓮	3	90
683	小野子山～十二ヶ岳	上州	2010	5/22	日帰り	2B	原田和昭	12	31
481	帯那山	甲州	2006	4/30	日帰り	1A	高橋英雄	8	13
425	お坊山	中央沿線	2005	3/13	日帰り	3B	村松敏彦	7	1
17	表妙義縦走	上州	1997	6/15	日帰り	C	柴 勇	1	27
238	表妙義	上州	2001	10/27-28	テント	C+	柴 勇	4	88
371	表妙義	上州	2004	4/25	日帰り	2B	榊原文子	6	10
401	表妙義	上州	2004	9/18-19	夜	4D	青山寿子	6	83
654	表妙義	西上州	2009	11/8	日帰り	2B	中村隆泰	11	100
361	恩若峰・源次郎岳	中央沿線	2004	1/25	日帰り	3C	村松敏彦	5	166
338	御嶽山・乗鞍岳	木曾・北ア	2003	8/28-31	山小屋	4C	大串秀雄	5	96
594	木曾御嶽山	木曾	2008	8/2-3	山小屋	3B	坂巻明	10	59
66	甲斐駒ヶ岳	南ア	1998	9/11-13	テント	C	細野省二	1	125
218	甲斐駒ヶ岳～仙丈岳	南ア	2001	7/26-29	テント	C	武内勇二	4	40
504	甲斐駒ヶ岳	南ア	2006	8/9	山小屋	3C	佐藤健一	8	81
744	甲斐駒ヶ岳	南アルプス	2011	7/29-30	山小屋	3B	小川誠二郎	13	51

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
407	宮之浦岳・開闢岳	九州	2004	10/21-24	山小屋	2C	細野清子	6	97
198	蛾ヶ岳～三方分山<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	4/14-15	旅館泊	B	村松敏彦	7	22
275	加賀白山	白山	2002	7/19夜-7/2	テント	B+	細野清子	4	181
698	餓鬼岳～燕岳	北アルプス	2010	8/12～15	山小屋	3C	高橋英雄	12	74
587	大行沢～カケス沢	東北	2008	6/14-15	テント	4D	千葉有子	10	41
155	景信山～高尾山	中央沿線	2000	5/14	日帰り	A	斎藤清一	3	23
251	景信山～陣馬山	中央沿線	2002	2/24	日帰り	A	松本 豊	4	118
678	陣馬山～景信山～高尾山	高尾	2010	4/25	日帰り	2A	田村光子	12	21
724	陣馬山～景信山	高尾	2011	1/30	日帰り	2B	青山寿子	12	146
163	籠ノ登山・水ノ塔山	上信	2000	7/16	日帰り	A	安田みづほ	3	43
27	尾瀬集中登山(創立記念) A:笠ヶ岳～至仏山	尾瀬	1997	10/9-11	テント&山小屋	B	柴勇、川名	1	47
345	笠ヶ岳～至仏山	尾瀬	2003	10/11-12	山荘	2B	外崎 蓮	5	127
553	笠ヶ岳	北ア	2007	8/17-20	山小屋	3C	高橋 重	9	70
708	北ノ俣岳～黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	2010	9/23-27	山小屋	4C	武内勇二	12	104
36	笠取山、雁坂峠(クリスマス山行)	奥秩父	1997	12/20-21	テント	B	村松敏彦	1	68
326	笠取山	奥秩父	2003	6/15	日帰り	A	原田君子	5	58
487	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2006	2/5	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
626	堂平山～笠山	奥武蔵	2009	5/9	日帰り	1A	原田和昭	11	16
263	甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406	甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2004	10/16-17	避難小屋	3C	武内勇二	6	95
278	鹿島槍ヶ岳	北ア	2002	8/13夜-17	山小屋	C	高橋英雄	4	190
533	鹿島槍ヶ岳	北ア	2007	4/6	テント	4D	村松敏彦	9	19
593	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
749	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳	北アルプス	2011	8/26-29	山小屋	3C	武内勇二	13	66
389	霞沢岳	北ア	2004	7/23-25	テント	4C	武内勇二	6	51
217	鳥海山・月山	出羽	2001	7/19夜-22	山小屋	B	大串秀雄	4	36
148	四ッ又山～鹿岳	西上州	2000	4/16	日帰り	B	細野省二	3	7
347	大室山・加入道山	丹沢	2003	10/23	日帰り	2B	原田君子	5	133
427	加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2005	3/20-21	避難小屋	3B	青山寿子	7	5
727	畦ヶ丸～加入道山～大室山	丹沢	2011	2/19-20	避難小屋	3B	北川勝久	12	153
83	鐘撞堂山(新年鍋山行)	奥武蔵	1999	1/10	日帰り	A	細野清子	2	2
408	鹿野山	房総	2004	10/23	日帰り	1A	原田和昭	6	102
297	加波山(忘年山行)	常陸	2002	12/8	日帰り	A	原田和昭	4	250
476	兜山～棚山	中央沿線	2006	3/12	日帰り	2A	村松敏彦	8	1
305	鎌倉アルプス天園	湘南	2003	2/9	日帰り	A	細野清子	4	270
726	皇鈴山～登谷山～釜伏山	奥武蔵	2011	2/6	日帰り	2A	中村隆泰	12	151
232	上高地～涸沢	北ア	2000	10/6-7	山小屋	B	大串秀雄	4	71
70	神峰山ふれあいハイク	常磐	1998	9/27	(雨のみ、水鉄砲他)	A	県連東葛	1	135
672	神峰山～高鈴山(新人歓迎山行)	阿武隈山城	2010	4/4	日帰り	1A	川下敬史	12	4
649	甕山・神室山	秋田・山形県境	2009	10/16-18	テント	2B	武内勇二	11	87
595	掃部ヶ岳～杏ヶ岳	上州	2008	8/10	日帰り	2A	品田千恵子	10	61
122	茅ヶ岳	中央沿線	1999	9/19	日帰り	A	清家三保子	2	91
608	茅ヶ岳	甲斐	2008	11/2	日帰り	2B	小川洋子	10	95
385	榎ノ木山～鷹ノ巣山	奥多摩	2004	7/4	日帰り	2B	千葉有子	6	41
541	カヤの平・奥裾花(市民登山)	北信濃	2007	9/10	山麓泊	1A	堀口昭二	9	39
232	上高地～涸沢	北ア	2001	10/6-8	山小屋	B	大串秀雄	4	71
583	涸沢・蝶ヶ岳	北ア	2008	5/3-6	テント	4D	千葉有子	10	23
423	諏訪岳～唐沢山	両毛	2006	2/10-12	日帰り	2A	斎藤清一	6	134
431	モミソ沢・新茅の沢～鳥尾山	丹沢	2007	4/16-19	テント	5B	佐藤健一	7	14
416	鳥場山	房総	2004	12/5	日帰り	1A	細野清子	6	118
227	唐松岳～五竜岳	北ア	2001	9/6-8	山小屋	C	大串秀雄	4	57
452	唐松岳～鎌ヶ岳～杓子岳	北ア	2005	8/13-15	山小屋	3C	高橋英雄	7	71
454	唐松岳～五竜岳	北ア	2005	8/21-22	山小屋	3B	原田和昭	7	75
679	唐松岳(春山山行)	北アルプス	2010	5/1-4	テント	4D	村松敏彦	12	23
749	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳	北アルプス	2011	8/26-29	山小屋	3C	武内勇二	13	66
729	三ノ木戸山～狩倉山	奥多摩	2011	4/17	日帰り	2B	青山寿子	13	6
81	切込湖・刈込湖	日光	1999	12/14	日帰り	A	柴 勇	1	162
640	切込湖～刈込湖	日光	2009	8/10	日帰り	2A	細野清子	11	62
7	川苔山	奥多摩	1997	2/22	日帰り	A+	清家三保子	1	11
100	川乗山	奥多摩	1999	5/2	日帰り	A+	高橋英雄	2	39
356	蕎麦粒山～川苔山	奥多摩	2003	12/13-14	避難小屋	3B	坂口よし江	5	155
439	川乗谷・逆川	奥多摩	2005	5/22	日帰り	3C	村松敏彦	7	32
655	川苔山	奥多摩	2009	11/15	日帰り	2A	清家三保子	11	102
205	雁ノ腹摺山～姥子山	大菩薩	2001	5/19	日帰り	A	斎藤清一	4	17

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
513	大菩薩嶺～雁ヶ腹摺山	大菩薩	2007	5/7	山小屋	4D	大串秀雄	8	106
580	勘七の沢	丹沢	2008	4/13	日帰り	3C	佐々木侑	10	16
89	官ノ倉山	奥武蔵	1999	2/21	日帰り	A	日下芳十	2	12
199	高山不動と関八州見晴台	奥武蔵	2001	4/15	日帰り	A	中村隆泰	4	3
468	菊花山	中央沿線	2005	11/3	日帰り	1B	中村隆泰	7	109
266	阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
167	木曾駒ヶ岳～宝剣岳	中ア	2000	8/6-7	山小屋	B	清家三保子	3	55
246	木曾駒ヶ岳	中ア	2001	12/22-24	テント、避難小屋	C+	村松敏彦	4	105
279	木曾駒ヶ岳～空木岳	中ア	2002	8/23-25	山小屋	C	大串秀雄	4	196
394	木曾駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2004	8/19-22	山小屋	4C	大串秀雄	6	67
552	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2007	8/12-14	山小屋	3C	佐藤健一	9	68
638	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	2B	村松敏彦	11	56
376	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
76	北高尾山稜	中央沿線	1998	11/3	日帰り	A++	細野清子	1	153
494	北岳	南ア	2006	7/13-15	山小屋	3B	原田和昭	8	54
549	塩見岳～北岳	南ア	2008	7/28-32	山小屋	4C	外崎 蓮	9	62
702	北岳	南アルプス	2010	8/26-28	山小屋	3C	村松敏彦	12	88
708	北ノ俣岳～黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	2010	9/23-27	山小屋	4C	武内勇二	12	104
170	奥徳高岳・北穂高岳	北ア	2000	8/25-28	山小屋	B+	大串秀雄	3	63
253	北八ヶ岳	八ヶ岳	2002	3/2-3	山小屋	B+	村松敏彦	4	123
290	北八ヶ岳	八ヶ岳	2002	10/18	日帰り	A	斎藤清一	4	233
579	北八ヶ岳	八ヶ岳	2008	4/5-6	山小屋	3C	安田みづほ	10	12
586	北八ヶ岳 (市民登山)	八ヶ岳	2008	6/7-8	山小屋・テント	2B/3B	やまたん	10	31
175	鬼怒沼	日光	2000	9/30-10/1	山小屋	B	武内勇二	3	78
602	尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
69	仏果山～経ヶ岳	丹沢	1998	9/20	日帰り	A	高橋英雄	1	134
247	仏果山～経ヶ岳	丹沢	2002	1/20	日帰り	A	原田和昭	4	108
288	焼石岳～経ヶ岳	東北	2002	10/13-14	避難小屋	C	細野省二	4	227
303	達沢山～京戸山	中央沿線	2003	1/19	日帰り	C	村松敏彦	4	265
367	行道山	両毛	2004	3/28	日帰り	1B	佐藤健一	6	3
696	霧ヶ峰(車山)	霧ヶ峰	2010	8/1	日帰り	1A	原田和昭	12	70
81	切込湖・刈込湖	日光	1998	12/13	日帰り	A	柴 勇	1	162
640	切込湖～刈込湖	日光	2009	8/9	日帰り	1A	細野清子	11	62
536	霧島・祖母山・烏帽子岳	九州	2007	5/21-24	山麓泊	3B	大串秀雄	9	27
52	霧降高原	日光	1998	5/31	日帰り	A	大串秀雄	1	92
154	霧降高原	日光	2000	5/7	日帰り	A	榎原文子	3	22
485	霧降高原	日光	2006	5/24	日帰り	1A	榎原文子	8	23
555	五十沢～金城山	上越	2008	9/1-3	避難小屋	4C	千葉有子	9	78
123	金時山～明神ヶ岳	箱根	1999	9/26	日帰り	A	斎藤清一	2	93
620	金時山	箱根	2009	2/22	日帰り	2B	坂口よし江	10	127
191	金時山<富士周辺シリーズ>	箱根	2001	2/11	日帰り	A	細野清子	7	7
136	甲武信岳～金峰山(クリスマス山行)	奥秩父	1999	12/23-25	テント、避難小屋	D	村松敏彦	2	128
236	瑞牆山～金峰山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	細野清子	4	83
376	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
418	金峰山	奥秩父	2004	12/25-26	テント	4D	村松敏彦	6	123
436	金北山	佐渡	2005	8/4-6	山小屋	2B	原田和昭	7	26
33	九鬼山	中央沿線	1997	11/8	日帰り	A	細野清子	1	64
369	馬立山～九鬼山	中央沿線	2004	4/11	日帰り	1B	武内勇二	6	6
666	九鬼山	中央沿線	2010	2/7	日帰り	2A	中村隆泰	11	127
415	草津白根山	上州	2004	12/1-2	宿	1A	斎藤清一	6	117
496	草津白根山	上州	2006	7/31-8/1	山麓泊	1A	斎藤清一	8	59
60	櫛形山	南ア	1998	7/7	日帰り	A	清家三保子	1	104
212	櫛形山	南ア	2001	6/30	日帰り	A	原田君子	4	25
740	櫛形山	中央沿線	2011	7/9	日帰り	2B	原田和昭	13	39
745	葛葉川本谷(BOM研修)	丹沢	2011	8/7	日帰り	2B	村松敏彦	13	53
120	葛葉川本谷	丹沢	1999	9/5	日帰り	B	村松敏彦	2	84
325	葛葉川本谷	丹沢	2003	6/8	日帰り	C	堀口昭二	5	56
456.2	葛葉川本谷 (登山教室)	丹沢	2005	9/11	日帰り	2B	村松敏彦	7	131
438	熊倉山	奥秩父	2005	5/15	日帰り	2B	高橋英雄	7	30
730	熊倉山	秩父	2011	4/24	日帰り	2A	坂巻 明	13	8
434	根本山～熊鷹山	桐生	2006	4/30	日帰り	3B	外崎 蓮	7	21
718	虎丸山～熊岳	中央沿線	2010	12/11	日帰り	1A	高橋英雄	12	133
483	熊野古道・悪四郎山	熊野	2006	5/14-16	山麓泊	3B	細野清子	8	18
79	雲取山	奥秩父	1998	11/22-23	素泊り小屋	B	細野清、外崎	1	158

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
158	雲取山 (公開登山)	奥秩父	2000	6/3-4	山小屋/テント泊	B	日下芳十	3	27
308	雲取山	奥秩父	2003	3/22-23	避難小屋	C	青山寿子	5	4
487	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2009	2/8	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
550	雲取山	奥秩父	2007	4/5	山小屋	3A	小川誠二郎	9	65
713	雲取山～天祖山	奥多摩	2010	11/13-14	山小屋	3B	武内勇二	12	119
168	雲ノ平～槍ヶ岳	北ア	2000	8/12-16	山小屋/テント	C	大串秀雄	3	57
743	雲ノ平～高天原～鷲羽岳	北アルプス	2011	7/28-8/1	山小屋	3C	武内勇二	13	48
516	殿平～鞍吾山	中央沿線	2007	11/24	日帰り	2B	武内勇二	8	115
107	高畑山～倉岳山 (新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	A	清家三保子	2	55
185	倉岳山 (忘年山行)	中央沿線	2000	12/3	日帰り	A	原田君子	3	97
574	鳥屋山～倉岳山	中央沿線	2009	2/4	日帰り	2B	千葉有子	9	125
712	高畑山～倉岳山	中央沿線	2010	11/7	日帰り	2A	中村隆泰	12	117
331	倉戸山	奥多摩	2003	7/13	日帰り	2A	高橋英雄	5	76
328	栗駒山・焼石山	東北	2003	6/28-29	貸しテント	B	大串恵子	5	63
444	早池峰山・栗駒山 (市民登山)	北上	2006	6/17-20	山麓泊	3B	石垣吉朗	7	43
674	御前山～九竜山	奥多摩	2010	4/18	日帰り	2B	青山寿子	12	9
602	尾瀬沼～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
734	黒金山	奥秩父	2011	5/15	夜行日帰り	3B	青山寿子	13	18
13	黒川鶏冠山	大菩薩	1997	5/24	日帰り	A+	川名	1	21
693	農鳥岳～黒河内岳	南アルプス	2010	7/21～23	テント	3C	千葉有子	12	60
179	黒岳	富士周辺	2000	10/29	日帰り	A	原田君子	3	88
189	三ヶ峠山～黒岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	1/20-21	山小屋	B+	中村隆泰	7	3
739	黒岳	御坂山麓	2011	7/3	日帰り	2A	田村光子	13	37
137	水の塔山・黒斑山	上州	2000	1/8-9	ホテル泊	B	村松敏彦	2	130
292	北信三山(黒姫山・戸隠山・飯縄山)	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329	戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
604	黒部峡谷下の廊下	北ア	2008	10/11-13	山小屋	3C	千葉有子	10	85
335	黒部源流	北ア	2003	8/12-17	テント	5D	堀口昭二	5	87
64	黒部五郎岳	北ア	1998	7/31-8/4	山小屋	B+	外崎 蓮	1	116
708	北ノ俣岳～黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	2010	9/23-27	山小屋	4C	武内勇二	12	104
725	黒斑山・水の塔山	浅間	2011	2/5-6	山麓泊	3C	高橋重	12	148
518	鶏足山～花香月山 (忘年山行)	常磐	2006	12/10	日帰り	2B	川下敬史	8	120
689	釈迦ヶ岳～鶏頂山	高原山	2010	6/20	日帰り	2A	坂巻明	12	51
435	燧ヶ岳・景鶴山	尾瀬	2006	8/1-4	テント	5D	村松敏彦	7	23
719	仏果山～華厳山	丹沢	2010	12/12	日帰り	2B	青山寿子	12	135
544	袈裟丸山	足尾山塊	2007	6/23-24	テント	3B	外崎 蓮	9	50
629	袈裟丸山～小法師岳	足尾山塊	2009	5/30-31	避難小屋	4B	青山寿子	11	26
682	袈裟丸山	足尾	2010	5/16	日帰り	2A	中村隆泰	12	29
208	毛無山～十二ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/2	日帰り	B	大串秀雄	7	28
312	モミソ沢・源次郎沢	丹沢	2004	4/12-14	テント	C	堀口昭二	5	15
480	水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2007	4/15-17	テント	3D	佐藤健一	8	11
361	恩若峰・源次郎岳	中央沿線	2004	1/25	日帰り	3C	村松敏彦	5	166
131	乾徳山	奥秩父	1999	11/23	日帰り	B	三浦七郎	2	120
293	乾徳山	奥秩父	2002	11/3	日帰り	B	安田みづほ	4	242
710	乾徳山	奥秩父	2010	10/24	日帰り	2B	田村光子	12	111
333	恋ノ岐沢・平ヶ岳	会越	2003	7/27-29	テント	5E	村松敏彦	5	81
310	甲州高尾山	中央沿線	2003	4/6	日帰り	A	中村隆泰	5	11
113	庚申山～皇海山	足尾山塊	1999	7/24-25	避難小屋	B+	細野省二	2	64
460	庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2005	10/2-3	避難小屋	3C	大串秀雄	7	90
457	甲東不老山	中央沿線	2005	9/18	日帰り	1A	中村隆泰	7	82
65	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	1998	8/21-26	山小屋	B+	細野省二	1	121
597	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	2008	8/21-23	山小屋	2B	清家三保子	10	66
675	比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12	11
660	足和田山～紅葉台	富士周辺	2009	12/12	日帰り	1A	千葉有子	11	114
40	古賀志山	前日光	1998	2/14	日帰り	A+	柴 勇	1	76
316	赤岩山～古賀志山	前日光	2003	4/27	日帰り	B	柴 勇	5	26
525	古賀志山 (新人歓迎山行)	前日光	2007	3/25	日帰り	1B	中村八重子	9	1
84	南大菩薩小金沢連峰	大菩薩	1999	1/15-16	山小屋	B+	柴 勇	2	4
24	小草平の沢	丹沢	1997	9/21	日帰り	B	村松敏彦	1	42
456.3	御座山・労山フェスタ	西上州	2005	9/17	日帰り	2B	村松敏彦・労山	7	133
164	五色ヶ原～薬師岳	北ア	2000	7/20-23	山小屋	C	村松敏彦	3	45
637	浄土山～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	4C	清家三保子	11	53
649	甕山・神室山	秋田・山形県境	2009	10/16-18	テント	2B	武内勇二	11	87
374	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
394	木曾駒ヶ岳～空木岳～越百山	中ア	2006	8/19-24	山小屋	4C	大串秀雄	6	67
642	摺古木山～安平路山～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	6C	村松敏彦	11	66
19	御前山	奥多摩	1997	6/28	日帰り	A	村松敏彦	1	29
178	御前山	奥多摩	2000	10/22	日帰り	A	大串秀雄	3	87
243	奥多摩三山 (大岳山、御前山、三頭山)	奥多摩	2001	11/23-4	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
610	御前山	奥多摩	2008	11/23	日帰り	2B	箕輪完二	10	100
717	御前山 (忘年山行)	茨城	2010	12/5	日帰り	1A	武内勇二	12	129
674	御前山～九竜山	奥多摩	2010	4/18	日帰り	2B	青山寿子	12	9
139	小檜山	奥秩父	2000	1/16	日帰り	B	村松敏彦	2	134
82	甲武信岳 (クリスマス山行)	奥秩父	1998	12/19-20	テント	C	村松敏彦	1	163
136	甲武信岳～金峰山 (クリスマス山行)	奥秩父	1999	12/23-25	テント、避難小屋	D	村松敏彦	2	128
265	笛吹川東沢釜の沢～甲武信岳	奥秩父	2002	5/25-26	テント	B	堀口昭二	4	147
268	甲武信ヶ岳	奥秩父	2002	6/14夜-16	山小屋	B+	外崎 蓮	4	157
376	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
685	古峰原高原・横根岳～井戸湿原	前日光	2010	5/28-29	ロッジ泊	1A	柴 勇	12	35
629	袈裟丸山～小法師岳	足尾山塊	2009	5/30-31	避難小屋	4B	青山寿子	11	26
681	巢神山～小法師岳	足尾	2010	5/15-16	テント	3C	千葉有子	12	27
156	子持山	上州	2000	5/21	日帰り	A	細野清子	3	25
514	菰釣山～三国山	丹沢	2006	11/11-12	避難小屋	2B	坂口よし江	8	109
196	菰釣山・高指山<富士周辺シリーズ>	道志	2001	3/24-25	無人小屋	B	柴 勇	7	18
227	唐松岳～五竜岳	北ア	2001	9/6-8	山小屋	C	大串秀雄	4	57
454	唐松岳～五竜岳	北ア	2006	8/21-23	山小屋	4B	原田和昭	7	75
593	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
749	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳	北アルプス	2011	8/26-29	山小屋	3C	武内勇二	13	66
182	権現山	中央沿線	2000	11/18	日帰り	B	柴 勇	3	94
296	権現山	中央沿線	2002	11/24	日帰り	A	清家三保子	4	248
337	西岳～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎 蓮	5	93
614	西岳～権現～編笠 (クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎 蓮	10	110
641	編笠山～権現岳～赤岳	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11	64
735	権現山	中央線沿線	2011	5/22	日帰り	2A	中村隆泰	13	20
675	比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12	11
463	蔵王周辺の山々	蔵王連峰	2005	10/9-12	山麓泊	3B	斎藤清一	7	97
39	笹尾根	奥多摩	1998	2/8	日帰り	A	清家三保子	1	74
193	笹尾根	奥多摩	2001	2/18	日帰り	A	中村隆泰	3	108
362	笹尾根	奥多摩	2004	2/1	日帰り	2B	外崎 蓮	5	168
576	三頭山～笹尾根	奥多摩	2008	3/8-9	日帰り	1A	外崎 蓮	10	1
615	笹尾根 (横寄山)	奥多摩	2009	1/10	日帰り	2B	矢野裕子	10	114
665	笹尾根 (小桐峠～生藤山)	中央沿線	2010	2/6	日帰り	2A	千葉有子	11	125
250	笹尾根 (日原峠～生藤山)	中央沿線	2002	2/16	日帰り	A	中村隆泰	4	116
581	笹子雁ヶ腹摺山	中央沿線	2008	4/26	日帰り	2B	原田和昭	10	18
96	笹子雁ヶ腹摺山 (新人歓迎山行)	中央沿線	1999	4/18	日帰り	A+	斎藤清一	2	24
755	笹子雁ヶ腹摺山	大菩薩	2011	11/3	日帰り	2B	村松敏彦	13	83
501	富士山～佐白山 (ウィズハイク)	茨城	2007	9/24	日帰り	1A	外崎 蓮	8	71
729	三ノ木戸山～狩倉山	奥多摩	2011	4/17	日帰り	2B	青山寿子	13	6
647	佐武流山	上越	2009	9/26-27	テント	4C	青山寿子	11	82
556	笊ヶ岳	南ア	2007	9/9-10	テント	4C	外崎 蓮	9	81
638	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	4B	村松敏彦	11	56
652	三ノ宿山	日光	2009	11/1	日帰り	2A	中村八重子	11	95
294	雷電山～三方山	奥多摩	2002	11/10	日帰り	A	日下芳十	4	244
198	蛾ヶ岳～三方分山<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	4/14-15	旅館泊	B	村松敏彦	7	22
413	三方分山～パノラマ台	富士周辺	2004	11/21	日帰り	2B	斎藤清一	6	113
157	南月山～三本槍岳	那須	2000	5/27-28	山小屋	B	三浦七郎	3	26
263	甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406	甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2005	10/16-18	避難小屋	3C	武内勇二	6	95
569	三本槍岳	那須	2007	12/15-16	テント	3C	吉川誠一	9	114
631	三本槍岳～流石山～大倉山	那須	2009	6/27-28	3B	3B	武内勇二	11	38
686	茶臼岳～三本槍岳～朝日岳 (市民登山)	那須連峰	2010	6/5-6	旅館泊	2A	高橋 重	12	37
336	爺ヶ岳～針ノ木岳	北ア	2003	8/13-16	山小屋	3C	斎藤清一	5	90
593	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
749	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳	北アルプス	2011	8/26-29	山小屋	3C	武内勇二	13	66
65	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	1998	8/21-26	山小屋	B+	細野省二	1	121
451	仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南ア	2007	8/5-10	山小屋	6D	大串秀雄	7	66
549	塩見岳～北岳	南ア	2007	7/28-31	山小屋	4C	外崎 蓮	9	62
597	塩見岳～蝙蝠岳	南ア	2008	8/21-23	山小屋	2B	清家三保子	10	66

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
128	杓子山～鹿留山	富士周辺	1999	11/3	日帰り	A	外崎 蓮	2	113
466	鹿俣山 (玉原高原)	上州	2005	10/27	日帰り	2A	柴田節子、県連	7	105
261	鹿倉山	奥多摩	2002	5/3	日帰り	A	高橋英雄	4	138
209	思親山<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/3	日帰り	A	斎藤清一	7	32
332	伊吹山・賤ヶ岳	近江	2003	7/25夜-27	テント	2A	武内勇二	5	77
215	七面山～八紘嶺<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	7/14-15	宿坊泊	B	細野省二	7	39
54	七里川清掃ハイキング	房総	1998	6/7	日帰り	A	大串秀、県連	1	94
144	七里川-追原-元清澄山	房総	2000	2/19-20	日帰り	A	県連自然保護委	2	142
27	尾瀬集中登山(創立記念) C:至仏山	尾瀬	1997	10/9-11	テント&山小屋	B	柴勇、村松敏	1	47
27	尾瀬集中登山(創立記念) A:笠ヶ岳-至仏山	尾瀬	1998	10/9-12	テント&山小屋	B	柴勇、川名	1	47
345	笠ヶ岳・至仏山	尾瀬	2003	10/11-12	山荘	2B	外崎 蓮	5	127
373	鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～大栃山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
689	釈迦ヶ岳～鶏頂山	高原山	2010	6/20	日帰り	2A	坂巻 明	12	51
393	白馬～杓子～鐘ヶ岳	北ア	2005	8/12-16	山小屋	4C	高橋英雄	6	64
452	唐松岳～鐘ヶ岳～杓子岳	北ア	2007	8/13-17	山小屋	5C	高橋英雄	7	71
128	杓子山～鹿留山	富士周辺	1999	11/3	日帰り	A	外崎 蓮	2	113
565	社山	日光	2007	11/18	日帰り	2A	石垣吉朗	9	103
443	尼ヶ禿山～迦葉山	上州	2006	6/17	日帰り	3B	斎藤清一	7	41
330	阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
180	小野子山～十二ヶ岳	上州	2000	11/3	日帰り	A+	外崎 蓮	3	90
683	小野子山～十二ヶ岳	上州	2010	5/22	日帰り	2B	原田和昭	12	31
375	十二ヶ岳	富士周辺	2004	5/9	日帰り	2B	中村隆泰	6	18
208	毛無山～十二ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	6/2	日帰り	B	大串秀雄	7	28
709	天狗角力取山～障子ヶ岳	朝日連峰	2010	10/15-17	3B	3B	武内勇二	12	108
68	上州武尊山	上州	1998	9/19-20	山小屋	B+	柴 勇	1	132
289	上州武尊山	上州	2002	10/13-14	民宿	B	大串秀雄	4	230
482	上州武尊岳	上州	2006	5/3-4	テント	4D	村松敏彦	8	15
135	上州三峰山	西上州	1999	12/19	日帰り	A+	細野省二	2	126
352	戸倉二山～生藤山	奥多摩	2003	11/9	日帰り	3B	千葉有子	5	144
314	生藤山～陣馬山	中央沿線	2003	4/13	日帰り	A	高橋芳恵	5	23
250	笹尾根 (日原峠～生藤山)	中央沿線	2003	2/17	日帰り	A	中村隆泰	4	116
259	生藤山	中央沿線	2002	4/21	日帰り	A	細野清、榊原	4	135
637	浄土山～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	3C	清家三保子	11	53
49	蝶ヶ岳～常念岳	北ア	1998	5/2-5	テント	C	村松敏彦	1	89
172	燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋/テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6	57
700	常念岳～大天井岳～槍ヶ岳	北アルプス	2010	8/19夜-23	山小屋/テント	3C	武内勇二	12	81
747	常念岳～蝶ヶ岳	北アルプス	2011	12/15	山小屋	3B	高橋英雄	13	60
433	笹の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2005	4/24	日帰り	3B	青山寿子	7	19
449	笹の岩～蕎麦粒山	奥多摩	2005	7/23	日帰り	2B	中村隆泰	7	60
613	城峯山(忘年山行)	秩父	2008	12/14	日帰り	1A	やまたん	10	106
22	朝日岳・白毛門	谷川	1997	8/30-31	テント	C	細野省二	1	37
112	朝日岳・白毛門	谷川	1999	7/24-25	避難小屋	B+	外崎 蓮	2	63
124	白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	1999	10/9-11	テント	B+	村松敏彦	2	101
448	岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2006	7/22-25	テント	4D	細野清子	7	56
738	岩木山・白神岳	東北	2011	7/2-7/4	テント	2B	柴 勇	13	34
461	白毛門沢	上越	2005	10/2	前夜発	3C	千葉有子	7	94
349	白笹山～南月山	那須	2003	10/26	日帰り	2A	武内勇二	5	137
387	白砂山	上信越	2004	7/17-18	宿	3B	中村隆泰	6	45
688	白谷沢	奥武蔵	2010	6/13	日帰り	2B	堀口昭二	12	50
118	白峰三山	南ア	1999	8/20-22	山小屋	C	外崎 蓮	2	77
21	白馬岳～朝日岳	北ア	1997	8/7-10	テント&山小屋	B	細野清子	1	33
317	白馬岳 (雪山合宿)	北ア	2003	5/2-5	テント	D	村松敏彦	5	28
393	白馬～杓子～鐘ヶ岳	北ア	2004	8/12-15	山小屋	3C	高橋英雄	6	64
399	朝日岳～白馬岳	北ア	2005	9/16-20	山小屋	3C	石垣吉朗	6	78
166	白馬三山	北ア	2000	8/5-7	山小屋	B	斎藤清一	3	52
695	白馬岳～朝日岳	北アルプス	2010	7/30～8/2	山小屋/テント	3C	外崎 蓮	12	65
692	八間山・白砂山	野反湖	2010	7/10～11	山麓泊	3B	原田和昭	12	57
431	モミソ沢・新芽の沢～烏尾山	丹沢	2006	4/16-18	テント	4B	佐藤健一	7	14
183	陣場山	中央沿線	2000	11/19	日帰り	A	榊原文子	4	1
251	景信山～陣馬山	中央沿線	2002	2/24	日帰り	A	松本 豊	4	118
314	生藤山～陣馬山	中央沿線	2003	4/13	日帰り	A	高橋芳恵	5	23
678	陣馬山～景信山～高尾山	高尾	2010	4/25	日帰り	2A	田村光子	12	21
724	陣馬山～景信山	高尾	2011	1/30	日帰り	2B	青山寿子	12	146

(あいうえお順)

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
763	陣馬山(BOM研修)	高尾	2012	2/26	日帰り	1A	BOM研修生	13	105
284	烏帽子岳～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
113	庚申山～皇海山	足尾山塊	1999	7/24-25	避難小屋	B+	細野省二	2	64
460	庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2007	10/2-5	避難小屋	5C	大串秀雄	7	90
600	皇海山～錫ヶ岳	奥日光	2008	9/21-23	テント	4C	青山寿子	10	73
681	巢神山～小法師岳	足尾	2010	5/15-16	テント	3C	千葉有子	12	27
245	助川山(忘年山行)	常陸	2001	12/2	日帰り	A, B	川下敬史	4	103
676	鈴ヶ尾山～大桑山	中央線沿線	2010	4/24	日帰り	2B	村松敏彦	12	17
600	皇海山～錫ヶ岳	奥日光	2008	9/21-23	テント	4C	青山寿子	10	73
499	錫ヶ岳～前白根山	日光	2006	9/9-10	テント	4C	村松敏彦	8	66
153	浅草岳・守門岳	会越	2000	5/3-6	テントノ民宿	D	村松敏彦	3	20
346	浅草岳・守門岳	会越	2003	10/18-19	民宿	2B	柴勇	5	130
595	掃部ヶ岳～杏ヶ岳	上州	2008	8/10	日帰り	2A	品田千恵子	10	61
690	守門岳	越後	2010	6/26～27	避難小屋	3B	石垣吉朗	12	53
642	摺古木山～安平路山～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	4C	村松敏彦	11	66
423	諏訪岳～唐沢山	両毛	2005	2/10-11	日帰り	2A	斎藤清一	6	134
184	高反山・諏訪山	西上州	2000	11/25-26	テント	C+	細野省二	3	96
420	石尊山～三石山	房総	2005	1/29-30	宿	2A	斎藤清一	6	127
618	とみやま水仙遊歩道・石尊山(県連ロングハイク)	房総	2009	1/31-2/1	山麓泊	3A	斎藤清一	10	122
8	石老山(公開登山)	中央沿線	1997	3/16	日帰り	A	柴、細野清	1	12
188	石老山<富士周辺シリーズ>	中央沿線	2001	1/14	日帰り	A	村松敏彦	7	1
479	鬼ヶ岳～節刀ヶ岳	富士周辺	2007	4/10	日帰り	2B	武内勇二	8	9
395	背戸峨廊	阿武隈	2004	8/22	日帰り	1B	中村八重子	6	71
370	モミソ沢・セドの沢左俣	丹沢	2004	4/24-25	テント	4D	堀口昭二	6	8
529	セドの沢右俣	丹沢	2007	4/15	日帰り	3C	堀口昭二	9	12
535	セドの沢左俣	丹沢	2007	5/13	日帰り	3C	堀口昭二	9	24
607	浅間尾根	奥多摩	2008	11/1	日帰り	2A	村松敏彦	10	93
659	雪入山～浅間山(忘年山行)	茨城	2009	12/6	日帰り	1A	村松敏彦	11	110
146	浅間嶺	奥多摩	2000	3/26	日帰り	A	高橋英、安田	3	4
26	仙丈ヶ岳	南ア	1997	9/27-28	山小屋	B	村松敏彦	1	45
218	甲斐駒ヶ岳～仙丈岳	南ア	2001	7/26-29	テント	C	武内勇二	4	40
219	仙丈岳	南ア	2001	7/28-29	小屋・テント	B	清家三保子	4	46
451	仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南ア	2005	5/8	山小屋	4D	大串秀雄	7	66
703	戦場ヶ原～小田代ヶ原・奥白根山	奥日光	2010	8/28-28	テント	3C	柴勇	12	92
644	仙丈ヶ岳～アサヨ峰	南アルプス	2009	8/28-30	山小屋	3C	外崎蓮	11	72
73	平標山～仙ノ倉山	谷川	1998	10/24-25	山小屋	B	細野清子	1	146
274	平標山～仙ノ倉山	谷川	2002	7/13-14	山小屋	B	原田和昭	4	178
396	相馬山～榛名富士	上州	2004	8/29	日帰り	2A	高橋芳恵	6	73
722	曾倉山～扇山	中央線沿線	2011	1/9	日帰り	2A	村松敏彦	12	142
116	蕎麦粒山	奥多摩	1999	8/8	日帰り	A	斎藤清一	2	70
356	蕎麦粒山～川苔山	奥多摩	2003	12/13-14	避難小屋	3B	坂口よし江	5	155
433	笹の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2006	4/25	日帰り	4B	青山寿子	7	19
449	笹の岩～蕎麦粒山	奥多摩	2006	7/24	日帰り	3B	中村隆泰	7	60
536	霧島・祖母山・烏帽子岳	九州	2008	5/21-25	山麓泊	3B	大串秀雄	9	27
321	大源太山～巻機山	上越	2003	5/23-26	避難小屋	C	青山寿子	5	38
59	田代山～帝釈山	会津	1998	7/4-5	テント	B	細野省二	1	102
214	利尻山・大雪山	北海道	2002	7/3-9	山麓、避難小屋	B+	大串秀雄	4	27
404	大山・蒜山	大山	2004	10/1-5	宿	2B	斎藤清一	6	90
400	立山三山～大日三山	北ア	2005	9/17-21	山小屋	3C	外崎蓮	6	80
58	大菩薩峠	大菩薩	1998	6/28	日帰り	A	大串秀雄	1	100
150	大菩薩嶺	大菩薩	2000	4/23	日帰り	B	武内勇二	3	11
364	大菩薩嶺	大菩薩	2004	2/22	日帰り	3C	武内勇二	5	170
513	大菩薩嶺～雁ヶ腹摺山	大菩薩	2006	11/5-6	山小屋	4D	大串秀雄	8	106
650	大菩薩嶺	秩父	2009	10/24-25	山小屋	2A	中村隆泰	11	90
78	大無間山	南ア	1998	11/21-23	テント	C	清家三保子	1	156
73	平標山～仙ノ倉山	谷川	1998	10/24-25	山小屋	B	細野清子	1	146
274	平標山～仙ノ倉山	谷川	2002	7/13-14	山小屋	B	原田和昭	4	178
286	谷川岳～平標山	谷川	2002	10/4夜-6	避難小屋	C	青山寿子	4	220
609	高岩山～鍋割山	奥多摩	2008	11/9	日帰り	2B	本田愛子	10	98
159	高岩	上州	2000	6/10	日帰り	B+	柴勇	3	33
155	景信山～高尾山	中央沿線	2000	5/14	日帰り	A	斎藤清一	3	23
519	高尾山	中央沿線	2006	12/17	日帰り	1A	中村八重子	8	124
575	高尾山	中央沿線	2008	2/11	日帰り	1A	坂巻・小松	9	130
678	陣馬山～景信山～高尾山	高尾	2010	4/25	日帰り	2A	田村光子	12	21

No.	山名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
244	高柄山	中央沿線	2001	11/25	日帰り	A	中村八重子	4	101
145	高川山	中央沿線	2000	3/12	日帰り	A	日下芳十	3	3
368	高川山	中央沿線	2004	4/4	日帰り	2A	中村八重子	6	5
568	高宕山～八郎塚 (忘年山行)	房総	2007	12/9	日帰り	2A	佐藤健一	9	112
196	菰釣山・高指山<富士周辺シリーズ>	道志	2001	3/24-25	無人小屋	B	柴 勇	7	18
672	神峰山～高鈴山(新人歓迎山行)	阿武隈山域	2010	4/4	日帰り	1A	川下敬史	12	4
184	高反山・諏訪山	西上州	2000	11/25-26	テント	C+	細野省二	3	96
111	夜叉神峠～高谷山	南ア	1999	7/4	日帰り	A	大串秀雄	2	62
570	鷹取山	三浦半島	2008	1/20	日帰り	1A	中村隆泰	9	117
319	鷹巣山～六ツ石山	奥多摩	2003	5/17	日帰り	B	高橋芳恵	5	33
385	榎ノ木山～鷹ノ巣山	奥多摩	2004	7/4	日帰り	2B	千葉有子	6	41
680	鷹ノ巣山	奥多摩	2010	5/9	日帰り	2B	青山寿子	12	25
107	高畑山～倉岳山 (新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	A	清家三保子	2	55
712	高畑山～倉岳山	中央線沿線	2010	11/7	日帰り	2A	中村隆泰	12	117
234	高原山	那須	2001	10/17	日帰り	A	中村隆泰	4	79
743	雲の平～高天原～鷲羽岳	北アルプス	2011	7/28-8/1	山小屋	3C	武内勇二	13	48
624	高見石～天狗岳	八ヶ岳	2009	4/18-19	山小屋	3C	高橋 重	11	11
521	高水山～棒の折山	奥多摩	2007	1/21	日帰り	2A	千葉有子	8	129
93	高水三山	奥多摩	1999	3/28	日帰り	A	日下芳十	2	19
264	高水三山	奥多摩	2002	5/18	日帰り	A	松本 豊	4	145
648	棒の折山～高水2山	奥多摩	2009	10/10	日帰り	3A	原田和昭	11	85
85	高山	日光	1999	1/24	日帰り	A	外崎、村松敏	2	6
306	日光高山	日光	2003	2/11	日帰り	B	細野省二	4	272
488	高山 (県連ハイク)	日光	2006	6/8	日帰り	2A	柴田節子、県連	8	32
573	高山	日光	2008	1/27	日帰り	2B	武内勇二	9	124
760	高山(BOM研修)	日光	2012	1/15	日帰り	2B	高橋重	13	97
199	高山不動と関八州見晴台	奥武蔵	2001	4/15	日帰り	A	中村隆泰	4	3
392	宝川ナルミズ沢	谷川	2004	8/8-9	テント	4D	村松敏彦	6	61
44	滝子山	中央沿線	1998	3/22	日帰り	B	清家三保子	1	83
255	滝子山	中央沿線	2002	3/17	日帰り	A+	武内勇二	4	128
287	滝子山	中央沿線	2002	10/6	日帰り	A+	榊原文子	4	224
414	滝子山	中央沿線	2004	11/28	日帰り	3B	青山寿子	6	115
561	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2010	10/21-25	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
673	アモウ沢～滝子山	大菩薩	2010	4/17-18	テント	2B	佐藤健一	12	7
731	滝子山(BOM研修)	南大菩薩連峰	2011	4/29	日帰り	2B	村松敏彦	13	10
50	武川岳	奥武蔵	1998	5/17	日帰り	A+	中村隆泰	1	90
59	田代山～帝釈山	会津	1998	7/4-5	テント	B	細野省二	1	102
303	達沢山～京戸山	中央沿線	2003	1/19	日帰り	C	村松敏彦	4	265
757	旭山～達沢山 (忘年山行)	中央線沿線	2011	12/4	日帰り	2A	坂巻明	13	87
3	蓼科山、西天狗岳	八ヶ岳	1997	1/2-4	テント&小屋	C	川名	1	6
502	蓼科山	八ヶ岳	2006	9/30-10/	日帰り	2B	石垣吉朗	8	75
677	蓼科山	八ヶ岳	2010	4/24-25	テント	3C	高橋重	12	19
117	剣岳～立山縦走	北ア	1999	8/12-14	テント/小屋	C	柴 勇	2	72
450	剣岳～立山三山	北ア	2006	8/4-8	山小屋	5D	村松敏彦	7	62
400	立山三山～大日三山	北ア	2004	9/17-20	山小屋	3C	外崎 蓮	6	80
476	兜山～棚山	中央沿線	2007	3/13	日帰り	3A	村松敏彦	8	1
520	谷川岳	谷川	2006	12/22-23	テント	4D	村松敏彦	8	126
542	谷川岳	谷川	2007	6/16-17	山小屋	2B	高橋 重	9	46
590	谷川岳山麓 (リーダー研修)	谷川	2008	6/28-29	山麓泊	2B	石垣吉朗	10	49
286	谷川岳～平標山	谷川	2002	10/4夜-6	避難小屋	C	青山寿子	4	220
493	樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2006	7/2-7	山麓泊	4B	大串秀雄	8	49
71	太郎山	日光	1998	10/4	日帰り	B	三浦七郎	1	136
342	女峰・大真名子山・太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109
684	太郎山 (県連ウィークディ山行)	日光	2010	5/27	日帰り	2B	原田和昭	12	33
160	リーダー研修 i n 丹沢	丹沢	2000	6/17-18	テント	B	村松敏彦	3	34
270	リーダー研修 i n 丹沢	丹沢	2002	6/29-30	テント	B/C	村松敏彦	4	166
30	丹沢主脈縦走 (公開登山)	丹沢	1997	10/25-26	山小屋	B	村松敏彦	1	57
129	丹沢主脈縦走 (新人研修)	丹沢	1999	11/13-14	山小屋	A++	細野省二	2	115
410	丹沢主脈	丹沢	2004	11/6-7	宿	1A	中村隆泰	6	106
53	丹沢主稜縦走	丹沢	1998	6/6-7	山小屋	B	柴 勇	1	93
103	丹沢三ッ峰	丹沢	1999	5/15-16	山小屋	B	清家三保子	2	45
651	鍋割山～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/1	山小屋	2A	北川晴久	11	93
667	鍋割山～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴 勇	11	129
753	丹勢山	日光	2011	10/23	日帰り	2A	原田和昭	13	78

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
383	玉原高原	上州	2004	6/19-20	宿	2B	清家三保子	6	35
132	秩父御岳山	奥武蔵	1999	11/28	日帰り	A	安田みづほ	2	121
441	秩父御岳	奥武蔵	2005	5/29	日帰り	1A	中村八重子	7	36
94	茶臼岳	那須	1999	4/10-11	山小屋	C	柴 勇	2	20
263	甲子山～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406	甲子～三本槍～茶臼岳	那須	2006	10/16-19	避難小屋	3C	武内勇二	6	95
686	茶臼岳～三本槍岳～朝日岳 (市民登山)	那須連峰	2010	6/5-6	旅館泊	2A	高橋重	12	37
172	燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋/テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6	57
583	涸沢・蝶ヶ岳	北ア	2008	5/3-6	テント	4D	千葉有子	10	23
20	鳥海山	出羽	1997	7/19-21	山小屋	B	柴 勇	1	32
169	鳥海山	出羽	2000	8/18-20	山小屋	B	外崎 蓮	3	60
217	鳥海山・月山	出羽	2001	7/19夜-22	山小屋	B	大串秀雄	4	36
456	鳥海山	出羽	2005	8/26-29	山小屋	3B	武内勇二	7	79
49	蝶ヶ岳～常念岳	北ア	1998	5/2-5	テント	C	村松敏彦	1	89
747	常念岳～蝶ヶ岳	北アルプス	2011	12/15	山小屋	3B	高橋英雄	13	60
28	長者ヶ岳～天子ヶ岳	富士周辺	1997	10/19	日帰り	A	柴 勇	1	54
206	長者ヶ岳～天子ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	5/20	日帰り	A	高橋英雄	7	26
299	筑波山 (二期生新春山行)	茨城	2003	1/3	日帰り	A	日下芳十	4	256
43	筑波山	常磐	1998	3/21	日帰り	A	川名	1	82
80	筑波山 (忘年山行)	常磐	1998	12/6	日帰り	A	日下芳十	1	160
127	筑波山 (ふれあひハイク)	常磐	1999	10/24	日帰り	A	柴、県連	2	110
358	筑波山	常磐	2004	1/3	日帰り	1A	日下芳十	5	161
419	筑波山	常磐	2005	1/3	日帰り	1A	日下芳十	6	125
711	筑波山	茨城	2010	11/6-7	テント	4A	川下敬史	12	113
458	土岳・花貫 (ウイズハイク)	常磐	2005	9/23	日帰り	2A	日下芳十	7	84
707	津梅川・追良瀬川	白神山地	2010	9/22-26	テント	3C	千葉有子	12	101
6	燕岳	北ア	1997	2/8-11	テント	C	川名	1	10
119	燕岳～槍ヶ岳	北ア	1999	8/26-29	山小屋	B	大串秀雄	2	80
172	燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋/テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6	57
698	餓鬼岳～燕岳	北アルプス	2010	8/12-15	山小屋	3C	高橋英雄	12	74
530	坪山	中央沿線	2007	4/22	日帰り	1A	清家三保子	9	13
108	本社ヶ丸～鶴ヶ鳥屋山 (新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	B	細野省二	2	56
467	鶴ヶ鳥屋山	中央沿線	2005	10/30	日帰り	2B	柴 勇	7	107
117	劔岳～立山縦走	北ア	1999	8/12-14	テント/小屋	C	柴 勇	2	72
450	劔岳～立山三山	北ア	2005	8/4-7	山小屋	4D	村松敏彦	7	62
226	劔山	四国	2001	8/31夜-9/3	民宿	A	斎藤清一	4	55
668	鶴島御前山	中央沿線	2010	2/21	日帰り	1B	中村八重子	11	132
606	奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
567	手賀沼一周	東葛	2007	12/1	日帰り	1A	小川誠二郎	9	110
611	手賀沼一周	東葛	2008	12/1	日帰り	1A	高橋重	10	102
658	手賀沼一周	東葛	2009	11/29	日帰り	1A	小川誠二郎	11	108
716	手賀沼一周	東葛	2010	11/28	日帰り	1A	小川誠二郎	12	126
756	手賀沼1周	東葛飾	2011	11/27	日帰り	1A	小川誠二郎	13	85
334	光岳	南ア	2003	8/7-10	山小屋	4C	外崎 蓮	5	84
388	易老山～光岳	南ア	2004	7/17-19	山小屋	4C	外崎 蓮	6	48
699	聖岳～光岳	南アルプス	2010	8/18-22	山小屋	4C	高橋 重	12	78
366	大平山～晃石山	北関東	2004	3/20-21	宿	2A	大串秀雄	6	1
143	晃石山(ケルイ)	日光	2000	2/11	日帰り	A	細野清子	2	141
45	天狗岳～硫黄岳	八ヶ岳	1998	3/28-29	山小屋	C	村松敏彦	1	84
378	赤ぼっこ～天狗岩	奥多摩	2004	5/23	日帰り	1A	日下芳十	6	24
508	天狗尾根 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	避難小屋	3C	堀口昭二	8	92
709	天狗角力取山～障子ヶ岳	朝日連峰	2010	10/15-17	避難小屋	3B	武内勇二	12	108
624	高見石～天狗岳	八ヶ岳	2009	4/18-19	山小屋	3C	高橋 重	11	11
28	長者ヶ岳～天子ヶ岳	富士周辺	1997	10/19	日帰り	A	柴 勇	1	54
206	長者ヶ岳～天子ヶ岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	5/20	日帰り	A	高橋英雄	7	26
152	天上山	伊豆七島	2000	5/3-5	民宿	A	細野清子	3	16
350	西谷山～天祖山	奥多摩	2003	11/2-3	避難小屋、テント	3C	高橋英雄	5	139
475	西谷山～天祖山	奥多摩	2007	2/11-13	避難小屋	4C	青山寿子	7	127
713	雲取山～天祖山	奥多摩	2010	11/13-14	山小屋	3B	武内勇二	12	119
516	殿平～鞍吾山	中央沿線	2006	11/23	日帰り	2B	武内勇二	8	115
661	天地山～鋸山	奥多摩	2009	12/13	日帰り	2B	青山寿子	11	116
510	天女山 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/15	日帰り	1A	松本豊・中村隆	8	100

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
4	天覧山	奥武蔵	1997	1/15	日帰り	B	村松敏彦	1	8
431	道志二十六夜山	道志	2005	4/23	日帰り	1B	中村隆泰	7	17
181	塔ノ岳～鍋割山(新人卒業)	丹沢	2000	11/11-12	山小屋	B	安田みづほ	3	92
365	蛭ヶ岳～塔ノ岳	丹沢	2004	2/28-29	避難小屋	3C	青山寿子	5	172
377	塔ノ岳～丹沢三ッ峰	丹沢	2004	5/16	日帰り	3B	青山寿子	6	22
437	塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2005	5/14-15	山小屋	3B	柴 勇	7	28
667	鍋割山～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴 勇	11	129
626	堂平山～笠山	奥武蔵	2009	5/9	日帰り	1A	原田和昭	11	16
292	北信三山(黒姫山、戸隠山、飯縄山)	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329	戸隠山・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
447	美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2006	7/11-17	山麓泊	5D	大串秀雄	7	52
46	徳並山	大菩薩	1998	4/11	日帰り	B	村松敏彦	1	86
662	徳並山	中央沿線	2010	1/17	日帰り	2B	武内勇二	11	118
352	戸倉二山～生藤山	奥多摩	2003	11/9	日帰り	3B	千葉有子	5	144
324	戸倉三山	奥多摩	2003	6/7-8	国民宿舎	A+	斎藤清一	5	54
657	馬頭刈山・戸倉三山	奥多摩	2009	11/28-29	山麓泊	2A	高橋英雄	11	106
515	伊予ヶ岳・富山(県連40周年)	房総	2007	11/18-20	テント	1A	高橋英雄	8	112
618	とみやま水仙遊歩道・石尊山(県連ロングハイク)	房総	2009	1/31-2/1	山麓泊	1A	斉藤清一	10	122
447	美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2008	7/11-19	山麓泊	7D	大串秀雄	7	52
726	皇鈴山～登谷山～釜伏山	奥武蔵	2011	2/6	日帰り	2A	中村隆泰	12	151
574	鳥屋山～倉岳山	中央沿線	2008	2/3	日帰り	2B	千葉有子	9	125
718	虎丸山～熊岳	中央沿線	2010	12/11	日帰り	1A	高橋英雄	12	133
126	秋山郷～鳥甲山	上信	1999	10/23-24	(テント)	B+	細野省二	2	107
397	鳥甲山	上信	2004	9/4-5	テント	4D	青山寿子	6	74
350	西谷山～天祖山	奥多摩	2003	11/2-3	避難小屋、テント	3C	高橋英雄	5	139
475	西谷山～天祖山	奥多摩	2006	2/11-12	避難小屋	3C	青山寿子	7	127
63	苗場山	信越	1998	7/19-20	山小屋	B	外崎 蓮	1	113
230	苗場山	信越	2001	9/29-30	山小屋	B	安田みづほ	4	66
459	苗場山	信越	2005	10/1-2	山小屋	3B	清家三保子	7	88
588	苗場山	谷川	2008	6/15-16	山小屋	3B	原田君子	10	44
697	長尾谷	奥多摩	2010	8/8	日帰り	2B	千葉有子	12	72
391	燕～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋 潔	6	57
487	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2010	6/2-9	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
403	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2005	9/25-29	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
151	大塚山～中塚山	房総	2000	4/29	日帰り	A	外崎 蓮	3	13
280	越後三山(越後駒ヶ岳、中の岳、八海山)	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
631	三本槍岳～流石山～大倉山	那須	2009	6/27-28	避難小屋	3B	武内勇二	11	38
5	鳴虫山	日光	1997	1/26	日帰り	A	三浦七郎	1	9
104	鳴虫山	日光	1999	5/22	日帰り	A	原田君子	2	46
276	鳴虫山	日光	2002	7/21	日帰り	A	松本 豊	4	185
422	鳴虫山	日光	2005	2/6	日帰り	2C	清家三保子	6	132
746	鳴虫山	日光	2011	8/12	日帰り	1A	桐生恭子	13	58
486	那須旭岳・大白森山	那須	2006	5/27-28	テント	3C	村松敏彦	8	25
32	七ヶ岳・荒海山	会津	1997	11/1-2	テント	B	村松敏彦	1	62
300	菜畑山	道志	2003	1/12	日帰り	A	大串恵子	4	257
609	高岩山～鍋割山	奥多摩	2008	11/9	日帰り	2B	本田愛子	10	98
31	鍋割山(支援隊)	丹沢	1997	10/25	日帰り	A	加藤秀明	1	60
91	鍋割山	丹沢	1999	3/20	日帰り	A	三浦七郎	2	14
181	塔ノ岳～鍋割山(新人卒業)	丹沢	2000	11/11-12	山小屋	B	安田みづほ	3	92
651	鍋割山～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/1	山小屋	2A	北川晴久	11	93
667	鍋割山～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴 勇	11	129
701	ナメラ沢	奥秩父	2010	8/21夜-22	湖畔仮眠	2B	堀口昭二	12	85
606	奈良倉山～鶴寝山～大マティ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
90	難台山～吾国山(卒業山行)	茨城	1999	3/7	日帰り	A	萩野勝弘	2	13
714	奥久慈男体山	茨城	2010	11/14	日帰り	2A	坂巻 明	12	122
477	難台山～吾国山	茨城	2006	3/26	日帰り	1B/2B	柴 勇	8	3
653	難台山～吾国山	茨城	2009	11/7	日帰り	2A	原田和昭	11	98
538	男体山麓荒沢水源	日光	2007	5/27	日帰り	1A	中村八重子	9	33
584	二王子岳	飯豊	2008	5/31-6/1	避難小屋	3C	石垣吉朗	10	27
374	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16
57	西沢溪谷	奥秩父	1998	6/21	日帰り	A	中村隆泰	1	99
337	西岳～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎 蓮	5	93
614	西岳～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎 蓮	10	110
3	蓼科山、西天狗岳	八ヶ岳	1997	1/2-4	テント&小屋	C	川名	1	6

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
442	西の湖・赤岩	日光	2005	6/15	日帰り	1A	榊原文子	7	39
548	焼岳～西穂高岳	北ア	2008	7/18-21	山小屋	3B	大串秀雄	9	59
61	西穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳	北ア	1998	7/18-20	山小屋	D	村松敏彦	1	107
77	今倉山～二十六夜山	道志	1998	11/14	日帰り	A	村松敏彦	1	154
398	日光白根山	日光	2004	9/12	日帰り	2B	大串恵子	6	76
540	日光白根山	日光	2007	6/7	日帰り	2B	斎藤清一	9	37
489	日光男体山(市民登山)	日光	2006	6/11	日帰り	3A	中村隆泰	8	34
671	日白山	谷川連峰	2010	3/27-28	テント	4D	村松敏彦	12	1
440	入笠山	南ア	2005	5/29	日帰り	1A	細野清子	7	34
271	秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋/旅館	B	大串秀雄	4	168
67	女峰山	日光	1998	9/19-20	無人小屋	C	村松峯子	1	130
342	女峰・大真名子山・太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109
197	沼津アルプス<富士周辺シリーズ>	沼津	2001	4/1	日帰り	A+	村松峯子	7	20
446	烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2008	6/26-30	山麓泊	6B	高橋 潔	7	49
589	温泉ヶ岳～根名草山	日光	2008	6/21-22	山小屋	3B	田村光子	10	46
434	根本山～熊鷹山	桐生	2005	4/29	日帰り	2B	外崎 蓮	7	21
693	農鳥岳～黒河内岳	南アルプス	2010	7/21～23	テント	3C	千葉有子	12	60
344	荒島岳・能郷白山	白山	2003	10/10-13	テント	3B	細野省二	5	123
460	庚申山～鋸山～皇海山	足尾山塊	2006	10/2-4	避難小屋	4C	大串秀雄	7	90
343	鋸山(ウイズハイク)	房総	2003	9/27	日帰り	1A	外崎 蓮	5	112
551	大岳山～鋸尾根	奥多摩	2008	8/13	日帰り	2B	高橋英雄	9	67
661	天地山～鋸山	奥多摩	2009	12/13	日帰り	2B	青山寿子	11	116
338	御嶽山・乗鞍岳	木曾・北ア	2003	8/28-31	山小屋	4C	大串秀雄	5	96
732	乗鞍岳・美ヶ原(春山山行)	北アルプス	2011	5/3-5/5	テント	4C	村松敏彦	13	13
577	お天気山～羽賀場山	前日光	2008	3/16	日帰り	2B	安田みづほ	10	4
62	白山	白山	1998	7/17-20	テント	B+	細野省二	1	110
752	羽黒山	山形	2011	10/14-16	テント	1A	武内勇二	13	76
252	箱根・浅間山	箱根	2002	2/24	日帰り	A	斎藤清一	4	120
692	八間山・白砂山	野反湖	2010	7/10～11	山麓泊	3B	原田和昭	12	57
741	岩手山～三ツ石山～八幡平	岩手・秋田県境	2011	7/8-7/11	避難小屋	3C	外崎 蓮	13	41
545	秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	奥羽	2008	6/30-7/3	山麓泊	3B	柴 勇	9	52
173	八幡平・焼山	東北	2000	9/15-16	旅館	B	川下敬史	3	74
601	岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
568	高岩山～八郎塚(忘年山行)	房総	2008	12/10	日帰り	3A	佐藤健一	9	112
280	越後三山(越後駒ヶ岳、中の岳、八海山)	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
503	八海山・平ヶ岳	越後	2006	10/3-5	山麓泊	3B	大串秀雄	8	77
340	岩木山・八甲田山	津軽	2003	9/13-15	民宿・旅館	3B	高橋英雄	5	102
633	奥入瀬渓谷・八甲田山・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	3B	細野清子	11	43
215	七面山～八紘嶺<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	7/14-15	宿坊泊	B	細野省二	7	39
657	馬頭刈山・戸倉三山	奥多摩	2009	11/28-29	山麓泊	2A	高橋英雄	11	106
518	鶏足山～花香月山(忘年山行)	常磐	2007	12/11	日帰り	2B	川下敬史	8	120
523	花咲山	中央沿線	2007	1/28	日帰り	1A	中村隆泰	8	133
204	鼻曲山～浅間隠山	上州	2001	5/12-13	山荘/テント	A+, C	細野清子	4	12
409	破風山	奥秩父	2004	10/31	日帰り	2C	日下芳十	6	104
522	浜石岳	駿河	2007	1/21	日帰り	1A	北川勝久	8	131
98	ハマイバ丸(山菜取り山行)	大菩薩	1999	4/29	日帰り	B	柴 勇	2	28
372	大蔵高丸～ハマイバ丸	大菩薩	2004	4/29	日帰り	2A	細野省二	6	12
161	早池峰・薬師岳	北上	2000	7/1-2	民泊	B	斎藤清一	3	40
444	早池峰山・栗駒山(市民登山)	北上	2005	6/17-19	山麓泊	2B	石垣吉朗	7	43
336	爺ヶ岳～針ノ木岳	北ア	2003	8/13-16	山小屋	3C	斎藤清一	5	90
171	榛名山	上州	2000	8/27	日帰り	A	細野清子	3	66
736	榛名山(市民登山)	上州	2011	6/5	日帰り	2A	柴 勇	13	22
396	相馬山～榛名富士	上州	2005	8/30	日帰り	2A	高橋芳恵	6	73
511	半月山(県連平日ハイク)	日光	2006	10/19	日帰り	1A	日下芳十、県連	8	102
382	磐梯山	会津	2004	6/6	日帰り	2B	村松敏彦	6	32
635	磐梯山	会津	2009	7/12	日帰り	2B	小川誠二郎	11	48
27	尾瀬集中登山(創立記念) B:燧ヶ岳	尾瀬	1997	10/9-11	テト&山小屋	B	CL柴勇、L柴	1	47
176	燧ヶ岳	尾瀬	2000	10/7-8	山小屋	A+	外崎 蓮	3	81
435	燧ヶ岳・景鶴山	尾瀬	2005	8/1-3	テント	4D	村松敏彦	7	23
114	妙高山・火打山	頸城	1999	7/31-8/1	テント/小屋	B	柴 勇	2	66
447	美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2005	7/11-16	山麓泊	4D	大串秀雄	7	52
675	比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12	11
636	東黒沢・ヒッゴー沢	谷川	2009	7/19-20	テント	4D	佐藤健一	11	50
505	東八ヶ岳縦走(10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/13-15	山小屋	3C	柴 勇	8	84

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
374	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16
225	赤石岳～聖岳	南ア	2001	8/27-30	山小屋	C+	大串秀雄	4	52
699	聖岳～光岳	南アルプス	2010	8/18-22	山小屋	4C	高橋重	12	77
636	東黒沢・ヒッポー沢	谷川	2009	7/19-20	テント	5D	佐藤健一	11	50
733	日向山	中央線沿線	2011	5/14	日帰り	1A	原田和昭	13	16
437	塔の岳～大石山～檜洞丸	丹沢	2007	5/14-17	山小屋	5B	柴 勇	7	28
34	檜洞丸	丹沢	1997	11/15	日帰り	A+	三浦七郎	1	65
320	檜洞丸	丹沢	2003	5/21	日帰り	A+	中村隆泰	5	35
427	加入道山～大室山～檜洞丸	丹沢	2007	3/20-23	避難小屋	5B	青山寿子	7	5
75	御岳山～日の出山	奥多摩	1998	11/1	日帰り	A	中村隆泰	1	152
363	日の出山	奥多摩	2004	2/11	日帰り	2A	岡田秀子	5	169
424	日ノ出山	奥多摩	2005	2/20	日帰り	2B	中村隆泰	6	136
670	日ノ出山～麻生山	奥多摩	2010	2/28	日帰り	2A	高橋英雄	11	136
691	御岳山～日の出山	奥多摩	2010	7/4	日帰り	1A	小川誠二郎	12	55
762	大塚山～御岳山～日の出山	奥多摩	2012	2/18	日帰り	2A	村松敏彦	13	103
491	森吉山・姫神山	東北	2007	6/26-28	山麓泊	2B/2A	細野清子	8	42
402	岩手山・姫神山	奥羽	2005	9/18-21	宿	4B	高橋英雄	6	85
633	奥入瀬溪谷・八甲田山・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	4B	細野清子	11	43
612	本仁田山～平石山	奥多摩	2008	12/7	日帰り	2B	武内勇二	10	104
269	会津駒ヶ岳・平ヶ岳	会津	2003	6/21夜-25	テント	B+	武内勇二	4	161
503	八海山・平ヶ岳	越後	2007	10/3-6	山麓泊	3B	大串秀雄	8	77
332	恋ノ岐沢・平ヶ岳	会越	2003	7/27-29	テント	5E	村松敏彦	5	81
643	笹子川大鹿沢平っ沢	中央沿線	2009	8/22	日帰り	2B	千葉有子	11	70
235	飛龍山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	高橋英雄	4	81
487	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2008	6/2-7	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
705	飛龍山	奥秩父	2010	9/11-12	山小屋	3A	小川誠二郎	12	97
365	蛭ヶ岳～塔ノ岳	丹沢	2004	2/28-29	避難小屋	3C	青山寿子	5	172
651	鍋割山～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/1	山小屋	2A	北川晴久	11	93
404	大山・森山	大山	2005	10/1-6	宿	2B	斎藤清一	6	90
88	日和田山～物見山	奥武蔵	1999	2/14	日帰り	A	高橋英雄	2	11
353	日和田山～物見山	奥武蔵	2003	11/15	日帰り	1A	日下芳十	5	146
265	笛吹川東沢釜の沢～甲武信岳	奥秩父	2002	5/25-26	テント	B	堀口昭二	4	147
130	武甲山	奥武蔵	1999	11/21	日帰り	A	中村隆泰	2	118
546	武甲山	奥武蔵	2007	7/7	日帰り	1A	小川誠二郎	9	55
124	白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	1999	10/9-11	テント	B+	村松敏彦	2	101
448	岩木山・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2007	7/22-26	テント	5D	細野清子	7	56
501	富士山～佐白山 (ウィズハイク)	茨城	2006	9/23	日帰り	1A	外崎 蓮	8	71
23	富士山	富士周辺	1997	9/13-14	山小屋	B	川名	1	39
272.2	富士山エコフォーラム	富士周辺	2002	7/6-8	ホテル	A	労山	4	172
272.4	富士山	富士周辺	2002	7/6-7	山小屋	B	松本 豊	4	172
301	富士山	富士周辺	2003	1/12-13	テント	B	堀口昭二	4	260
453	富士山	富士周辺	2005	8/20-21	山小屋	3B	石垣吉朗	7	73
721	富士山	富士山	2010	12/18-19	テント	3C	堀口昭二	12	140
221	富士山Aコース吉田口	富士周辺	2001	8/18	日帰り(山小屋)	B	日下芳十	7	43
222	富士山Dコース富士宮口	富士周辺	2001	8/18-19	山小屋	B	榊原文子	7	45
223	富士山Bコース吉田口(駅から)	富士周辺	2001	8/25-26	山小屋	C	川下敬史	7	50
224	富士山Cコース須走り口	富士周辺	2001	8/25-26	山小屋	B	原田君子	7	53
272	富士山	富士周辺	2002	7/6-7	山小屋	B	松本 豊	4	172
706	二子山・両神山	奥秩父	2010	9/18-19	山麓泊	2C	中村隆泰	12	99
381	水沢山～ニッ岳	上州	2004	5/30	日帰り	2B	高橋 潔	6	30
428	ニッ箭山(新人歓迎山行)	常磐	2005	3/27	日帰り	1B	外崎 蓮	7	7
69	仏果山～経ヶ岳	丹沢	1998	9/20	日帰り	A	高橋英雄	1	134
247	仏果山～経ヶ岳	丹沢	2002	1/20	日帰り	A	原田和昭	4	108
719	仏果山～華厳山	丹沢	2010	12/12	日帰り	2B	青山寿子	12	135
327	船形山～泉ヶ岳	船形連峰	2003	6/21-22	避難小屋	B	石垣吉朗	5	60
447	美瑛～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2007	7/11-18	山麓泊	6D	大串秀雄	7	52
426	不老山	西丹沢	2005	3/19	日帰り	2B	原田和昭	7	3
125	鳳凰三山	南ア	1999	10/16-17	山小屋	B	清家三保子	2	105
339	鳳凰三山	南ア	2003	8/30-31	テント	3C	青山・千葉	5	100
558	鳳凰三山縦走	南ア	2007	9/29-30	山小屋	2B	坂口よし江	9	87
596	鳳凰三山	南ア	2008	8/14-15	山小屋	2B	本間恭子	10	63
167	木曾駒ヶ岳～宝剣岳	中ア	2000	8/6-7	山小屋	B	清家三保子	3	55
552	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	2008	8/12-15	山小屋	3C	佐藤健一	9	68
638	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	3B	村松敏彦	11	56

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
86	房総ロングハイキング	房総	1999	1/30-31	ログハウス	A+	県連	2	8
141	房総ロングハイク	房総	2000	1/29-30	ログハウス前泊	A+	斎藤、県連	2	137
248	房総ロングハイク	房総	2002	1/26-27	ログハウス	A+	斎藤、県連	4	110
304	房総ロングハイク	房総	2003	1/25-26	ログハウス	B	高橋英、県連	4	267
360	房総ロングハイク	房総	2004	1/24-25	ログハウス	3A	斎藤清一、県連	5	164
473	房総ロングハイク	房総	2006	1/28-29	ログハウス	2A	柴田節子、県連	7	122
517	房総ロングハイク	房総	2006	12/23-24	山麓泊	1A	柴田節子、県連	8	117
572	房総ロングハイク	房総	2008	1/26-27	山麓泊	3A	坂口よし江、県連	9	122
664	房総ロングハイク	房総	2010	1/30-31	山麓泊	2A	小川誠二郎	11	123
421	棒立山	谷川	2005	1/29-30	テント	4D	川下敬史	6	130
526	棒立山	谷川	2007	3/31-4/1	テント	3C	外崎 蓮	9	5
48	棒の折山 (新人歓迎)	奥武蔵	1998	4/26	日帰り	A	外崎、村松敏	1	88
147	棒ノ折山	奥多摩	2000	4/9	日帰り	B	三浦七郎	3	6
433	笹の岩～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2007	4/26	日帰り	5B	青山寿子	7	19
521	高水山～棒の折山	奥多摩	2008	1/22	日帰り	2A	千葉有子	8	129
648	棒の折山～高水2山	奥多摩	2009	10/10	日帰り	2A	原田和昭	11	85
115	烏帽子岳～穂高岳縦走	北ア	1999	8/6-12	山小屋	C+	細野省二	2	68
134	本仁田山	奥多摩	1999	12/12	日帰り	A	日下芳十	2	125
612	本仁田山～平石山	奥多摩	2008	12/7	日帰り	2B	武内勇二	10	104
605	本社ヶ丸北面尾根	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2B	佐藤健一	10	88
38	本社ヶ丸	中央沿線	1998	1/25	日帰り	A+	細野省二	1	72
108	本社ヶ丸～鶴ヶ鳥屋山 (新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	B	細野省二	2	56
534	本社ヶ丸	中央沿線	2007	5/13	日帰り	3B	原田和昭	9	22
566	愛宕山・ポンポン山	京都	2008	11/20-23	山麓泊	2A	細野清子	9	105
499	錫ヶ岳～前白根山	日光	2007	9/9-11	テント	4C	村松敏彦	8	66
61	西穂高岳～奥穂高岳～前穂高岳	北ア	2000	7/18-22	山小屋	D	村松敏彦	1	107
390	前穂高岳～奥穂高岳	北ア	2004	7/24-26	山小屋	3D	大串秀雄	6	54
9	巻機山	越後	1997	4/12-13	テント	C+	坪井三枝子	1	15
210	巻機山 (公開登山)	上越	2001	6/9-10	旅館泊	B	加藤秀明	4	22
321	大源太山～巻機山	上越	2003	5/23-26	避難小屋	C	青山寿子	5	38
720	巻機山 (クリスマス山行)	越後	2010	12/18-19	テント	3C	村松敏彦	12	137
142	暮山	湯河原	2000	2/6	日帰り	A	安田みづほ	2	140
623	真名井沢北稜	奥多摩	2009	4/5	日帰り	2B	青山寿子	11	9
562	丸山	奥武蔵	2007	10/28	日帰り	1A	中村隆泰	9	96
469	天城山 (万三郎岳～万二郎岳)	伊豆	2005	11/13-14	山麓泊	3B	大串恵子	7	111
469	天城山 (万三郎岳～万二郎岳)	伊豆	2006	11/13-15	山麓泊	4B	大串恵子	7	111
498	万太郎谷	谷川	2006	9/2-3	テント	4D	佐藤健一	8	64
273	御神楽岳	越後	2002	7/12-14	テント	C	細野省二	4	176
313	稲含山・御荷鉾山	西上州	2003	4/12-13	町営宿舎	A	中村隆泰	5	19
254	三疊山	北関東	2002	3/17	日帰り	A	斎藤清一	4	126
514	菰釣山～三国山	丹沢	2007	11/13	避難小屋	2B	坂口よし江	8	109
341	未丈ヶ岳・荒沢岳	会越	2003	9/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	107
192	御正体山<富士周辺シリーズ>	道志	2001	2/17	日帰り	B	安田みづほ	7	11
201	御正体山<富士周辺シリーズ>	道志	2001	4/22	日帰り	B	安田みづほ	7	13
687	御正体山	道志山塊	2010	6/13	日帰り	2A	外崎蓮	12	48
236	瑞牆山～金峰山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	細野清子	4	83
376	瑞牆～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
737	瑞牆山 (BOM研修)	奥秩父	2011	6/25-26	テント	2B	武内勇二	13	31
381	水沢山～ニッ岳	上州	2004	5/30	日帰り	2B	高橋 潔	6	30
726	皇鈴山～登谷山～釜伏山	奥武蔵	2011	2/6	日帰り	2A	中村隆泰	12	151
262	水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2002	5/12	夜行日帰り	B/C	堀口昭二	4	140
480	水無川本谷・源次郎沢	丹沢	2006	4/15-16	テント	3D	佐藤健一	8	11
634	水根沢谷	奥多摩	2009	7/5	日帰り	2C	柴 勇	11	46
137	水の塔山・黒斑山	上州	2000	1/8-9	ホテル泊	B	村松敏彦	2	130
163	籠ノ登山・水ノ塔山	上信	2000	7/16	日帰り	A	安田みづほ	3	43
725	黒斑山・水の塔山	浅間	2011	2/5-6	山麓泊	3C	高橋重	12	149
75	御岳山～日の出山	奥多摩	1998	11/1	日帰り	A	中村隆泰	1	152
762	大塚山～御岳山～日の出山	奥多摩	2012	2/18	日帰り	2A	村松敏彦	13	103
691	御岳山～日の出山	奥多摩	2010	7/4	日帰り	1A	小川誠二郎	12	55
601	岩手山～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
420	石尊山～三石山	房総	2006	1/29-31	宿	2A	斎藤清一	6	127
741	岩手山～三ツ石山～八幡平	岩手・秋田県境	2011	7/8-7/11	避難小屋	3C	外崎 蓮	13	41
12	三ツ峠山	富士周辺	1997	5/4	日帰り	A	村松敏彦	1	20
386	三ツ峠山	富士周辺	2004	7/11	日帰り	2B	中村八重子	6	43

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
547	三ツ峠山	富士周辺	2007	7/8	日帰り	2B	中村八重子	9	57
599	三ツ峠山	富士周辺	2008	9/7	日帰り	2A	中村隆泰	10	71
189	三ツ峠山～黒岳<富士周辺シリーズ>	富士周辺	2001	1/20-21	山小屋	B+	中村隆泰	7	3
18	大山～三峰山	丹沢	1997	6/21	日帰り	A	清家三保子	1	28
295	大山～三峰山	丹沢	2002	11/17	日帰り	A	中村隆泰	4	246
377	塔ノ岳～丹沢三ツ峰	丹沢	2004	5/16	日帰り	3B	青山寿子	6	22
451	仙丈ヶ岳～三峰山～塩見岳	南ア	2006	8/5-9	山小屋	5D	大串秀雄	7	66
715	大山三峰山	丹沢	2010	11/21	日帰り	2B	千葉有子	12	124
758	三峰山	丹沢	2011	12/11	日帰り	2B	外崎 蓮	13	92
35	三頭山 (忘年山行)	奥多摩	1997	12/7	日帰り	A	清家三保子	1	66
241	三頭山	奥多摩	2001	11/11	日帰り	A	細野省二	4	94
243	奥多摩三山 (大岳山、御前山、三頭山)	奥多摩	2001	11/23-24	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
412	三頭山	奥多摩	2004	11/13	日帰り	2B	原田和昭	6	111
576	三頭山～笹尾根	奥多摩	2008	3/8-9	避難小屋	3B	外崎蓮	10	1
632	三頭山	奥多摩	2009	6/28	日帰り	2B	小川誠二郎	11	41
357	三頭山 (登山教室)	奥多摩	2003	9/11	日帰り	1A	柴 勇	5	142
157	南月山～三本槍ヶ岳	那須	2000	5/27-28	山小屋	B	三浦七郎	3	26
349	白笹山～南月山	那須	2003	10/26	日帰り	2A	武内勇二	5	137
470	南高尾山縦走	中央沿線	2005	11/23	日帰り	2B	榊原文子	7	114
403	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2004	9/25-28	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
506	南八ヶ岳(赤岳) B班 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	テント	3C	武内勇二	8	87
507	南八ヶ岳(赤岳) C班 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	山小屋	2B	川下敬史	8	90
384	南八ヶ岳縦走	八ヶ岳	2004	6/19-20	山小屋	3B	坂口よし江	6	38
149	養山	奥武蔵	2000	4/22	日帰り	A	安田みづほ	3	9
478	宮地山～岩殿山	中央沿線	2006	4/2	日帰り	3B	青山寿子	8	7
407	宮之浦岳・開闢岳	九州	2003	10/21-23	山小屋	2C	細野清子	6	97
114	妙高山・火打山	頸城	1999	7/31-8/1	テント/小屋	B	柴 勇	2	66
37	明神ガ岳～明星ガ岳	箱根	1997	12/23	日帰り	A	三浦七郎	1	70
592	明神ヶ岳～明星ヶ岳	箱根	2008	7/13	日帰り	2A	細野清子	10	53
37	明神ガ岳～明星ガ岳	箱根	1997	12/23	日帰り	A	三浦七郎	1	70
123	金時山～明神ヶ岳	箱根	1999	9/26	日帰り	A	斎藤清一	2	93
592	明神ヶ岳～明星ヶ岳	箱根	2008	7/13	日帰り	2A	細野清子	10	53
490	妙法ヶ岳	奥秩父	2006	6/25	日帰り	1B	高橋英雄	8	40
656	武川岳	奥秩父	2009	11/21	日帰り	2A	田村光子	11	104
186	六ツ石山	奥多摩	2000	12/17	日帰り	A+	中村隆泰	3	99
319	鷹巣山～六ツ石山	奥多摩	2003	5/17	日帰り	B	高橋芳恵	5	33
282	飯盛山	八ヶ岳	2002	8/31	日帰り	A	高橋芳恵	4	207
622	元清澄山(新人歓迎山行)	房総	2009	3/29	日帰り	2A	武内勇二	11	4
88	日和田山～物見山	奥武蔵	1999	2/14	日帰り	A	高橋英雄	2	11
353	日和田山～物見山	奥武蔵	2003	11/15	日帰り	1A	日下芳十	5	146
257	モミソ沢	丹沢	2002	4/14	日帰り	B	堀口昭二	4	132
312	モミソ沢・源次郎沢	丹沢	2003	4/12-13	テント	C	堀口昭二	5	15
370	モミソ沢・セドの沢左俣	丹沢	2004	4/24-25	テント	4D	堀口昭二	6	8
431	モミソ沢・新茅の沢～烏尾山	丹沢	2005	4/16-17	テント	3B	佐藤健一	7	14
535	モミソ沢	丹沢	2007	5/13	日帰り	3C	佐藤健一	9	24
133	百蔵山 (忘年山行)	中央沿線	1999	12/5	日帰り	A	高橋英雄	2	122
315	百蔵山	中央沿線	2003	4/20	日帰り	A	清家・外崎	5	25
561	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2007	10/21-22	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
491	森吉山・姫神山	東北	2006	6/26-27	山麓泊	2B/1A	細野清子	8	42
161	早池峰・薬師岳	北上	2000	7/1-2	民泊	B	斎藤清一	3	40
164	五色ヶ原～薬師岳	北ア	2000	7/20-23	山小屋	C	村松敏彦	3	45
216	薬師岳	北ア	2001	7/19-23	山小屋	C	外崎 蓮	4	33
637	浄土山～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	5C	清家三保子	11	53
748	薬師岳	北アルプス	2011	8/18-20	山小屋	3B	高橋重	13	63
723	薬師岳	南アルプス	2011	1/22-24	テント	4D	千葉有子	12	144
411	矢倉岳～足柄古道	箱根	2004	11/7	日帰り	2A	高橋芳恵	6	109

No.	山名	山城	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
474	矢倉岳	箱根	2006	2/5	日帰り	1A	高橋英雄	7	125
328	栗駒山・焼石山	東北	2003	6/28-29	貸しテント	B	大串恵子	5	63
462	焼石岳	奥羽	2005	10/9-10	避難小屋	2B	石垣吉朗	7	96
288	焼石岳～経塚山	東北	2002	10/13-14	避難小屋	C	細野省二	4	227
548	焼岳～西穂高岳	北ア	2007	7/18-20	山小屋	3B	大串秀雄	9	59
271	秋田駒ヶ岳～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋/旅館	B	大串秀雄	4	168
173	八幡平・焼山	東北	2000	9/15-16	旅館	B	川下敬史	3	74
111	夜叉神峠～高谷山	南ア	1999	7/4	日帰り	A	大串秀雄	2	62
472	矢平山	中央沿線	2006	1/8	日帰り	2A	村松敏彦	7	120
72	八ヶ岳 (公開登山) (創立記念山行)	八ヶ岳	1998	10/10-11	テント&山小屋	A	柴 勇	1	137
92	八ヶ岳(赤岳)	八ヶ岳	1999	3/20-21	山小屋	C	村松敏彦	2	16
187	八ヶ岳 (クリスマス山行)	八ヶ岳	2000	12/23-24	日帰り	B, C	村松敏彦	3	100
277	八ヶ岳	八ヶ岳	2002	7/26夜-28	山小屋	B+	外崎 蓮	4	187
509	八ヶ岳本峰縦走 (10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/13-15	山小屋	4C	村松敏彦	8	96
283	谷津川・地獄谷	奥武蔵	2002	9/15-16	テント	C	村松敏彦	4	210
675	比叡山・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12	11
256	八溝山 (新人歓迎)	奥久慈	2002	3/24	日帰り	A	松本 豊	4	130
119	燕岳～槍ヶ岳	北ア	1999	8/26-29	山小屋	B	大串秀雄	2	80
393	白馬～杓子～鍵ヶ岳	北ア	2006	8/12-17	山小屋	3C	高橋英雄	6	64
452	唐松岳～鍵ヶ岳～杓子岳	北ア	2006	8/13-16	山小屋	4C	高橋英雄	7	71
11	槍ヶ岳	北ア	1997	4/25-28	テント	D	村松敏彦	1	18
168	雲ノ平～槍ヶ岳	北ア	2000	8/12-16	山小屋/テント	C	大串秀雄	3	57
403	南岳～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2007	9/25-31	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
700	常念岳～大天井岳～槍ヶ岳	北アルプス	2010	8/19夜-23	山小屋/テント	3C	武内勇二	12	81
585	夕日岳	日光	2008	6/1	日帰り	1A	箕輪カオル	10	29
322	夕日岳	前日光	2003	5/25	日帰り	A	原田和昭	5	40
563	夕日岳	前日光	2007	11/4	日帰り	1A	外崎 蓮	9	98
659	雪入山～浅間山 (忘年山行)	茨城	2009	12/6	日帰り	1A	村松敏彦	11	110
589	温泉ヶ岳～根名草山	日光	2008	6/21-22	山小屋	3B	田村光子	10	46
109	湯の丸山・四阿山	上州	1999	6/19-20	民宿泊り	B	外崎 蓮	2	58
446	烏帽子・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2006	6/26-28	山麓泊	4B	高橋 潔	7	49
630	湯の丸山・四阿山 (市民登山)	上信越	2009	6/7-8	山麓泊	2B	佐藤健一	11	29
207	湯槍曾川旧道	谷川	2001	5/26	日帰り	A	榎原文子	4	19
266	阿蘇山・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
493	樽前山・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2008	7/2-9	山麓泊	4B	大串秀雄	8	49
15	養老溪谷 (クリーンハイク)	房総	1997	6/1	日帰り	A	県連	1	25
751	横隈山	奥武蔵	2011	10/9	日帰り	2B	中村隆泰	13	73
685	古峰原高原・横根岳～井戸湿原	前日光	2010	5/28-29	ロッジ泊	1A	柴勇	12	35
148	四ッ又山～鹿岳	西上州	2000	4/16	日帰り	B	細野省二	3	7
471	蓬田岳 (忘年山行)	福島	2005	12/11	日帰り	1A	武内勇二	7	116
294	雷電山～三方山	奥多摩	2002	11/10	日帰り	A	日下芳十	4	244
330	阿寒・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
214	利尻山・大雪山	北海道	2001	7/3-8	山麓、避難小屋	B+	大串秀雄	4	27
742	利尻山・礼文島	北海道	2011	7/18-7/21	山小屋	3C	村松敏彦	13	44
106	両神山 (公開登山)	奥秩父	1999	6/5-6	山小屋/テント	B	村松敏彦	2	49
591	両神山	奥秩父	2008	7/5-6	山小屋	2A	高橋芳恵	10	51
706	二子山・両神山	奥秩父	2010	9/18-19	山麓泊	2C	中村隆泰	12	99
742	利尻山・礼文島	北海道	2011	7/18-7/21	山小屋	3C	村松敏彦	13	44
90	難台山～吾国山 (卒業山行)	茨城	1999	3/7	日帰り	A	萩野勝弘	2	13
477	難台山～吾国山	茨城	2007	3/27	日帰り	1B/3B	柴 勇	8	3
260	愛宕山～吾国山	茨城	2002	4/28	日帰り	A	中村八重子	4	136
653	難台山～吾国山	茨城	2009	11/7	日帰り	2A	原田和昭	11	98
743	雲の平～高天原～鷲羽岳	北アルプス	2011	7/28-8/1	山小屋	3C	武内勇二	13	48
357	和名倉山	奥秩父	2003	12/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	158
487	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2007	6/2-6	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
25	蔵山	奥武蔵	1997	9/23	日帰り	A	細野清子	1	44
200	有間山～蔵山	奥武蔵	2001	4/22	日帰り	A	外崎 蓮	4	5
240	蔵山	奥武蔵	2001	11/11	日帰り	A	安田みづほ	4	92
527	有馬山～蔵山	奥武蔵	2008	4/9	日帰り	3B	青山寿子	9	8
754	蔵山	奥武蔵	2011	10/30	日帰り	2A	坂巻 明	13	81
484	小川谷・悪谷	奥多摩	2007	5/22	日帰り	3B	堀口昭二	8	21

## 編集後記

やまなみの発行が、途切れることなく今号まで連綿と続いてきたことに驚く。先輩及び会員の皆様のどれほどのお力が注がれてきたことかと思いを馳せる。「原稿を書くのは苦手」とか、「時間が経って忘れてしまった」とかいいながらも寄せてくださった文章の面白さ！思わず引き込まれてしまう。また写真が見事。四季折々の遠景や近景、空や花、そしてその時々表情が素晴らしい岳人あびこの人たち。カラーで見られるのは編集に関わる者の「役得」だ。やまたんがPC送信されるようになったら、全員がカラーで見ることが出来るのは本当にうれしい。

今年も武内さんにはすっかりお世話になった。お礼の申し上げようもない。(IN)

今年もまた武内編集長のご尽力で、やまなみの発刊が叶ったことをうれしく思います。

天変地異の多発するこの時代、山に登れること、自然に抱かれることのありがたさがとりわけ身に染みしました。たいがいの山の頂には小さな祠があり、古からの人々の祈りを目にするのもまた多い年でした。みんな元気で、いつまでも山を伴に楽しむ仲間であり続けたい、強くそう思います。(NS)

平成23(2011)年度は、3月に東日本大震災と福島原発の事故が起き、日本が揺れに揺れた年でした。又、事故により15周年記念行事が翌年実施に延期されるなど、会の運営面でも多難な年でした。こうした中であっても、会員の山への情熱は冷めることなく、一時的な中断期間があっても例年よりは少ないが36回もの定例・準定例山行が行われ、その紀行文を纏めた「やまなみ」を例年通り発行することが出来たことは大いに喜びたいと思います。

本号には、いつもの会山行の紀行文のほか、会員の震災関連のボランティア参加、ペルーアンデス山行、ならびにスペイン巡礼記の寄稿を頂き、彩りを添えることが出来ました。(YT)

千葉県勤労者山岳連盟

岳人あびこ

### 山行文集 **やまなみ 第13号**

発行日 平成24年7月4日

発行者 岳人あびこ 会長 石垣吉朗

千葉県柏市松葉町6-24-4

編集者 会報部 やまなみ編集係

武内勇二

新谷直恵 中村育子

印刷所 太平洋印刷株式会社

(会員限り 非売品)